

茨城県教育財団文化財調査報告第435集

九重東岡廃寺 金田西遺跡

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXI

上 卷

平成 31 年 3 月

独立行政法人都市再生機構
首都圏ニュータウン本部
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第435集

ここの え ひがし おか
九重東岡廃寺
こん だ にし
金田西遺跡

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXI

上 卷

平成31年3月

独立行政法人都市再生機構
首都圏ニュータウン本部
公益財団法人茨城県教育財団



九重東岡麁寺・金田西遺跡全景（北方向から）



金田西遺跡出土 温石



金田西遺跡出土 コップ形土器

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部茨城地域事業本部による中根・金田台特定土地区画整理事業に伴って実施した、つくば市九重東岡庵寺、金田西遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、九重東岡庵寺と金田西遺跡においては、奈良時代から平安時代にかけての堅穴建物跡や掘立柱建物跡が多数確認でき、郡の寺と郡衙に隣接した集落跡の一端を窺い知ることができました。本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部茨城地域事業本部に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

平成31年 3月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長 野口 通

例 言

1 本書は、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部茨城地域事業本部の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成27・28年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市東岡宇海道端252-1番地ほかに所在する九重東岡庵寺及び茨城県つくば市金田字西原1891番地ほかに所在する金田西遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

九重東岡庵寺

調査 平成27年4月1日～8月31日

整理 平成29年12月1日～平成30年3月31日

金田西遺跡

調査 平成27年4月1日～平成27年6月30日

平成27年11月1日～平成28年3月31日

平成28年8月1日～平成29年8月31日

整理 平成30年4月1日～平成31年3月31日

3 発掘調査は、副参事兼調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。

平成27年度 九重東岡庵寺

首席調査員兼班長 駒澤悦郎

次席調査員 作山智彦 平成27年4月1日～8月31日

調査員 大久保芳紀 平成27年4月1日～4月30日

調査員 緑川正實 平成27年4月1日～4月30日

調査員 皆川貴之 平成27年5月1日～8月31日

平成27年度 金田西遺跡

首席調査員兼班長 駒澤悦郎

次席調査員 作山智彦 平成27年4月1日～6月30日 平成27年11月1日～平成28年3月31日

調査員 大久保芳紀 平成27年4月1日～4月30日 平成27年11月1日～平成28年3月31日

調査員 緑川正實 平成27年4月1日～4月30日

調査員 皆川貴之 平成27年5月1日～6月30日

調査員 海老澤稔 平成28年1月1日～1月31日

平成28年度 金田西遺跡

次席調査員 木村光輝 平成28年8月1日～8月31日

次席調査員 永井敦 平成28年8月1日～8月31日

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長皆川修のもと、以下の者が担当した。

調査員 荒井保雄 平成29年12月1日～平成31年3月31日

5 本書の作成にあたり、石器の石材について、産業技術総合研究所地質調査総合センター斎藤眞氏、宮崎一博氏、昆慶明氏にご指導いただいた。

6 本遺跡の出土遺物及び実測図・写真等は、茨城県埋蔵文化財センターにて保管されている。

凡 例

- 1 両道跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅺ区座標に準拠し、 $X = + 10840 \text{ m}$ 、 $Y = + 26440 \text{ m}$ の交点を基準点 (A 1a1) とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に道跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A1区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3、…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A1a1区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 P-ピット PG-ピット群 SA-柱穴列 SB-掘立柱建物跡 SD-溝跡 SE-井戸跡
SI-竪穴建物跡 SK-土坑

遺物 DP-土製品 M-金属製品 Q-石器 T-瓦

土層 K-撹乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1、各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。



- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm、cm、gで示した。なお、現存値は()を、推定値は[]を付して示した。

(2) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

- 6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E)。

- 7 今回の報告分で、整理の段階で遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

九重東岡庵寺

変更 SB32→SK25 SB33→SK26・27

欠番 SK9~14・23 SX1

金田西道跡

変更 SI378 (F9) →SK90, SI381→SK91, SI382→SK92, SI389→第2号粘土採掘場, SB123→SE359 (P1), SB121 (P2) →SK93, SK38→第1号粘土採掘場, SK45→SK366 (P7), SK120→第1号大型円形土坑, SK71~74・76・77→PG5, SK79~86・88・89 →PG4, SK47・90~102・110・111→PG3, SA4・5→SB121, SD38→SK96, PG2 (P12) →SK94, PG2 (P13) →SK95

欠番 SB121 (P1), SK58・115~117, SD23・27, SF1・2

目 次

- 上 卷 -

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
九重東岡庵寺・金田西遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	5
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査経過	6
第2章 位置と環境	7
第1節 位置と地形	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 九重東岡庵寺	14
第1節 調査の概要	14
第2節 基本層序	14
第3節 遺構と遺物	15
1 奈良時代の遺構と遺物	15
(1) 竪穴建物跡	15
(2) 掘立柱建物跡	38
(3) 井戸跡	49
2 平安時代の遺構と遺物	50
(1) 竪穴建物跡	50
(2) 掘立柱建物跡	89
(3) 土 坑	99
(4) 溝 跡	103
3 その他の遺構と遺物	106
(1) 土 坑	106
(2) 柱穴列	109
(3) 溝 跡	110
第4章 金田西遺跡	112
第1節 調査の概要	112
第2節 基本層序	112
第3節 遺構と遺物	112
1 奈良時代の遺構と遺物	112
(1) 竪穴建物跡	112

(2) 掘立柱建物跡	146
(3) 大型円形土坑	157
(4) 土坑	159
(5) 柱穴列	163
(6) 溝跡	163
(7) ビット群	166
2 平安時代の遺構と遺物	167
(1) 竪穴建物跡(第278号竪穴建物跡～第373号竪穴建物跡)	167

- 下 巻 -

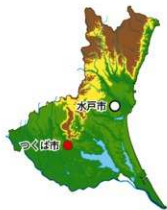
(1) 竪穴建物跡(第374号竪穴建物跡～第392号竪穴建物跡)	225
(2) 掘立柱建物跡	245
(3) 井戸跡	260
(4) 粘土探掘坑	261
(5) 土坑	265
(6) 柱穴列	270
(7) 溝跡	272
(8) ビット群	273
3 江戸時代の遺構と遺物	274
(1) 土坑	274
(2) 溝跡	275
4 その他の遺構と遺物	277
(1) 土坑	277
(2) 柱穴列	284
(3) 溝跡	285
(4) ビット群	285
(5) 遺構外出土遺物	286
第5章 まとめ	291
写真図版	PL. 1～PL60
抄録	
付図	

この え び し お か は い し こ ん だ に し い せ き 九重東岡廃寺・金田西遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

九重東岡廃寺と金田西遺跡は、つくば市の北東部に位置し、桜川右岸の標高 25 m の台地上に立地しています。

中根・金田台特定土地区画整理事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、公益財団法人茨城県教育財団が平成 27 年度に九重東岡廃寺の 8,856㎡について、平成 27・28 年度に金田西遺跡の 7,680㎡について発掘調査を行いました。



九重東岡廃寺の調査の内容

調査では、奈良時代の^{たてあなたてものもと}竪穴建物跡 9 棟、^{ほったてはらたてものもと}掘立柱建物跡 9 棟、井戸跡 1 基、平安時代の竪穴建物跡 17 棟、掘立柱建物跡 6 棟、土坑^{どこう} 5 基、溝跡 6 条などを確認しました。今回の調査区は、九重東岡廃寺の北部から西部にあたり、奈良時代から平安時代の集落跡であることがわかりました。



調査区遠景



第 64 号竪穴建物跡（補強材に甕が活用された竈）



第 73 号竪穴建物跡（補強材に瓦が活用された竈）



仏鉢



軒平瓦（四重弧文軒平瓦）

九重東岡廃寺の調査の成果

7世紀末葉から9世紀後葉の集落跡を確認することができました。集落を構成する竪穴建物跡からは、九重東岡廃寺に関わる建物の屋根に葺かれた^{のきまる}軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・隅切瓦や僧侶が托鉢で布施ものをいただく鉄製の鉢を模した須恵器の仏鉢、コップ形土器などが出土しました。瓦は、竪穴建物跡の^{かまど}竈の^{りょうそで}両袖に補強材として使用されたり、^{しきやく}支脚に^{てんよう}転用されたり再利用されました。この瓦は、九重東岡廃寺の衰退後に再利用されたものと考えられます。9世紀中葉から後葉の竪穴建物跡から出土した瓦から、九重東岡廃寺の衰退時期をうかがい知ることができました。九重東岡廃寺では、平成14年の確認調査で、^{きだん}基壇の一部と^{かからだ}瓦溜め土坑、^{どうう}堂宇と想定される掘立柱建物跡が確認されましたが、寺域を区画する溝は見つかりませんでした。今回は基壇の北部と西部の調査を行いました。寺域を区画する溝は見つけることができませんでした。このようなことから今回調査した建物跡は、^{ぐんが}郡衙や^{ぐんであら}郡寺を維持する人々の集落とみられます。



調査区遠景（北方向から）



平安時代の竪穴建物跡から出土したコップ形土器



平安時代の竪穴建物跡から出土した土器

金田西遺跡の調査の内容

当遺跡は、平成12・13年に河内郡の郡庁域、郡寺域、正倉域の確認調査が行われ、郡庁跡の四面庇建物跡やコの字状に配置された館跡、建物群が一直線上に並ぶ居館跡などや区画溝とその内部に掘立柱建物や礎石建物で構成された正倉域が確認されました。今回の調査区はその西側にあたり、竪穴建物跡49棟、掘立柱建物跡22棟、井戸跡1基、大型円形土坑1基、粘土採掘坑2基、土坑76基、柱穴列5条、溝跡15条、ピット群5か所などを確認しました。九重東岡廃寺と隣接している奈良時代から平安時代（約1,300～1,100年前）の集落跡であることがわかりました。



「天」の則天文字風「巾」



ようかいぐ じかんぼう
腰帯具「巡方」



「里」と記された文字瓦



「寺」と記された墨書土器

金田西遺跡の調査の成果

今回の調査では、竪穴建物跡から寺院跡に関わる軒平瓦・丸瓦や、「寺」の文字が書かれた墨書土器、現代のカイロに当たる蛇紋岩を加工して造った宝珠形の温石、役人の位を示す腰帯具の一部である銅製品の巡方、計量器の升到相当する須恵器のコップ形土器などが出土しています。これらの遺物は、郡衙の役人や仏教に関連するものがありますが、郡衙の建物や寺院から出土したのではなく、隣接する集落から出土しています。このように、郡寺や郡衙と関連する出土遺物から、それらを維持する人々が生活した集落と考えられます。また、郡衙関連施設の成立期から衰退期を集落の盛衰と併せて考えると、郡衙成立前にあった集落は成立とともに少なくなりますが、衰退期になると増え始めることがわかりました。集落の増減は、郡衙の盛衰と関係しているものと考えられます。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

つくば市では、世界に開かれた国際交流の中心、世界の科学技術をリードする研究開発の拠点として、21世紀の新しい街づくりが進められている。その一環として取り組んでいるのが、2005年に開業した「つくばエクスプレス」の沿線開発である。中根・金田台地区については、住宅・都市整備公団つくば開発局（平成9年10月から住宅・都市整備公団茨城地域支社に、平成11年10月から都市基盤整備公団茨城地域支社に、平成16年7月から独立行政法人都市再生機構茨城地域支社に、平成23年7月から独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部茨城地域事業本部に名称を変更）が事業主体として、土地区画整理事業を進めている。

九重東岡庵寺については、平成6年11月18日、住宅・都市整備公団つくば開発局長は茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成7年度、現地踏査を実施した。平成11年8月3日、8月4日、8月5日、10月26日及び10月27日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成11年12月10日、茨城県教育委員会教育長は都市基盤整備公団茨城地域支社長あてに、事業地内に九重東岡庵寺が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成19年1月11日、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長は茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、平成19年1月31日、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長あてに、工事着工前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成27年2月19日、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役は茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成27年2月20日、茨城県教育委員会教育長は独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役あてに、九重東岡庵寺について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として、公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。公益財団法人茨城県教育財団は、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成27年4月1日から平成27年8月31日まで発掘調査を実施した。

金田西遺跡については、平成6年11月18日、住宅・都市整備公団つくば開発局長は、茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて平成7年度、茨城県教育委員会は、現地踏査を実施した。平成12年3月6～9日、13～15日、17日、平成27年11月24日及び12月15日、茨城県教育委員会は、試掘調査を実施した。平成12年3月17日、茨城県教育委員会教育長は、都市基盤整備公団茨城地域支社長あてに、平成28年2月1日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役あてに、それぞれ事業地内に金田西遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成19年1月11日、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長は、茨城県教育委員会教育長あてに、平成28年2月8日、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役は、茨城県

教育委員会教育長あてに、それぞれ文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成19年1月31日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長あてに、平成28年2月10日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役あてに、それぞれ現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成27年2月19日及び平成28年2月16日、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役は、茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成27年2月20日及び平成28年2月16日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役あてに、金田西遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として、公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。公益財団法人茨城県教育財団は、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成27年4月1日から6月30日、11月1日から平成28年3月31日及び平成28年8月1日から8月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

九重東岡廃寺の調査は、平成27年4月1日から8月31日までの5か月間、金田西遺跡の調査は、平成27年4月1日から6月30日までの3か月間と平成27年11月1日から平成28年3月31日の5か月間、平成28年8月1日から8月31日の1か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

平成27年度 九重東岡廃寺

工程	期間				
	4月	5月	6月	7月	8月
調査準備 遺構確認	■	■	■		
遺構調査			■	■	■
遺物洗浄 写真整理	■	■	■	■	■
撤収					■

平成27年度 金田西遺跡

平成28年度

工程	期間								
	4月	5月	6月	11月	12月	1月	2月	3月	8月
調査準備 遺構確認	■	■	■						
遺構調査				■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 写真整理				■	■	■	■	■	
撤収								■	

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

九重東岡庵寺は、茨城県つくば市東岡字海道端 252 - 1 番地ほかに、金田西遺跡は、茨城県つくば市金田字西原 1891 番地ほかに所在している。

つくば市は、茨城県の南西部に位置し、北部は筑波山塊に接し、東側約 5 km には霞ヶ浦がある。市域の多くは筑波山を北端として、その南東側に広がる標高 25 m ほどの平坦な筑波・稲敷台地上にある。この台地は、東を霞ヶ浦に流入する桜川、西を利根川に合流する小貝川によって区切られており、東から花室川、蓮沼川、小野川、谷田川、西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れている。

筑波・稲敷台地は、千葉県北部から茨城県南部にかけて広がる常総台地の一部であり、地質的には海成砂層の成田層を基盤として、その上に砂層・砂礫層の竜ヶ崎層、さらに泥質粘土層の常総粘土層、関東ローム層が連続して堆積し、最上部は腐植土層となっている¹⁾。

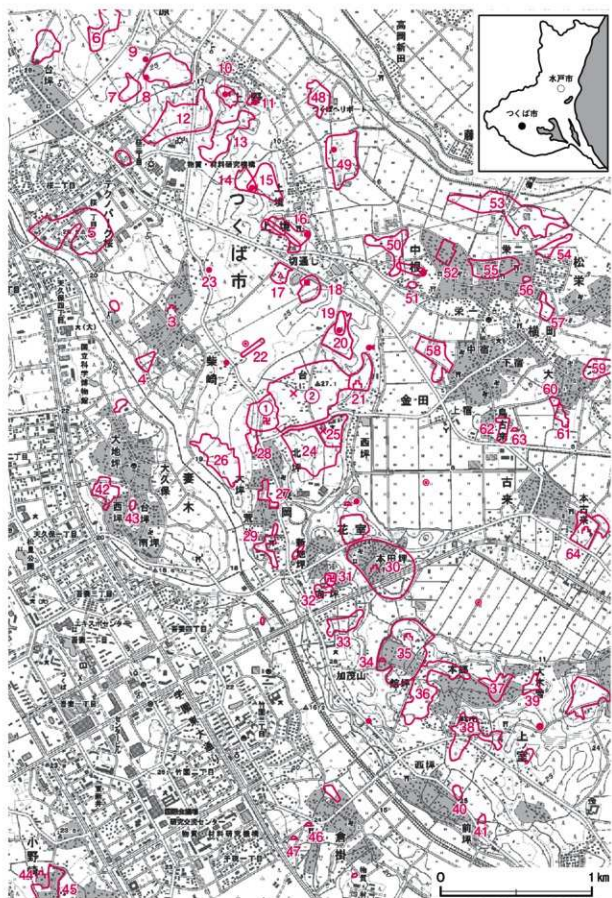
九重東岡庵寺及び金田西遺跡は、つくば市の北東部、花室川左岸の標高約 24 m の台地上に位置している。台地は東側の桜川、西側に花室川に挟まれ、遺跡はその台地の西側に位置し、幅 375 m ほどで、ほぼ南北に延びている。沖積低地との比高は 17 - 21 m である。西側には花室川からの小支谷が入り込んでいる。本遺跡とその周辺は、畑地や山林として利用されていたが、近年開発が進み、その状況も変わりつつある。

第2節 歴史的環境

九重東岡庵寺及び金田西遺跡が所在する桜川および花室川流域には、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が多数分布している。ここでは、『茨城県遺跡地図』²⁾ に登録されている当該地域の主な遺跡を中心に、時代ごとに概観する。

旧石器時代の遺跡は、上野古屋敷遺跡³⁾ (13)、中根中谷津遺跡⁴⁾ (18)、柴崎大堀遺跡⁵⁾ (22)、東岡中原遺跡⁶⁾ (26) で、石器集中地点が確認されている。中でも東岡中原遺跡では、ナイフ形石器、尖頭器、搔器、彫刻刀形石器、楔形石器、石刃、石核などが、多層位にわたって出土しており、これらは県内の旧石器時代を考える上で重要な資料となっている。また、花室川左岸の北条中台遺跡⁷⁾、柴崎遺跡⁸⁾ (5) からもナイフ形石器や尖頭器が出土しており、当該期の人々の活動の痕跡を確認することができる。花室川の川底からは、ナウマンゾウやニホンアシカの化石が出土しており、旧石器時代の人々が狩猟対象としていたことが考えられている⁹⁾。

縄文時代の遺跡は、多数確認されている。柴崎遺跡では、早期の穴穴が確認されている。上野陣場遺跡¹⁰⁾ (12)、上野古屋敷遺跡、東岡中原遺跡では、前期の集落跡が確認されており、当該地域に人が定住し始めたことを示している。中期に入ると、集落の規模が大きくなり、遺跡数も増加している。北条中台遺跡や、花室川下流左岸の下岡遺跡¹¹⁾ では、大規模な集落跡が確認されている。後期には、周辺地域で貝塚が形成されるようになる。上境旭台貝塚¹²⁾ (17) や桜川下流域に存在する国指定史跡の土浦市上高津貝塚¹³⁾ では、後期から晩期にかけて形成された貝塚が存在する。これらの貝塚からは、土器などの遺物のほか、動物の骨などの自然遺物も多量に出土しており、当該期の生業活動を推測する上で良好な資料となっている。また、柴崎大堀遺跡、上野陣場遺跡、上野古屋敷遺跡、上境旭台貝塚、東岡中原遺跡からは、縄文時代に作られたと考えられる陥し穴が確認されており、台地上が狩猟の場としても利用されていたことが分かる。



第1図 九重東圓庵寺・金田西遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院25,000分の1 [上郷]「常陸森沢」[谷田部]「土浦」)

表1 九重東岡廃寺・金田西遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代					番号	遺跡名	時代								
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安			鎌倉・室町	江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	九重東岡廃寺					○	○	○	33	花室儀量台遺跡					○	○	○
②	金田西遺跡	○				○	○	○	34	上ノ室タテ坪塚							○
3	柴崎片岡上館跡					○	○	○	35	上ノ室城跡					○	○	○
4	柴崎南遺跡	○				○	○	○	36	上ノ室ハマイバ遺跡					○	○	○
5	柴崎遺跡	○	○			○	○	○	37	上ノ室十枚遺跡					○	○	○
6	栗原五竜遺跡	○				○	○	○	38	上ノ室野中遺跡		○			○	○	○
7	栗原大山西遺跡							○	39	上ノ室薬師山遺跡					○	○	○
8	栗原十日塚古墳					○			40	上ノ室中坪後遺跡					○	○	○
9	栗原愛宕塚古墳					○			41	上ノ室中畑遺跡		○			○	○	○
10	上野天神塚古墳					○			42	妻木坪内遺跡					○	○	○
11	上野定使古墳群					○			43	妻木宮前遺跡					○	○	○
12	上野陣場遺跡		○	○		○	○	○	44	小野崎館跡						○	○
13	上野古屋敷遺跡	○	○	○		○	○	○	45	小野崎宿遺跡						○	○
14	上境作ノ内遺跡		○	○		○	○	○	46	倉掛天神塚						○	○
15	上境作ノ内古墳群					○			47	倉掛千現塚						○	○
16	上境滝ノ台古墳群					○			48	上境北ノ内遺跡					○	○	○
17	上境旭台貝塚		○			○			49	上境古屋敷遺跡					○	○	○
18	中根中谷津遺跡	○	○			○			50	中根不業拔遺跡		○			○	○	○
19	横町古墳群					○			51	中根宮ノ前遺跡					○	○	○
20	横町庚申塚遺跡		○			○	○	○	52	中根屋敷附館跡					○	○	○
21	金田城跡							○	53	中根遺跡					○	○	○
22	柴崎大堀遺跡	○	○					○	54	松塚鷲打遺跡					○	○	○
23	柴崎大日塚							○	55	栄土器屋遺跡					○	○	○
24	金田西坪B遺跡		○			○			56	栄屋敷付遺跡					○	○	○
25	金田西坪A遺跡					○			57	松塚高畑遺跡					○	○	○
26	東岡中原遺跡	○	○			○	○	○	58	金田竜宮橋遺跡					○	○	○
27	東岡南遺跡							○	59	大白畑遺跡					○	○	○
28	東岡中畑遺跡					○			60	阿弥陀寺跡						○	○
29	東岡天神前遺跡					○	○	○	61	大南遺跡					○	○	○
30	花室城跡	○	○	○		○	○	○	62	古来北ノ崎遺跡					○	○	○
31	花室寺畑廃寺							○	63	古来島ノ前塚						○	○
32	花室寺山前遺跡					○	○	○	64	古来館跡		○	○	○	○	○	○

弥生時代の遺跡は、上野陣場遺跡、上野古屋敷遺跡、やや上流にある玉取向山遺跡¹⁰⁾で、後期の集落跡が確認されているが遺跡数は少ない。

古墳時代になると遺跡数が急増し、桜川周辺の微高地や台地全域に広がっている。桜川右岸では、上野陣場遺跡、上野古屋敷遺跡で前期と後期、東岡中原遺跡で中期、柴崎遺跡で後期の集落跡がそれぞれ確認されている。古墳は、全長 80 m で当地域最大の前方後円墳である上野天神塚古墳(10)や、上野定使古墳群(11)が存在している。この他、栗原十日塚古墳(8)、栗原愛宕塚古墳(9)をはじめ、桜川右岸台地縁辺部に、円筒埴輪・人物埴輪・動物埴輪が出土した上境滝ノ台古墳群(16)、埴輪片・石棺破片が確認された横町古墳群(19)などが知られている¹⁰⁾。上境作ノ内古墳群(15)の1号墳では、発掘調査により石棺と被葬者の骨が確認されている¹⁰⁾。これらの古墳群のうち、上野天神塚古墳が前期古墳である以外は、いずれも後期古墳である。

奈良・平安時代の当該地域は、河内郡菅田郷に属し、その後 12 世紀には田中の荘に属していた。この時代の遺跡は、桜川と花室川に挟まれた中根、金田を中心とする台地上に集中している。金田西坪 B 遺跡(24)、金田西遺跡については、平成 12 年から平成 13 年に確認調査が行われ、区画溝とその内部に掘立柱建物跡や礎石建物で構成される倉庫群が検出され、正倉城が明確になった。九重廃寺についても、平成 13 年から平成 14 年に主要伽藍と寺域溝の確認が行われたが、主要伽藍となりうる建物跡は確認できなかった¹⁰⁾が、金田西坪 B 遺跡、金田西遺跡とともに金田官衙遺跡群として国の指定をうけた。

中世の遺跡も数多く確認されている。柴崎遺跡では、12～13 世紀の方形堅穴遺構を中心とした集落跡が、上野古屋敷遺跡では、溝で区画された掘立柱建物跡を中心とする集落跡が確認されている。桜川左岸には小田氏の居城であった国指定史跡小田城跡があり、それに関連すると考えられる城館跡も多い。桜川右岸には、柴崎片岡上館跡(3)、金田城跡(21)、花室城跡(30)、上ノ室城跡(35)、古来館跡(64)などが位置している。仏教関連遺跡としては、筑波山の南、三村山麓一帯に中世寺院群が存在しており、つくば市三村山清冷院極楽寺跡には、13 世紀の半ば、大和の高僧延性が来住して、布教に努めたと伝えられている¹⁰⁾。当地域は鎌倉時代から室町時代にかけては小田氏、戦国時代においては小田氏と佐竹氏の支配下となり、中世末まで柴崎地区は上境・中根・土器屋・松塚・横町・柴崎地区で一郷を構成し、筑波郡と境を接することから境郷とも呼ばれていた。江戸時代は、堀氏玉取藩の知行地となった上野・栗原地区を除き、当該地域の多くが土浦藩に属することになり、明治 4 年(1871 年)の廃藩置県に至っている。

註

- 1) a 大山年次監修『茨城県 地質のガイド』コロナ社 1977 年 8 月
b 日本の地質『関東地方』編集委員会「関東地方」『日本の地質』3 共立出版 2007 年 5 月
- 2) 茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001 年 3 月
- 3) a 三谷正・大塚雅昭・桑村裕「上野古屋敷遺跡 1 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」茨城県教育財団文化財調査報告第 285 集 2007 年 3 月
b 川井正一「上野古屋敷遺跡 2 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」茨城県教育財団文化財調査報告第 307 集 2008 年 3 月
c 川井正一・齋藤和浩「上野古屋敷遺跡 3 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」茨城県教育財団文化財調査報告第 324 集 2009 年 3 月
d 櫻井介介・江原美奈子「上野古屋敷遺跡 4 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」茨城県教育財団文化財調査報告第 334 集 2010 年 3 月
- 4) a 川村満博(仮称)中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ「中谷津遺跡 1」茨城県教育財団文化財調査報告第 139 集 1998 年 9 月

- b 荒崎克一郎『中根中谷遺跡2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XVII 茨城県教育財団文化財調査報告第367集 2013年3月
- 5) 盛野浩一、菅川貴之『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XX 柴崎大塚遺跡・柴崎大日塚』茨城県教育財団文化財調査報告第429集 2017年3月
- 6) a 成島一也『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書II 中原遺跡1』茨城県教育財団文化財調査報告第155集 2000年3月
 b 成島一也、宮田和男『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書III 中原遺跡2』茨城県教育財団文化財調査報告第159集 2000年3月
 c 高野節夫、白田正子、仲村浩一郎、島田和宏『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書IV 中原遺跡3』茨城県教育財団文化財調査報告第170集 2001年3月
 d 駒澤悦郎『東岡中原遺跡4 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書VIII 茨城県教育財団文化財調査報告第251集 2005年3月
- 7) 吉川明宏・新井聡・黒澤秀雄(仮称)北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書 中台遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第102集 1995年12月
- 8) a 高村勇『研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(I) 柴崎遺跡I・II-1区』茨城県教育財団文化財調査報告第54集 1989年9月
 b 佐藤正好 松浦敏『研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(II) 柴崎遺跡II区 中塚遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第63集 1991年3月
 c 土生朗治『研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(III) 柴崎遺跡III区』茨城県教育財団文化財調査報告第72集 1992年3月
 d 萩野谷悟『研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(IV) 柴崎遺跡II区・III区』茨城県教育財団文化財調査報告第93集 1994年3月
- 9) 飯泉克典・国府田良樹・小池沙・西本豊弘・安藤寿男・伊達元成『茨城県霞ヶ浦西部花室川河床礫より産出した後期更新世末期のニホンアマガエル化石』『地質学雑誌』第116巻第5号 2010年5月
- 10) a 用上直登・長谷川聡・大塚雅昭『上野陣場遺跡 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書V』茨城県教育財団文化財調査報告第182集 2002年3月
 b 川井正一・齋藤和浩『上野陣場遺跡2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XII 茨城県教育財団文化財調査報告第323集 2009年3月
- 11) 加藤雅美・小河邦男『常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書2 下広岡遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第10集 1981年3月
- 12) a 柴山正広・須賀川正一・小野政美・小川貴行・越川欣和『上埴旭台貝塚 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XIII 茨城県教育財団文化財調査報告第325集 2009年3月
 b 江原美奈子『上埴旭台貝塚2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XIV 茨城県教育財団文化財調査報告第364集 2012年3月
 c 荒崎克一郎『上埴旭台貝塚3 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XVIII 茨城県教育財団文化財調査報告第368集 2013年3月
 d 小林和彦『上埴旭台貝塚4 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XXII 茨城県教育財団文化財調査報告第397集 2015年3月
- 13) a 佐藤孝雄・大内千年編『国指定史跡上高津貝塚A地点-史跡整備事業に伴う発掘調査報告-』土浦市教育委員会 1994年3月
 b 塚谷修編『国指定史跡上高津貝塚E地点-史跡整備事業に伴う発掘調査報告-』土浦市教育委員会 2000年3月
 c 石川功・福田礼子編『国指定史跡上高津貝塚C地点-史跡整備事業に伴う発掘調査報告-』土浦市教育委員会 2006年3月
- 14) a 石橋充・関口友紀『王取遺跡-火葬場建設に伴う発掘調査報告-』つくば市教育委員会 2000年3月
 b 奥沢哲也『王取岡山遺跡 県立つくば養護学校(仮称)整備事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財

調査報告第263集 2006年3月

- 15) 桜村史編さん委員会『桜村史 上巻』桜村教育委員会 1982年3月
- 16) つくば市教育委員会「上埴園面点検 遺物抽出接合・原稿執筆作ノ内1号墳 発掘・確認調査」『つくば市内道跡』つくば市 2001年3月
- 17) a 九重庵寺道跡調査団「東岡道跡-九重庵寺跡調査報告-」桜村教育委員会 1984年3月
b 白田正子「九重東岡庵寺確認調査報告書1」茨城県教育財団 2001年3月
- 18) 白田正子「金田西道跡 金田西坪B道跡 九重東岡庵寺 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」茨城県教育財団文化財調査報告第209集 2003年3月
- 19) 筑波町史編纂専門委員会「筑波町史 上巻」つくば市 1991年3月



第2図 九重東阿彌寺・金田西遺跡調査区設定図（つくば市都市計画基本図 2500分の1）

第3章 九重東岡廃寺

第1節 調査の概要

九重東岡廃寺は、つくば市の北東部に位置し、桜川の低地を望む標高24～25mの右岸台地上に立地している。調査面積は8,856㎡で、調査前の現況は畑である。

調査の結果、竪穴建物跡26棟（奈良時代9・平安時代17）、掘立柱建物跡15棟（奈良時代9・平安時代6）、井戸跡1基（奈良時代）、土坑18基（平安時代5・時期不明13）、溝跡14条（平安時代6・時期不明8）、柱穴列1条（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物取納コンテナ（60×40×20cm）に33箱出土している。主な遺物は、土師器（坏・小型甕・甕）、須恵器（坏・高台付坏・皿・蓋・コップ形土器・高盤・鉢・仏鉢・短頸壺・長頸瓶・甕）、土製品（支脚・紡錘車）、石器（砥石）、金属製品（刀子・鏃・鎌・釘）、瓦（軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、隅切瓦）などである。

第2節 基本層序

調査区中央部の台地上の平坦面（D4d4区）にテストピットを設定し、基本土層（第3図）の観察を行った。土層は9層に分層でき、第2・3層が関東ローム層である。

第1層は、表土である。層厚は24～28cmである。

第2層は、暗褐色を呈するローム漸位層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は15～21cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は4～12cmである。

第4層は、黄褐色を呈する粘土層である。粘性・締まりともに非常に強く、層厚は10～21cmである。

第5層は、灰白色を呈する常総粘土層である。粘性・締まりともに非常に強く、層厚は51～90cmである。

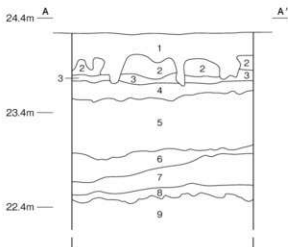
第6層は、明黄褐色を呈するシルト層で、ラミナ状に堆積している。酸化鉄を非常に多く含み、粘性・締まりともに非常に強く、層厚は5～30cmである。

第7層は、灰白色を呈するシルト層である。酸化鉄を多く含み、クロスラミナが入っている。粘性・締まりともに非常に強く、層厚は、10～34cmである。

第8層は、灰白色を呈するシルト層である。酸化鉄を非常に多く含み、クロスラミナが入っている。粘性・締まりともに非常に強く、層厚は5～17cmである。

第9層は、褐灰色を呈する砂層である。酸化鉄を多く含み、クロスラミナが入っている。粘性弱く・締まり非常に強い。下層は未掘のため、本来の層厚は不明である。

遺構は主に第3層上面で確認した。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡9棟、掘立柱建物跡9棟、井戸跡1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第59号竪穴建物跡（第4・5図 PL3）

位置 調査区中央部のD3b2区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.80m、短軸3.58mの方形で、主軸方向はN-32°-Eである。壁は高さ4~5cmである。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで110cmで、燃焼部幅は74cmである。袖部はロームブロックや粘土粒子を含む第6~8層を積みあげて構築されている。火床部は楕円形に22cm掘りくぼめ、焼土ブロックを含む第9・10層を埋土している。火床面は第9層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量	6 黒色	粘土粒子中量
2 黒褐色	炭化粒子少量、焼土粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量
3 黒色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量	8 黒褐色	粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量
4 黒褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック中量、炭化粒子微量	9 黒褐色	焼土ブロック中量
5 黒色	焼土ブロック少量	10 黒褐色	焼土ブロック少量

ピット 5か所。P1~P4は深さ34~36cmで、北東壁際の竈の両側と南西壁際に位置しており、配置から主柱穴である。P5は深さ14cmで、南西壁寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説（P5）

1 黒褐色	ロームブロック少量
-------	-----------

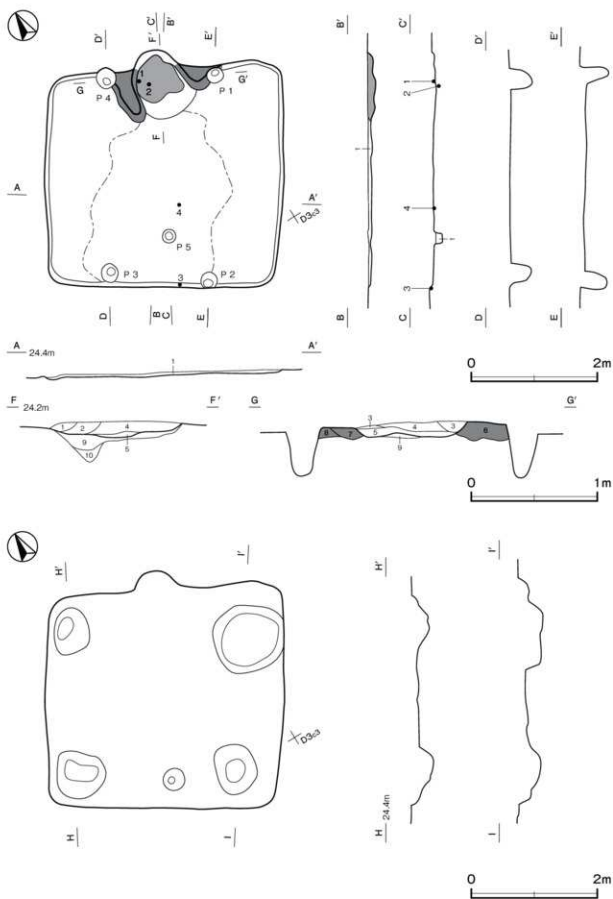
覆土 単一層である。上層は耕作により削平されているため、下層のみが薄く残存している。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

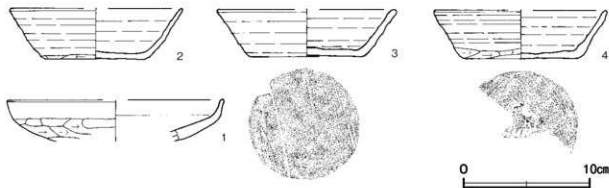
1 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
-------	------------------

遺物出土状況 土師器片122点（坏13、高台付坏1、甕類108）、須恵器片177点（坏90、高台付坏1、蓋5、高盤1、甕類65、瓶15）、土製品1点（不明）、金属製品1点（不明）、瓦1点（平瓦）が出土している。1・2は竈の火床面から出土している。4は中央部床面から出土している。3は南西壁中央部の壁際から出土している。3・4の遺物は、床面から出土していることから廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第4图 第59号竖穴建物跡実測図



第5図 第59号竪穴建物跡出土遺物実測図

第59号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第5図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[174]	(3.3)	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面へう張り後ナゲ	火床面	5%
2	須恵器	坏	[138]	4.0	8.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下縁手持ちへう張り 底部回転へう切り痕を残す一方向の手持ちへう張り 二次焼成	火床面	30% 新治産
3	須恵器	坏	[140]	3.8	9.0	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	底部一方向の手持ちへう張り	床面	50% 新治産
4	須恵器	坏	[137]	3.8	[9.1]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下縁手持ちへう張り 底部回転へう切り痕を残す一方向の手持ちへう張り	床面	40% FL12 新治産

第61号竪穴建物跡 (第6～8図 PL3)

位置 調査区中央部のC3j1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第15号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.47m、短軸3.10mの長方形で、主軸方向はN-34°-Eである。壁は高さ14～18cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。壁溝が北西壁の一部、南東壁から南西壁まで巡っている。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで113cmで、燃焼部幅は70cmである。袖部は第6～8層の上に焼土ブロックや粘土ブロックを含む第4・5層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に9cmほど掘りくぼめ第6・9層を埋土している。火床面は第6・9層の上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に48cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量	6 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
2 黒褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量	7 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量
3 黒褐色 焼土ブロック少量、粘土ブロック微量	8 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
4 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量	9 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
5 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量	

ピット 10か所。P1は深さ22cmで、南西壁際の西コーナー寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットの可能性がある。小ピットは9か所、深さ10～11cmで壁柱穴と考えられる。

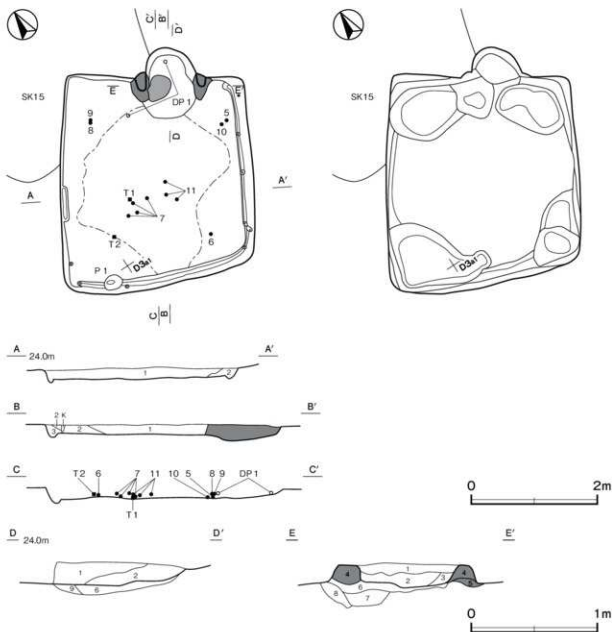
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量	3 黒褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量	

遺物出土状況 土師器片 144 点 (坏 8, 小形甕 2, 甕類 134), 須恵器片 8 点 (坏 4, コップ形土器 1, 仏鉢 1, 甕類 2), 土製品 1 点 (支脚), 瓦 2 点 (平瓦・隅切瓦) が出土している。5・10 は南東壁際の東コーナー部, 6 は南コーナー部の床面からそれぞれ出土している。5・6 は正位で, 10 は横位の状態 で出土している。7・11, T1・T2 は中央部, 8・9 は北コーナー付近の覆土下層からそれぞれ出土していることから, 遺棄の可能性 がある。

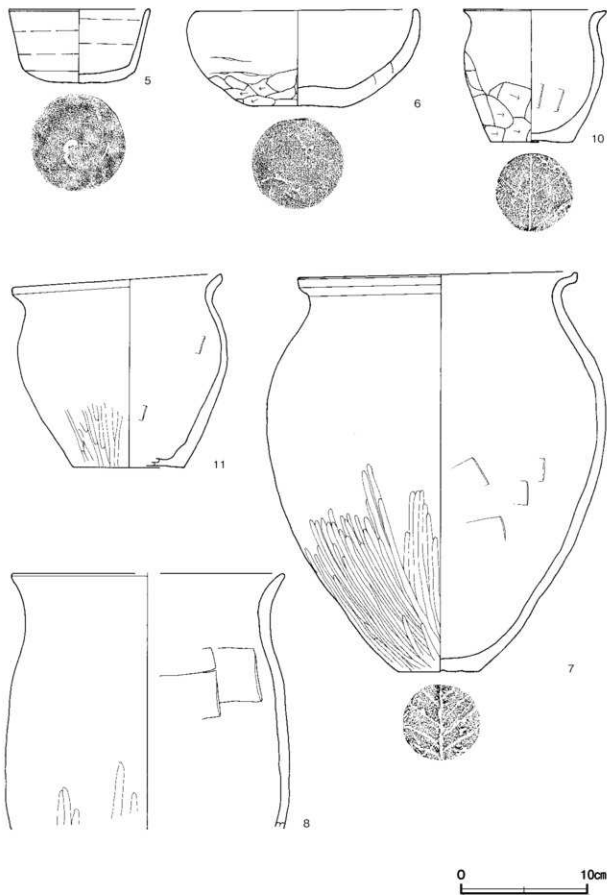
所見 時期は, 出土土器から 8 世紀初頭に比定できる。



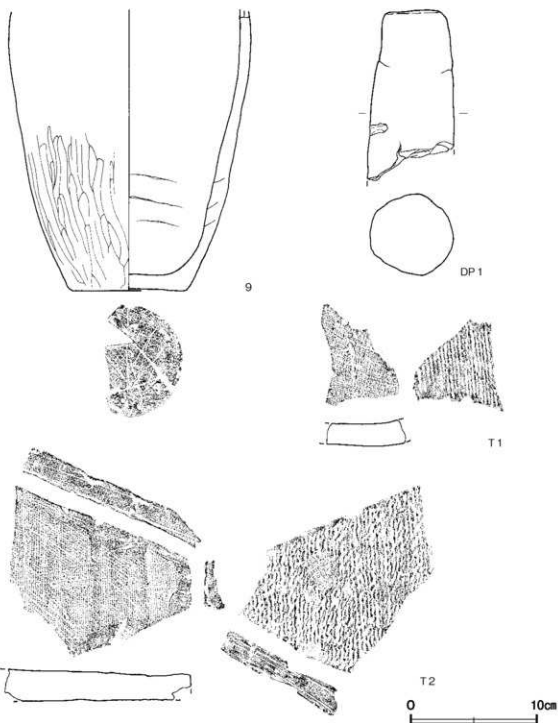
第 6 図 第 61 号竪穴建物跡実測図

第 61 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 7・8 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	須恵器	コップ形土器	11.1	5.9	7.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向の手持ちヘラ削り	床面	96% PL12 新治産
6	須恵器	仏鉢	17.8	7.8	7.2	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下半手持ちヘラ削り後ナデ	床面	95% PL12 新治産
7	土師器	甕	220	31.8	6.5	長石・石英・雲母	暗褐	普通	体部下半ヘラ削き 内面ヘラ当て痕 底部本業痕	覆土下層	90% PL14



第7図 第61号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第8図 第61号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
8	土師器	甕	[21.6]	(20.3)	-	長石・石英・ 赤母	褐	普通	体部下半へラ磨き 内面へラ当て痕	覆土下層	20%
9	土師器	甕	-	(22.4)	[9.2]	長石・石英・ 赤母・赤色砂子	にぶい	普通	体部下半へラ磨き 輪轆痕 底部木炭痕	覆土下層	20%
10	土師器	小形甕	11.3	10.6	6.5	長石・石英・ 赤母・赤色砂子	にぶい赤褐色	普通	体部外面へラ磨り残ナデ 内面へラ当て痕 底 部木炭痕	床面	100% PL13
11	土師器	小形甕	16.6	15.5	8.8	長石・石英・ 赤母・赤色砂子	にぶい	普通	体部下半へラ磨き 内面へラ当て痕 底部木炭 痕	覆土下層	40% PL13

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP1	支脚	(13.6)	4.4	(6.9)	(335.0)	長石・石英	にぶい	へラ磨り残ナデ	覆土下層	PL18

番号	種別	器種	瓦当高	瓦当長	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T 1	瓦	平瓦	(6.3)	(2.1)	(8.9)	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	凸面大縄印き 凹面布目痕 糸切り痕	覆土下層	
T 2	瓦	構切瓦	(15.5)	(2.5)	(15.3)	長石・石英・赤色粒子	黄橙	普通	凸面大縄印き 凹面布目痕 2面糸切り痕	覆土下層	PL18

第 63 号竪穴建物跡 (第 9・10 図 PL 3)

位置 調査区中央部の D 2e0 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺 288 m ほどの方形で、主軸方向は N - 28° - E である。壁は高さ 3 ~ 10 cm で、外傾している。

床 平坦で、竈の前方部から南壁にかけて踏み固められている。床は地山を利用している。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 68 cm で、燃焼部幅は 43 cm である。袖部は第 7・8 層の上にロームブロックや粘土ブロックを含む第 2 ~ 6 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 10 cm ほど掘りくぼめ、焼土ブロックや炭化粒子を含む第 7 層を埋土している。火床面は第 7 層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 26 cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

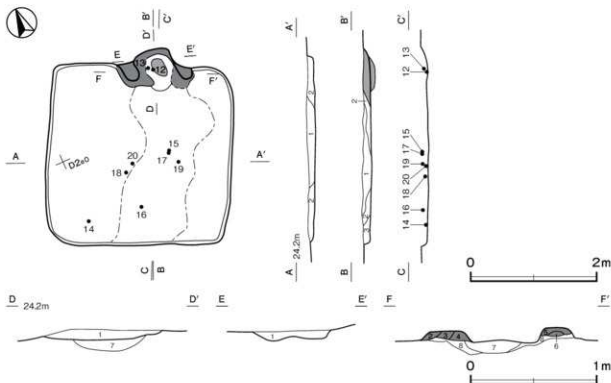
- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量 | 6 黒褐色 粘土粒子中量、ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 粘土粒子多量、ロームブロック少量 | 7 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 | 8 暗褐色 ロームブロック多量、粘土粒子少量 |

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量 | |

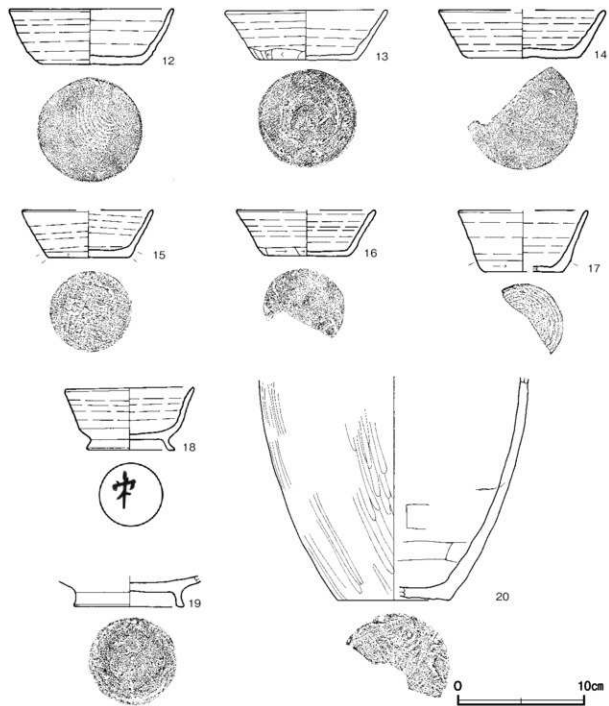
遺物出土状況 土師器片 20 点 (坏 1, 甕類 19), 須恵器片 29 点 (坏 24, 高台付坏 2, 蓋 1, 甕類 2), 土製品 1 点 (不明) が出土している。12 と 13 は竈の火床部から出土している。18・20 は中央部、14 は南西壁の



第 9 図 第 63 号竪穴建物跡実測図

西コーナー部付近の床面, 15・17・19は中央部, 16は中央部南西壁付近の覆土上層からそれぞれ出土している。埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第10図 第63号竪穴建物跡出土遺物実測図

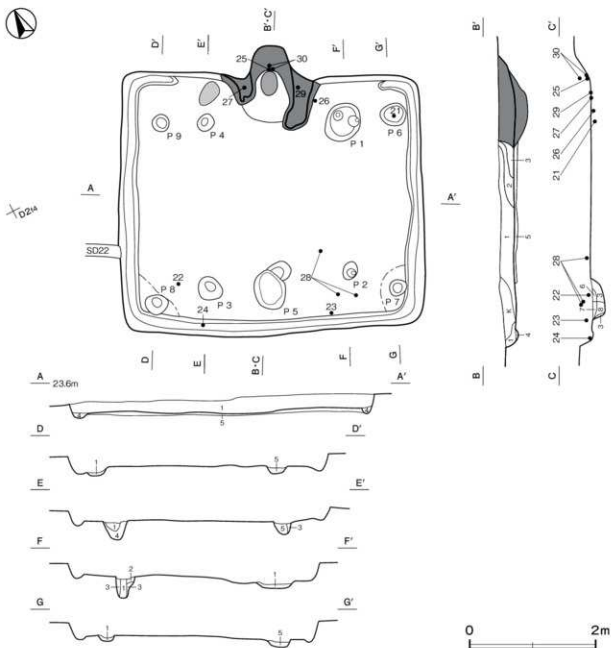
第63号竪穴建物跡出土遺物観察表(第10図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
12	須恵器	坏	130	4.4	8.2	長石・石英・ 雲母	褐灰	普通 焼成	気密回転糸切り痕を残す不定方向の手持ちへう	火床面	100% PL12 新治産
13	須恵器	坏	12.7	4.0	7.9	長石・石英	褐灰	普通 焼成	体部下端手持ちへう面り 底部回転へう切り痕 を残す一方向のへう面り	火床面	90% PL12

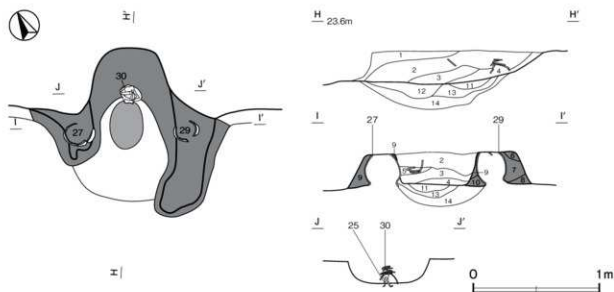
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
14	須恵器	坏	[132]	3.8	9.0	長石・石英・ 紫緑	にぶい黄褐色	普通	底部回転ヘラ切り面を残す二方向の手持ちヘラ 割り	床面	50% 新治産
15	須恵器	坏	[103]	3.8	6.6	長石・石英・ 紫緑	靑灰	普通	体部下端回転ヘラ割り 底部一方方向の手持ちヘ ラ割り	覆土上層	60% 新治産
16	須恵器	坏	[108]	3.6	6.6	長石・石英・ 紫緑	靑灰	普通	体部下端手持ちヘラ割り 底部ヘラ割り後ナデ	覆土上層	40% 新治産
17	須恵器	坏	[102]	4.8	[6.4]	長石・石英・ 紫緑・赤色粒子	灰黄褐色	普通	体部下端回転ヘラ割り 底部回転ヘラ割り	覆土上層	40% 新治産
18	須恵器	高台付坏	102	5.0	6.8	長石・石英・ 紫緑・赤色粒子	灰黄褐色	普通	底部回転ヘラ切り 底部外面磨き「□」	床面	90% 新治産
19	須恵器	高台付坏	-	(2.4)	8.8	長石・石英・ 紫緑・赤色粒子	靑灰	普通	底部回転ヘラ切り	覆土上層	50% 新治産
20	土師器	甕	-	(17.9)	8.8	長石・石英・ 紫緑・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部下手ヘラ磨き 内面ヘラナデ 輪積痕 底 部木杵痕	床面	30%

第 64 号 竪穴建物跡 (第 11 ~ 14 図 PL. 4)

位置 調査区西部の D 25 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 11 図 第 64 号 竪穴建物跡実測図 (1)



第12図 第64号竪穴建物跡実測図(2)

重複関係 第22号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.82m、短軸4.16mの長方形で、主軸方向はN-27°-Eである。壁は高さ16～30cmで、外傾している。

床 平坦な貼床で、床は地山を掘り下げ、ロームブロックや粘土ブロックを含む第5層を埋土して構築されている。壁溝は北壁の一部を除いて廻っている。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口から煙道部まで122cmで、燃焼部幅は54cmである。袖部は地山の上に甕を逆位に据え粘土ブロックを含む第6～10層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に20cm掘りくぼめ、焼土ブロックや粘土ブロックを含む第11～14層を埋土している。火床面は第11～13層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に52cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。支脚は土器片を積み上げ転用している。

竈土層解説

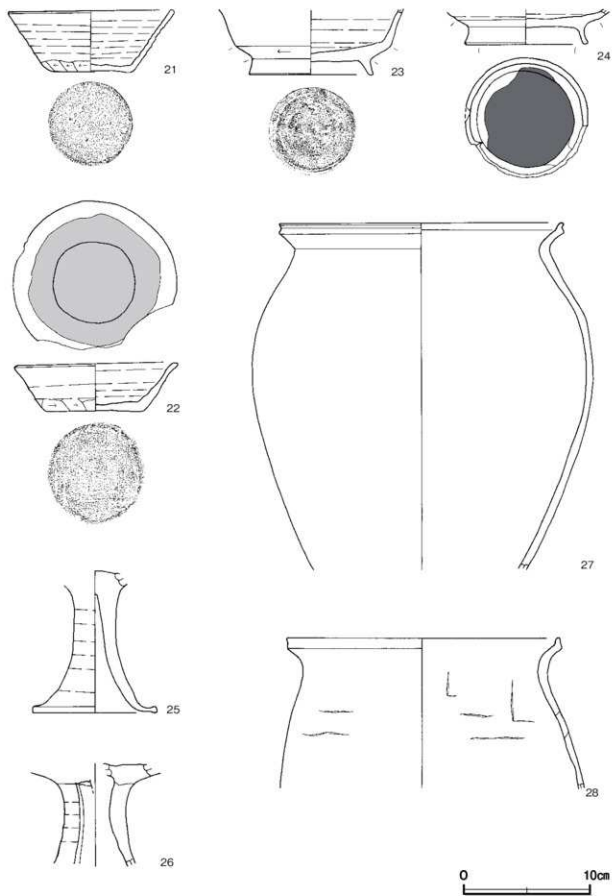
- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 8 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 9 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量 | 10 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量 | 11 黒褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 12 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 13 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 7 黒褐色 粘土ブロック多量 | 14 黒褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック少量 |

ピット 9か所。P1～P4は深さ8～34cmで、支柱穴である。P5は南西壁中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P9は深さ4～12cmで補助柱穴である。

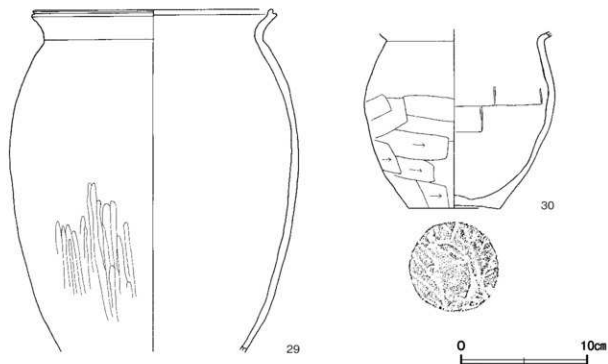
ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック少量 | 5 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 黄褐色粘土ブロック中量 | 6 黒褐色 粘土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 灰白色粘土ブロック中量 | 7 褐色 粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック中量 | 8 褐色 灰白色粘土ブロック少量 |

覆土 4層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第5層は貼床の構築土である。



第13図 第64号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第14図 第64号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子微量
 2 暗褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子・焼土粒子微量
 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
 4 黒褐色 ロームブロック多量
 5 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック多量

遺物出土状況 土師器片407点(坏6, 小型甕1, 甕類400), 須恵器片115点(坏62, 高台付坏9, 蓋6, 甕6, 高盤4, 甕類28)が出土している。22・24は西コーナー部, 23・28は南コーナー部, 26は竈右袖際の床面からそれぞれ出土している。22は逆位, 24は斜位の状態で出土している。28は覆土中層から出土した土器片と接合している。27は竈左袖部, 29は竈右袖部の補強材として逆位に伏せられてそれぞれ出土している。竈の火床面では25を正位に据え, 30を逆位に伏せ, その上に土器片を載せ支脚として利用している。21はP6から正位で出土している。竈内遺物を除いて, 埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後半に比定できる。

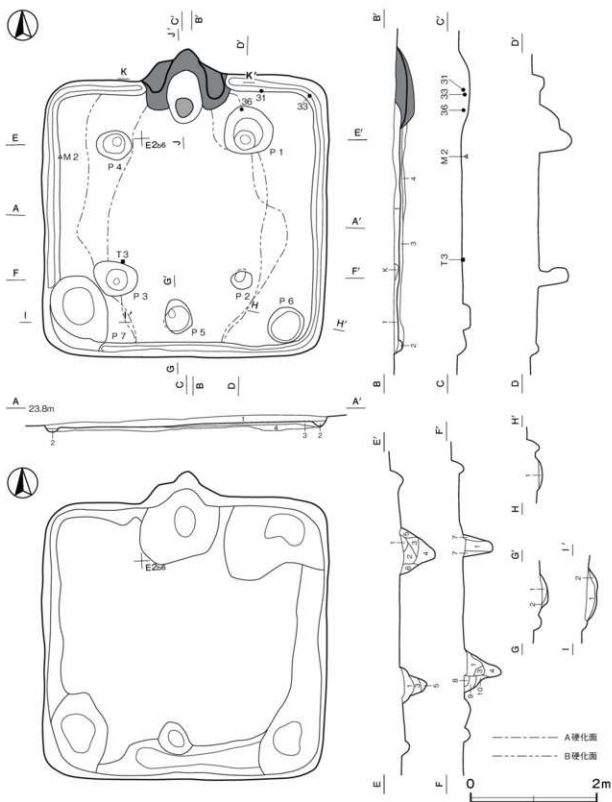
第64号竪穴建物跡出土遺物観察表(第13・14図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
21	須恵器	坏	130	5.0	6.5	長石・石英・雲母	褐色	普通	体部下端手持ちへう削り 底部回転へう切り痕を被す不対角の手持ちへう削り	P6内	90% PL12 新治産
22	須恵器	坏	128	3.9	7.8	長石・石英	褐色	普通	体部下端手持ちへう削り 底部二方向の手持ちへう削り 内面染黒	床面	90% PL12
23	須恵器	高台付坏	-	(5.2)	9.6	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端回転へう削り 底部回転へう切り	床面	30% 新治産
24	須恵器	甕	-	(2.8)	9.3	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	体部下端回転へう削り 底部回転へう削り 底部染黒	床面	30% PL12 新治産 履物産
25	須恵器	高盤	-	(11.3)	9.8	長石・石英	褐色	普通	脚部ロクロナテ 自然乾	火床面	50% 支脚転用
26	須恵器	高盤	-	(8.2)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	脚部ロクロナテ 透かし3か所	床面	10% 新治産
27	土師器	甕	22.4	(27.8)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	体部外・内面丁寧なナテ	竈左袖内	70% PL14
28	土師器	甕	21.5	(12.0)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	内面へう削り 輪積産	床面 覆土中層	30% PL14
29	土師器	甕	19.0	(27.4)	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	体部下半へう削り 内面へう削り 体部外面摩耗	竈右袖内	70% PL14
30	土師器	小形甕	-	(14.3)	7.1	長石・石英・雲母	こい赤褐色	普通	体部外面へう削り 内面へう削り 底部本量産	火床面	60% PL13 支脚転用

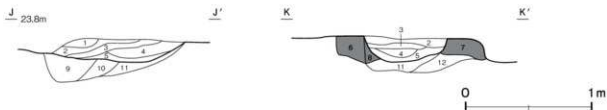
第 65 号竪穴建物跡 (第 15 ~ 17 図 PL. 4)

位置 調査区南西部の E 2b6 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺 4.50 m ほどの方形で、主軸方向は $N-5^{\circ}-E$ である。壁は高さ 8 ~ 12 cm で、外傾している。



第 15 図 第 65 号竪穴建物跡実測図 (1)



第16図 第65号竪穴建物跡実測図(2)

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。床は二面確認でき、A面は竈から主柱穴内に広がる範囲、B面は4か所の主柱穴を囲む範囲である。A面の下部からB面を確認した。床は地山面を8cm程掘り下げ、ロームブロックを含む第3・4層を埋土して構築されている。壁溝が南西コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで118cmで、燃焼部幅は56cmである。左袖部は地山の上に、右袖部は第12層の上に粘土ブロックを含む第6～8層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に17cm掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第9～11層を埋土している。火床面は第9～11層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に44cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	7 褐色	粘土ブロック多量
2 暗褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	8 暗褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子微量
3 暗褐色	焼土ブロック・炭化物中量、ローム粒子少量	9 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
4 黒褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量	11 黒褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
6 褐色	粘土ブロック多量、ローム粒子微量	12 褐色	粘土ブロック中量

ピット 7か所。P1～P4は深さ40～52cmで、主柱穴である。P5は深さ8cmで、南壁中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は深さ5～17cmで、南東コーナー部と南西コーナー部に位置しており、性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

1 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック多量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	7 褐色	ロームブロック多量
3 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	8 褐色	粘土ブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	ロームブロック多量、焼土粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック少量

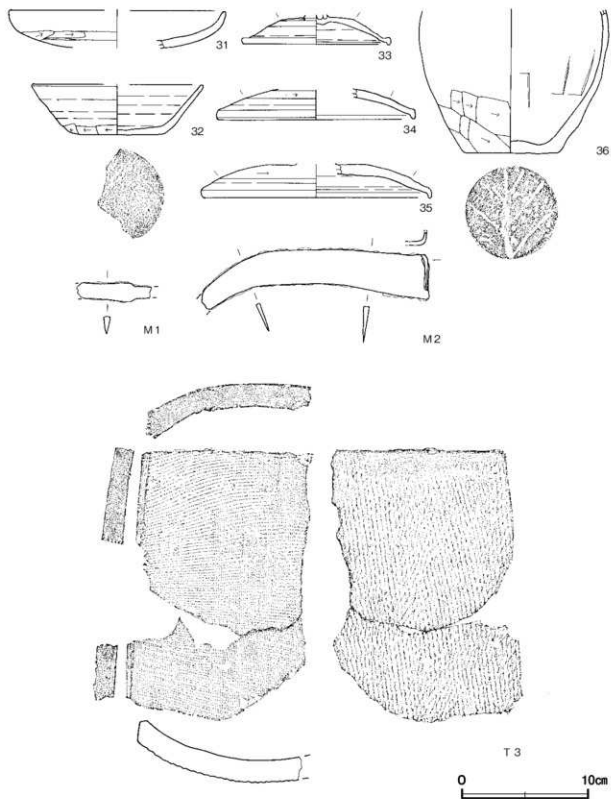
覆土 2層に分层できる。覆土は薄く堆積状況は不明である。第2層は壁溝の覆土、第3・4層は貼床の構築土である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	3 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量	4 暗褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片135点(坏3、小形甕1、甕類131)、須恵器片89点(坏45、高台付坏1、蓋8、盤1、長頸瓶1、甕類33)、金属製品3点(刀子、鎌、釘)、瓦1点(平瓦)が出土している。33は北東コーナー部、36は北壁付近、M2は西壁際、T3は南西部の床面からそれぞれ出土している。33は逆位の状態で出土している。35は竈内から出土している。31・32・34・M1は覆土中から出土している。竈内遺物を除いて、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第17図 第65号竪穴建物跡出土遺物実測図

第65号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第17図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
31	土師器	坏	[17.3]	[3.0]	-	長石・石英、 炭屑・赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り抜き	覆土中	30%
32	須恵器	坏	[13.6]	4.0	[7.6]	長石・石英、 炭屑	靑灰	普通	体部下縁手持ちへラ削り 底部不定方向の手持ちへラ削り	覆土中	30% 新出處

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
33	須恵器	蓋	116	(23)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	60% 新治産
34	須恵器	蓋	[157]	(24)	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	31% 新治産
35	須恵器	蓋	[182]	(27)	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	天井部回転ヘラ削り	壺内	30% 新治産
36	土師器	小形甕	-	(114)	74	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下手ヘラ削り 内面ヘラ当て肌	底部木業 床面	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	刀子	(61)	1.5	0.4	(138)	鉄	刃先・基部欠損 刃部断面三角形	覆土中	PL18
M 2	鎌	(182)	3.5	0.3	(67.5)	鉄	曲刃鎌 刃部断面三角形 基部折り曲げ	床面	PL18

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T 3	瓦	平瓦	(148)	(54)	(218)	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒黒	普通	凸面鈍角 底面鈍角 縁縁削り 裏面削り	床面	PL19

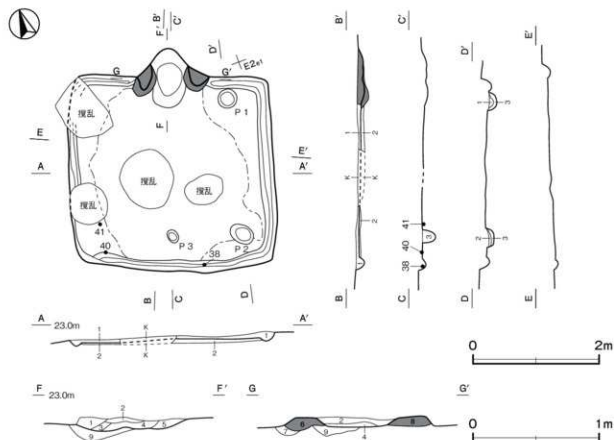
第74号竪穴建物跡 (第18・19図)

位置 調査区南西部のE1e0区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺3.26mほどの方形で、主軸方向はN-21°-Eである。壁は高さ5~12cmで、外傾している。

床 平坦な貼床で、竪の前方から南西壁にかけて踏み固められている。床は地山を10cm程掘り下げ、ロームブロックを含んだ第2層を埋土して構築されている。壁溝が西コーナー部を除いて巡っている。

竪 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで95cmで、燃烧部幅は50cmである。左軸部は、第



第18図 第74号竪穴建物跡実測図

7・9層の上にロームブロック・粘土ブロックや炭化粒子を含む第6層を積み上げ、右袖部は地山の上に粘土ブロックを含む第8層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に8cm掘りくぼめ、ロームブロック・粘土ブロックや焼土粒子を含む第9層を埋土している。火床面は第9層上面で、赤変していない。煙道部は壁外に45cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

覆土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | | |

ピット 3か所。P1・P2は深さ16cmで、東コーナー部と南コーナー部に位置していることから、支柱穴である。P3は南西壁に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | | |

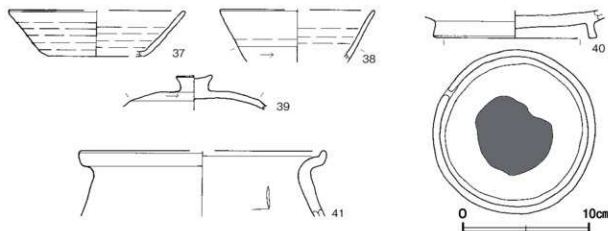
覆土 単一層である。耕作による削平を受け、覆土の堆積状況は不明である。第2層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 2 暗褐色 | ロームブロック多量 |
|-------|------------------|-------|-----------|

遺物出土状況 土師器片21点(甕類)、須恵器片27点(坏22、蓋1、高盤1、甕類3)、土製品1点(不明)が出土している。38は南西壁際、40・41は西コーナー部の床面からそれぞれ出土している。遺物は埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第19図 第74号竪穴建物跡出土遺物実測図

第74号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	須恵器	坏	[140]	3.7	[7.8]	長石・石英・炭屑	灰褐色	普通	体部下端ナデ	覆土中	5%
38	須恵器	坏	[122]	(4.2)	-	長石・石英・炭屑	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り	床面	5%
39	須恵器	蓋	-	(2.8)	-	長石・石英・炭屑	褐色	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10% 新治産
40	須恵器	壁	-	(2.2)	12.3	長石・石英・砂状物質	灰黄褐色	普通	底部回転ヘラ削り	底面	50% 本堂下層 掘出し
41	土師器	甕	[195]	(5.2)	-	長石・石英・炭屑	明褐色	普通	体部内面ヘラ当て削	床面	5%

第77号竪穴建物跡 (第20・21図)

位置 調査区南部のE 3d4区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.23m、短軸3.08mの方形で、主軸方向はN-24'-Eである。壁は高さ10~16cmで、外傾している。

床 平坦な貼床で、竈の前方部から南西壁にかけて踏み固められている。壁下には壁溝が南東壁と東コーナー部を除いて巡っている。貼床は、全体を8cmほど掘り下げ、ロームブロックを含む第16層を埋土して構築されている。

竈 北東壁の東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで94cmで、燃焼部幅は34cmである。竈部は地山の上に粘土ブロック含む第4層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形にわずかに掘りくぼめ地山を利用している。火床面は地山上面で、赤変硬化していない。煙道部は壁外に43cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

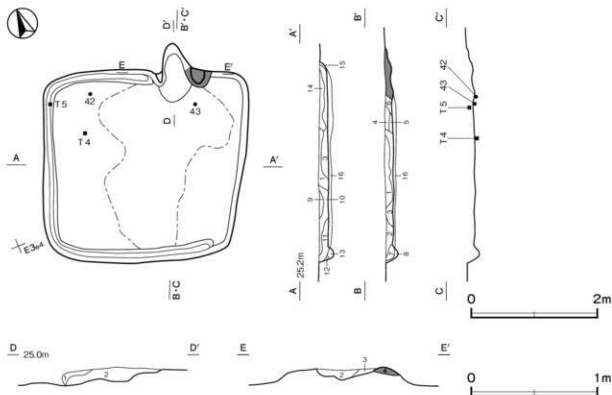
埋土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |

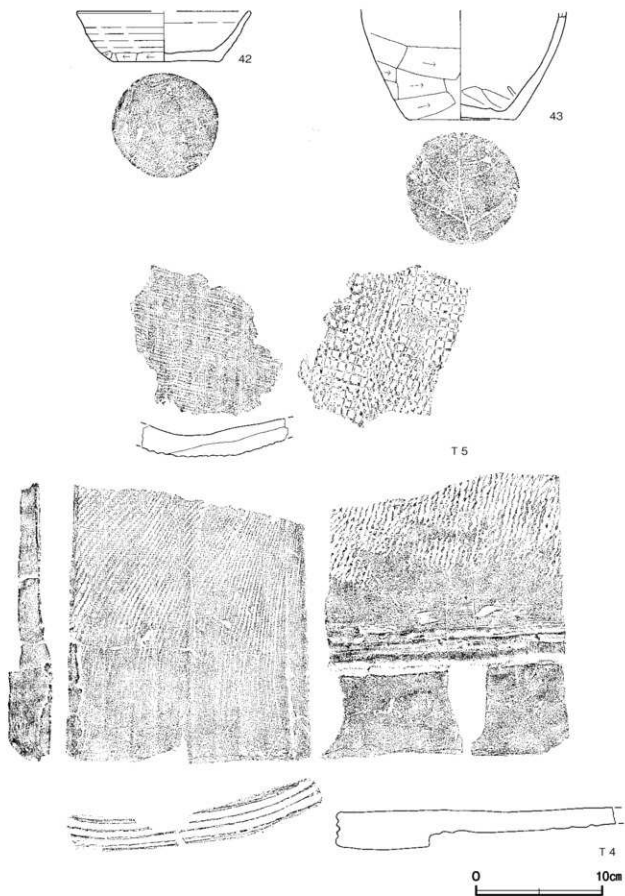
覆土 15層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第16層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|---------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 11 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 12 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | 13 極暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック微量 | 15 褐色 | ローム粒子中量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量 | 16 褐色 | ロームブロック中量 |



第20図 第77号竪穴建物跡実測図



第 21 図 第 77 号竪穴建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片5点(甕類), 須恵器片3点(坏2, 甕類1), 剥片1点, 鉄滓1点, 瓦5点(軒平瓦1, 丸瓦2, 平瓦2)が出土している。42, T4・T5は北コーナー部, 43は竈右軸部付近の床面からそれぞれ出土している。これらの遺物は, 埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定できる。

第77号竪穴建物跡出土遺物観察表(第21図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
42	須恵器	坏	(137)	4.0	8.6	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	体部下高手持りへう削り 底部不定方向の手持りへう削り	床面	60% 新治産
43	土師器	甕	-	(87)	8.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体部下平へう削り 内面へうナデ 底部本葉痕	床面	10%

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T4	瓦	軒平瓦	(203)	(31)	(222)	長石・石英	灰	普通	櫛状工具で焼いた沈線による河重弧文 凸面太陽印き 端削削り 凹面横骨痕 春日敷	床面	PL19
T5	瓦	平瓦	(137)	(31)	(130)	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	凸面格子目印き 凹面春日敷 粘土合わせ痕	床面	

第79号竪穴建物跡(第22・23図)

位置 調査区南西部のE2a4区, 標高23mほどの台地平坦部に位置している。

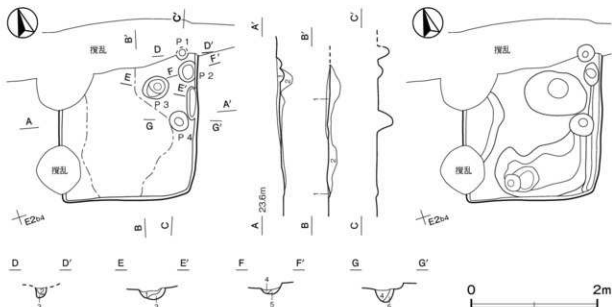
規模と形状 北側が攪乱を受けているため, 東西軸は220mで, 南北軸は240mしか確認できなかった。形状から主軸方向はN-18°-Eの長方形と推定できる。壁は高さ2~4cmである。

床 平坦な貼床で, 中央部から南壁にかけて踏み固められている。床は地山を6~19cm程掘り下げ, ロームブロックや焼土粒子を含む第2層を埋土して構築されている。壁溝が東壁に部分的に巡っている。

ピット 4か所。P1~P4は深さ10~21cmで東壁付近に位置しているが, 性格は不明である。

ピット土層解説(各ピット共通)

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |



第22図 第79号竪穴建物跡実測図

覆土 単一層である。第1層がわずかに残るだけで、堆積状況は不明である。第2層は、貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 31点（坏3、甕類28）、須恵器片 14点（坏9、高台付坏1、蓋1、甕類3）が出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第23図 第79号竪穴建物跡出土遺物実測図

第79号竪穴建物跡出土遺物観察表（第23図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
44	須恵器	坏	[130]	4.2	[7.8]	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘリ張り		覆土中	5%
45	須恵器	蓋	-	[1.0]	-	長石・石英・雲母	黄褐色	普通	体部内面磨き「古」		覆土中	5% PL17

第80号竪穴建物跡（第24・25図 PL5）

位置 調査区南部のC4d9区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.42m、短軸2.89mの長方形で、主軸方向はN-26°-Eである。壁は高さ20～34cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、竪の前方部から南壁にかけて踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。壁下には壁溝が東壁の一部を除いて巡っている。

竪 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで122cmで、燃焼部幅は46cmである。袖部は地山の上にロームブロックや粘土ブロックを含む第11～13層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に7cmほど掘りくぼめ第14層を埋土している。火床面は第14層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。火床部の奥には、被熱した須恵器の坏が逆位で据えられており、支脚として使用されていたと考えられる。

竪土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 8 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
 2 黒褐色 ローム粒子少量 9 黒褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 10 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量
 4 黒褐色 ロームブロック少量 11 暗褐色 ロームブロック少量
 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 12 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子微量
 6 黒褐色 ロームブロック中量 13 褐色 粘土ブロック少量
 7 暗褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量 14 暗褐色 ロームブロック中量、粘土粒子少量

ピット P1は深さ22cmで、南壁寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

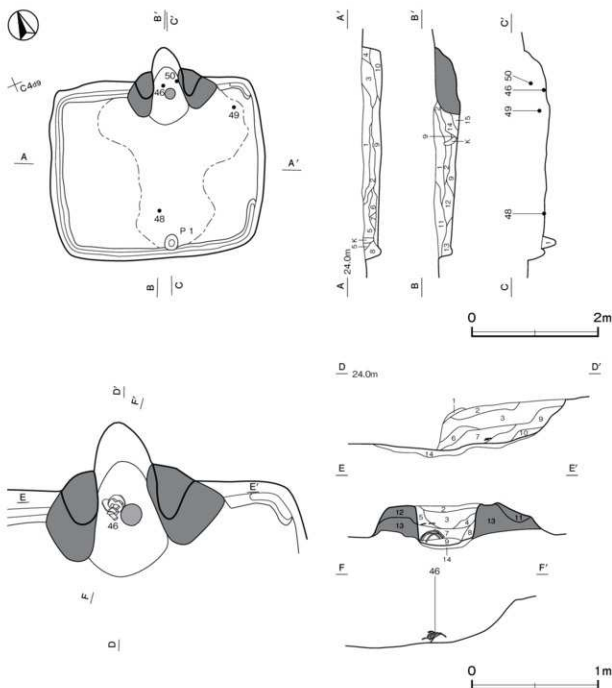
1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

覆土 15層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 灰中量、焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 4 黒色 | ロームブロック中量 | 12 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量 | 13 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 14 黒褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量 | 15 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

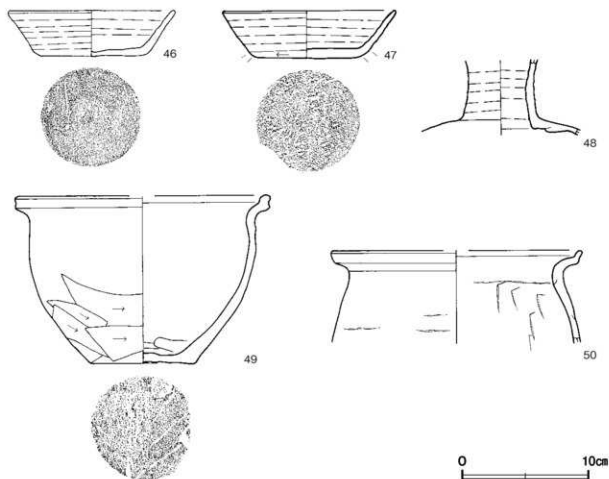
遺物出土状況 土師器片62点(小形甕2, 甕類60), 須恵器片27点(坏13, 蓋3, 長頸瓶1, 甕類10)が出土している。46・50は竈内から出土している。46は支脚として使用されていたと考えられる。48は中央部



第24図 第80号竈穴建物跡実測図

南壁寄りの床面, 49 は北東コーナー部の覆土下層, 47 は東部付近の覆土中からそれぞれ出土している。48 は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第 25 図 第 80 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 80 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 25 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
46	須恵器	坏	13.1	3.6	7.9	長石・石英・ 雲母	にぶい黄褐色	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向の手持ちヘラ削り	竈内	100% PL12
47	須恵器	坏	13.7	3.8	8.0	長石・石英・ 雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	覆土中	20% 新治産
48	須恵器	長頸瓶	-	(6.0)	-	長石・石英	灰	普通	頸部から肩部外面自然釉 輪轆痕	床面	10%
49	土師器	小形甕 [196]	13.3	8.4	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	褐	普通	体部下半ヘラ削り 内面ヘラナゲ 底部木葉痕	覆土下層	60% PL13
50	土師器	小形甕 [198]	(7.4)	-	-	長石・石英・ 雲母	灰褐	普通	内面ヘラナゲ 輪轆痕	竈内	5%

表 2 奈良時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	壁床	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考	
				長軸×短軸(m)	厚				土柱	出入口	ピット					炉・竈
59	D3b2	N-32°-E	方形	3.80 × 3.58	4-5	平削	-	4	1	-	北東壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土師器, 金属製品, 瓦	8世紀後葉	
61	C3j1	N-34°-E	長方形	3.47 × 3.10	14-18	平削	一部	-	1	9	北東壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土師器, 瓦	8世紀初葉	SK15→本跡
63	D2e0	N-28°-E	方形	2.88	3-10	平削	-	-	-	-	北東壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土師器	8世紀後葉	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	構造	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考	
				長軸×短軸(m)				柱穴	土坑	竪穴	ピット					貯蔵穴
64	D 2f5	N-27°-E	長方形	4.82×4.16	16~30	平坦	ほぼ全周	4	1	4	北東壁	-	人為	土師器、須恵器	8世紀後半	本跡→SD22
65	E 2b6	N-5°-E	方形	4.50	8~12	平坦	ほぼ全周	4	1	2	北壁	-	-	土師器、須恵器、 金属製品、瓦	8世紀中葉	
74	E 1e0	N-21°-E	方形	3.26	5~12	平坦	ほぼ全周	2	1	-	北東壁	-	-	土師器、須恵器、 土製品	8世紀後半	
77	E 3d4	N-24°-E	方形	3.23×3.08	10~16	平坦	一部	-	-	-	北東壁	-	人為	土師器、須恵器、瓦	8世紀後半	
79	E 2a4	N-18°-E	[長方形]	2.40×2.20	2~4	平坦	一部	-	-	4	-	-	-	土師器、須恵器	8世紀後半	
80	C 4d9	N-26°-E	長方形	3.42×2.89	20~34	平坦	ほぼ全周	-	1	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器	8世紀後半	

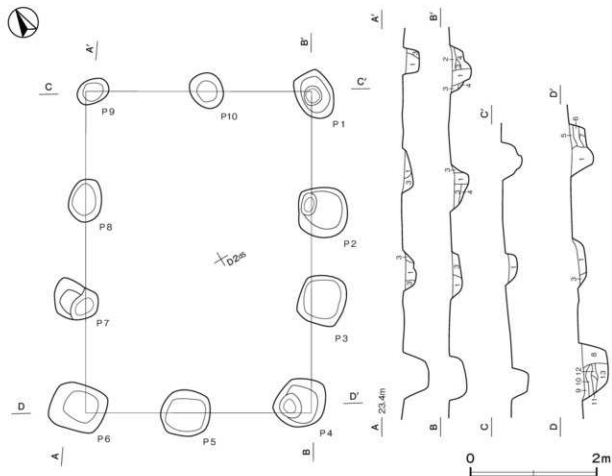
(2) 掘立柱建物跡

第17号掘立柱建物跡 (第26図 PL10)

位置 調査区西部のD 2d5区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向がN-31°-Eの南北棟である。規模は、桁行5.1m、梁行3.6mで、面積は18.36㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から1.8m(6尺)、1.5m(5尺)、1.8m(6尺)、梁行が1.8m(6尺)で、柱筋は揃っている。

柱穴 10か所。平面形は楕円形又は隅丸方形で、長軸53~100cm、短軸36~90cmである。深さ18~45cmで、掘方の断面は逆台形である。第1・8層は柱抜き取り後の覆土、第2~7・9~13層が埋土である。



第26図 第17号掘立柱建物跡実測図

土層解説 (各ピット共通)

1 黒褐色	ロームブロック少量	8 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量	9 黒褐色	黄褐色粘土ブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック多量	10 黒褐色	黄褐色粘土ブロック多量
4 黒褐色	白色粘土ブロック中量、ロームブロック少量	11 黒褐色	粘土ブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック多量、粘土ブロック少量	12 黒褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック少量
6 黒褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量	13 黒褐色	粘土ブロック多量
7 黒褐色	黄褐色粘土ブロック中量、ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師器片1点(甕類)、須恵器片2点(甕類)が出土している。P1の覆土中から土師器片、須恵器片が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から8世紀代に比定できる。

第18号掘立柱建物跡(第27図 PL10)

位置 調査区中央部のD3c1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-76°-Wの東西棟である。規模は、桁行6.0m、梁行4.2mで、面積は25.20㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から2.1m(7尺)、1.8m(6尺)、2.1m(7尺)、梁行は2.1m(7尺)に配置され、柱筋は揃っている。

柱穴 20か所。P1～P10の平面形は円形又は楕円形で、径28～78cmである。深さは12～35cmで、掘方の断面は逆台形又はU字形である。側柱の北側から南側のP11～P20は径14～30cm、深さ6～20cmと側柱より小さく浅いため、足場柱穴の可能性がある。第1・6層が柱痕、第2～5層が埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

1 黒褐色	ローム粒子少量	4 黒褐色	ロームブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック多量	5 黒褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ローム粒子中量	6 黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片4点(坏2、甕類2)、須恵器片4点(蓋1、甕類3)が出土している。P1～P6～P10から土師器片、須恵器片が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。

第20号掘立柱建物跡(第28図 PL10)

位置 調査区中央部のD2c9区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第18号溝に掘り込まれている。

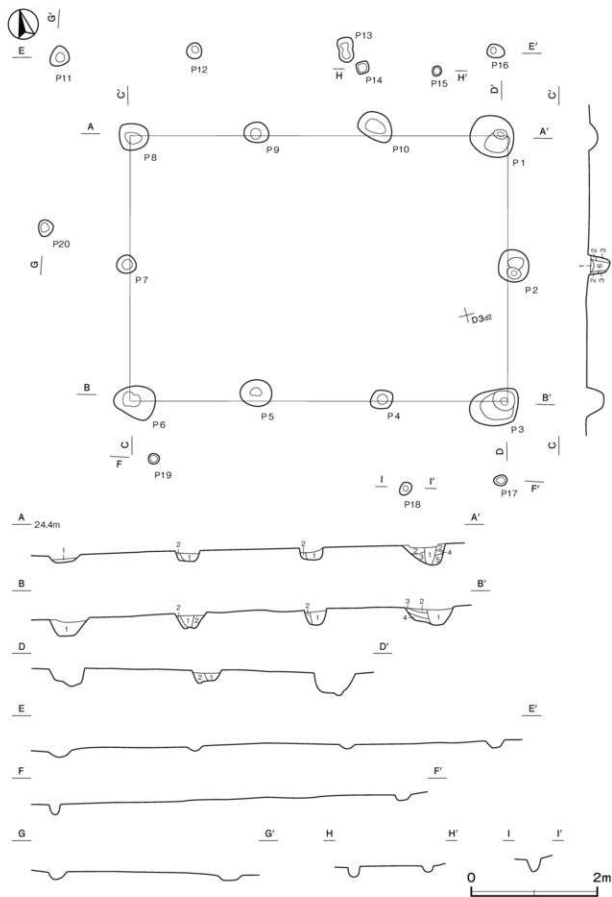
規模と構造 桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-70°-Wの東西棟である。規模は、桁行5.4m、梁行3.3mで、面積は17.82㎡である。柱間寸法は桁行が1.8m(6尺)、梁行が3.3m(10尺)で、柱筋は揃っている。

柱穴 7か所。平面形は円形又は楕円形で、長径35～57cm、短径26～45cmである。深さ13～22cmで、掘方の断面はU字形である。

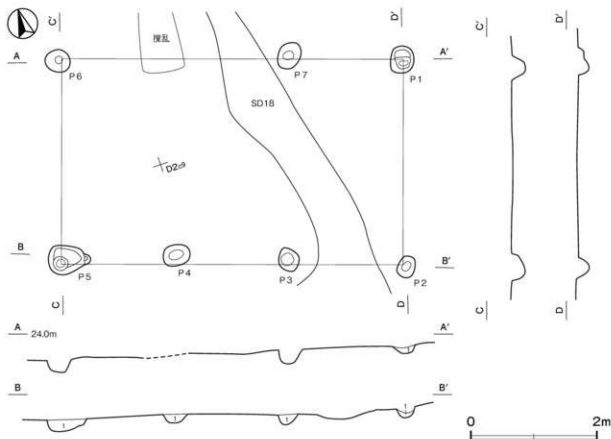
土層解説 (各ピット共通)

1 黒褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量
-------	--------------------

所見 出土土器が無いため時期判断は困難であるが、遺構の配置から8世紀代と考えられる。



第 27 图 第 18 号掘立柱建物跡実測图



第28図 第20号掘立柱建物跡実測図

第21号掘立柱建物跡（第29図 PL10）

位置 調査区西部のD 2 b5区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第18号溝に掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の欄柱建物跡で、桁行方向がN-34°-Eの南北棟である。規模は、桁行4.5m、梁行4.2mで、面積は1890㎡である。柱間寸法は、桁行が北妻から2.1m（7尺）、2.4m（8尺）、梁行が2.1m（7尺）で、柱筋は揃っている。P3の底面で、柱のあたりを確認した。

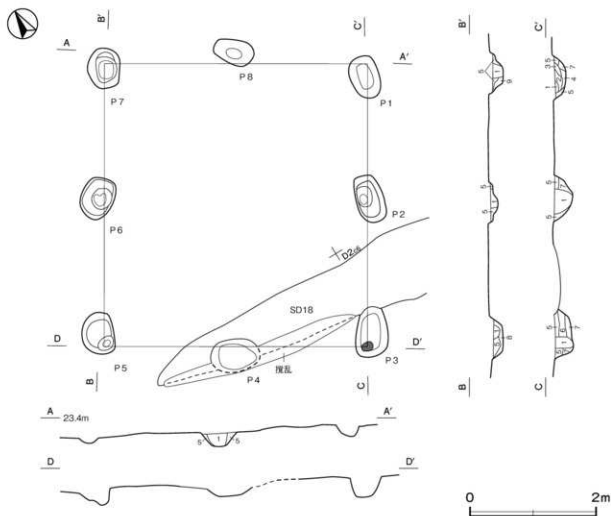
柱穴 8か所。平面形は楕円形で、長径64～80cm、短径40～52cmである。深さ15～30cmで、掘方の断面は逆台形又はU字形である。第1～4層は柱痕、第5～9層が埋土である。

土層解説（各ピット共通）

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 6 暗褐色 粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック多量 | 7 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量 | 8 黒褐色 粘土ブロック多量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック微量 | 9 暗褐色 粘土ブロック中量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量 | |

遺物出土状況 土師器片2点（甕類）が出土している。P8の覆土中から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、第17号掘立柱建物跡と桁行方向が同じに配置されていることから8世紀代と考えられる。



第29図 第21号掘立柱建物跡実測図

第22号掘立柱建物跡 (第30図 PL10)

位置 調査区南西部のD215区、標高23mの台地平坦部に位置している。

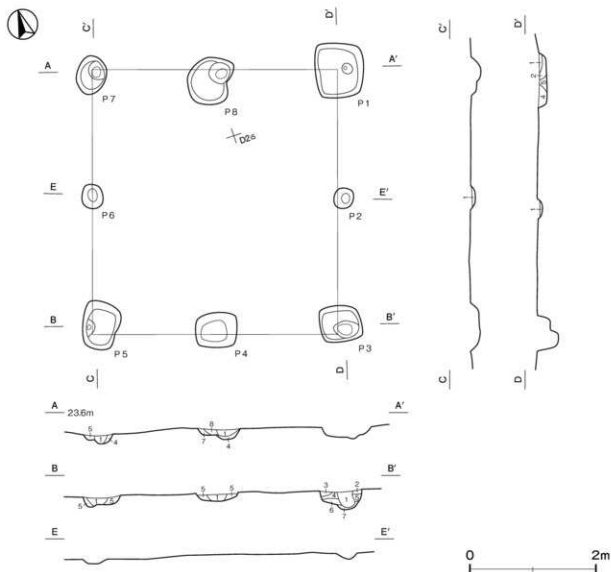
規模と構造 桁行2間、梁行2間の欄柱建物跡で、桁行方向がN-19°-Eの南北棟である。規模は、桁行4.2m、梁行3.9mで、面積は16.38㎡である。柱間寸法は、桁行が2.1m(7尺)、梁行が北妻から2.1m(7尺)、1.8m(6尺)で、柱筋は揃っている。

柱穴 8か所。平面形は楕円形又は隅丸長方形で、長径33~87cm、短径30~77cmである。深さ8~33cmで、掘方の断面はU字形である。第1層は柱痕、第2~8層が埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 褐色 ローム粒子多量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量 | 7 褐色 ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量 | 8 黒褐色 ロームブロック微量 |

所見 出土土器が無いため時期判断は困難であるが、第23号掘立柱建物跡と桁行方向が同じに配置されていることから8世紀代と考えられる。



第30図 第22号掘立柱建物跡実測図

第23号掘立柱建物跡 (第31図 PL10)

位置 調査区南西部のE 2b4区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第67号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-17°-Eの南北棟である。規模は、桁行3.6m、梁行3.6mで、面積は1296㎡である。柱間寸法は、桁行が1.8m(6尺)、梁行が1.8m(6尺)で、柱筋は揃っている。

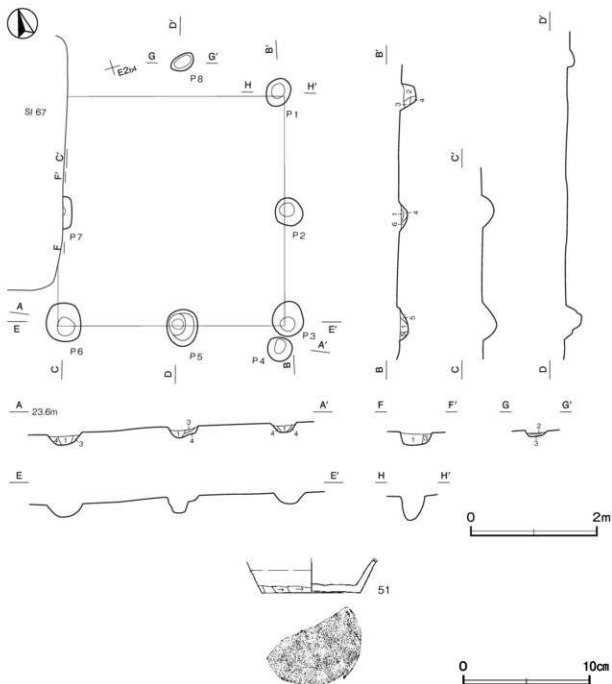
柱穴 8か所。平面形は円形又は楕円形で、長径40～61cm、短径24～55cmである。深さ11～28cmで、掘方の断面はU字形である。第1・2層は柱痕、第3～6層が埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片4点(甕類)、須恵器片1点(坏)が出土している。51は柱穴の埋土から出土している。

所見 時期は、埋土の出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第31図 第23号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第23号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第31図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
51	須恵器	坏	-	(29)	7.9	長石・石英・ 炭屑	黄灰	普通	体部下面手持ちへつ張り 底部一方向の手持ち へつ張り	覆土中	23% 新治産

第24号掘立柱建物跡(第32図 PL10)

位置 調査区南西部のD2区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

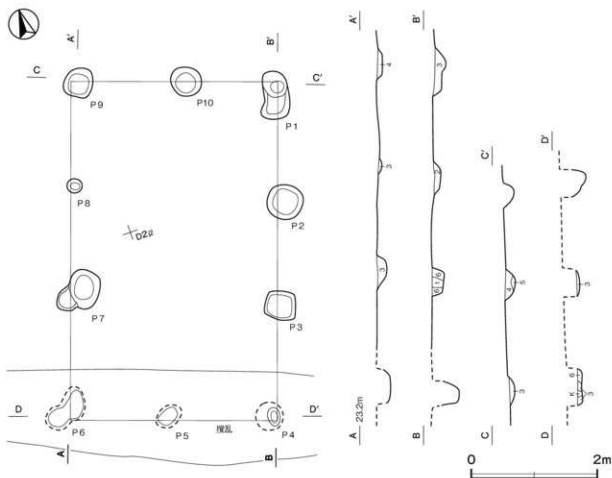
規模と構造 南側上面が現代の道路により一部削平されている。桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-20°-Eの南北棟である。規模は、桁行5.4m、梁行3.3mで、面積は17.82㎡である。柱間寸法は、桁行が1.8m（6尺）、梁行が北妻から1.8m（6尺）、1.5m（5尺）で、柱筋は揃っている。

柱穴 10か所。平面形は不整楕円形又は方形で、長軸24～80cm、短軸24～58cmである。深さ4～40cmで、掘方の断面は逆台形又はU字形である。第1層は柱痕、第2～5層は柱抜き取り後の覆土、第6層が埋土である。

土層解説（各ピット共通）

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック覆層 | 6 黒褐色 ローム粒子中量 |

所見 出土土器が無いため時期判断は困難であるが、第23号掘立柱建物跡と桁行方向が同じに配置されていることから8世紀代と考えられる。



第32図 第24号掘立柱建物跡実測図

第25号掘立柱建物跡（第33図 PL10）

位置 調査区中央部のC3h0区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第81号堅穴建物、第4号溝に掘り込まれている。

規模と構造 南部が調査区域外に延びているため、桁行3.6m、梁行3.3mしか確認できなかった。柱間寸法は、

桁行が18m（6尺）、梁行が北妻から15m（5尺）、18m（6尺）で、柱筋は揃っている。

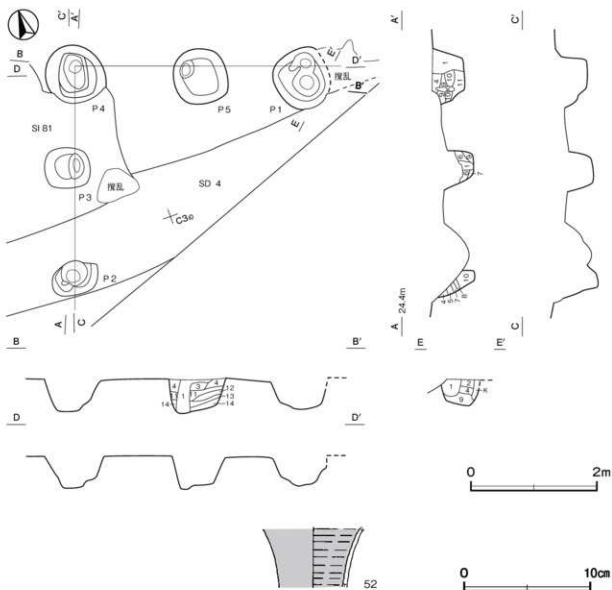
柱穴 5か所。平面形は隅丸方形又は不整楕円形で、長径78～100cm、短径54～92cmである。深さ42～70cmで、掘方の断面は逆台形又はU字形である。第1層は柱痕、第2～14層が埋土である。

土層解説（各ピット共通）

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 8 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 9 黒褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 | 10 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック中量 | 11 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量 | 12 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック多量 |
| 6 褐色 ロームブロック少量 | 13 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 7 黒褐色 粘土ブロック中量 | 14 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片29点（坏4、甕類25）、須恵器片16点（坏4、蓋1、甕類11）、灰軸陶器（長頸瓶）が出土している。52はP4の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。同時期の第27号掘立柱建物跡と同じ桁行方向の東西棟と考えられる。



第33図 第25号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第25号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第33図）

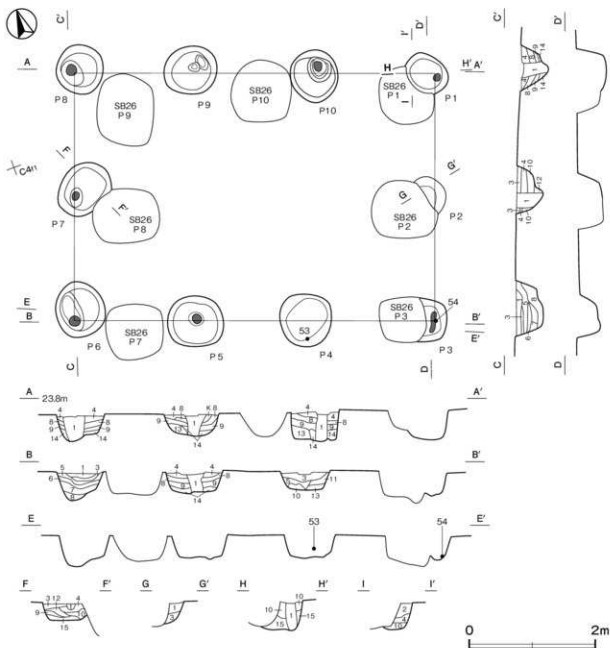
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
52	灰釉陶器	長頸瓶	-	(4.9)	-	長石・石英	黄褐色	普通	外・内面ナシ後、灰釉薬刷毛塗り	P 4 覆土中	5%

第27号掘立柱建物跡（第34・35図 PL11）

位置 調査区中央部のC 4fl区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第26号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-70°-Wの東西棟である。規模は、桁行5.7m、梁行3.9mで、面積は22.23㎡である。柱間寸法は、桁行が北妻から21m（7尺）、18m（6尺）、1.8



第34図 第27号掘立柱建物跡実測図

m (6尺)、梁行が21m (7尺)、1.8m (6尺)で、柱筋は揃っている。P1、P3、P5～P8、P10の底面で、柱のあたりを確認した。

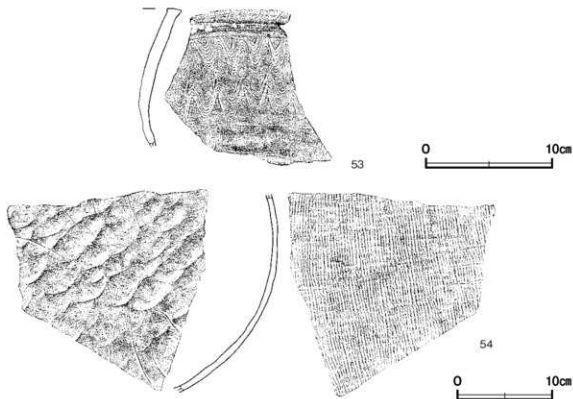
柱穴 10か所。平面形は円形又は楕円形で、長径70～94cm、短径60～80cmである。深さ36～50cmで、掘方の断面は逆台形又はU字形である。第1層は柱痕、第2～15層が埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|--------|--------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 9 黄褐色 | 粘土ブロック多量 |
| 2 黒色 | ロームブロック中量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子多量 | 11 灰褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色 | 粘土ブロック微量 | 13 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 6 黒暗褐色 | 粘土ブロック・粘土粒子少量 | 14 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 7 黒褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子少量 | 15 黒褐色 | ロームブロック多量 |
| 8 黒褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片15点(坏1、高台付坏1、甕類13)、須恵器片14点(蓋1、甕類13)が出土している。54はP3、53はP4の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第35図 第27号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第27号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第35図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
53	須恵器	甕	-	(11.0)	-	長石・石英	灰黄	普通	胴部外面輪歯状工具による2条の波状文	覆土下層	5% PL17
54	須恵器	甕	-	(21.2)	-	長石・石英・高砂	褐灰	普通	胴部外面輪位の平行印き 内面当て具痕	覆土下層	10% 新治遺

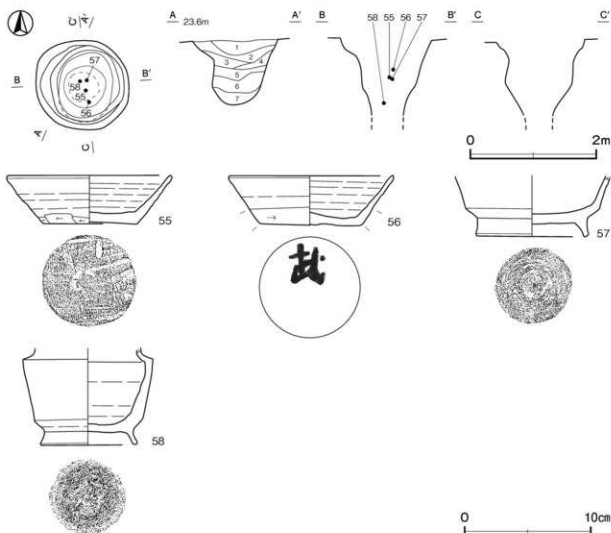
表3 奈良時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	掘行方向	柱間数 桁×梁間	規模 桁×梁(m)	面積 (㎡)	柱間寸法		柱 穴			主な出土遺物	時 期	備 考	
						桁間(m)	梁間(m)	構造	柱数	平面形				深さ(cm)
17	D 245	N-31°-E	3×2	5.1×3.6	18.36	1.5~1.8	1.8	欄柱	10	楕円形・ 隅丸方形	18~45	土師器、須恵器	8世紀代	
18	D 2c1	N-76°-W	3×2	6.0×4.2	25.20	1.8~2.1	2.1	欄柱	20	円形・楕円形	6~35	土師器、須恵器	8世紀後半	
20	D 2e9	N-70°-W	3×1	5.4×3.3	17.82	1.8	3.3	欄柱	7	円形・楕円形	13~22		8世紀代	本跡→SD18
21	D 2b5	N-34°-E	2×2	4.5×4.2	18.90	2.1~2.4	2.1	欄柱	8	楕円形	15~30	土師器	8世紀代	本跡→SD18
22	D 215	N-19°-E	2×2	4.2×3.9	16.38	2.1	1.8~2.1	欄柱	8	楕円形・ 隅丸方形	8~33		8世紀代	
23	E 2b4	N-17°-E	2×2	3.6×3.6	12.96	1.8	1.8	欄柱	8	円形・楕円形	11~28	土師器、須恵器	8世紀後半	本跡→SI 67
24	D 2j2	N-20°-E	3×2	5.4×3.3	17.82	1.8	1.5~1.8	欄柱	10	不整形楕円形・ 方形	4~40		8世紀代	
25	C 3b0	-	2×2	3.6×(3.3)	-	1.8	1.5~1.8	欄柱	5	楕丸方形・ 不整形楕円形	42~70	土師器、須恵器	8世紀後半	本跡→SI 81、SD 4
27	C 4f1	N-70°-W	3×2	5.7×3.9	22.23	1.8~2.1	1.8~2.1	欄柱	10	円形・楕円形	36~50	土師器、須恵器	8世紀後半	本跡→SB26

(3) 井戸跡

第1号井戸跡 (第36図 PL11)

位置 調査区南部のE 2 d3区、標高23mほどの大地平坦部に位置している。



第36図 第1号井戸跡・出土遺物実測図

規模と形状 長径156m、短径145mの円形である。確認面から深さ100cmまでは漏斗状に掘り込まれ、それより下部は、径50cmの円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ122cmほど掘り下げた時点で、崩落のおそれがあることから、下部の調査を断念した。

覆土 7層に分類できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量	5 暗褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ローム粒子中量	6 褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
3 灰褐色	ロームブロック少量	7 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量
4 黒色	ロームブロック中量		

遺物出土状況 土師器片6点(甕類)、須恵器片6点(坏2、高台付坏1、短頸壺1、甕類2)が出土している。58は中央部の覆土下層、55～57は中央部の覆土中層から出土している。これらの遺物は、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。

第1号井戸跡出土遺物観察表(第36図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
55	須恵器	坏	130	3.8	7.5	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下層手持ちへう割り 底部回転へう切り痕を概し一方方向の手持ちへう割り	覆土中層	90% PL12 新調査
56	須恵器	坏	130	4.0	8.0	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部下層回転へう割り 底部回転へう切り痕を概し一方方向の手持ちへう割り 底部外周墨書「五」	覆土中層	70% PL13 新調査
57	須恵器	高台付坏	-	(4.8)	8.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	底部回転へう切り	覆土中層	40% 新調査
58	須恵器	短頸壺	-	(7.7)	7.5	長石・石英	灰	普通	体部外・内面ナデ 底部へう割り「メ」	覆土下層	90% PL13

2 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡17棟、掘立建物跡6棟、土坑5基、溝跡6条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

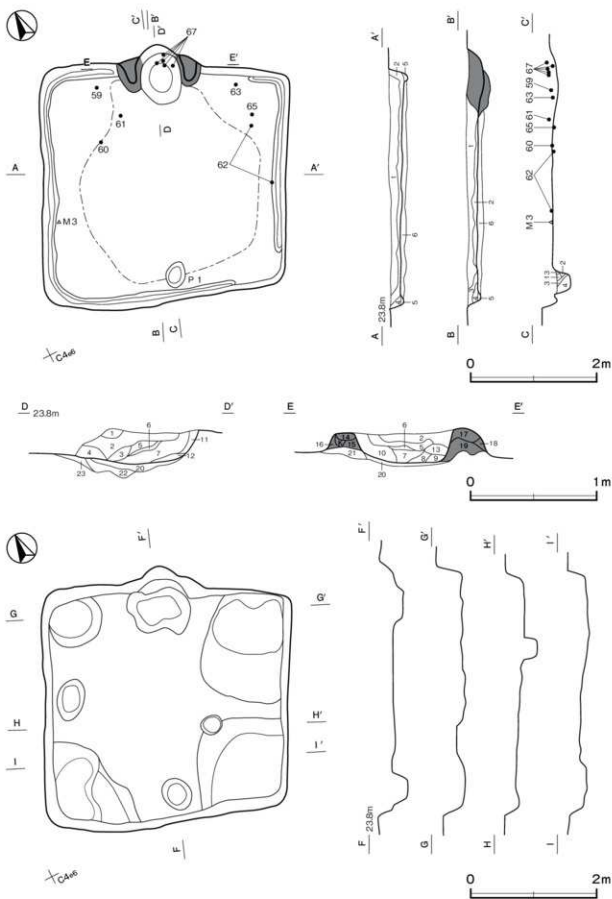
第58号竪穴建物跡(第37・38図 PL5・6)

位置 調査区東部のC4d6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

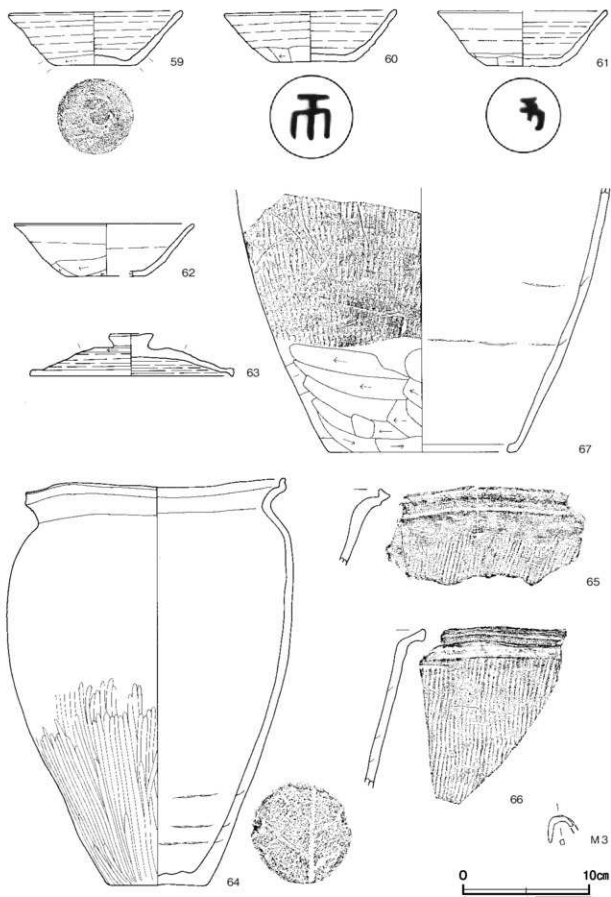
規模と形状 一辺3.90mほどの方形で、主軸方向はN-25°-Eである。壁は高さ18～24cmで、外傾している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁溝が南コーナーと北東壁の一部を除いて巡っている。貼床は、各コーナー部を掘り下げ、第6層を埋土して構築されている。

竪 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで97cmで、燃焼部幅は65cmである。左袖部は第21層の上に、右袖部は地山の上にロームブロックや粘土粒子を含む第14～19層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に11cm掘りくぼめ、焼土粒子や粘土粒子を含む第20・22・23層を埋土している。火床面は第20層上面で、赤変していない。煙道部は壁外に35cm掘り込まれ、火床部から外傾している。



第37图 第58号竖穴建物跡実測図



第38图 第58号竖穴建物跡出土遺物実測図

電土層解説

1 灰 褐色	ローム粒子微量	13 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2 暗 褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	14 黒 褐色	粘土粒子中量、ロームブロック少量
3 黒 褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量	15 暗 褐色	ロームブロック微量
4 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	16 黒 褐色	粘土粒子少量、ロームブロック微量
5 暗 赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量	17 にぶい褐色	粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化材微量
6 黒 褐色	焼土粒子少量	18 黒 褐色	ローム粒子少量
7 暗 赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量	19 黒 褐色	ローム粒子中量
8 暗 褐色	焼土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量	20 にぶい褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
9 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	21 暗 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
10 黒 褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量	22 黒 褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
11 暗 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	23 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
12 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量		

ピット P1は深さ22cmで、南西壁中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1 暗 褐色	ローム粒子少量	3 暗 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2 黒 褐色	ローム粒子少量	4 褐色	ロームブロック少量

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。第6層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒 褐色	ロームブロック中量	4 黒 褐色	ローム粒子中量
2 黒 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	5 暗 褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
3 黒 褐色	ロームブロック少量	6 褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片122点(坏13, 高台付坏1, 甕類108), 須恵器片177点(坏90, 高台付坏1, 蓋5, 高盤1, 甕類65, 瓶15), 土製品1点(不明), 金属製品2点(不明), 瓦1点(平瓦)が出土している。67は窟内から出土している。59～61は北コーナー部, 63・65は東コーナー部, 62は南東壁付近, M3は北西壁付近の床面からそれぞれ出土している。これらの遺物は、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。

第58号竪穴建物跡出土遺物観察表(第38図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
59	須恵器	坏	139	4.3	6.5	長石・石英・赤鉄	にぶい褐色	普通	体部下端回転へう割り 底部回転へう切り痕を残す一方肉の手持ちへう割り	床面	95% PL15 新治産
60	須恵器	坏	134	4.1	6.5	長石・石英・赤鉄・黒色粒子	灰黄	普通	体部下端手持ちへう割り 底部不定方向の手持ちへう割り 底部外面磨き「天」	床面	100% PL15 新治産
61	須恵器	坏	[134]	4.4	[5.7]	長石・石英・赤鉄・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部下端手持ちへう割り 底部不定方向のへう割り 底部外面磨き「天」	床面	30% 新治産
62	須恵器	坏	141	4.2	[6.3]	長石・石英・赤鉄	灰黄褐色	普通	体部下端手持ちへう割り 底部不定方向の手持ちへう割り	床面	50% PL15 新治産
63	須恵器	蓋	[162]	3.3	-	長石・石英・赤鉄・赤色粒子	にぶい褐色	普通	天井部回転へう割り	床面	70% PL15 新治産
64	土師器	甕	206	32.3	7.7	長石・石英・赤鉄	暗褐色	普通	体部下半へう割り 輪積痕 底部木葉痕	覆土中	70% PL16
65	須恵器	甕	-	(6.0)	-	長石・石英・赤鉄・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部外面割位の平行叩き	床面	5%
66	須恵器	甕	-	(12.7)	-	長石・石英・赤鉄	灰白	普通	体部外面割位の平行叩き 輪積痕	覆土中	5%
67	須恵器	瓶	-	(21.0)	[148]	長石・石英・赤鉄・赤色粒子	にぶい褐色	普通	体部外面割位の平行叩き 下位へう割り 輪積痕	窟内	20% 新治産

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M3	不明	(22)	2.0	0.4	(1.6)	鉄	尖った先端を曲げたコ字形 基部欠損	床面	PL18

第60号竪穴建物跡(第39・40図)

位置 調査区中央部のD3c3区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺2.66mほどの方形で、主軸方向はN-33°-Eである。壁は高さ18～21cmで、ほぼ直立し

ている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで88cmで、燃焼部幅は42cmである。袖部は第11・12層の上に粘土ブロックを含んだ第10層を積み上げて構築している。火床部は楕円形に17cm掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第11～14層を埋土している。火床面は第11・13・14層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に52cm掘り込まれ、火床部から外竈している。

竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック中量	9 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	10 黒褐色	粘土ブロック中量
4 黒褐色	焼土ブロック多量、炭化物少量	11 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	12 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量
6 黒褐色	粘土ブロック多量、焼土ブロック中量	13 黒褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子少量
7 黒褐色	粘土ブロック多量、炭化粒子微量	14 褐色	ロームブロック多量

ピット P1は深さ12cmで、南西壁中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

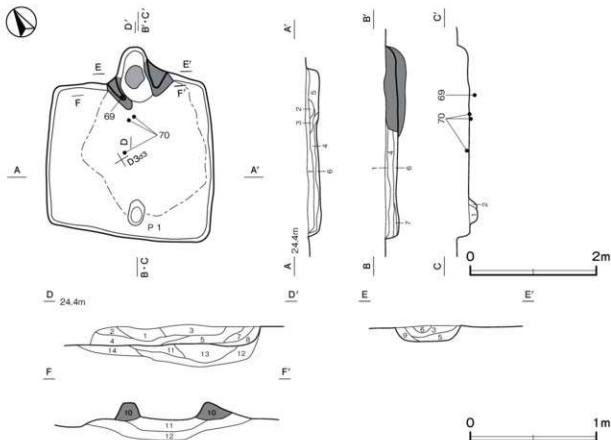
ピット土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量	2 黒褐色	ロームブロック多量
-------	-----------	-------	-----------

覆土 7層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

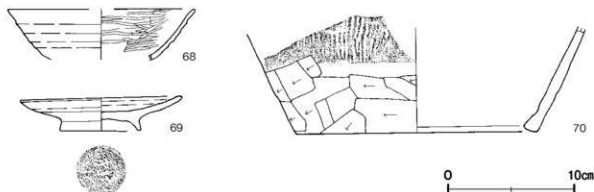
1 黒褐色	ロームブロック中量	5 暗褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック多量	6 極暗褐色	ロームブロック多量
3 黒褐色	ロームブロック多量	7 黒褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ローム粒子多量		



第39図 第60号竈穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 23 点 (坏 4, 高台付坏 1, 甕類 18), 須恵器片 52 点 (坏 21, 皿 1, 甕類 29, 瓶 1) が出土している。69 は甕の左袖部内, 70 は甕の前方部の床面からそれぞれ出土している。68 は覆土中から出土している。これらの遺物は, 埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀後葉に比定できる。



第 40 図 第 60 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 60 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 40 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
68	土師器	坏	[149]	(4.1)	-	長石・石英・赤色粒子	赤褐色	普通	体部内面へラ磨き 黒色処理	覆土中	20%
69	須恵器	甕	126	2.8	6.1	長石・石英・赤緑・黒色粒子	褐色	普通	底部回転へラ切り	甕左袖部内	60% PL15 新治産
70	須恵器	瓶	-	(8.4)	[192]	長石・石英・赤緑・赤色粒子	灰黄褐色	普通	体部外面縦位の平行磨き 下位へラ削り 甲孔式	床面	10% 新治産

第 62 号竪穴建物跡 (第 41・42 図 PL 6)

位置 調査区中央部の D 2a9 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 324 m, 短軸 250 m の長方形で, 主軸方向は N-42°-E である。壁高は 14 ~ 20 cm で, 外傾している。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。床は, 北東壁付近と南西壁付近を土坑状に掘り下げ, 第 3 ~ 17 層を埋土して構築されている。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 98 cm で, 燃焼部幅は 66 cm である。袖部は第 7・8 層を積み上げ, その内側に平瓦を据えて構築されている。火床部は楕円形に 10 cm 掘りくぼめ, 焼土ブロックを含む第 10・11 層を埋土している。火床面は地山と第 10 層上面で, 赤変していない。煙道部は壁外に 54 cm 掘り込まれ, 火床部から外傾している。

電土層解説

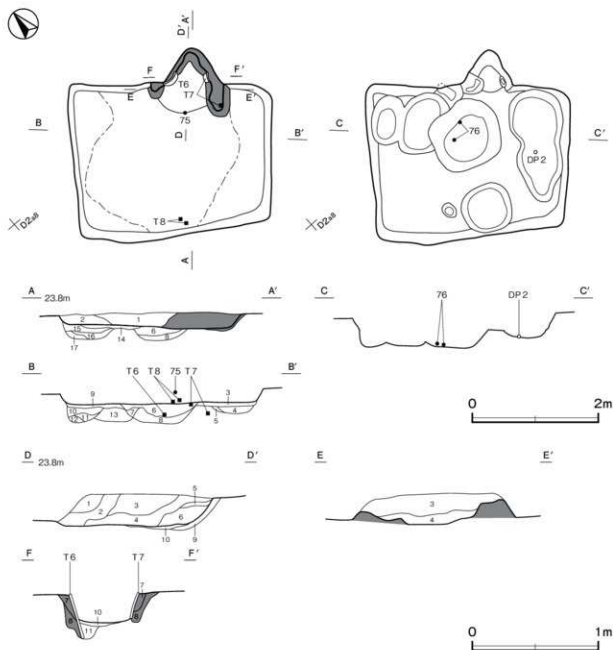
1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	7 黒褐色	焼土ブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック少量	8 暗褐色	ロームブロック多量, 焼土ブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子少量	9 暗褐色	ロームブロック多量, 焼土ブロック少量
4 黒褐色	粘土ブロック多量, ロームブロック・炭化粒子少量	10 黒褐色	焼土ブロック中量, 炭化粒子少量
5 黒褐色	焼土ブロック多量, 炭化粒子微量	11 にい黄褐色	焼土ブロック微量
6 黒褐色	焼土ブロック中量, 炭化粒子微量		

覆土 2 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。第 3 ~ 17 層は貼床の構築土である。

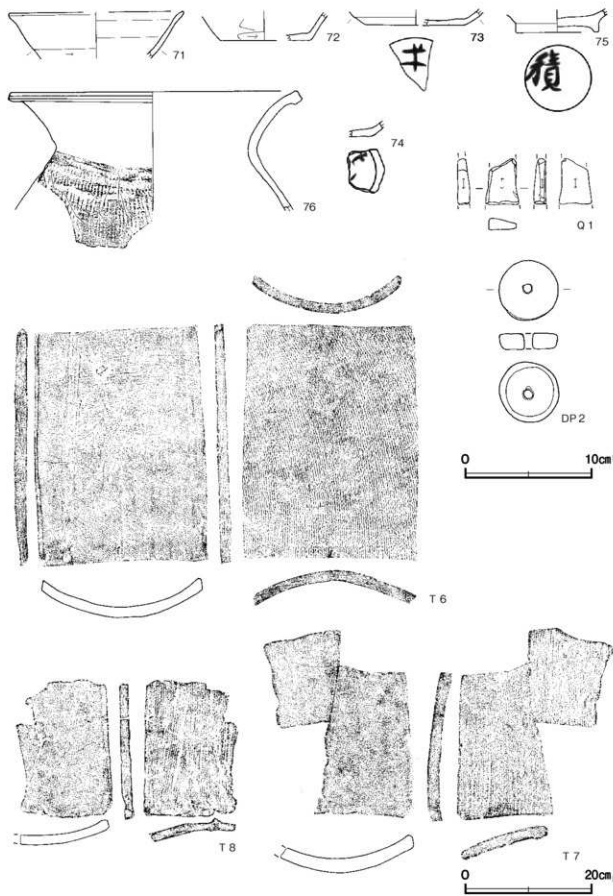
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック中量、粘土ブロック少量 | 12 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック極めて多量 |
| 7 褐色 | ロームブロック多量 | 15 黒褐色 | ローム粒子多量 |
| 8 黒褐色 | 粘土ブロック多量 | 16 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| | | 17 黒褐色 | 粘土ブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片 88 点（坏 14、高台付坏 2、甕類 72）、須恵器片 72 点（坏 20、甕類 52）、土製品 1 点（紡錘車）、石器 1 点（砥石）、瓦 4 点（平瓦）が出土している。T 8 は南西壁の床面から出土している。T 6・T 7 は竈袖部の補強材として縦位に据えられた状態で出土している。T 7 は竈右袖部の貼床の構築土から出土した破片と接合している。75 は竈内から出土している。71～74 は覆土中からそれぞれ出土しており、埋め戻し



第 41 図 第 62 号竈穴建物跡実測図



第42図 第62号竖穴建物跡出土遺物実測図

に伴って投棄されたものと考えられる。また76は中央部、DP2は南東壁付近の掘方の底面から出土している。
所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。

第62号竪穴建物跡出土遺物観察表（第42図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
71	須恵器	坏	136	36	-	長石・石英・赤母	にぶい黄橙	普通	体部下端回転へう割り	覆土中	5%
72	須恵器	坏	-	(23)	[72]	長石・石英	相灰	普通	体部下端手持ちへう割り 底部手持ちへう割り	覆土中	5%
73	須恵器	坏	-	(12)	[78]	長石・石英・赤母	にぶい黄橙	普通	体部下端回転へう割り 底部手持ちへう割り	覆土中	5% PL17
74	須恵器	坏	-	(12)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへう割り 底部手持ちへう割り	覆土中	5%
75	土師器	高台付坏	-	(18)	66	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい褐	普通	内面へう割き 黒色処理 底部回転未切り 底部外面黒塗「横」	竈内	20% PL17
76	須恵器	甕	228	(94)	-	長石・石英・赤母	にぶい黄橙	普通	体部外面縦格子叩き	胎体構築土	20% PL16 新山原

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP2	紡錘車	47	1.3	0.7	339	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい黄橙	削り後ナデ	胎体構築土	PL18

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	紙石	(37)	(27)	1.0	(113)	凝灰岩	紙面4面	覆土中	PL18

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T6	瓦	平瓦	25.7	6.3	37.1	長石・石英・赤母・赤色粒子	褐	普通	凸面縄叩き 凹面横骨筋 赤切り痕 頸縁部滑り面滑り	左袖部	PL19
T7	瓦	平瓦	(21.4)	4.8	(29.8)	長石・石英・赤母	にぶい黄橙	普通	凸面縄叩き 凹面横骨筋 頸縁部滑り 凹面滑り 赤切り痕とし	右袖部	PL20
T8	瓦	平瓦	(14.5)	3.9	(21.6)	長石・石英・赤母・赤色粒子	橙	普通	凸面縄叩き 凹面横骨筋 赤目痕	床面	PL20

第66号竪穴建物跡（第43・44図 PL7）

位置 調査区中央部のD33区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺3.15mほどの方形で、主軸方向はN-24°-Eである。壁は高さ5~10cmで、外傾している。

床 平坦な貼床で、竈の前方から中央部にかけて踏み固められている。床は地山を掘り下げ、ロームブロックを含む第3層を埋土して構築されている。壁溝が全周している。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで76cmで、燃焼部幅は54cmである。両袖部は遺存していない。火床部は楕円形に床面から6cm掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第6・7層を埋土している。火床面は第6・7層上面で、赤変していない。煙道部は壁外に38cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

埋土層解説

1	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	5	暗褐色	ロームブロック多量
2	暗褐色	炭化粒子少量	6	黒褐色	焼土ブロック少量
3	赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量	7	黒褐色	ロームブロック中量
4	黒褐色	ロームブロック少量			

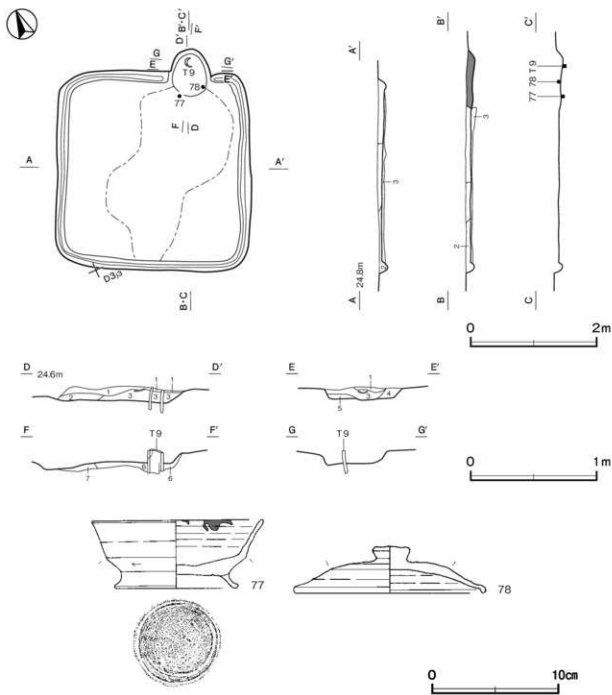
覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第3層は貼床の構築土である。

土層解説

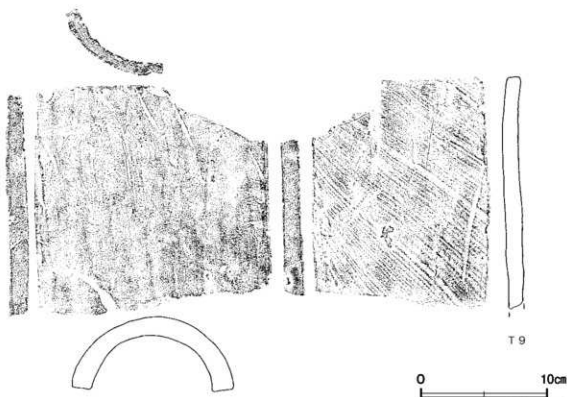
1	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	3	褐色	ロームブロック中量
2	黒褐色	ロームブロック少量			

遺物出土状況 土師器片8点(甕類), 須恵器片8点(坏2, 高台付坏1, 蓋1, 甕4類), 瓦1点(丸瓦)が出土している。77は竈前の床面から逆位の状態で出土している。T9は火床部奥に縦位に埋められた状態で出土しており, 支脚として使用されたと考ええる。78は竈内から正位の状態で出土している。竈内遺物を除いて, 埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第43図 第66号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第44図 第66号竪穴建物跡出土遺物実測図

第66号竪穴建物跡出土遺物観察表(第43・44図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
77	須恵器	高台付坏	13.5	5.5	9.4	長石・石英・ 長石・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘウ割り 底部回転ヘウ割り 油漉	床面	90% PL15 新治産
78	須恵器	蓋	15.2	3.7	-	長石・石英・ 長石・雲母	にぶい黄灰	不具	天井部回転ヘウ割り	竈内	100% PL15 新治産

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T 9	瓦	丸瓦	(129)	6.0	(185)	長石・石英・ 長石・雲母	黄灰	普通	凸面縦位の割り 凹面布目肌 糸切り肌	火床面	PL20 支那転用

第67号竪穴建物跡(第45～47図 PL 7)

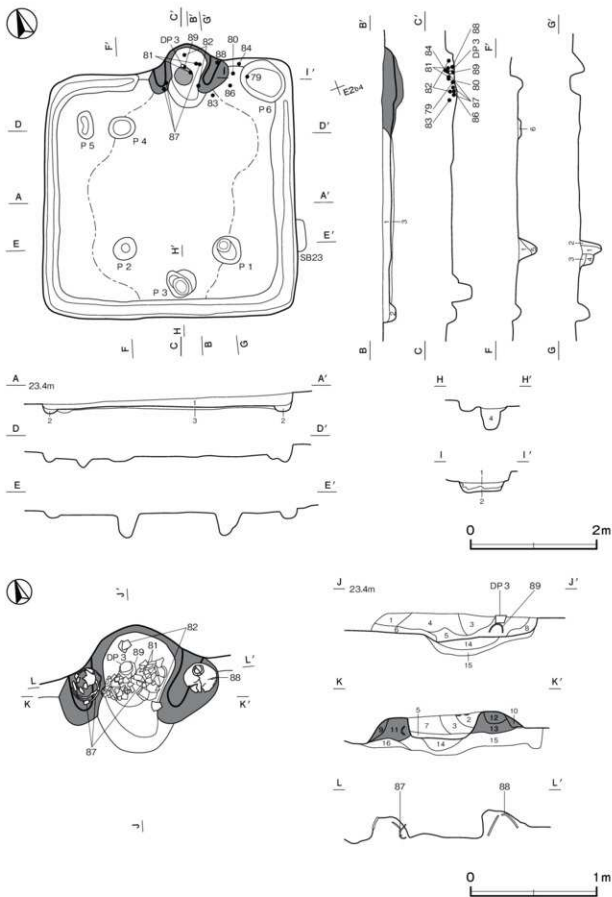
位置 調査区南西部のE 2b3区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第23号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

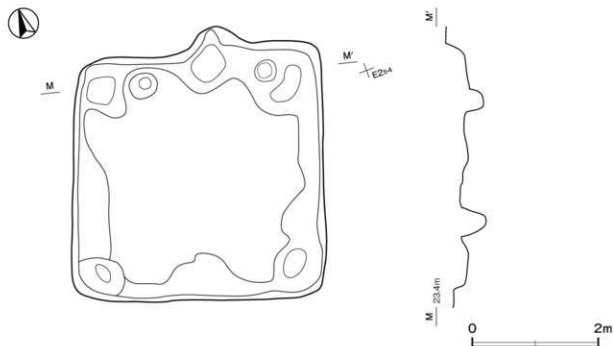
規模と形状 一辺4.08mほどの方形で、主軸方向はN-21°-Eである。壁は高さ5～18cmで、外傾している。

床 平坦な貼床で、竈の前方から中央部にかけて踏み固められている。床は地山を掘り下げ、ロームブロックを含む第3層を埋土して構築されている。壁溝が全周している。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで102cmで、燃焼部幅は44cmである。袖部はロームブロックや焼土粒子を含む第15・16層の上に、両袖部それぞれに逆位で土師器の甕を据えて補強している。さらに、その周囲に第9～13層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に14cm掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子を含む第14・15層を埋土している。火床面は第14層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に34cm掘り込まれ、火床部から外傾している。



第45図 第67号竪穴建物跡実測図(1)



第46図 第67号竪穴建物跡実測図(2)

竪穴層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 12 黒褐色 | 粘土ブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | 粘土ブロック少量、焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 | 14 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 黒褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 16 褐色 | ロームブロック中量 |

ピット 6か所。P1・P2は深さ36cmで、主柱穴である。P3は深さ32cmで、南西壁中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4～P6は深さ6～18cmと浅く、北コーナー部と東コーナー部に位置しているが、性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |

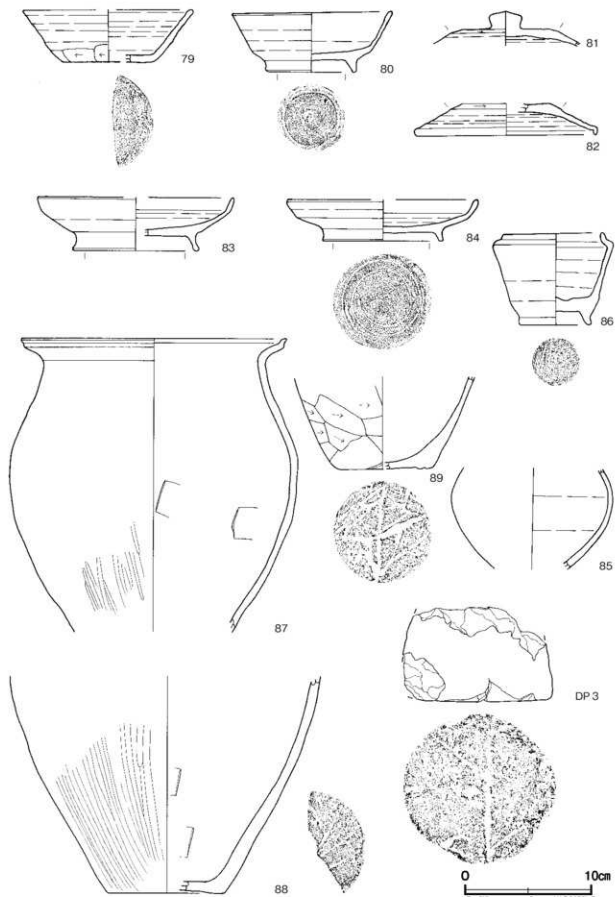
覆土 2層に分層できる。覆土は薄く堆積状況は不明である。第2層は壁溝の覆土、第3層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片 286点(坏8、甕類278)、須恵器片 140点(坏100、高台付坏4、蓋11、盤2、長頸瓶1、短頸壺2、甕類20)、土製品1点(支脚)が出土している。86は東コーナーの床面から横位の状態で出土している。竈内の火床面から89の甕が逆位の状態で、その上にDP3が据えられ支脚として利用されている。87・88は竈袖部の補強材として逆位の状態で据えられている。79はP6の上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第47図 第67号竪穴建物跡出土遺物実測図

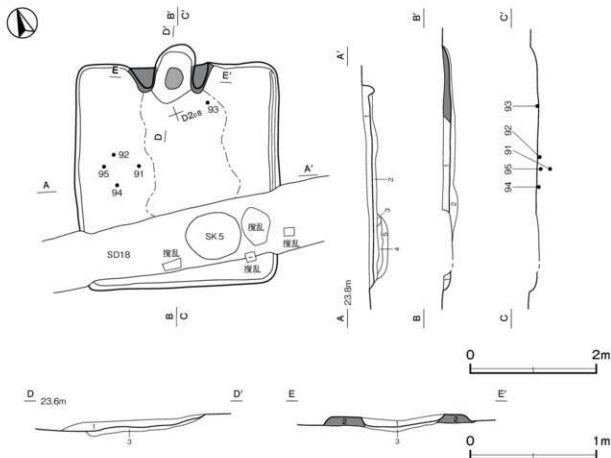
第 67 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 47 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
79	須恵器	坏	[132]	4.1	[7D]	長石・石英・赤母	明褐色	普通	体部下端手持へう張り 底部手持へう張り 残ナシ	P 6 覆土上層	20%
80	須恵器	高台付坏	127	4.9	6.7	長石・石英・赤母	灰白	普通	底部回転へう張り	覆土中層	90% PL15 新治産
81	須恵器	蓋	-	[28]	-	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい黄褐色	不具	天井部回転へう張り	壺内	50% 新治産
82	須恵器	蓋	[144]	[25]	-	長石・石英・赤母・赤色粒子	黄灰	普通	天井部回転へう張り	壺内	50% 新治産
83	須恵器	壺	15.5	4.2	[99]	長石・石英・赤母	褐灰	普通	底部回転へう張り	覆土中層	40% 新治産
84	須恵器	壺	[150]	3.4	9.2	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい黄褐色	不具	底部回転へう張り	覆土中層	40% 新治産
85	須恵器	長頸瓶	-	[80]	-	長石・石英・赤母・赤色粒子	灰白	良好	外面ロクロナテ 肩部自然軸	覆土中	10% PL17
86	須恵器	短頸壺	7.9	7.3	5.6	長石・石英・赤母	褐灰	普通	底部回転率切り	床面	100% PL16 新治産
87	土師器	甕	[210]	[23.4]	-	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体部下半へう巻き 内面へう当て痕	壺左袖	20%
88	土師器	甕	-	[17.4]	[9.3]	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下半へう巻き 内面へう当て痕 底部木葉痕	壺右袖	20% 新治産
89	土師器	甕	-	[7.4]	7.9	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下半へう張り 底部木葉痕	火床面	25% 新治産

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 3	支脚	(7.6)	10.5	11.9	[865.5]	長石・石英・赤母	にぶい褐	底部木葉痕	火床面	

第 68 号竪穴建物跡 (第 48・49 図)

位置 調査区中央部の D 2 c8 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 48 図 第 68 号竪穴建物跡実測図

重複関係 第5号土坑と第18号溝に南側を掘り込まれている。

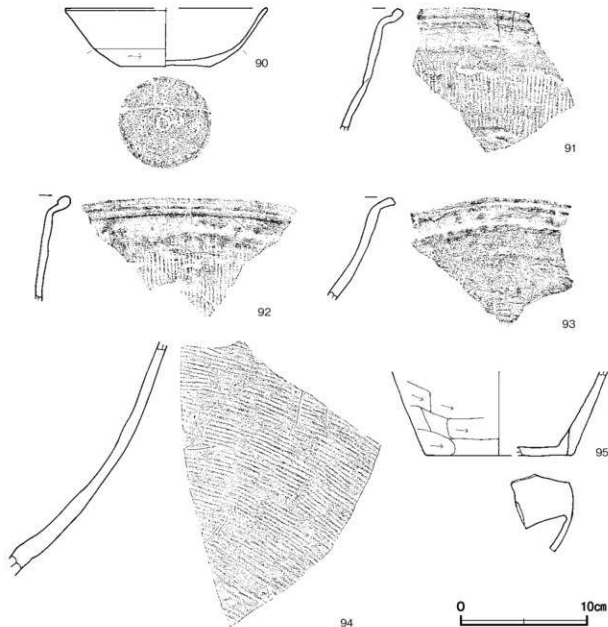
規模と形状 長軸3.60m、短軸3.25mの長方形で、主軸方向はN-21°-Eである。壁は高さ8~12cmで、外傾している。

床 平坦な貼床で、竈の前方から中央部にかけて踏み固められている。床は地山を8cm程掘り込み、粘土ブロック含む第2層を埋土して利用している。壁溝が南東壁に巡っている。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで88cmで、燃燒部幅は58cmである。両袖部は地山の上に粘土ブロックを含む第2層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に4cm掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第3層を埋土している。火床面は第3層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に34cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

甍土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量
 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量



第49図 第68号竈穴建物跡出土遺物実測図

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第2～5層は、貼床の構築土である。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量 4 暗 褐色 粘土ブロック多量
 2 暗 褐色 黄褐色粘土ブロック多量 5 黒 褐色 粘土ブロック中量
 3 暗 褐色 粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片 58 点 (坏 12, 椀 1, 甕類 45), 須恵器片 41 点 (坏 21, 蓋 1, 鉢 3, 甕類 14, 甌 2) が出土している。91・92・94・95 は西南壁付近, 93 は竈右袖部付近の床面から, 91 は貼床構築土からそれぞれ出土している。遺物は破片が多く、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。

第 68 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 49 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
90	土師器	椀	〔160〕	4.7	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転へう閉り 転へく切り 二次焼成	内面黒色処理 底面回転 内面厚紙	覆土中	30%
91	須恵器	鉢	-	(98)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面縦位の平行叩き	輪轆痕	胎体構築土	10% 新治産
92	須恵器	鉢	-	(83)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面縦位の平行叩き		床面	5% PL17
93	須恵器	鉢	-	(81)	-	長石・石英・雲母	にふい黄褐色	普通	体部外面縦位の平行叩き		床面	5%
94	須恵器	甕	-	(186)	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	体部外面横位の平行叩き		床面	5%
95	須恵器	甌	-	(67)	〔118〕	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下位へう閉り	底部5孔式	床面	10% 新治産

第 69 号竪穴建物跡 (第 50 図 PL 8)

位置 調査区中央部の D 3g2 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺 3.12 m ほどの方形で、主軸方向は N-32°-E である。壁は高さ 6～8 cm である。

床 平坦な貼床で、竈の前方から P 1 にかけて踏み固められている。床は地山を掘り下げ、ロームブロックを含む第 1 層を埋土して構築されている。壁溝が全周している。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 80 cm で、燃焼部幅は 40 cm である。両袖部は殆ど残っていない。火床部は楕円形に 19 cm 掘りくぼめ、ロームブロック・焼土ブロックや炭化粒子を含む第 1・2 層を埋土している。火床面は第 1・2 層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に 34 cm 掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 2 黒 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量

ピット 3 か所。P 1 は深さ 26 cm で、南西壁寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 2・P 3 は深さ 15・22 cm で、東コーナー部と北コーナー部に位置することから補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量

覆土 覆土の堆積状況は不明である。第 1 層は壁溝、第 2 層は貼床の構築土である。

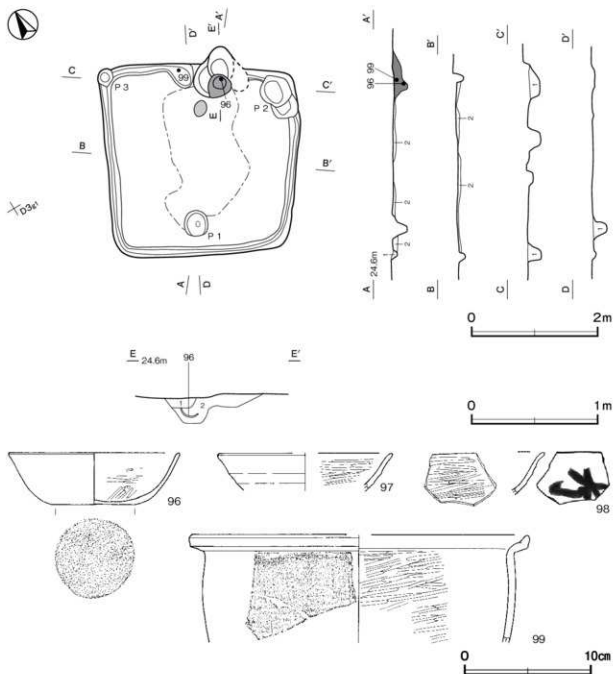
土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量 2 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片 70 点 (坏 22, 高台付坏 2, 鉢 1, 甕類 45), 須恵器片 4 点 (坏 1, 蓋 1, 甕類 2)

が出土している。99は北東壁際の壁溝から出土している。96は竈掘方から出土している。遺物は破片が多く、埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第50図 第69号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第69号竪穴建物跡出土遺物観察表(第50図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
96	土師器	坏	13.5	4.2	6.4	長石・石英・赤緑・赤色粒子	橙	普通	内面へう磨き 黒色処理 底部回転へう磨り	竈掘方	100% PL15
97	土師器	坏	[13.8]	(3.0)	-	長石・石英・赤緑	にぶい黄緑	普通	体部内面へう磨き 黒色処理	覆土中	10%
98	土師器	坏	-	(3.4)	-	長石・石英・赤緑	明褐	普通	体部内面へう磨き 黒色処理 外面黒書「□」	覆土中	5% PL17
99	土師器	鉢	[27.0]	(8.6)	-	長石・石英・赤緑	にぶい黄緑	普通	体部外面格子目叩き 内面へう磨き 黒色処理	壁溝	5%

第70号竪穴建物跡 (第51・52図 PL 8)

位置 調査区南部のD29区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺3.56mほどの方形で、主軸方向はN-18°-Eである。壁は高さ2~4cmである。

床 平坦な貼床で、竈の前方から南壁にかけて踏み固められている。床は地山を掘り下げ、ロームブロックを含む第1層を埋土して構築されている。壁溝が東壁から南壁、西壁の一部に巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cmで、燃焼部幅は80cmである。両袖部は地山を利用して構築されている。火床部は楕円形に4cm掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第3~5層を埋土している。火床面は第3~5層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。支脚は土器を逆位に重ね転用している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 3 黒色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック少量 | | |

ピット P1は深さ38cmで、南壁に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

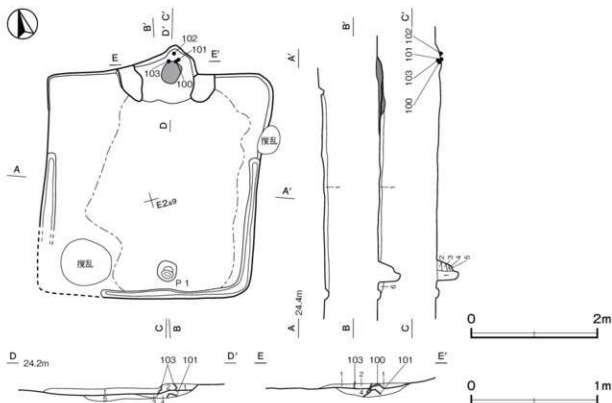
ピット土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック多量 | 5 黒褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック中量 | | |

覆土 覆土の堆積状況は不明である。第1層は貼床の構築土である。

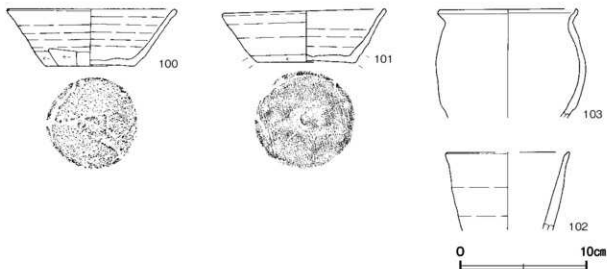
土層解説

- | | |
|------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック多量 |
|------|-----------|



第51図 第70号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 18 点 (杯 1, 小形甕 1, 甕類 16), 須恵器片 11 点 (杯 5, 高台付杯 1, 蓋 1, コップ形土器 1, 小型甕 1, 甕類 2) が出土している。102 は煙道部から出土している。その南側には 101 を逆位に据え、その上に 100 を逆位に重ねている。その西側には 103 を逆位に伏せ、竈の支脚として利用している。
所見 時期は、出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。



第 52 図 第 70 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 70 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 52 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
100	須恵器	杯	133	4.6	7.2	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	灰黄緑	不良	底部下縁手持ちヘラ削り 底部一方角の手持ちヘラ削り 二次彫成	火床面	90% PL15 新治産
101	須恵器	杯	129	4.3	7.8	長石・石英・ 雲母	黄灰	普通	底部下縁手持ちヘラ削り 回転ヘラ削り底を残す一方角の手持ちヘラ削り	火床面	80% 新治産
102	須恵器	コップ形土器	(9.6)	(6.2)	-	長石・石英・ 雲母	灰黄緑	普通	ロクロナデ	煙道部	5%
103	土師器	小形甕	11.0	(8.7)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	外部外面摩耗	火床面	50% PL16

第 71 号竪穴建物跡 (第 53 ~ 55 図)

位置 調査区南部の E 3c4 区、標高 25 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺 320 m ほどの方形で、主軸方向は N - 25° - E である。壁は高さ 16 ~ 20 cm で、外傾している。

床 平坦な貼床で、竈の前方から P 3・P 4 にかけて踏み固められている。床は地山を 12 cm 掘り下げ、ロームブロックを含む第 13 ~ 15 層を埋土して構築されている。壁溝が北東壁の一部を除いて巡っている。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 116 cm で、燃焼部幅は 46 cm である。両袖部は地山の上に粘土ブロックを含む第 7 ~ 9 層を積み上げ構築されている。火床部は楕円形に 6 cm 掘りくぼめ、焼土粒子や炭化粒子を含む第 6 層を埋土している。火床面は第 6 層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に 52 cm 掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量	5	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
2	黒褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	6	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
3	黒褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック少量	7	黒褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
4	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量	8	黒褐色	粘土ブロック多量、焼土ブロック少量
			9	黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量

ビット 4か所。P1・P2は深さ10～12cmで、東コーナー部と北コーナー部に位置することから主柱穴である。P3は深さ10cmで、南西壁に位置していることから、出入り口施設に伴うビットと考えられる。P4は深さ6cmで、補助柱穴と考えられる。

ビット土層解説 (各ビット共通)

1 黒褐色 ローム粒子少量

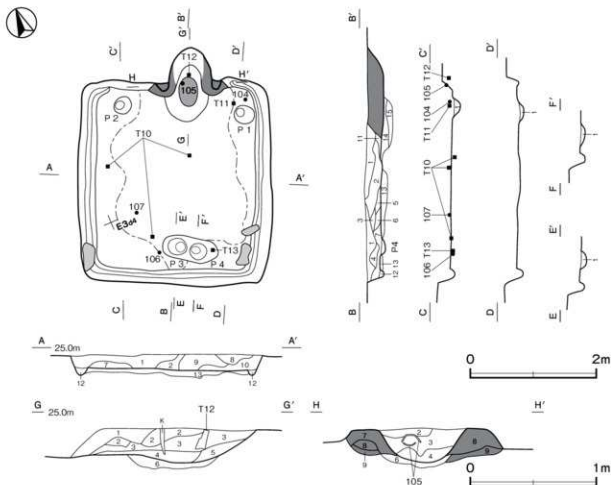
覆土 12層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。第13～15層は、貼床の構築土である。南コーナー部と西コーナー部の床直から焼土塊が出土している。

土層解説

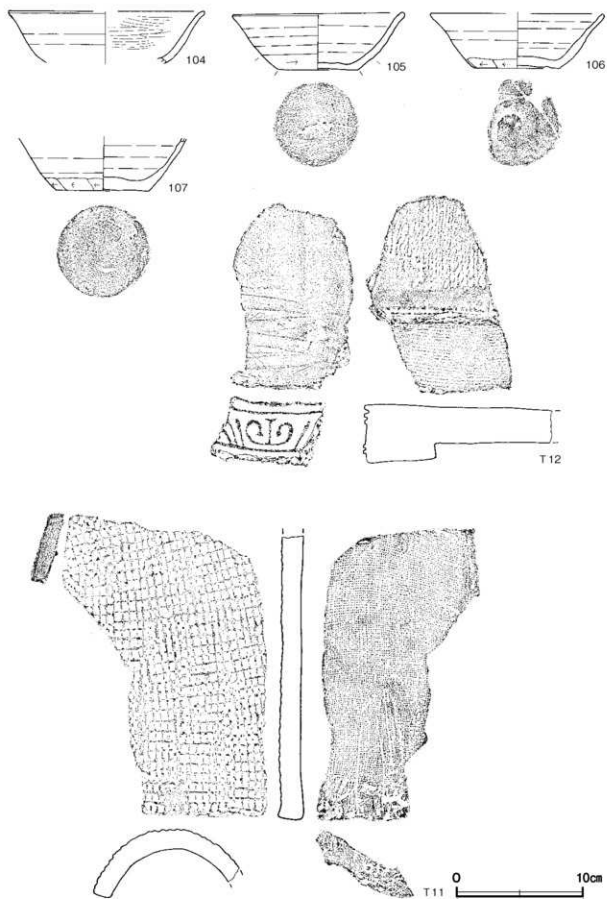
- | | | | |
|-------|------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量 | 10 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 11 黒褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック多量 | 12 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 13 褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子微量 | 14 褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量 | 15 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片92点(坏18, 蓋1, 甕類73), 須恵器片33点(坏19, 蓋1, 甕類13), 金属製品1点(不明), 瓦7点(軒丸瓦1, 軒平瓦1, 丸瓦1, 平瓦4)が出土している。104・T11は東コーナー部, 106・T13は南西壁付近, 107は北西壁付近の床面からそれぞれ出土している。T10は中央部床面から出土した破片が接合している。105・T12は室内から出土している。遺物は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

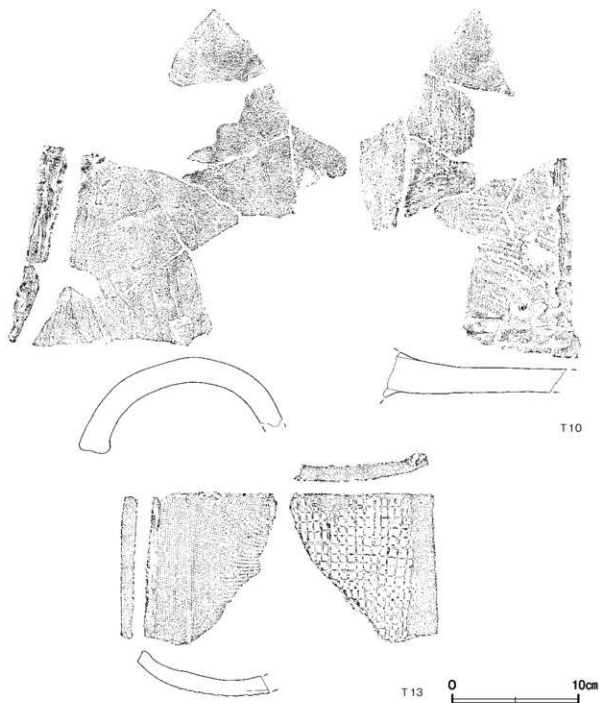
所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第53図 第71号堅穴建物跡実測図



第54図 第71号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第55図 第71号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第71号竪穴建物跡出土遺物観察表(第54・55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
104	土師器	杯	[156]	(4.2)	-	長石・石英・ 雲母	赤褐色	普通	体部内面ヘラ磨き 原色処理	床面	20%
105	須恵器	杯	13.5	4.6	6.2	長石・石英・ 雲母	灰黄褐色	不貞	体部下端回転ヘラ削り 底部一定方向の手持ち ヘラ削り ヘラ記号「x」 口縁部並み削き	敷内	90% PL15 新治産
106	須恵器	杯	[138]	4.4	6.7	長石・石英・ 雲母	明赤褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り 根 本側同一方向の手持ちヘラ削り 二次焼成	床面	60% 新治産
107	須恵器	杯	-	4.3	7.4	長石・石英・ 雲母	灰黄褐色	不貞	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り ヘラ記号「x」 二次焼成	床面	30% 新治産

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T10	瓦	軒丸瓦 (160)	7.7	(27.0)		灰石・石英・ 空母	灰褐色	普通	凸面縦位の傾り 凹面布目肌 糸切り肌 軒部	床面	PL.20
T11	瓦	丸瓦 (112)	5.4	(23.2)		灰石・石英・ 赤土・赤色粒子	黄灰色	普通	凸面正格子母き 凹面布目肌 側面削り	床面	PL.21
T12	瓦	軒平瓦 (115)	4.6	(15.1)		灰石・石英・ 空母・赤色粒子	明褐色	普通	均整唐草文 段額で凸面縦母き 凹面横骨直	竈内	PL.21
T13	瓦	平瓦 (108)	3.8	(12.0)		灰石・石英・ 赤土	浅黄褐色	普通	凸面正格子母き 側縁削り広縁 凹面横骨直 一部糸切り肌 側面削り	床面	PL.21

第72号竪穴建物跡 (第56・57図)

位置 調査区南部のE2c8区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 西側が削平されているため、南北軸は2.88mで、東西軸は1.80mしか確認できなかった。形状から主軸方向はN-20°-Eの方形又は長方形と推定できる。壁は高さ5~6cmである。

床 耕作により削平されたため、床の硬化面は確認できなかった。

竈 北壁に付設されている。耕作により削平され、掘方のみである。掘方は長径66cm、短径26cmの楕円形で6cm掘りくぼめられている。少量の焼土を含んでいる。

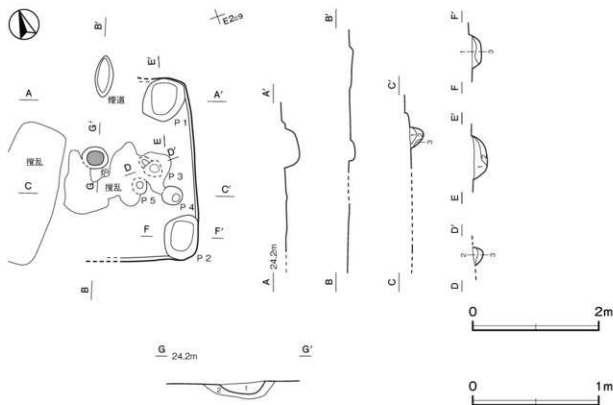
炉 中央部に付設されている。長径42cm、短径34cmの楕円形で、床面を深さ12cm程掘りくぼめた地床炉である。炉床面は加熱を受けて赤変硬化している。第2層は掘方への埋土である。

炉土層解説

1 黒色 焼土ブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

ビット 5か所。P1~P5は深さ18~30cmで、P1は北東コーナー部、P2は南東コーナー部、P3~P5は中央部東側に位置しているが、性格は不明である。



第56図 第72号竪穴建物跡実測図

ビッド土層解説 (各ビッド共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
2 黒褐色 ロームブロック少量

- 3 黒褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片 29 点 (坏 3, 甕類 26), 須恵器片 10 点 (坏 4, 甕類 6) が出土している。108 は覆土中から, 109 は P 3 の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。



第 57 図 第 72 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 72 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 57 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
108	須恵器	坏	[136]	(41)	-	長石・石英・ 赤土	灰黄褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	5%
109	土師器	甕	[181]	(106)	-	長石・石英・ 赤土・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラナデ	P 3 覆土中	5%

第 73 号竪穴建物跡 (第 58・59 図 PL 8・9)

位置 調査区南部の E 3e1 区, 標高 25 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.01 m, 短軸 2.08 m の長方形で, 主軸方向は N - 14° - E である。壁は高さ 15 ~ 20 cm で, 外傾している。

床 平坦な貼床で, 竈の前方から南壁にかけて踏み固められている。床は地山を 6 cm 程掘り下げ, ロームブロックを含む第 5 層を埋土して構築されている。壁溝が全周している。

竈 北壁の東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 98 cm で, 燃焼部幅は 34 cm である。両袖部は地山を掘り込み, 瓦を補強材に立て第 8・9 層を埋土し, 焼土ブロックや粘土ブロックを含む第 3 ~ 7 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 7 cm 掘りくぼめ, 焼土ブロックを含む第 10・11 層を埋土している。火床面は第 10・11 層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 52 cm 掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。

覆土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 8 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 9 暗褐色 | 焼土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 10 黒褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 11 暗褐色 | 焼土ブロック少量 |
| 6 暗褐色 | 粘土ブロック多量, ロームブロック・焼土粒子少量 | | |

ビッド 3 か所。P 1・P 2 は深さ 14 cm・26 cm で, 東壁・西壁付近に位置していることから, 主柱穴である。

P 3 は深さ 8 cm で, 中央部に位置しているが性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
2 暗褐色 ロームブロック少量

- 3 暗褐色 ロームブロック中量

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第5層は貼床の構築土である。

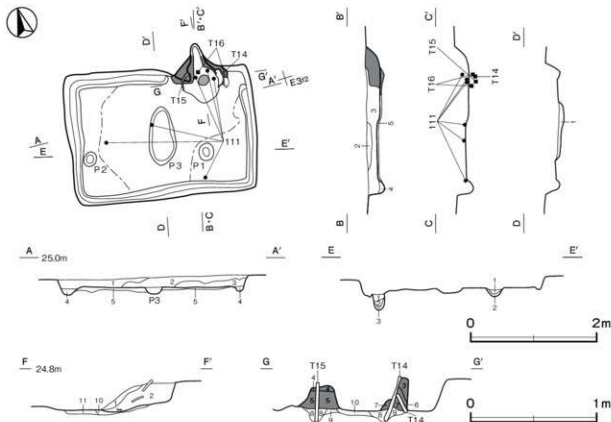
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ローム粒子少量
3 暗褐色 ローム粒子微量

- 4 黒褐色 ローム粒子少量
5 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片 38点 (坏2, 甕類36), 須恵器片 7点 (坏5, 甕類2), 土製品 1点 (支脚), 瓦 6点 (平瓦) が出土している。111は竈内と床面から出土した破片が接合している。T14とT16は竈右袖部, T15は竈左袖部の補強材に利用されている。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉に比定できる。



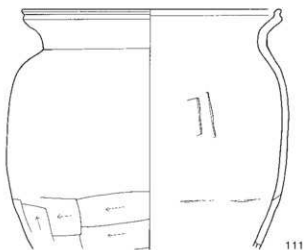
第58図 第73号竪穴建物跡実測図

第73号跡出土遺物観察表 (第59図)

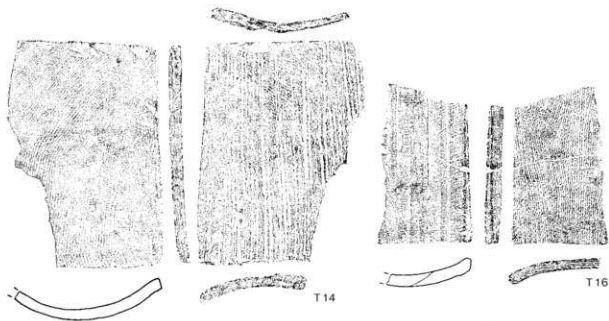
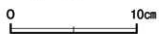
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
110	須恵器	坏	[122]	(4.0)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端回転へう割り	覆土中	5%
111	土師器	甕	20.5	(19.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下へう割り 内面へう当て痕	床面	50% PL.16
番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	支脚・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T14	瓦	平瓦	(235)	6.1	35.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	凸面縁叩き(長縄) 凹面横骨痕 凹面糸切り痕 端面削り	竈右袖	PL.21
T15	瓦	平瓦	25.1	5.4	(28.4)	長石・石英・雲母	黒褐	普通	凸面格子叩き 凹面横骨痕 春日痕 凹面糸切り痕 端面削り	竈左袖	PL.22
T16	瓦	平瓦	(14.1)	5.7	(25.5)	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗灰黄	普通	凸面縁叩き 一部裏面にした叩き 縦線削り 凹面横骨痕粘土合わせ目を境に糸切り痕が途切れる。端面削り	竈右袖	PL.22



110

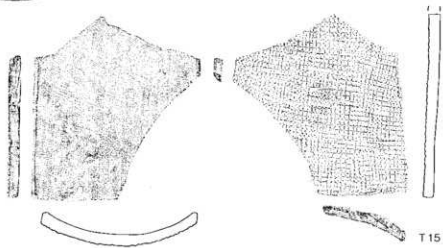


111



T14

T16



T15

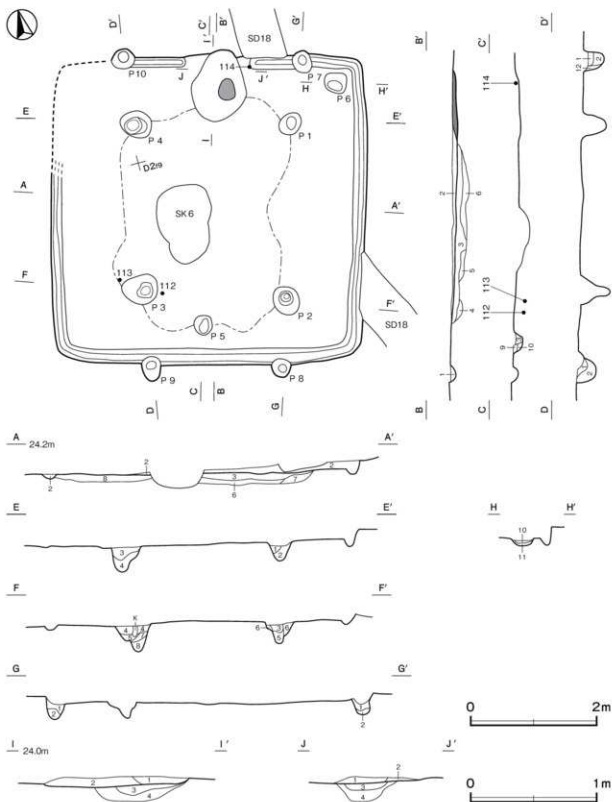


第59图 第73号竖穴建物跡出土遺物実測図

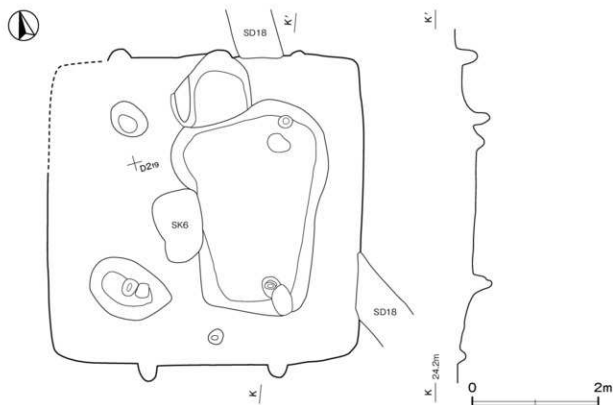
第75号竪穴建物跡 (第60～62図)

位置 調査区中央部のD 2号区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号土坑、第18号溝に掘り込まれている。



第60図 第75号竪穴建物跡実測図(1)



第61図 第75号竪穴建物跡実測図(2)

規模と形状 一辺5.00mほどの方で、主軸方向はN-15'-Eである。壁は高さ10~16cmで、外傾している。
床 平坦な貼床で、竈の前方から中央部にかけて踏み固められている。床は地山を22cm程掘り下げ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第3~8層を埋土して構築されている。壁溝が北西コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで116cmで、燃焼部幅は90cmである。両袖部は残っていない。火床部は楕円形に15cm掘りくぼめ、焼土ブロック・粘土ブロックや炭化粒子を含んだ第3・4層を埋土している。火床面は第3・4層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に15cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック多量 | 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量 | 4 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子少量 |

ピット 10か所。P1~P4は深さ28~44cmで規模と位置から主柱穴である。P5は深さ14cmで南壁に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6~P10は深さ9~32cmで北壁と南壁に位置していることから補助柱穴とみられる。

ピット土層解説(各ピット共通)

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 7 黒褐色 灰黄色粘土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 8 暗褐色 灰黄色粘土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 黄褐色粘土ブロック少量 | 9 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色 黄褐色粘土ブロック中量 | 10 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 灰黄色粘土ブロック少量 | 11 黒褐色 ロームブロック多量 |
| 6 暗褐色 黄褐色粘土ブロック少量 | 12 黒褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック少量 |

覆土 2層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第3~8層は、貼床の構築土である。

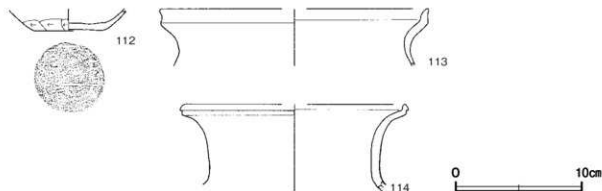
土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | 5 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量 | 7 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片5点(甕類)、須恵器片3点(坏2、甕1)、瓦5点(平瓦3、丸瓦2)が出土している。

114は北壁際の床面から出土している。112・113は南西コーナー部の貼床の構築土から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第62図 第75号竪穴建物跡出土遺物実測図

第75号竪穴建物跡出土遺物観察表(第62図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
112	須恵器	坏	-	(1.8)	5.5	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部下縁手持ちヘラ調り 底部一定方向の手持ちヘラ調り	貼床構築土	20% 新治産
113	土師器	甕 [214]	(4.6)	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤陶	普通	内面ヘラナデ	貼床構築土	5%
114	須恵器	甕 [127]	(7.0)	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄陶	普通	内面ヘラナデ	床面	5%

第76号竪穴建物跡(第63図)

位置 調査区南部のE2e8区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 西側が削平を受けているため、南北軸は2.49mで、東西軸は2.46mしか確認できなかった。形状から主軸方向はN-42°-Eの方形又は長方形と推定できる。壁は確認できなかった。

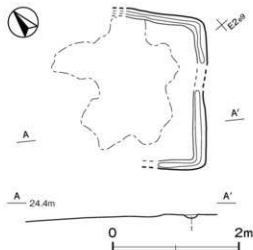
床 平坦で、中央部が踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。壁溝が北壁中央部から南東コーナー部にかけて巡っている。

覆土 覆土がなく、堆積状況は不明である。第1層は壁溝の覆土である。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック微量

所見 出土土器が無いため時期判断は困難であるが、遺構の規模および形状から9世紀代と考えられる。



第63図 第76号竪穴建物跡実測図

第78号竪穴建物跡（第64・65図）

位置 調査区中央部のE3e3区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸322m、短軸264mの長方形で、主軸方向はN-15°-Eである。壁は高さ10～12cmで、外傾している。

床 平坦な貼床で、竈の前方から中央部にかけて踏み固められている。床は地山を6～12cm程掘り下げ、ロームブロックを含んだ第6層を埋土している。壁溝が全周している。

竈 北西コーナー部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで78cmで、燃焼部幅は44cmである。左袖部は地山、右袖部は第7層の上に粘土ブロックを含む第3層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に22cm掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第4～8層を埋土している。火床面は第4～6層上面で、赤変していない。煙道部は壁外に12cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |

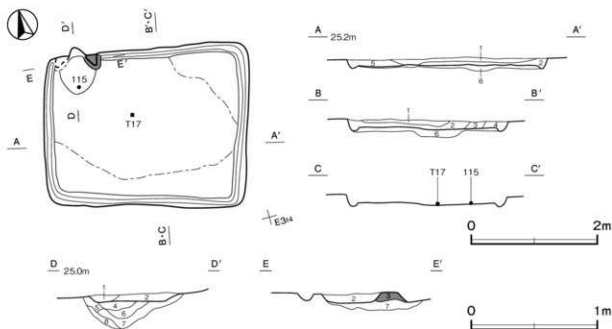
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第6層は、貼床の構築土である。

土層解説

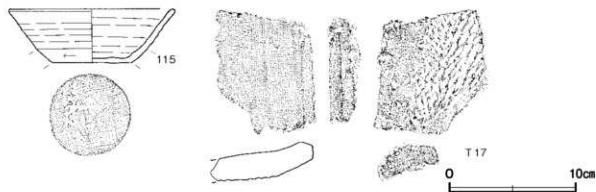
- | | | | |
|--------|---------------------|-------|-----------|
| 1 極暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック中量 | 6 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片5点（坏1、甕類4）、須恵器片4点（坏2、甕類2）、瓦5点（平瓦4、丸瓦1）が出土している。T17は中央部の床面、I15は竈の火床面に逆位に伏せた状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第64図 第78号竪穴建物跡実測図



第65図 第78号竪穴建物跡出土遺物実測図

第78号竪穴建物跡出土遺物観察表(第65図)

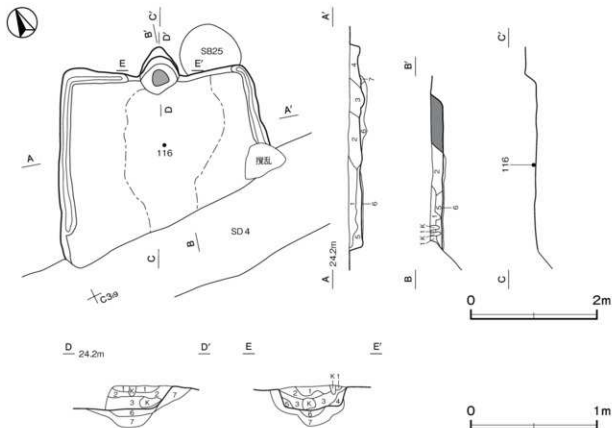
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
115	須恵器	杯	130	4.3	6.4	長石・石英・炭屑	灰黄緑	普通	体部下縁回転へう削り 底部回転へう切り痕を残す一方的の手持ちへう削り	火床面	100% PL15 粘土質

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T17	瓦	平瓦	8.3	3.1	10.0	長石・石英	にぶい橙	普通	凸面縁切込み 異縁幅式の削り 凹面横骨削削り 凹面端削削り	床面	

第81号竪穴建物跡(第66・67図)

位置 調査区中央部のC3h9区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第25号掘立柱建物跡を掘り込み、第4号溝に掘り込まれている。



第66図 第81号竪穴建物跡実測図

規模と形状 南部が第4号溝に掘り込まれているため、東西軸は3.32mで、南北軸は3.14mしか確認できなかった。主軸方向はN-26°-Eで、方形又は長方形と推定できる。壁は高さ12~24cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、竈前方から南に向かって踏み固められている。床は地山を12cm程掘り下げ、ロームブロックを含んだ第6・7層を埋土して構築されている。壁溝が東壁と北壁から西壁にかけて巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで71cmで、燃焼部幅は56cmである。袖部は確認できなかった。火床部は楕円形に14cm掘りくぼめ、ロームブロック・焼土ブロックや炭化粒子を含む第6・7層を埋土している。火床面は第6層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

埋土層解説

- | | |
|---------------------------------|-------------------------------|
| 1 褐 色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 | 6 黒 色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| | 7 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量 |

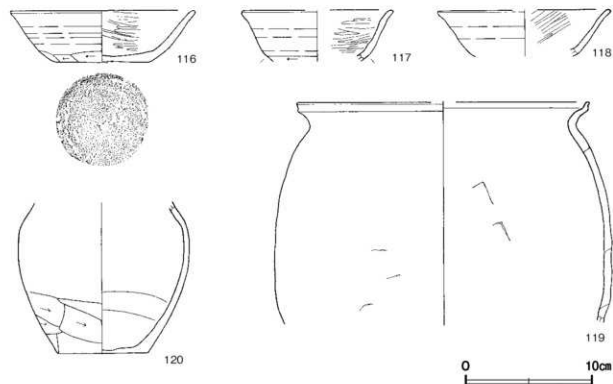
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第6・7層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | 6 褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量 | 7 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子中量 | |

遺物出土状況 土師器片54点(坏13, 碗1, 高台付坏1, 鉢1, 小形甕1, 甕類37), 須恵器片34点(坏15, 蓋3, 甕類16), 土製品1点(不明)が出土している。116は中央部の床面から出土している。これらの遺物は、埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第67図 第81号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 81 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 67 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
116	土師器	坏	147	4.1	7.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理 ※器不受方向のヘラ削り 二次焼成	床面	90% PL15
117	土師器	坏	[118]	(4.1)	-	長石・石英・赤緑・赤色粒子	橙	普通	体部下端両面ヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理 内面摩肌	覆土中	20%
118	土師器	碗	[137]	(3.7)	-	長石・石英	橙	普通	体部内面ヘラ磨き 黒色処理 二次焼成	覆土中	20%
119	土師器	甕	[233]	(17.6)	-	長石・石英・赤緑・赤色粒子	にぶい・褐	普通	体部内面ヘラ削り 輪轆痕	覆土中	20%
120	土師器	小形甕	-	(12.0)	7.2	長石・石英・赤緑・赤色粒子	明赤褐	普通	体部下平ヘラ削り 内面ヘラナデ 二次焼成	覆土中	50%

第 82 号竪穴建物跡 (第 68～71 図 PL 9)

位置 調査区北西部の C 4 66 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 83 号竪穴建物跡、第 26・27 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 4.50 m、短軸 4.24 m の方で、主軸方向は N-13°-E である。壁は高さ 12～20 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、竈の前方から P 1 にかけて踏み固められている。床は第 83 号竪穴建物跡の床面の上に貼床されている。壁溝が、ほぼ全周している。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口から煙道部まで 124 cm で、燃焼部幅は 56 cm である。両袖部はそれぞれ須恵器の鉢と平瓦を据えて補強され、その周りに粘土ブロックを含む第 9～13 層を積み上げ構築されている。火床部は不整楕円形に 23 cm 掘りくぼめ、ロームブロックや粘土ブロックを含む第 14～18 層を埋土している。火床面は第 14 層上面で赤変硬化している。煙道部は壁外に 60 cm 掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 灰褐色	粘土粒子少量、ロームブロック少量	10 黒褐色	粘土ブロック少量、焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	11 黒褐色	粘土ブロック中量
3 黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量	12 黒褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子少量	13 暗褐色	ロームブロック多量
5 黒褐色	粘土ブロック中量、焼土粒子微量	14 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
6 暗褐色	粘土ブロック少量、焼土粒子微量	15 黒褐色	ローム粒子中量
7 にぶい黄色	粘土ブロック多量	16 黒褐色	ロームブロック多量、粘土ブロック中量
8 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量	17 黒褐色	ロームブロック少量
9 黒褐色	粘土ブロック多量、焼土粒子微量	18 黒褐色	ロームブロック少量

ピット P 1 は深さ 38 cm で、南壁に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

ピット土層解説

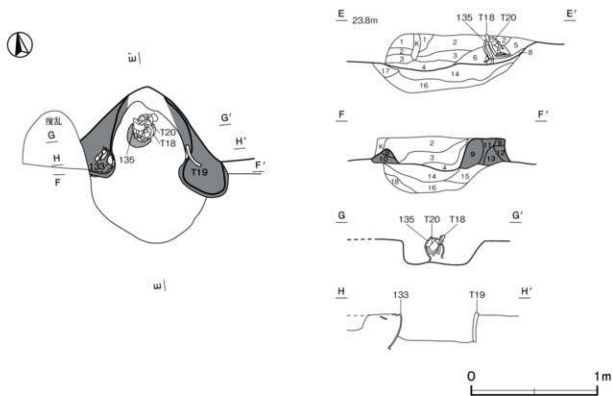
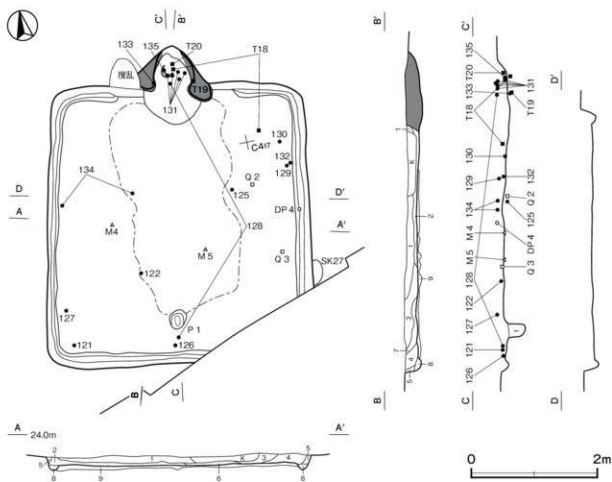
1 黒褐色	焼土粒子多量、ローム粒子少量
-------	----------------

覆土 8 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。第 9 層は貼床の構築土である。

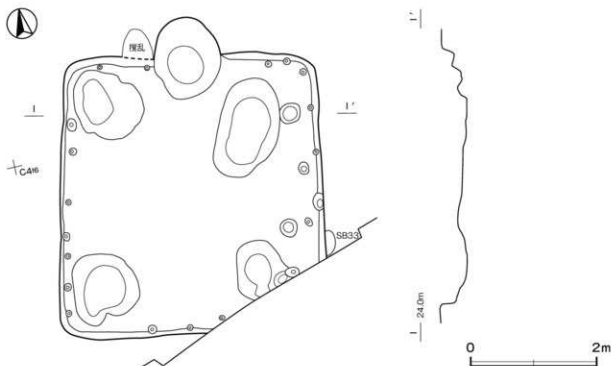
土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	6 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量	7 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	8 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	9 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
5 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片 436 点 (坏 82, 碗 1, 高台付坏 4, 高台付碗 1, 皿 2, 鉢 1, 小形甕 1, 甕類 34), 須恵器片 233 点 (坏 74, 高台付坏 1, 蓋 1, 皿 1, 鉢 2, 甕類 149, 瓶 5), 土製品 1 点 (紡錘車), 石器 2 点 (砥石), 金属製品 2 点 (刀子, 鉄銚), 瓦 5 点 (丸瓦 1, 平瓦 4) が出土している。122・M 5 は中央部, 121



第 68 图 第 82 号竖穴建物跡実測图 (1)



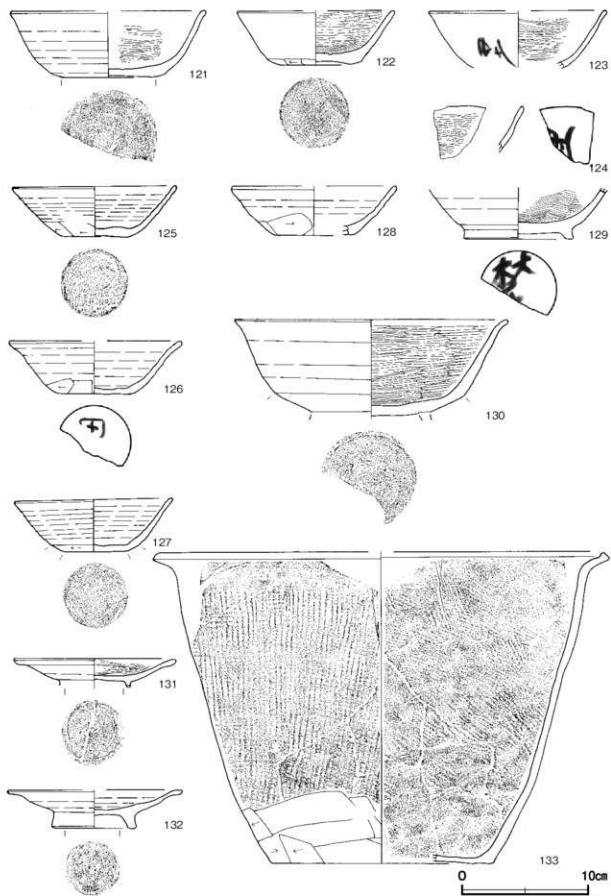
第69図 第82号竪穴建物跡実測図(2)

は南西コーナー部。130・132・Q3は東部、M4は西部、126・128は南壁際の床面からそれぞれ出土している。128は竈内から出土した破片と接合している。135は竈の火床面に支脚として逆位に伏せられた状態で出土している。T18・T20は135の内側に縦位に据えられた状態で出土している。T18は北東コーナー部の覆土中層から出土した破片と接合している。133は左軸部に逆位の状態。T19は右軸部に縦位の状態で補強材として据えられて出土している。

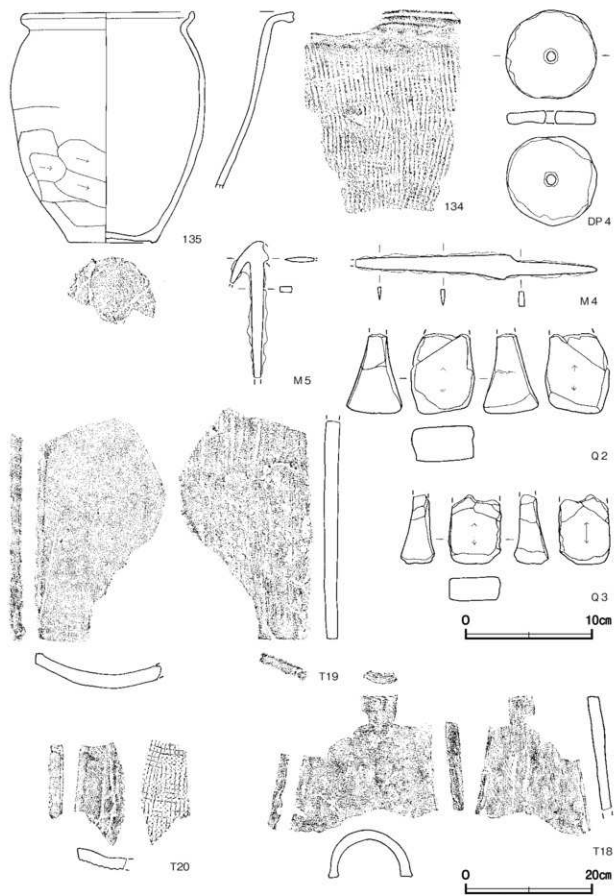
所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。

第82号竪穴建物跡出土遺物観察表(第70・71図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
121	土師器	坏	[154]	5.3	7.8	長石・石英・赤鉄・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面へら磨き 黒色処理 底部回転へら削り	床面	30%
122	土師器	坏	[124]	4.3	5.5	長石・石英・赤鉄・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き 棒状工具痕 黒色処理 底部一方向のへら削り	床面	60%
123	土師器	坏	[142]	(4.5)	-	長石・石英・赤鉄	明赤褐	普通	内面へら磨き 黒色処理 体部外面磨き「里」	覆土中	20% PL17
124	土師器	坏	-	(3.7)	-	長石・石英・赤鉄	にぶい橙	普通	内面へら磨き 黒色処理 体部外面磨き「里」	覆土中	5% PL17
125	須恵器	坏	12.8	4.0	5.2	長石・石英・赤鉄	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方向のへら削り	胎床横土	95% PL15 新治産
126	須恵器	坏	[135]	4.2	6.0	長石・石英・赤鉄・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方向の手持ちへら削り 底部外面磨き「里」	床面	30% PL17 新治産
127	須恵器	坏	12.5	4.4	5.0	長石・石英・赤鉄	細灰	普通	体部下端回転へら削り 底部回転糸切り痕を残す一方向の手持ちへら削り	覆土中層	70% PL15 新治産
128	須恵器	坏	[128]	3.9	[6.3]	長石・石英・赤鉄	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへら削り 底部手持ちへら削り	床面	20% 新治産
129	土師器	高台付坏	-	(4.1)	[8.6]	長石・石英・赤鉄	橙	普通	体部内面へら磨き 黒色処理 底部外面磨き「里」	覆土中層	30% PL17
130	土師器	高台付坏	21.4	(7.8)	-	長石・石英・赤鉄・黒色粒子	明褐	普通	体部下端回転へら削り 内面へら磨き 黒色処理 底部回転へら削り	床面	90% PL16
131	土師器	皿	12.8	(2.3)	-	長石・石英・赤鉄・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面へら磨き 黒色処理 底部回転へら削り 二次焼成	覆土中	95% PL15
132	須恵器	皿	[138]	3.0	6.7	長石・石英・赤鉄・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転へら削り 二次焼成	床面	50% 新治産
133	須恵器	鉢	[30.4]	24.8	[17.6]	長石・石英・赤鉄・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面縦格子目印迹 下位へら削り 内面へら削り	左軸部	30% PL16 新治産
134	須恵器	鉢	-	(14.1)	-	長石・石英・赤鉄・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部外面縦位の平行目印迹 内面へら削り	覆土中層	10% PL17 新治産
135	土師器	小形薬	13.5	18.5	7.9	長石・石英・赤鉄	にぶい橙	普通	体部下半へら削り	火床面	60% PL16 支脚転削



第70图 第82号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第71図 第82号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

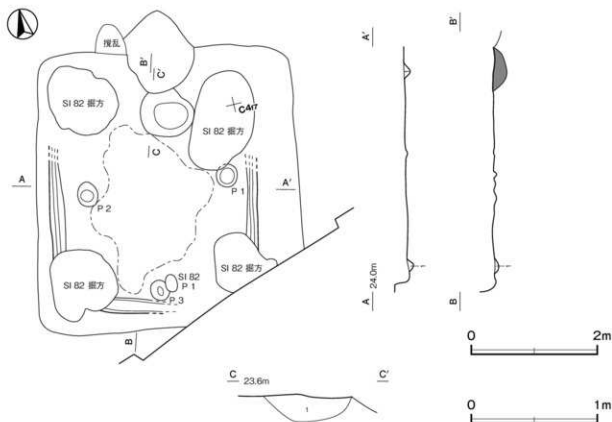
番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP 4	結圓率	7.2	1.1	0.8	71.2	長石・石英・針状物質	にぶい赤褐色	土師器変片転用	覆土中層	PL18	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q 2	砥石	(6.4)	5.1	4.4	(145.7)	凝灰岩	紙面 2面		胎体凝灰土	PL18	
Q 3	砥石	(5.5)	4.2	2.7	(67.6)	凝灰岩	紙面 2面		床面	PL18	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
M 4	刀子	(19.4)	2.0	0.4	(31.9)	鉄	刃先欠損 刃部断面三角形 基部長方形		床面	PL18	
M 5	鏝	(10.9)	2.6	0.4	(43.4)	鉄	細口の鏝身部 有蓋式 鏝身部に深い狭袂 鏝身部・基部一部欠損		床面		
番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	地成	文様・手法の特徴はか	出土位置	備考
T 18	瓦	丸瓦	(13.3)	7.4	(23.1)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	凸面・側面・端面閉り 凹面布目状 粘土含む せ目を指すナ	火床面	PL22 支脚転用
T 19	瓦	平瓦	(20.0)	5.2	(35.0)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	凸面鈍角ナ 縁幅広の傾り 凹面縦骨痕閉り 縁面端面閉り	右端部	PL22
T 20	瓦	平瓦	(7.0)	3.0	(17.2)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	凸面格子状ナ 凹面縦骨痕 高切り痕 傾り調整 粘土含むせ目を指すナ	火床面	支脚転用

第 83 号竪穴建物跡 (第 72 図)

位置 調査区北西部の C 4 66 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 82 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 上部に第 82 号竪穴建物が構築されているため、確認できた壁溝と竈の掘方から、一辺 330 m ほどの方形で、主軸方向は N-13°-E である。



第 72 図 第 83 号竪穴建物跡実測図

床 床は第82号竪穴建物の貼床の下部から確認された。平坦で、中央部が踏み固められている。地山をそのまま床として利用している。壁溝が北壁と南東コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁に付設されている。第82号竪穴建物に掘り込まれていることから長さ84cm、短径80cmの掘方しか確認できなかった。掘方は不整楕円形で23cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや粘土ブロックを含む第1層を埋土している。

覆土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化物中量

ピット 3か所。P1・P2は深さ11cm・14cmで、東部と西部に配置されていることから主柱穴である。P3は南壁寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 第1層は壁溝の覆土である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

所見 本跡は第82号竪穴建物の下部から確認され、同じ主軸を持つことから、第82号竪穴建物の拡張前の竪穴建物と考えられる。本跡に属する出土土器がないため時期を断定することはできないが、第82号竪穴建物より古い、時期と時間差はあまりない。9世紀後葉と考えられる。

表4 平安時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	壁溝	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考	
				長さ・短径(m)	壁高(cm)			柱穴	出入口	ピット					
58	C46	N-25°-E	方形	390	18-24	平坦	ほぼ全周	-	1	-	北東壁	-	土師器、須恵器、土製品、金属製品、瓦	9世紀中葉	
60	D3c3	N-33°-E	方形	266	18-21	平坦	-	-	1	-	北東壁	-	土師器、須恵器	9世紀後葉	
62	D2a9	N-42°-E	長方形	324×230	14-20	平坦	-	-	-	-	北東壁	-	土師器、須恵器、土製品、石粉、瓦	9世紀中葉	
66	D3c3	N-24°-E	方形	315	5-10	平坦	全周	-	-	-	北東壁	-	土師器、須恵器、瓦	9世紀前葉	
67	E2b3	N-21°-E	方形	408	5-18	平坦	全周	2	1	3	北東壁	-	土師器、須恵器、土製品	9世紀前葉	SR23 → 本跡
68	D2e8	N-21°-E	長方形	360×325	8-12	平坦	一部	-	-	-	北東壁	-	土師器、須恵器	9世紀中葉	本跡 → SK 5.SD18
69	D2a2	N-32°-E	方形	312	6-8	平坦	全周	-	1	2	北東壁	-	土師器、須恵器	9世紀前葉	
70	D2j9	N-18°-E	方形	356	2-4	平坦	一部	-	1	-	北壁	-	土師器、須恵器	9世紀中葉	
71	E3e4	N-25°-E	方形	320	16-20	平坦	ほぼ全周	2	1	1	北東壁	-	土師器、須恵器、金属製品、瓦	9世紀中葉	
72	E2e8	N-20°-E	3形-3形	288×(180)	5-6	平坦	-	-	5	-	北壁 平突部	-	土師器、須恵器	9世紀中葉	
73	E3e1	N-14°-E	長方形	301×208	15-20	平坦	全周	2	-	1	北壁	-	土師器、須恵器、土製品、瓦	9世紀中葉	
75	D2j9	N-15°-E	方形	500	10-16	平坦	ほぼ全周	4	1	5	北壁	-	土師器、須恵器、瓦	9世紀中葉	本跡 → SK 6.SD18
76	E2e8	N-42°-E	3形-3形	249×(246)	-	平坦	一部	-	-	-	-	-	-	9世紀代	
78	E3e3	N-15°-E	長方形	322×264	10-12	平坦	全周	-	-	-	北西コーナー	-	土師器、須恵器、瓦	9世紀中葉	
81	C3b9	N-26°-E	3形-3形	332×(314)	12-24	平坦	平周	-	-	-	北壁	-	土師器、須恵器、土製品	9世紀後葉	SR25 → 本跡 + SD 4
82	C46	N-13°-E	方形	450×424	12-20	平坦	ほぼ全周	-	1	-	北壁	-	土師器、須恵器、土製品、金属製品、瓦	9世紀後葉	SI R3、SK26-27 → 本跡
83	C46	N-13°-E	方形	330	-	平坦	一部	2	1	-	北壁	-	-	9世紀後葉	本跡 → SI 82

(2) 掘立柱建物跡

第19号掘立柱建物跡 (第73・74図 PL11)

位置 調査区中央部のD 27d区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

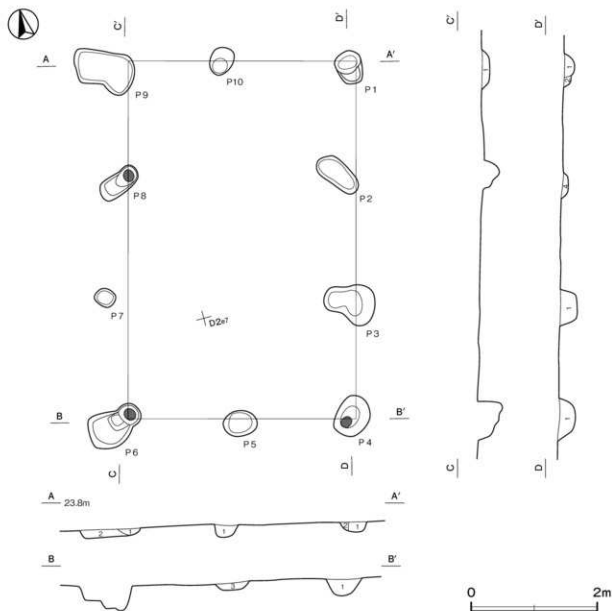
規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-14°-Eの南北棟である。規模は、桁行5.7m、梁行3.6mで、面積は20.52㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から1.8m（6尺）、1.8m（6尺）、2.1m（7尺）、梁行が1.5m（5尺）、2.1m（7尺）で、柱筋は揃っている。P4、P6、P8の底面で、柱のあたりを確認した。
柱穴 10か所。平面形は楕円形又は不整楕円形で、長径32～98cm、短径28～65cmである。深さ8～40cmで、掘方の断面は逆台形又はU字形である。第1層は柱痕、第2～4層が埋土である。

土層解説（各ピット共通）

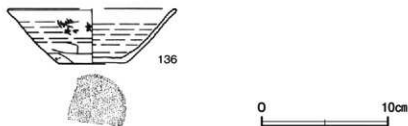
- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 黒褐色 ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 4 黒褐色 灰黄色粘土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片13点（坏2・甕類11）、須恵器片12点（坏1、甕類11）が出土している。136は柱穴の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第73図 第19号掘立柱建物跡実測図



第74図 第19号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第19号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第74図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
136	須恵器	坏	[134]	4.4	[5.3]	長石・石英・雲母	におい堀	普通	体部下端手持ちへが残り 底部不定方向のへが残り 体部外面磨き「二」	覆土中	20% 出土率

第26号掘立柱建物跡 (第75・76図 PL11)

位置 調査区中央部のC4f2区。標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第27号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第28・29号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の圓柱建物跡で、桁行方向がN-21°-Eの南北棟である。規模は、桁行5.4m、梁行4.2mで、面積は2268㎡である。柱間寸法は、桁行が1.8m(6尺)、梁行が2.1m(7尺)で、柱筋は揃っている。

柱穴 10か所。平面形は隅丸方形又は楕円形で、長軸76～112cm、短軸70～95cmである。深さ38～50cmで、掘方の断面は逆台形又はU字形である。第1層は柱痕、第2～17層が埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

1 黒褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック微量	10 黒褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ローム粒子多量	11 黒褐色	ロームブロック多量
3 黒褐色	ローム粒子少量	12 黒褐色	ローム粒子多量
4 黒褐色	ロームブロック多量	13 黒褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック中量
5 黒褐色	ロームブロック中量	14 黒褐色	粘土ブロック多量
6 暗褐色	ロームブロック少量	15 黒褐色	ロームブロック少量
7 黒褐色	ローム粒子中量	16 黒褐色	ロームブロック少量
8 黒褐色	ロームブロック微量	17 暗褐色	ロームブロック多量
9 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量		

遺物出土状況 土師器片15点(高台付坏1, 皿1, 甕類13), 須恵器片32点(坏4, 高台付坏1, 蓋1, 甕類26)が出土している。137はP2の覆土中から出土している。

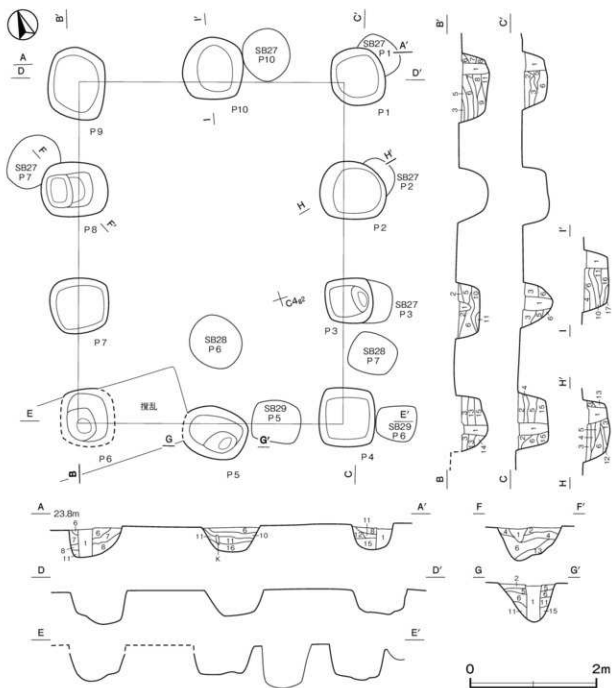
所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第75図 第26号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第26号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
137	土師器	高台付坏	-	(2.5)	[5.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	高台付	P2覆土中	5%



第76図 第26号掘立柱建物跡実測図

第28号掘立柱建物跡 (第77・78図 PL11)

位置 調査区中央部のC4g2区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第26・29号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

規模と構造 南東部が調査区域外に延びているため、梁行は4.2mで、桁行は6.0mしか確認できなかった。柱間寸法は、桁行が北妻から2.4m(8尺)、1.8m(6尺)、1.8m(6尺)、梁行が2.4m(8尺)、1.8m(6尺)で、柱筋は揃っている。

柱穴 7か所。平面形は隅丸方形又は楕円形で、長径64～88cm、短径51～80cmである。深さ38～52cmで、

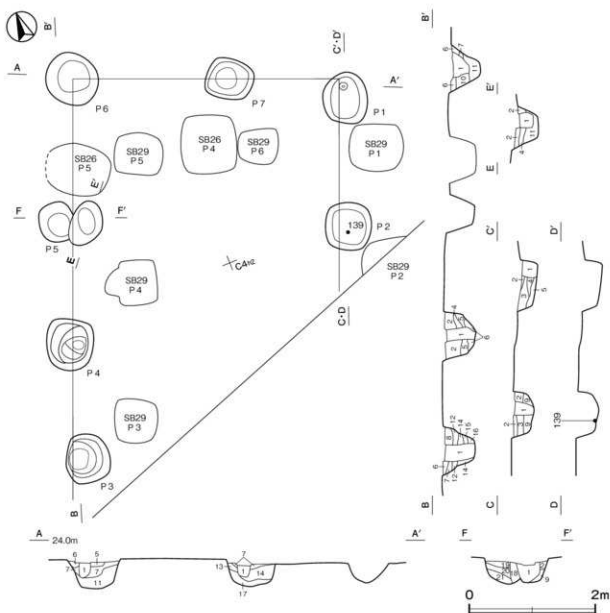
掘方の断面は逆台形又はU字形である。第1層は柱痕、第2～21層が埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

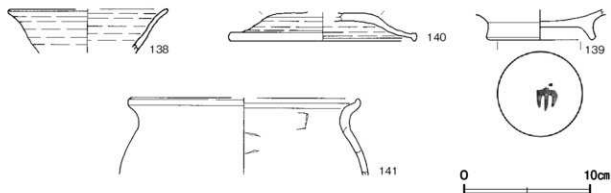
1	黒褐色	ロームブロック微量	12	暗褐色	ロームブロック少量
2	黒色	ロームブロック微量	13	黒褐色	ローム粒子微量
3	黒色	ロームブロック多量	14	黒色	ロームブロック少量
4	黒褐色	ローム粒子中量	15	黒褐色	ローム粒子多量
5	暗褐色	ローム粒子少量	16	黒色	ローム粒子微量
6	黒褐色	ロームブロック中量	17	暗褐色	ローム粒子少量
7	黒褐色	ロームブロック多量	18	黒褐色	ロームブロック微量
8	黒褐色	ロームブロック少量	19	黒色	ロームブロック中量
9	黒色	ロームブロック・粘土ブロック微量	20	黒色	ローム粒子多量
10	黒色	粘土ブロック多量、ロームブロック中量	21	黒色	ローム粒子少量
11	黒色	ローム粒子中量			

遺物出土状況 土師器片12点(蓋1, 甕類11), 須恵器片8点(坏5, 高台付坏1, 蓋1, 甕類1)が出土している。139はP2の覆土下層, 138・140・141はP5の覆土中から出土している。

所見 時期は, 埋土の出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第77図 第28号掘立柱建物跡実測図



第78図 第28号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第28号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第78図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
138	須恵器	杯	[126]	(35)	-	灰石・石英	灰褐色	普通	体部外・内面ロクロナデ	P 5 覆土中	10%
139	須恵器	高台付杯	-	(25)	82	灰石・石英・ 長石・雲母	灰褐色	普通	底部回転へう割り 底部磨き「天。」	P 2 覆土下層	20% PL17 新治産
140	須恵器	蓋	[148]	(23)	-	長石・石英・ 長石・雲母	にふい黄褐色	普通	天井部回転へう割り	P 5 覆土中	30% 新治産
141	土師器	甕	[182]	(63)	-	灰石・石英・ 長石・雲母	橙	普通	内面へう割て痕 輪轆痕	P 5 覆土中	5%

第29号掘立柱建物跡(第79図 PL11)

位置 調査区中央部のC 4g2区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第26・28号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 南東部が調査区域外に延びているため、梁行は4.2mで、桁行は4.2mしか確認できなかった。柱間寸法は、桁行が2.1m(7尺)、梁行が2.1m(7尺)で、柱筋は揃っている。

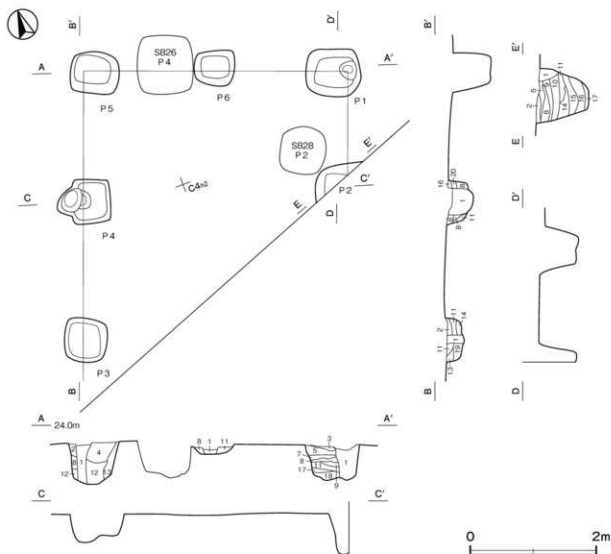
柱穴 6か所。平面形は隅丸方形又は不整形で、長軸63~86cm、短軸56~74cmである。深さ16~84cmで、掘方の断面は逆台形である。第1層は柱痕、第2~20層が埋土である。

土層解説(各ピット共通)

1 黒褐色	ロームブロック微量	11 黒褐色	黄褐色粘土ブロック多量
2 黒色	ローム粒子少量	12 黒褐色	黄褐色粘土ブロック中量
3 黒色	ローム粒子中量	13 黒色	ロームブロック少量
4 黒褐色	粘土粒子多量	14 黒褐色	ロームブロック少量
5 黒色	粘土ブロック中量	15 黒色	黄褐色粘土ブロック中量
6 暗褐色	ロームブロック少量	16 黒褐色	黄褐色粘土ブロック多量
7 黒褐色	粘土ブロック多量	17 黒色	黄褐色粘土ブロック少量
8 黒色	黄褐色粘土粒子中量	18 暗褐色	ロームブロック中量
9 黒色	粘土ブロック多量	19 黒色	ロームブロック中量
10 黒色	ロームブロック・粘土ブロック少量	20 黒褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片7点(甕類)、須恵器片13点(杯3、蓋1、甕類9)が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第79図 第29号掘立柱建物跡実測図

第30号掘立柱建物跡（第80・81図）

位置 調査区中央部のC4区4区，標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第31号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 南東部が調査区域外に延びていることから，梁行は6.6mで，桁行は5.7mしか確認できなかった。

柱間寸法は，桁行が北妻から2.1m（7尺），2.1m（7尺），1.5m（5尺），梁行が2.1m（7尺），2.4m（8尺），2.1m（7尺）で，柱筋は揃っている。

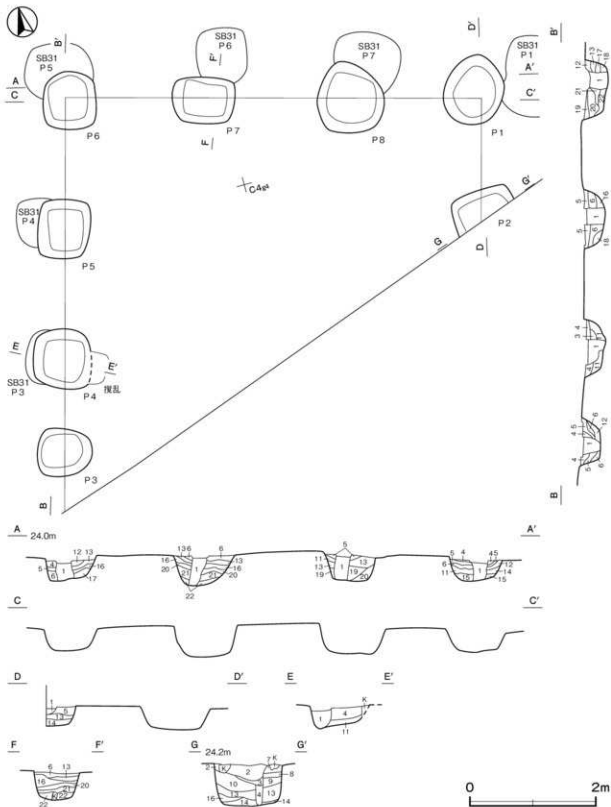
柱穴 8か所。平面形は隅丸方形又は楕円形で，長径87～114cm，短径73～105cmである。深さ30～67cmで，掘方の断面は逆台形である。第1層は柱痕，第2～22層が埋土である。

土層解説（各ピット共通）

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量 | 9 褐色 ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量 | 10 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック多量 | 11 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 6 黒褐色 ローム粒子少量 | 12 黒褐色 ロームブロック中量 |

- 13 黒色 ローム粒子中量
 14 黒褐色 ロームブロック多量
 15 暗褐色 ロームブロック多量
 16 黒褐色 ロームブロック微量
 17 黒色 ロームブロック少量

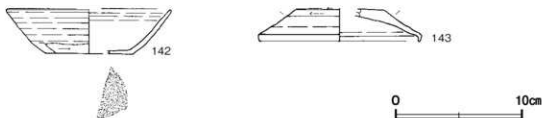
- 18 黒褐色 ローム粒子中量
 19 黒褐色 ローム粒子多量
 20 黒色 ロームブロック中量
 21 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
 22 黒色 ローム粒子少量



第80図 第30号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 11 点 (坏 1, 甕類 10), 須恵器片 27 点 (坏 12, 高台付坏 1, 蓋 2, 甕類 12) が出土している。142 は P 4, 143 は P 3 の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。



第 81 図 第 30 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 30 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 81 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
142	須恵器	坏	[130]	3.6	[7.0]	長石・石英・ 灰岩	黄灰	普通	体部下端手持ちへう張り 底部一方の手持ち へう張り	P 4 覆土中	5%
143	須恵器	蓋	[128]	(2.7)	-	長石・石英・ 灰岩	灰黄褐	普通	天井部回転へう張り	P 3 覆土中	10% 新治産

第 31 号掘立柱建物跡 (第 82・83 図)

位置 調査区中央部の C 4 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 30 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 南東部が調査区域外に延びていることから, 梁行は 4.8 m で, 桁行は 7.5 m しか確認できなかった。柱穴の配列から総柱建物跡である。柱間寸法は, 桁行が北妻から 2.7 m (9 尺), 2.4 m (8 尺), 2.4 m (8 尺), 梁行が 2.4 m (8 尺) で, 柱筋は揃っている。

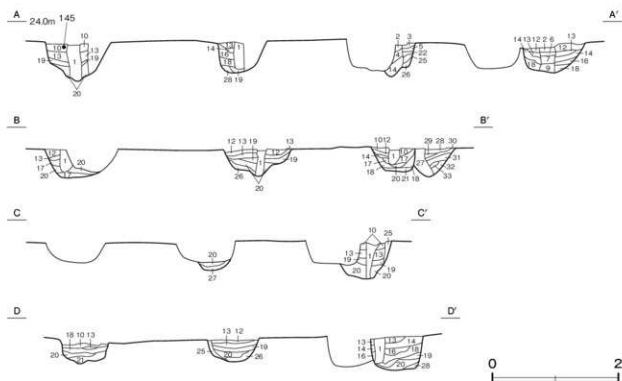
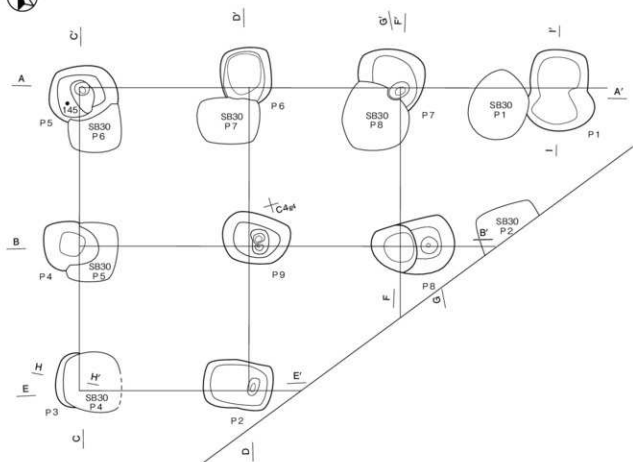
柱穴 9 か所。平面形は隅丸長方形又は不整楕円形で, 長径 87 ~ 130 cm, 短径 75 ~ 105 cm である。深さ 35 ~ 61 cm で, 掘方の断面は逆台形である。第 1 層は柱痕, 第 2 ~ 9・14 層が柱抜き取り後の覆土, 第 10・12・16 ~ 21 層が埋土である。第 27 層が P 8 の古い柱穴の柱痕, 第 28 ~ 33 層が古い柱穴の埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

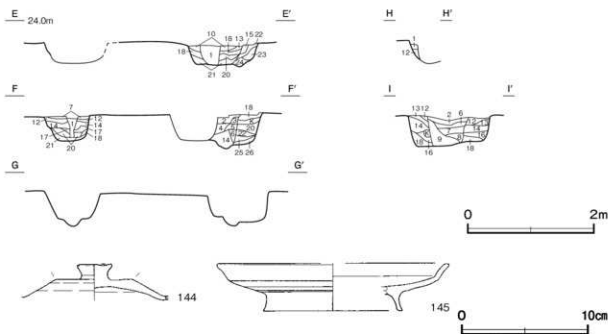
1	黒色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	18	灰褐色	ロームブロック中量
2	黒暗褐色	ローム粒子微量	19	黒色	ロームブロック微量
3	黒褐色	ローム粒子中量	20	黒色	ロームブロック少量
4	暗褐色	ロームアブロック少量	21	黒褐色	ローム粒子少量
5	灰褐色	ローム粒子中量	22	暗褐色	ロームブロック中量
6	暗褐色	ローム粒子少量	23	褐色	ロームブロック多量
7	黒褐色	ローム粒子多量	24	黒褐色	ロームブロック微量
8	黒褐色	ロームアブロック少量	25	暗褐色	ロームブロック中量
9	黒褐色	ロームアブロック中量	26	黒褐色	ロームブロック微量
10	黒褐色	ローム粒子微量	27	黒褐色	ロームブロック多量
11	灰褐色	ロームアブロック少量	28	暗褐色	ロームアブロック少量
12	黒暗褐色	ロームアブロック少量	29	黒褐色	ロームブロック微量
13	黒色	ローム粒子微量	30	黒褐色	ロームアブロック多量
14	黒暗褐色	ローム粒子少量	31	黒褐色	ローム粒子微量
15	灰褐色	ロームアブロック多量	32	黒暗褐色	ロームアブロック微量
16	黄褐色	ロームアブロック多量, 粘土ブロック微量	33	暗褐色	ロームアブロック微量
17	黒暗褐色	ロームアブロック微量			

遺物出土状況 土師器片 12 点 (坏 1, 高台付坏 1, 甕類 10), 須恵器片 30 点 (坏 11, 蓋 1, 盤 1, 甕類 16, 瓶 1) が出土している。145 は P 5 の覆土上層, 144 は P 7 の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。



第 82 图 第 31 号掘立柱建物跡実測図



第83図 第31号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第31号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第83図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
144	須恵部	蓋	-	(2.9)	-	長石・石英・炭素	褐色	普通	天井部回転ヘラ削り	P 7 覆土中	20% 新治産
145	須恵部	壺	[187]	3.8	[112]	長石・石英	灰	普通	体部ロコナテ	P 5 覆土上層	10%

表5 平安時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	掘行方向	柱間数	規模 形×並間 形×並間(m)	面積 (㎡)	柱間寸法		柱穴			主な出土遺物	時期	備考	
						前間(m)	並間(m)	構造	柱穴数	平面形				深さ(cm)
19	D207	N-14'-E	3×2	5.7×3.6	20.52	1.8	1.5-2.1	欄柱	10	隅四角形・ 不整楕円形	8-40	土師器, 須恵部	9世紀後半	
26	C 4f2	N-21'-E	3×2	5.4×4.2	22.68	1.8	2.1	欄柱	10	隅九方形・ 楕円形	38-50	土師器, 須恵部	9世紀後半	SE27→本跡
28	C 4g2	N-22'-E	3×2	6.0×4.2	-	1.8-2.4	1.8-2.4	欄柱	7	隅九方形・ 楕円形	38-52	土師器, 須恵部	9世紀前半	
29	C 4g2	N-22'-E	2×2	(4.2)×4.2	-	2.1	2.1	欄柱	6	隅九方形・ 不整方形	16-84	土師器, 須恵部	9世紀前半	
30	C 4f4	N-17'-E	3×3	(5.7)×6.6	-	1.5-2.1	2.1-2.4	欄柱	8	隅九方形・ 楕円形	30-67	土師器, 須恵部	9世紀前半	SE31→本跡
31	C 4f4	N-17'-E	3×2	(7.5×4.8)	-	2.4-2.7	2.4	礎柱	9	隅九方形形・ 不整楕円形	35-61	土師器, 須恵部	9世紀前半	本跡→SE30

(3) 土坑

第5号土坑(第84図 PL11)

位置 調査区中央部のD 2c7区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第68号竪穴建物跡を掘り込み, 第18号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.88m, 短径0.73mの楕円形で, 長径方向はN-70°-Wである。深さは10cmで, 底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

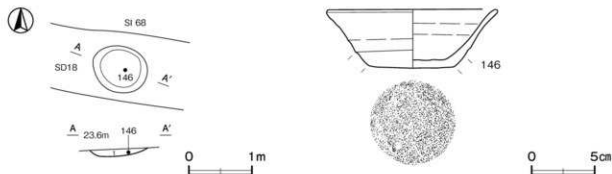
覆土 単一層である。ロームブロックが多量に含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片1点(甕類), 須恵器片3点(坏2, 甕類1)が出土している。146は覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第84図 第5号土坑・出土遺物実測図

第5号土坑出土遺物観察表(第84図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
146	須恵器	坏	13.4	4.7	6.5	長石・石英・鉄母	黒褐色	普通	体部下端回転ヘラ削り 器面荒れ	底部→方向のヘラ削り	覆土下層 70% 新山産

第6号土坑(第85図)

位置 調査区中央部のD29区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第75号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径125m, 短径0.87mの不整形円形で, 長径方向はN-10°-Eである。深さは27cmで, 底面は平坦である。壁は外傾している。

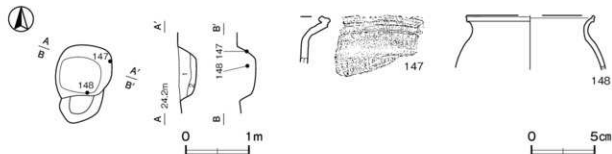
覆土 2層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれているが, 東側から流れ込んだ自然堆積とみられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片2点(小型甕1, 甕類1), 須恵器片1点(鉢)が出土している。147・148は覆土下層から出土している。

所見 時期は, 重複関係, 出土土器から9世紀中葉以降に比定できる。



第85図 第6号土坑・出土遺物実測図

第6号土坑出土遺物観察表(第85図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
147	須恵器	鉢	-	(3.8)	-	長石・石英・ 炭屑	黄灰	普通	体部外面縦位の平行叩き	覆土下層	5%
148	土師器	小形甕 [100]	(4.3)	-	-	長石・石英・ 炭屑	黒陶	普通	体部外面ナデ	覆土下層	5%

第16号土坑(第86図)

位置 調査区中央部のC3g9区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.26m、短径1.14mの楕円形で、長径方向はN-88°-Wである。深さは52cmで、底面は皿状である。壁は外傾している。

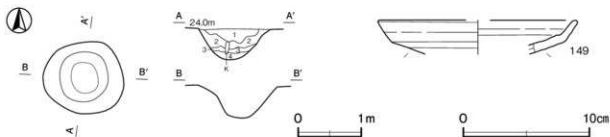
覆土 4層に分層できる。ローム粒子が含まれているが、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 4 黒褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片3点(甕類)、須恵器片3点(盤1、甕類2)が出土している。149は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第86図 第16号土坑・出土遺物実測図

第16号土坑出土遺物観察表(第86図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
149	須恵器	盤	(15.6)	(2.7)	-	長石・石英・ 炭屑	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り	覆土中	5%

第18号土坑(第87図 PL11)

位置 調査区中央部のB4j8区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.92m、短径1.90mの長方形で、長軸方向はN-6°-Eである。深さは76cmで、底面は壘研状である。壁は外傾している。

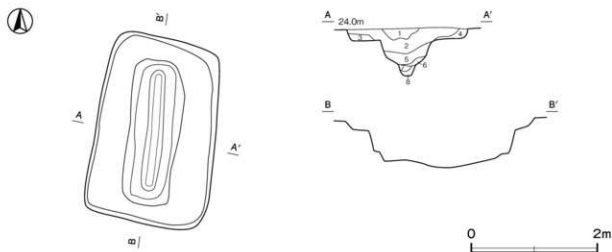
覆土 8層に分層できる。ローム粒子が含まれているが、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 6 黄褐色 | 粘土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック微量 | 7 黒褐色 | 粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | 粘土ブロック多量 | 8 黄褐色 | 粘土ブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片1点(甕類)、須恵器片1点(甕類)が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と思われる。



第87図 第18号土坑実測図

第22号土坑（第88図）

位置 調査区中央部のC3h7区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.76m、短径1.30mの楕円形である。長径方向はN-40°-Wである。深さは42cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

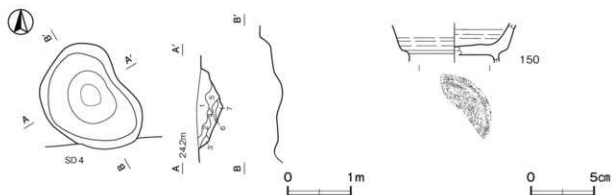
覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれているが、南西側から流れ込んだ自然堆積とみられる。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量 | 5 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量 | 7 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック多量 | |

遺物出土状況 須恵器片1点（高台付坏）が出土している。150は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第88図 第22号土坑・出土遺物実測図

第22号土坑出土遺物観察表（第88図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
150	須恵器	高台付坏	-	(3.1)	-	長石・石英	黄灰	普通	底部回転へう作り	覆土中	10%

表6 平安時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
5	D 2c7	N-70°-W	楕円形	0.88×0.73	10	平坦	緩斜	人為	土師器、須恵器	SI68→本跡→SD18
6	D 2c9	N-10°-E	不整形円形	1.25×0.87	27	平坦	外傾	自然	土師器、須恵器	SI75→本跡
16	C 3g9	N-88°-W	楕円形	1.26×1.14	52	皿状	外傾	自然	土師器、須恵器	
18	B 4j8	N-6°-E	長方形	2.98×1.90	76	臺研状	外傾	自然	土師器、須恵器	
22	C 3h7	N-40°-W	楕円形	1.76×1.30	42	皿状	緩斜	自然	須恵器	本跡→SD4

(4) 溝跡

第4号溝跡 (第89図・付図 PL 9)

位置 調査区中央部のC 3h7～C 3h0区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第81号竪穴建物跡、第25号掘立柱建物跡、第22号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 C 3h0区から西方向(N-90°-E)に直線状に延びている。確認できた長さは総延長14.4mで、上幅1.26～1.50m、下幅0.18～0.36m、深さ49～63cmである。断面形は浅いV字状である。

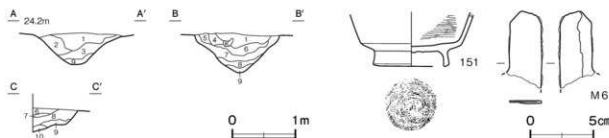
覆土 10層に分層できる。ロームブロックやローム粒子が含まれているが、自然堆積とみられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量	6 黒褐色	ロームブロック微量
2 黒褐色	ローム粒子中量	7 暗褐色	ロームブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量
4 黒褐色	ローム粒子少量	9 黒色	ロームブロック多量
5 黒色	粘土ブロック中量	10 暗褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片77点(坏12, 高台付坏4, 甕類61), 須恵器片64点(坏11, 高台付坏2, 蓋2, 甕類47, 瓶2), 金属製品(不明)が出土している。

所見 西方向に延び、第21号溝とつながるものと考えられる。時期は、第81号竪穴建物跡との重複関係から9世紀後葉以降に比定できる。



第89図 第4号溝跡・出土遺物実測図

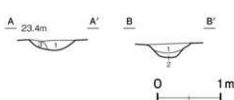
第4号溝跡出土遺物観察表 (第89図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
151	土師器	高台付坏	-	(4.3)	5.3	長石・石英・ 炭粒・赤色粒子	橙	普通	内面へう磨き 黒色処理	覆土中	20%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
M 6	不明	(6.1)	(2.8)	0.2	(1.9)	鉄	折り返し痕 先端部欠損			覆土中	

第12号溝跡（第90図・付図）

位置 調査区北部のC 2g9～C 3b2区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 C 2g9区から北東方向（N-39°-E）に直線状に調査区域外に延びている。確認できた長さは総延長21.2mで、上幅0.48～0.76m、下幅0.14～0.28m、深さ16～20cmである。断面形は浅いU字状である。



第90図 第12号溝跡実測図

覆土 3層に分層できる。ロームブロックやローム粒子が含まれているが、自然堆積とみられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片6点（甕類）、須恵器片1点（甕類）が出土している。細片のため図示できない。

所見 南東方向に軸線をはほぼ同じにする第19号溝跡がある。時期は出土土器から9世紀代に比定できる。

第15号溝跡（第91図・付図）

位置 調査区西部のC 2e5～C 2g6区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 C 2g6区から北東方向（N-19°-E）に直線状に延び、C 2e6区から北西方向に（N-70°-W）に屈曲して直線状に調査区域外に延びている。確認できた長さは総延長12.2mで、上幅1.12～2.21m、下幅0.32～0.59m、深さ17cmである。断面形は浅いU字状である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックやローム粒子が含まれているが、自然堆積とみられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片3点（甕類）、須恵器片1点（甕）、瓦1点（平瓦）が出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀代に比定できる。



第91図 第15号溝跡・出土遺物実測図

第15号溝跡出土遺物観察表（第91図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	土調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
152	須恵器	甕	-	6.5	-	長石・石英	灰褐色	普通	口縁部直下に一糸の凸線が走る。8本1組の縄状工具による成状文が1条。	覆土中	5% PL17

第17号溝跡（第92図・付図）

位置 調査区西部のC 2i3～C 3h1区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第16号溝に掘り込まれている。

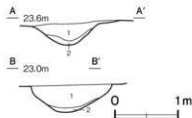
規模と形状 C 2i3区から北東方向（N-39°-E）に直線状に延びている。確認できた長さは総延長30.2m

で、上幅 0.96～1.40 m、下幅 0.21～0.58 m、深さ 34～42 cm である。断面形は浅い U 字状である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれているが、自然堆積とみられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック多量



第 92 図 第 17 号溝跡実測図

遺物出土状況 土師器片 20 点 (坏 1, 甕類 19), 須恵器片 27 点 (坏 2, 甕類 25), 瓦 1 点 (平瓦) が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀代に比定できる。

第 19 号溝跡 (第 93 図・付図)

位置 調査区西部の C 2 i 8～D 2 f i 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 20 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 D 2 f i 区から北西方向 (N - 29° - E) に直線状に伸び、C 2 i 6 区で屈曲し、東方向 (N - 90° - E) に延びている。長さは総延長 41.8 m で、上幅 0.49～1.04 m、下幅 0.18～0.48 m、深さ 10～12 cm である。断面形は浅い U 字状である。

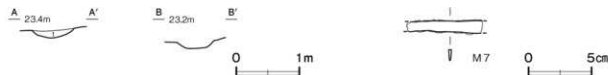
覆土 ロームブロックが含まれているが、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 11 点 (坏 2, 甕類 9), 須恵器片 12 点 (坏 2, 甕類 10), 金属製品 1 点 (刀子), 瓦 2 点 (平瓦) が出土している。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀代に比定できる。



第 93 図 第 19 号溝跡・出土遺物実測図

第 19 号溝跡出土遺物観察表 (第 93 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 7	刀子	(6.1)	0.9	0.2	(5.4)	鉄	刃先・基部欠損 刃部断面三角形	覆土中	

第 21 号溝跡 (第 94 図・付図)

位置 調査区中央部の C 3 i 4～C 3 j i 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 15 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 C 3 j i 区から北東方向 (N - 75° - W) に直線状に調査区域外に延びている。長さは総延長 11.5 m で、上幅 1.04～1.62 m、下幅 0.14～0.33 m、深さ 35～45 cm である。断面形は浅い U 字状である。

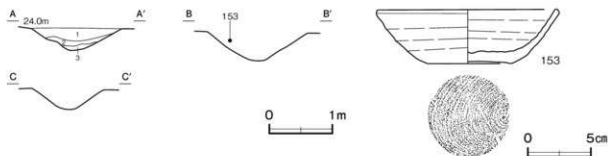
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれているが、自然堆積とみられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック微量
3 黒褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片25点(坏1, 甕類24), 須恵器片12点(坏2, 高台付坏1, 蓋1, 甕類8), が出土している。153は南東部の覆土中層から出土している。

所見 東側に延び、第4号溝跡とつながると考えられる。時期は、出土土器、第4号溝跡との関係から9世紀後葉以降に比定できる。



第94図 第21号溝跡・出土遺物実測図

第21号溝跡出土遺物観察表(第94図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
153	土師器	坏	14.2	4.3	6.7	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	底部回転車切り 二次焼成	覆土中層	90% PL15

表7 平安時代溝跡一覧表

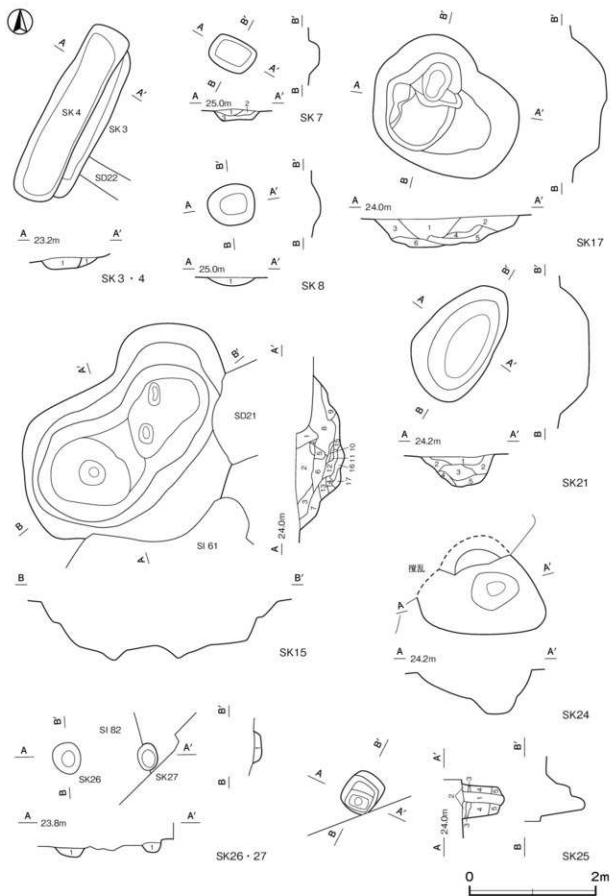
番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
4	C3b7~C3b10	N-90°-E	直線状	14.4	1.26~1.50	0.18~0.36	49~63	浅いV字状	織斜	自然	土師器, 須恵器, 金属製品	SK15-SK25-SK22 →本跡
12	C2g9~C3e2	N-39°-E	直線状	21.2	0.48~0.76	0.14~0.28	16~20	浅いU字状	織斜	自然	土師器, 須恵器	
15	C2e5~C2g6	N-70°-W N-19°-E	逆L字状	12.2	1.12~2.21	0.32~0.59	17	浅いU字状	織斜	自然	土師器, 須恵器, 瓦	
17	C2i3~C3h1	N-39°-E	直線状	30.2	0.96~1.40	0.21~0.56	34~42	浅いU字状	織斜	自然	土師器, 須恵器, 瓦	本跡→SD16
19	C2i8~D2f1	N-29°-E N-90°-E	くの字状	41.8	0.49~1.04	0.18~0.48	10~12	浅いU字状	織斜	自然	土師器, 須恵器, 金属製品, 瓦	SD20→本跡
21	C3i4~C3j1	N-75°-W	直線状	11.5	1.04~1.62	0.14~0.33	35~45	浅いU字状	織斜	自然	土師器, 須恵器	SK15→本跡

3 その他の遺構と遺物

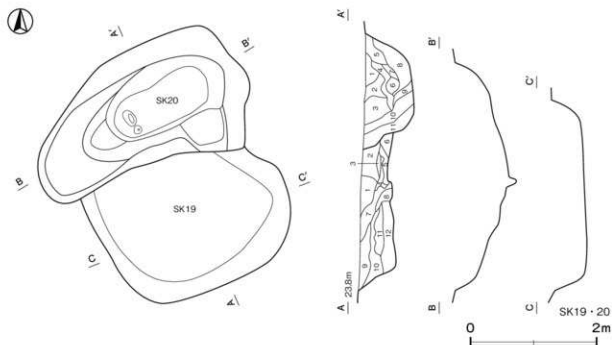
今回の調査で時期が明らかでない土坑13基, 柱穴列1条, 溝跡8条を確認した。以下, 遺構及び遺物について記述する。

(1) 土坑

時期や性格が明確でない土坑に関して, 規模・形状等を実測図(第95・96図)と土層解説及び一覧表で掲載する。



第95図 その他の土坑実測図(1)



第96図 その他の土坑実測図(2)

第3号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量

第4号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量

第7号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子少量
 3 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

第8号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第15号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
 2 灰黄褐色 粘土ブロック少量
 3 黒色 ローム粒子微量
 4 褐灰色 ロームブロック微量
 5 褐色 ロームブロック少量
 6 褐灰色 粘土ブロック少量
 7 暗褐色 ローム粒子中量
 8 極暗褐色 ローム粒子中量
 9 黒褐色 ロームブロック少量
 10 暗褐色 ロームブロック微量
 11 暗褐色 ロームブロック少量
 12 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
 13 黄褐色 ロームブロック中量
 14 暗褐色 ロームブロック中量
 15 黒褐色 粘土ブロック少量
 16 黄褐色 ロームブロック少量
 17 褐色 粘土ブロック少量

第17号土坑土層解説

- 1 黄褐色 粘土ブロック多量
 2 黒褐色 ローム粒子中量
 3 黒色 粘土ブロック・ローム粒子中量
 4 黒褐色 粘土ブロック多量
 5 黒褐色 粘土ブロック少量
 6 黒色 粘土ブロック少量

19号土坑土層解説

- 1 黄褐色 粘土ブロック多量
 2 灰白色 粘土ブロック多量
 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
 4 褐色 ロームブロック多量
 5 灰白色 粘土ブロック中量
 6 黒褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック中量
 7 黒褐色 ロームブロック少量
 8 黒褐色 ロームブロック多量
 9 暗褐色 ロームブロック少量
 10 黒褐色 粘土ブロック多量
 11 明黄褐色 粘土ブロック多量
 12 黄褐色 粘土ブロック中量

第20号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック多量
 3 暗褐色 ローム粒子少量
 4 黒色 ローム粒子微量
 5 暗褐色 ロームブロック中量
 6 極暗褐色 ローム粒子少量
 7 暗褐色 ローム粒子微量
 8 黄褐色 粘土粒子中量
 9 暗褐色 ロームブロック少量
 10 黄褐色 粘土ブロック多量
 11 明黄褐色 粘土ブロック多量

第 21 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック多量
- 3 黒 褐色 ローム粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子多量
- 5 暗 褐色 ローム粒子多量

第 25 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量
- 5 灰 褐色 粘土ブロック多量

第 26・27 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック微量

表 8 その他の土坑一覧表

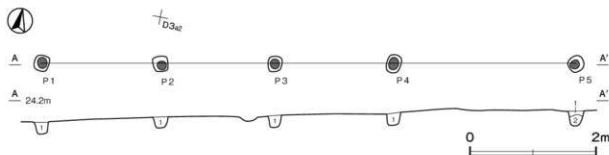
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3	D2c3	N-27°-E	[長方形]	2.55×(0.28)	15	-	緩斜	自然		
4	D2c3	N-30°-E	長方形	3.02×0.70	18	平坦	外傾	自然	土層部	
7	E3g4	N-60°-W	長方形	0.72×0.53	17	平坦	外傾	自然	土層部	
8	E3g3	N-80°-E	楕円形	0.74×0.66	14	皿状	緩斜	自然		
15	C2j0	N-37°-E	不定形	4.02×2.80	92	凹凸	緩斜	自然		本跡→S61・SD21
17	B4j8	N-66°-W	不整楕円形	2.42×1.96	54	皿状	緩斜	自然	土層部、須臾部	
19	C4e5	N-23°-W	[楕円形]	3.00×(2.48)	56	平坦	外傾	自然		本跡→SK20
20	C4c5	N-58°-E	不整楕円形	3.70×1.80	82	平坦	外傾 緩斜	自然		SK19→本跡
21	C5c1	N-31°-E	楕円形	2.00×1.24	46	平坦	外傾	自然		
24	C5b1	N-60°-W	不整楕円形	(1.80×1.50)	68	皿状	緩斜	-		
25	C4g3	N-35°-W	隅丸長方形	0.68×0.54	70	皿状	直立	人為		竪立柱建物跡の柱式。
26	C4f6	N-12°-W	楕円形	0.50×0.45	17	皿状	緩斜	自然		本跡→S182
27	C4f7	N-25°-W	楕円形	0.42×0.30	14	皿状	緩斜	自然		本跡→S182

(2) 柱穴列

第 1 号柱穴列 (第 97 図)

位置 調査区中央部の D 3a2 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 東西方向に直線状に延び、8.5 m の間に配列された柱穴 5 か所で、配列方向は N-80°-E である。柱間寸法は、P1～P4 までは 1.8 m (6 尺) で等間隔に配置され、P4～P5 は 3.0 m (10 尺) である。柱筋は揃っている。



第 97 図 第 1 号柱穴列実測図

柱穴 5か所。平面形は楕円形または方形で、長径28～32cm、短径22～28cmである。深さは17～23cmで、断面形は浅いU字状である。P1～P5の底面から柱のあたりを確認した。

土層解説(各ピット共通)

1 黒色 ロームブロック少量

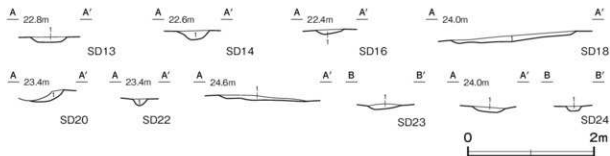
2 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片1点(甕類)が出土しているが、細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器が細片であることから不明である。性格は柱のあたりや柱筋が揃っていることから構列跡と推定できる。

(3) 溝跡

時期や性格が明確でない溝に関して、実測図(第98図・付図)、土層解説及び一覧表に掲載する。



第98図 その他の溝跡実測図

第13号溝跡土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

第14号溝跡土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

第16号溝跡土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第18号溝跡土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第20号溝跡土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

第22号溝跡土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック少量

第23号溝跡土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

第24号溝跡土層解説

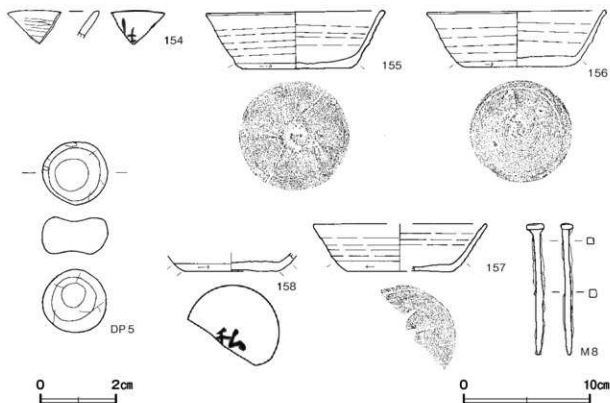
1 黒褐色 ローム粒子少量

表9 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	縦横				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
13	C2c7～C2d7	N～80°E	不定形	3.6	0.42～1.14	0.25～1.02	7	浅いU字状	紙斜	自然	土師器	
14	C2d6	N～69°E	曲線状	(2.8)	0.36～0.52	0.14～0.25	15	浅いU字状	紙斜	自然	土師器、須恵器、土製品	
16	C2f7～C2j9	N～15°W	直線状	(16.4)	0.28～0.60	0.14～0.40	8	浅いU字状	紙斜	自然	土師器、須恵器、金属製品	SD17→本跡
18	D2c5～D2h0	N～7°W N～80°W	T字状	26.5 17.3	0.29～1.47	0.27～1.16	8～10	浅いU字状	紙斜	自然	土師器、須恵器、陶器	SH68・75、SD20・21、SK5→本跡
20	C2j6～D2a5	N～41°E	直線状	(5.2)	0.59～1.22	0.31～0.92	14	浅いU字状	紙斜	自然	土師器、須恵器	本跡→SD19
22	D2c3～D2f4	N～62°W	直線状	(5.6)	0.19～0.38	0.07～0.20	10	浅いU字状	紙斜	自然	土師器	SH64→本跡
23	E2b7～E2d9	N～75°W N～15°E	T字状	10.1 9.8	0.32～1.54	0.16～1.40	5～8	浅いU字状	紙斜	-	土師器、須恵器、陶器	
24	C3d9～C4e1	N～10°E N～95°E	T字状	(7.8) 4.9	0.18～0.56	0.10～0.36	7	浅いU字状	紙斜	-	土師器、須恵器	

(4) 遺構外出土遺物

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図（第99図）と観察表で掲載する。



第99図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第99図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
154	土師器	坏	-	(2.2)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面へラ磨き 黒色処理 体部外面黒書「□」	表土	5% PL17
155	須恵器	坏	14.1	4.5	8.6	灰黄緑 長石・石英・赤母	普通	普通	体部下端回転へラ磨り 底部回転へラ切り痕を残す回転へラ磨り	表土	95% PL15 新治産
156	須恵器	坏	14.2	4.5	8.0	長石・石英・赤母・赤色粒子	細灰	普通	体部下端回転へラ磨り 底部回転へラ切り痕を残す回転へラ磨り	表土	80% PL15 新治産
157	須恵器	坏	[13.8]	3.8	[8.6]	長石・石英・赤母	細灰	普通	体部下端回転へラ磨り 底部回転へラ切り痕を残す回転へラ磨り	表土	30% PL15 新治産
158	須恵器	坏	-	(1.5)	(7.6)	長石・石英・赤母	灰黄緑	普通	体部下端回転へラ磨り 底部外面黒書「部」	表土	20% PL17 新治産

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 5	不明	1.7	1.0	-	3.2	長石・赤色粒子	浅黄橙	手捏ね 中央部両面凹み	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 8	針	10.4	1.5	0.5	20.2	鉄	断面四角形の棒状	表土	PL18

第4章 金田西遺跡

第1節 調査の概要

金田西遺跡は、つくば市の北東部に位置し、桜川右岸の低地を望む標高24～25mの台地上に立地している。平成27年度の調査面積は6,211㎡、平成28年度の調査面積は1,469㎡で、調査前の現況は畑である。

調査の結果、竪穴建物跡49棟（奈良時代14・平安時代35）、掘立柱建物跡22棟（奈良時代10・平安時代12）、井戸跡1基（平安時代）、大型円形土坑1基（奈良時代）、粘土探掘坑2基（平安時代）、土坑76基（奈良時代4・平安時代8・江戸時代1・不明63）、柱穴列5条（奈良時代1・平安時代3・不明1）、溝跡15条（奈良時代4・平安時代2・江戸時代4・不明5）、ピット群5か所（奈良時代1・平安時代1・不明3）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に80箱出土している。主な遺物は、土師器（坏・高台付坏・皿・甕・瓶）、須恵器（坏・高台付坏・蓋・コップ形土器・盤・高盤・鉢・捏鉢・短頸壺・長頸瓶・水瓶・甕・瓶）、灰釉陶器（長頸瓶）、土製品（土玉・支脚・紡錘車）、石器（有基尖頭器・鎌・砥石・紡錘車・温石）、金属製品（刀子・鎌・鉄鉗・黄金具・腰帯具・小仏像）、銭貨（寛永通宝）、瓦（軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦）などである。

第2節 基本層序

隣接する九重東岡廃寺と同様の基本土層であるため、解説は省略する。第3章第2節を参照されたい。

第3節 遺構と遺物

1 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡14棟、掘立柱建物跡10棟、大型円形土坑1基、土坑4基、柱穴列1条、溝跡4条、ピット群1か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第353号竪穴建物跡（第100・101図 PL24）

位置 調査区中央部のF6b8区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第22号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南側が第22号溝に掘り込まれているため、東西軸は2.83mで、南北軸は2.24mしか確認できなかった。方形又は長方形と推定できる。主軸方向はN-0°である。壁は高さ15～21cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。確認した部分では壁溝が巡っている。

竪 北東コーナー部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで67cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部は地山の上に粘土ブロックを含む第4～6層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に5cm掘りくぼめ、焼土ブロックや炭化粒子を含む第7層を埋土している。火床面は第7層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に16cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

電土層解説

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 粘土粒子多量 | 5 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 6 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック多量 | 7 黒褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック多量 | |

ピット 2か所。P1は深さ12cmで、南側に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P2は性格不明である。

ピット土層解説 (P1)

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量

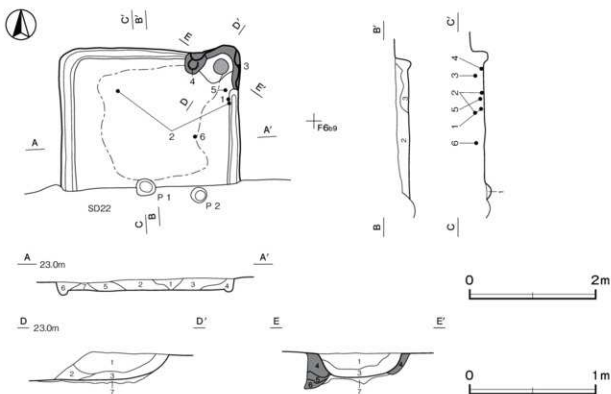
覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

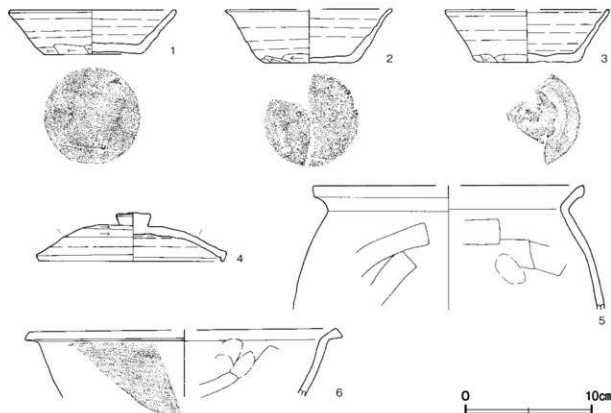
- | | |
|-----------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量 | ク微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 | 5 黒褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 | 6 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック少量 | 7 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片45点(坏1, 甕類44), 須恵器片44点(坏14, 高台付坏2, 蓋5, 甕類23), 瓦1点(平瓦)が主に竈右袖部周辺の下層から出土している。1・5は、竈右袖前方部の床面から出土している。2は、東壁付近と北壁付近の床面から出土した破片が接合している。3は竈内、4は竈左袖部内から逆位の状態で出土している。6は、東壁付近の覆土中層から出土している。これらの遺物は、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第100図 第353号竈穴建物跡実測図



第101図 第353号竪穴建物跡出土遺物実測図

第353号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第101図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	杯	131	35	77	長石・石英・ 斜状物質	褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	床面	70% 土蓋下遺
2	須恵器	杯	[131]	43	70	長石・石英・ 雲母	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り 二次修整	床面	30% 新治産
3	須恵器	杯	[130]	42	[78]	長石・石英・ 雲母	にふい黄褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り	壺内	30% 新治産
4	須恵器	蓋	146	38	-	長石・石英・ 雲母	にふい黄褐色	普通	天井部回転ヘラ削り	左軸内	100% 新治産
5	土師器	甕	[214]	(98)	-	長石・石英・ 雲母 単色粒子	明赤褐色	普通	体部外面ヘラナデ 内面横位のナデ 指頭痕	床面	5%
6	須恵器	甕	[242]	(53)	-	長石・石英・ 雲母	灰黄	普通	体部外面横位の平行押し 内面指頭痕	覆土中層	5%

第358号竪穴建物跡 (第102図 PL24)

位置 調査区中央部のE 6h0区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第21号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.54m、短軸4.08mの長方形で、主軸方向はN-12°-Eである。上部が削平され、壁は遺存していない。

床 平坦な貼床である。壁溝が東壁の一部に巡っている。

ピット 7か所。P1~P4は深さ22~60cmで、主柱穴である。P5~P7は、深さ15~18cmで、性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

1 黒褐色 炭化粒子微量

2 暗褐色 粘土ブロック少量

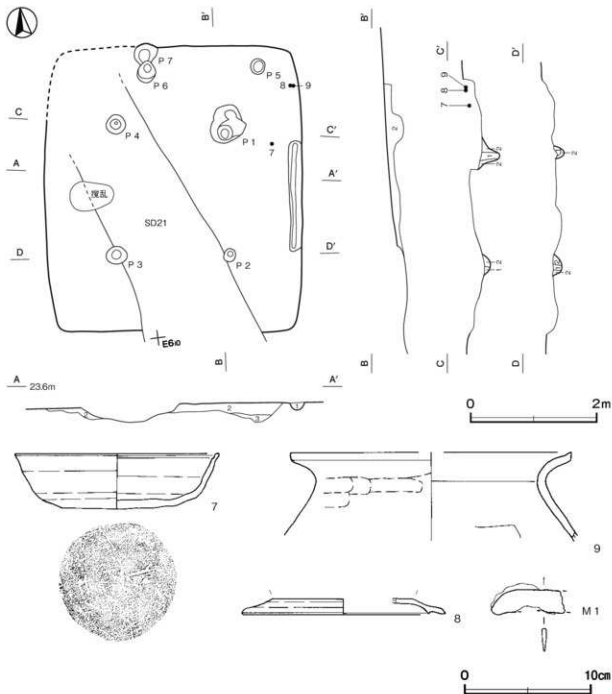
覆土 第1層は壁溝の覆土、第2・3層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 3 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
2 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片 74 点 (坏5, 甕類 69), 須恵器片 15 点 (坏6, 蓋4, 甕類5), 金属製品 1 点 (鎌) が主に北東コーナー部から出土している。8・9は、北東コーナー部の床面から出土している。7は、東壁付近の貼床構築土から出土している。M1は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀末葉に比定できる。



第102図 第358号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 358 号竪穴建物跡出土土物観察表 (第 102 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
7	須恵器	坏	16.1	4.5	9.0	長石・石英・ 雲母	にぶい黄褐色	普通	底部一方向の手持ちヘラ削り	口縁部内面に沈線	貼床構築土	60% PL49 新治産
8	須恵器	壺	[15.8]	(1.3)	-	長石・石英・ 雲母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り		床面	5%
9	土師器	甕	[22.3]	(7.1)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粘土	明褐色	普通	体部外面指ナデ	内面横位のナデ	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
M 1	鎌	(5.9)	2.0	0.3	(12.9)	鉄	刃・茎部欠損	刃部断面三角	覆土中	PL58

第 361 号竪穴建物跡 (第 103 ~ 105 図 PL24・25)

位置 調査区北部の C 5e8 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 51・63 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 4.45 m、短軸 3.92 m の長方形で、主軸方向は N-3°-E である。壁は高さ 28 ~ 47 cm で、外傾している。

床 平坦な貼床で、竈前方部から南壁にかけて踏み固められている。貼床は、全体を 5 cm ほど掘り下げ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第 15 層を埋土して構築されている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 131 cm で、燃焼部幅は 54 cm である。袖部は地山と第 22 層の上面に粘土ブロックや焼土ブロックを含む第 19 ~ 21 層を積みあげて構築されている。火床部は楕円形に 5 cm 掘りくぼめ、ローム粒子を含む第 22 層を埋土している。火床面は第 22 層上面で、赤変していない。煙道部は壁外に 70 cm 掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック中量 | 12 黒褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量 | 13 灰褐色 粘土ブロック多量、焼土粒子中量、ローム粒子微量 |
| 3 褐灰色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 14 暗赤褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 4 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量 | 15 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 5 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量、粘土ブロック少量 | 16 黒褐色 ローム粒子・炭化物微量 |
| 6 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 17 灰褐色 ロームブロック少量 |
| 7 灰褐色 粘土ブロック・ローム粒子中量 | 18 暗赤褐色 ロームブロック少量 |
| 8 暗赤褐色 焼土粒子中量、粘土ブロック少量 | 19 褐灰色 粘土ブロック多量、焼土ブロック少量 |
| 9 暗赤褐色 粘土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量 | 20 灰黄褐色 ローム粒子・粘土粒子中量 |
| 10 黒褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック微量 | 21 にぶい赤褐色 ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 11 暗赤褐色 ロームブロック少量 | 22 にぶい黄褐色 ローム粒子多量 |

ピット 6 か所。P 1 ~ P 4 は床面から深さ 23 ~ 70 cm で主柱穴である。P 5・P 6 は、深さ 8 cm・12 cm で性格は不明である。

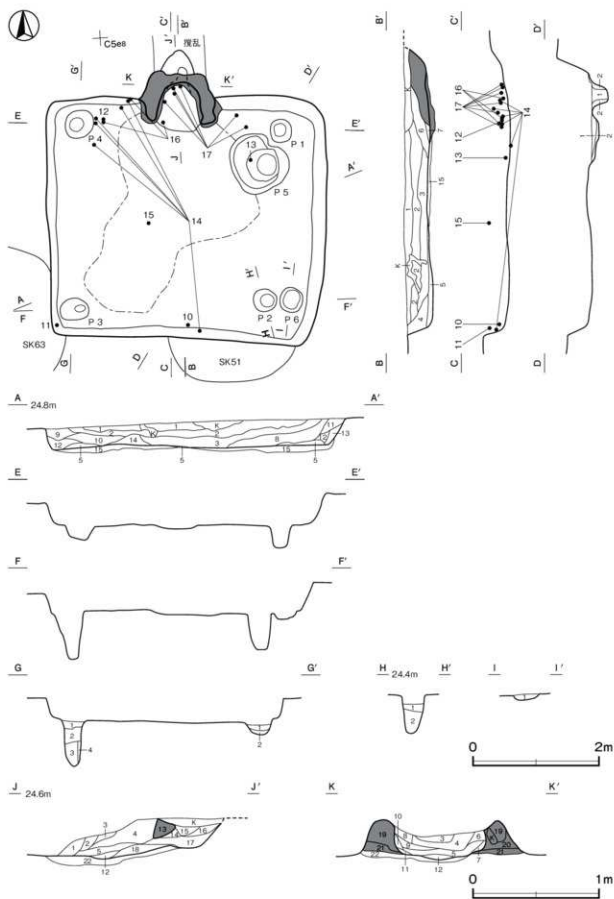
ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-----------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子多量、ロームブロック微量 |
| 2 灰褐色 ローム粒子中量 | 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |

覆土 14 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第 15 層は貼床の構築土である。

土層解説

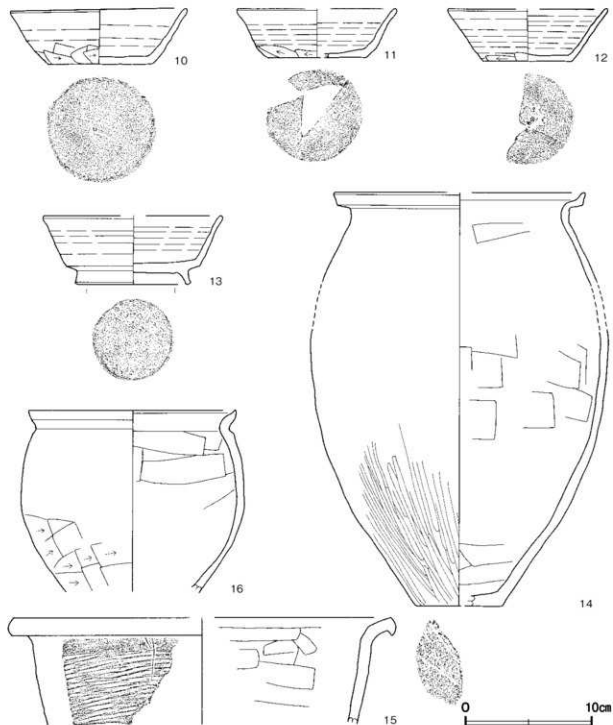
- | | |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 黄褐色 ローム粒子多量 |
| 2 暗赤褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 10 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 11 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 12 灰褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 5 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 13 にぶい褐色 ローム粒子多量、焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 14 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 7 暗褐色 焼土ブロック微量 | 15 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 8 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | |



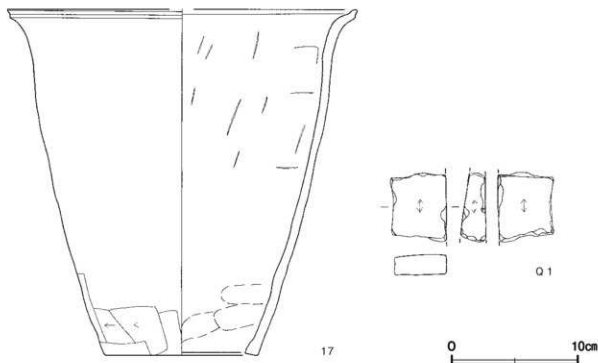
第 103 图 第 361 号竖穴建物跡実測图

遺物出土状況 土師器片 167 点 (坏 17, 小形甕 1, 甕類 148, 瓶 1), 須恵器片 134 点 (坏 41, 高台付坏 7, 蓋 14, 甕類 67, 瓶 5), 石器 1 点 (砥石), 瓦 1 点 (平瓦) が主に北西コーナー部から南東部の覆土下層から出土している。17 は, 竈内と右袖部付近出土の破片が接合している。14 は, 北西コーナー部の床面から覆土下層にかけて出土した破片が接合している。12・16 は北西コーナー部, 10 は南壁付近, 13 は北東コーナー部付近の覆土下層から出土している。Q 1 は, 南東部の覆土下層, 11 は南西コーナー部, 15 は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。これらの遺物は, 埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。



第 104 図 第 361 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第105図 第361号堅穴建物跡出土遺物実測図(2)

第361号堅穴建物跡出土遺物観察表(第104・105図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
10	須恵器	坏	139	4.5	8.3	長石・石英・ 雲母	暗灰青	普通	体部下端手持ちヘラ割り 底部一方のヘラ割り	覆土下層	90% PL40 新治産
11	須恵器	坏	[125]	3.9	7.8	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい黒	普通	体部下端手持ちヘラ割り 底部一方のヘラ割り 二次焼成	覆土上層	60% 新治産
12	須恵器	坏	[126]	4.2	7.0	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい黄黒	普通	体部下端手持ちヘラ割り 底部ヘラ切り面を残す 周縁手持ちヘラ割り 二次焼成	覆土下層	30% 新治産
13	須恵器	高台付坏	[140]	5.5	8.8	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	黄灰	普通	底部回転ヘラ割り	覆土下層	60% 新治産
14	土師器	甕	[198]	[331]	[6.8]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	暗黒	普通	体部外面下手ヘラ磨き 内面横位のナデ 底部 太栗飯	外面 覆土下層	30%
15	須恵器	甕	[300]	(8.5)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい黄黒	普通	体部外面横位の平行叩き 内面横・斜位のナデ	覆土上層	5%
16	土師器	小形甕	163	(14.5)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい黒	普通	体部外面下手ヘラ割り 内面横・斜位のナデ	覆土下層	30%
17	土師器	瓶	[275]	27.7	121	長石・石英・ 雲母	にぶい赤黒	普通	体部外面下手ヘラ割り 内面ヘラ当て痕 拵ナデ	甕内	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	(5.5)	(4.5)	2.0	(69.7)	凝灰岩	砥面3面	覆土下層	

第362号堅穴建物跡(第106～108図 PL25)

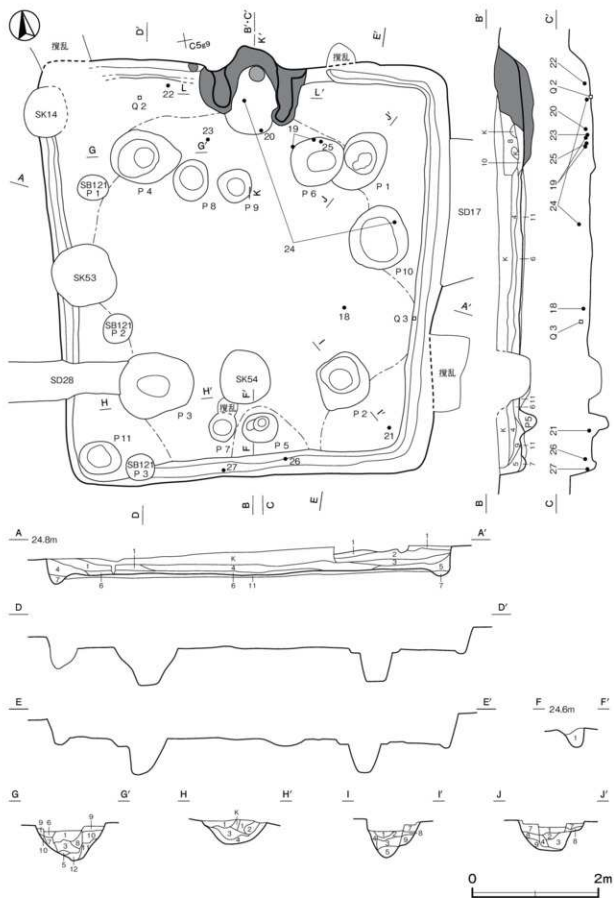
位置 調査区北部のC5g9区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第121号掘立柱建物、第14・53・54号土坑、第17・28号溝に掘り込まれている。

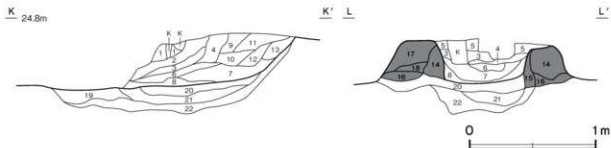
規模と形状 長軸6.75m、短軸6.51mの方形で、主軸方向はN-13°-Eである。壁は高さ32～36cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、竈前方から南壁にかけて踏み固められている。貼床は、全体を8cmほど掘り下げ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第11層を埋土して構築されている。壁溝が南西コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口から煙道部まで138cmで、燃焼部幅は68cmである。袖部は地山と第



第 106 图 第 362 号竖穴建物跡实测图 (1)



第107図 第362号竪穴建物跡実測図(2)

20層の上に焼土ブロックや粘土ブロックを含む第14～18層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に25cm掘りくぼめ、焼土ブロックやロームブロックを含む第19～22層を埋土している。火床面は第20層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

覆土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------------|----------|-----------------------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 11 褐灰色 | 炭化粒子中量、ローム粒子少量、粘土粒子微量 |
| 2 褐灰色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | 12 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗赤灰色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物微量 | 13 赤褐色 | 焼土ブロック多量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ロームブロック中量、炭化物少量 | 14 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量 |
| 5 暗赤褐色 | 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 褐灰色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量、粘土ブロック・炭化物中量、ローム粒子少量 | 16 黒褐色 | 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 灰褐色 | 粘土ブロック多量、焼土ブロック少量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子多量、粘土粒子中量、ローム粒子少量 | 18 黒褐色 | 粘土ブロック多量 |
| 9 極暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子・粘土粒子少量 | 19 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量 | 20 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量、粘土ブロック少量 |
| | | 21 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子少量 |
| | | 22 黒褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、粘土粒子微量 |

ピット 11か所。P1～P4は深さ38～62cmで主柱穴である。P5は深さ31cmで、南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P8は深さ11～29cmで補助柱穴と思われる。P9～P11は深さ14～21cmで、性格は不明である。

ピット土層解説(各ピット共通)

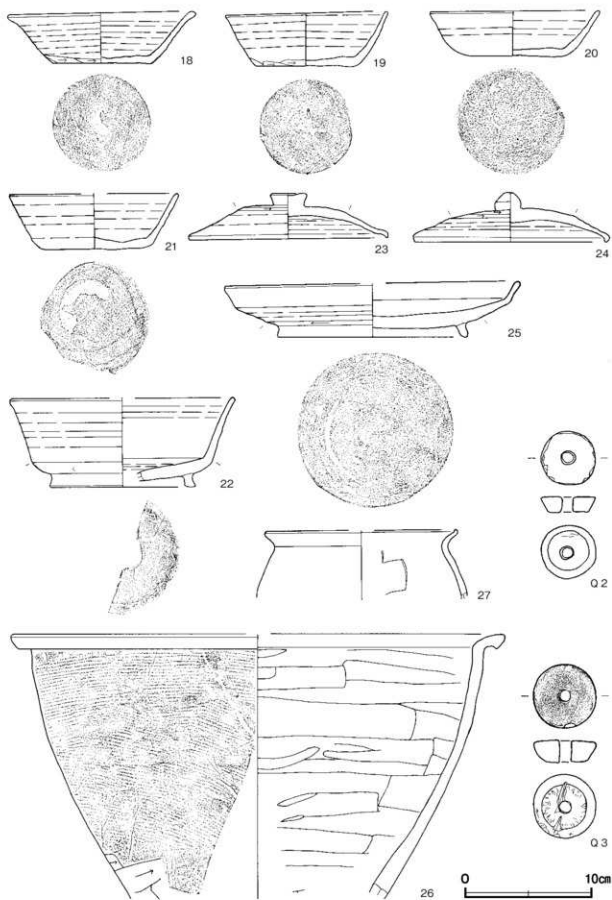
- | | | | |
|---------|-------------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 7 灰褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 にぶい褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 10 黄褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 5 灰褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 11 灰黄褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 にぶい褐色 | ローム粒子中量 | 12 黒褐色 | ロームブロック中量 |

覆土 10層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第7層は壁溝の覆土である。第11層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|----------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 7 灰褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 極暗褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 灰褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 11 にぶい褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物中量 |
| 6 にぶい褐色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 土師器片 330点(坏20, 小形甕1, 甕類304, 瓶5), 須恵器片 342点(坏138, 高台付坏15, 蓋26, 盤1, 高盤1, 鉢1, 甕類158, 瓶2), 石器2点(紡錘車)が主に南東部上層から出土している。19・



第108图 第362号竖穴建物跡出土遺物実測図

25は竪石袖前部付近、22・Q2は北壁付近、21は南東コーナー部、26・27は南壁付近の床面からそれぞれ出土している。20は竪内から出土している。24は、竪内と東壁付近の覆土下層から出土した破片が接合している。23は左袖前部付近、18・Q3は東壁付近の覆土下層からそれぞれ出土している。これらの遺物は、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。

第362号竪穴建物跡出土遺物観察表(第108図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
18	須恵器	坏	145	4.2	7.7	長石・石英・赤母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ切り痕を残す底部周辺不定方向のヘラ削り	覆土下層	70% PL49 新古遺
19	須恵器	坏	128	4.5	7.5	長石・石英・赤母	灰黄緑	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	床面	90% PL49 新古遺
20	須恵器	坏	133	3.7	8.0	長石・石英・赤母	黄灰	普通	体部下端ナデ 底部一方のヘラ削り	竪内	70% PL49 新古遺
21	須恵器	坏	[133]	4.4	8.9	長石・石英・赤母	黄灰	普通	体部下端ナデ 底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り	床面	40% 新古遺
22	須恵器	高台付坏	[176]	7.1	[112]	長石・石英・赤母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	床面	40% 新古遺
23	須恵器	蓋	15.8	3.6	-	長石・石英・赤母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	70% 新古遺
24	須恵器	蓋	15.3	4.0	-	長石・石英・赤母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	80% PL49 新古遺
25	須恵器	盤	[233]	4.5	[150]	長石・石英・赤母・赤色粒子	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	床面	50% 新古遺
26	須恵器	鉢	[388]	[21.1]	-	長石・石英・赤母・赤色粒子	黄灰	普通	体部外面横位の平行印き 下半ヘラ削り 内面横位のナデ	床面	30% 新古遺
27	土師器	小形甕	[150]	[5.5]	-	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体部外面ナデ 内面横位のナデ	床面	5% 新古遺

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	結核率	4.4	1.3	1.1	320	粘板岩	上・下面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL57
Q3	結核率	5.1	1.7	1.0	594	粘板岩	上面研磨後縦割 下面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	PL57

第364号竪穴建物跡(第109図)

位置 調査区北部のC510区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 掘乱を多く受けているため南北軸は2.98mで、東西軸は2.94mしか確認できなかった。方形又は長方形と推定できる。主軸方向はN-3°-Wである。壁は遺存していない。

床 平坦で、中央部の一部分が踏み固められている。壁溝が北側、東側、南側の一部で確認された。

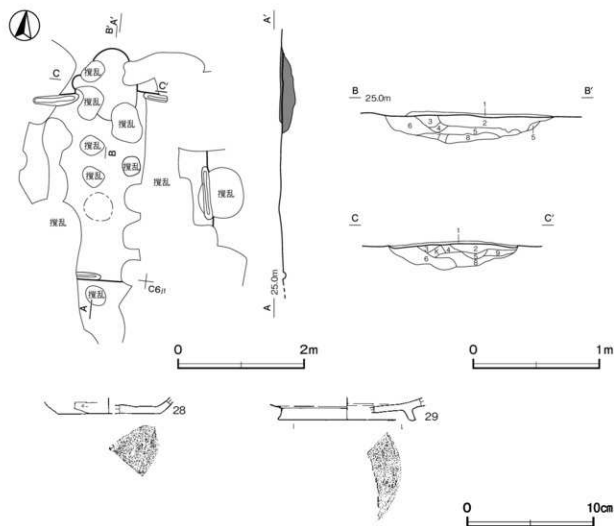
竪 北壁に付設されている。掘乱を受けているため火床部しか確認できなかった。火床部は長径111cm、短径96cmで楕円形に22cm掘りくぼめ、焼土ブロックやロームブロックを含む第2～9層を埋土している。火床面は赤変していない。

竪土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|-------------------------------|---|-----|-----------------------|
| 1 | 黒褐色 | 焼土ブロック多量、炭化物中量、粘土ブロック少量 | 5 | 灰褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 | 褐色 | 焼土ブロック多量、炭化物中量、粘土ブロック・ローム粒子微量 | 6 | 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 | 赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化物中量 | 7 | 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子少量 |
| 4 | にぶい黄褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック中量 | 8 | 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| | | | 9 | 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片6点(甕類)、須恵器片5点(坏1、盤1、甕類3)が出土している。28・29は、竪内からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第109図 第364号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第364号竪穴建物跡出土遺物観察表(第109図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
28	灰皿器	坏	-	(1.3)	[8.0]	長石・石英・雲母	灰青	普通煎り	体部下端手持ちへう煎り 底部不定方向のへう	竈内	10%新出産
29	灰皿器	盤	-	(1.9)	[11.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	底部回転へう煎り	竈内	10%新出産

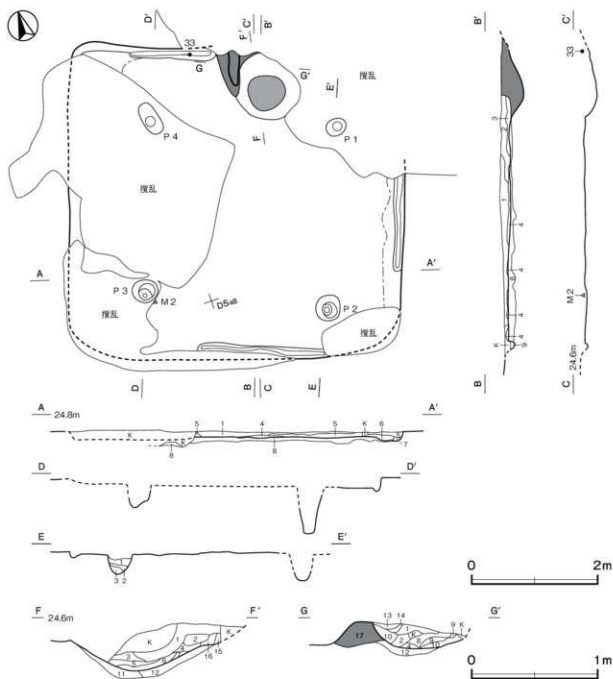
第365号竪穴建物跡(第110・111図 PL25)

位置 調査区北部のC 5j8区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 攪乱を多く受けているため、東西軸は5.32mで、南北軸は4.94mしか確認できなかった。方形と推定できる。主軸方向はN-20°-Eである。壁は高さ6~18cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、竈前方部から南壁にかけて踏み固められている。貼床は、全体を5cmほど掘り下げ、ロームブロックを含む第8層を埋土して構築されている。攪乱により北東コーナー部と西壁部が壊されている。壁溝が北壁・東壁・南壁の一部に巡っている。

竈 北壁に付設され、煙道と右袖部は攪乱により壊されているため、規模は焚口部から煙道部まで100cm、燃焼部幅は98cmしか確認できなかった。左袖部は地山の上に焼土粒子や炭化粒子を含む第17層を積み上げて構



第110図 第365号竪穴建物跡実測図

築されている。火床部は楕円形に6cm掘りくぼめ、ローム粒子や焼土粒子を含む第11・12層を埋土している。火床面は第11・12層上面で火熱を受けて赤変している。

遺土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|----------|--------------------------|
| 1 褐灰色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化物少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量、粘土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 | 11 にぶい褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量 | 12 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック微量 | 13 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 極暗褐色 | 焼土ブロック多量、灰中量 | 14 灰褐色 | 焼土粒子中量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック・灰多量 | 15 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 7 灰赤色 | 焼土粒子多量、灰少量、ローム粒子微量 | 16 黒褐色 | 焼土ブロック中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 8 灰褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 17 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 9 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | | |

ピット 4か所。P1～P4は深さ32～72cmで、支柱穴である。

ピット土層解説 (P2)

- 1 灰褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 3 灰褐色 ロームブロック・炭化物微量
2 暗褐色 ロームブロック少量

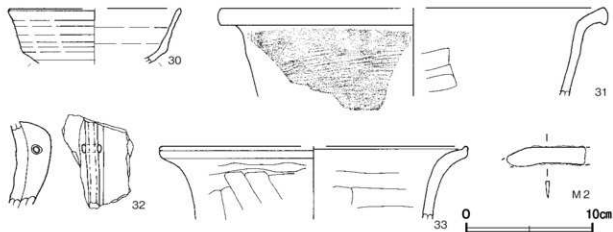
覆土 7層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。第8層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 6 黄褐色 ロームブロック多量
3 灰褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 7 黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
4 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量 8 にぶい褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片89点(坏4, 甕類85), 須恵器片38点(坏10, 高台付坏1, 蓋1, 双耳瓶1, 鉢1, 甕類24), 金属製品1点(鎌)が主に東部上層から出土している。33は北壁付近, M2はP3付近の床面からそれぞれ出土している。30～32は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第111図 第365号竪穴建物跡出土遺物実測図

第365号竪穴建物跡出土遺物観察表(第111図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
30	須恵器	高台付坏	[13.5]	(4.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部下端回転ヘラ削り	覆土中	10% 前治産
31	須恵器	鉢	[30.5]	(7.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部外面横位の平行叩き 内面横位のナデ	覆土中	5%
32	須恵器	双耳瓶	-	-	-	長石・石英	黄褐色	普通	把手部穿孔, 自然輪	覆土中	5% 前治産
33	土師器	甕	[24.2]	(5.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部外面ヘラナデ 内面横位のナデ	床面	5%

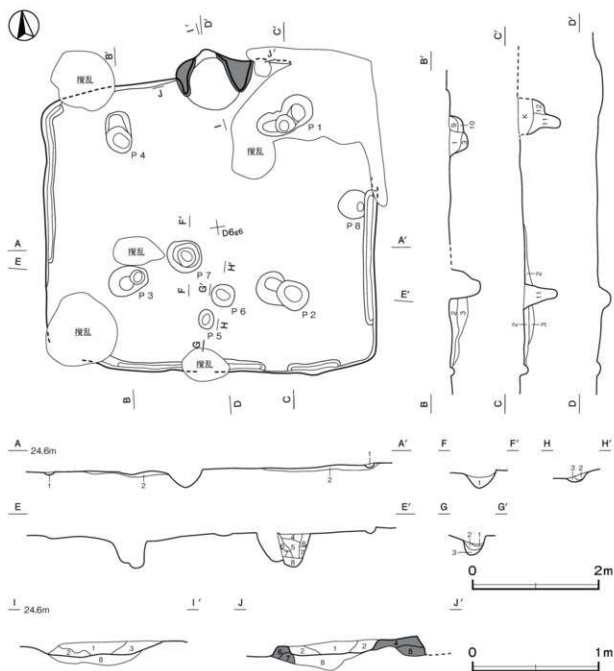
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	鎌	(6.3)	1.5	0.2	(7.1)	鉄	刃部先端・基部欠損 刃断三角	床面	PL58

第366号竪穴建物跡(第112・113図 PL26)

位置 調査区中央部のD65区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.21m, 短軸4.65mの長方形で, 主軸方向はN-7°-Eである。壁は高さ2cmである。

床 平坦な貼床である。貼床は, 中央部から南側を8～28cmほど掘り下げ, ロームブロックを含む第2・3



第112図 第366号竪穴建物跡実測図

層を埋土して構築されている。壁溝が北壁を除いて断続的に巡っている。

竪 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで98cmで、燃焼部幅は67cmである。袖部は地山の上にロームブロックや粘土ブロックを含む第4～7層を積みあげて構築されている。火床部は楕円形に9cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや粘土ブロックを含む第8層を埋土している。火床面は第8層上面で、赤変していない。煙道部は壁外に37cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竪土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 5 黒褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック微量 | 7 黒褐色 | 焼土ブロック中量、粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量 |

ピット 8か所。P1～P4は深さ31～60cmで主柱穴である。4か所とも重複して掘られていることから、建て替えが行われたとみられる。P5は深さ29cmで、南壁寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P8は深さ18～30cmで補助柱穴と思われる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 7 黒褐色 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック多量 | 8 黒褐色 ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量 | 9 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック中量 | 10 黒褐色 ロームブロック多量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量 | 11 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 6 黒褐色 ローム粒子中量 | 12 暗褐色 ロームブロック少量 |

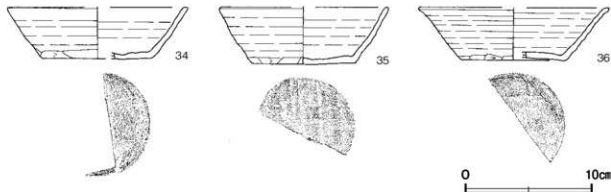
覆土 第1層は壁溝の覆土である。第2・3層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 3 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | |

遺物出土状況 土師器片65点(坏3、甕類62)、須恵器片31点(坏11、蓋5、甕類15)が主に床面や柱穴内から出土している。34～36は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。柱穴の配置から拡張が行われたと考えられる。



第113図 第366号竪穴建物跡出土遺物実測図

第366号竪穴建物跡出土遺物観察表(第113図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
34	須恵器	坏	[141]	4.1	[86]	長石・石英・ 灰岩母	灰黄緑	普通	体部下端手持ちヘラ割り 底部一方方向のヘラ割り	覆土中	50% 新治産
35	須恵器	坏	[134]	4.5	[83]	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ割り 底部一方方向のヘラ割り	覆土中	30%
36	須恵器	坏	[150]	4.2	[82]	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ割り 底部不定方向の手持 ちヘラ割り	覆土中	20%

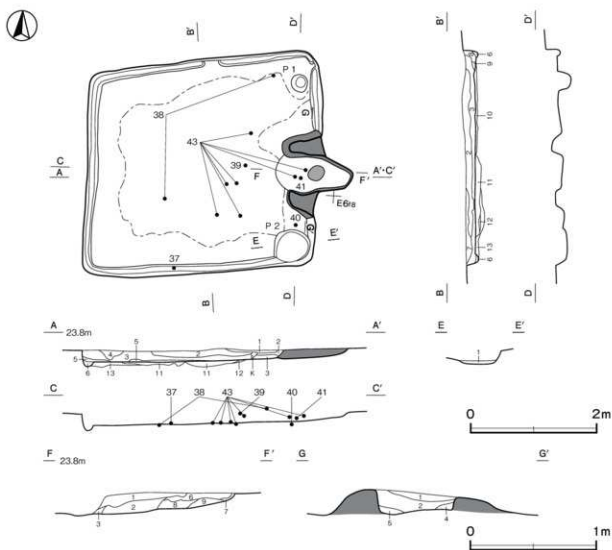
第371号竪穴建物跡(第114・115図 PL26・27)

位置 調査区中央部のE6e7区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.73m、短軸3.42mの長方形で、主軸方向はN-88°-Eである。壁は高さ18～20cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、竈前部から西壁に向かって踏み固められている。貼床は、ロームブロックを含む第10～13層を埋土して構築されている。壁溝が南東コーナー部を除いて巡っている。

竈 東壁のやや南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120cmで、燃焼部幅は53cmである。袖部は地山の上に粘土ブロックを含む層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に4cm掘りくぼめ構築さ



第114図 第37号竪穴建物跡実測図

れている。火床面は地山上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

電土層解説

- | | | |
|---------|--------------------------------|---------------------|
| 1 にぶい褐色 | 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 量、炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 灰褐色 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 |
| 4 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 8 にぶい褐色 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 9 灰褐色 |
| | | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量 |

ピット 2か所。P1・P2は深さ17cm・22cmで、性格は不明である。

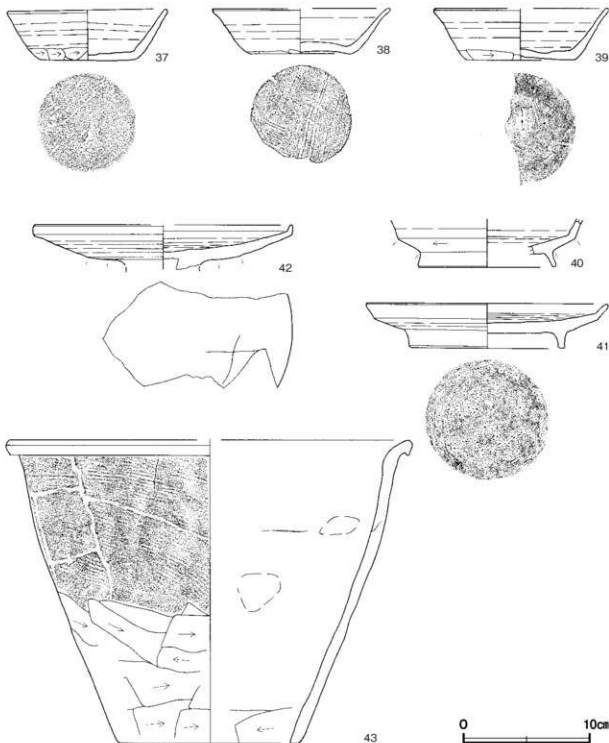
ピット土層解説 (P2)

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

覆土 9層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。第10～13層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------|----------|---------------------------|
| 1 灰 褐色 | 粘土ブロック多量、焼土ブロック・ローム粒子少量 | 6 暗 褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 暗 褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 | 7 暗 褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 黒 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗 褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 にぶい褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 9 黒 褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 にぶい褐色 | 粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 11 暗 褐色 | 粘土ブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| | | 12 明 褐色 | 粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 13 灰 褐色 | 粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |



第115図 第371号竪穴建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 177 点 (坏 4、甕類 173)、須恵器片 64 点 (坏 34、高台付坏 1、蓋 2、盤 3、高盤 1、甕類 21、甌 2)、土製品 1 点 (支脚)、瓦 1 点 (平瓦) が主に中央部上層から下層にかけて出土している。37 は南壁付近、40 は南東コーナー部、38 は中央部の床面からそれぞれ出土しており、38 は北東コーナー部の覆土上層から出土した破片と接合している。41 は甕の火床部から逆位の状態で出土している。43 は、中央部の床面から出土した土器片と甕の火床部から出土した破片が接合している。42 は、南東コーナー部の覆土中と床面から出土した土器片が接合している。41 は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。

第 371 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 115 図)

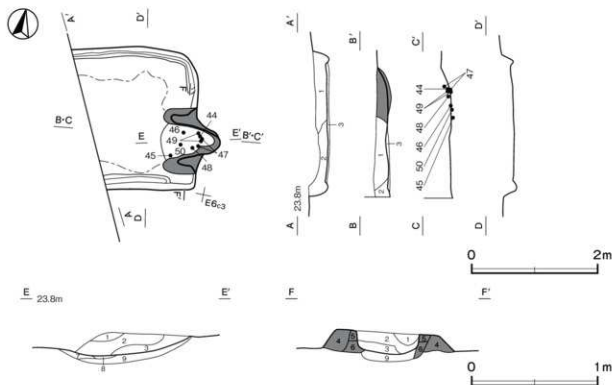
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
37	須恵器	坏	126	4.1	7.8	長石・石英・雲母	赭灰	普通	体部下端持ちへう割り 底部へう切痕を残す一方のへう割り	床面	70% PL49 新治産
38	須恵器	坏	[140]	3.6	8.1	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端持ちへう割り 底部二方向のへう割り	覆土上層	50% 新治産
39	須恵器	坏	[138]	4.1	8.8	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端持ちへう割り 底部へう切痕を残す局所的な方向のへう割り	覆土中	50% 新治産
40	須恵器	高台付坏	-	[3.8]	[10.8]	長石・石英・雲母	赭灰	普通	体部下端回転へう割り	床面	5%
41	須恵器	甕	191	3.6	124	長石・石英・雲母	灰黄	普通	ロクロナデ	甕内	95% PL49 新治産
42	須恵器	高盤	[205]	(3.5)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端回転へう割り 体部外面へう記号「×」	床面	10% 新治産
43	須恵器	甌	[316]	242	[144]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面構位の平行帯入 下半へう割り 内面へう割り 拍頭痕 輪痕	甕内	30% 新治産

第 375 号竪穴建物跡 (第 116・117 図 PL27・28)

位置 調査区中央部の E 6 b2 区。標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 130 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 西部が調査区域外に延びているため、南北軸は 2.26 m で、東西軸は 1.85 m しか確認できなかった。



第 116 図 第 375 号竪穴建物跡実測図

方形又は長方形と推定できる。主軸方向はN-80°-Eである。壁は高さ20-24cmで、ほぼ外傾している。
床 平坦な貼床で、竈の前方部から西壁に向かって踏み固められている。貼床は、粘土ブロックを含む第3層を埋土して構築されている。壁溝が南東コーナー部を除いて廻っている。
竈 東壁の南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで91cmで、燃焼部幅は52cmである。袖部は地山の上に焼土ブロックや粘土ブロック含む第4-6層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に6cm掘りくぼめ、焼土ブロックや粘土ブロックを含む第7-9層を埋土している。火床面は第7-9層上面で、赤変していない。煙道部は壁外に38cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

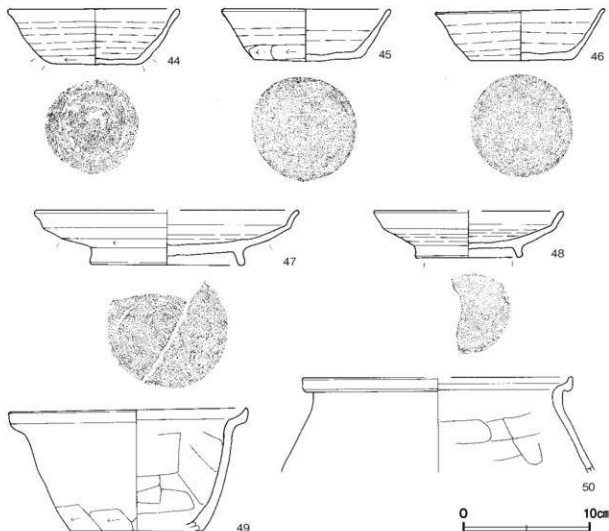
竈土層解説

- | | |
|------------------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化 | 5 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック多量 | 8 暗褐色 焼土ブロック少量、粘土ブロック微量 |
| | 9 黒色 焼土ブロック少量 |

覆土 2層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。第3層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 | 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック多量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量 | |



第117図 第375号竈穴建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片63点(甕類)、須恵器片57点(坏17、高台付坏2、蓋2、皿1、鉢1、甕類34)が主に竈周辺から出土している。44～50は、竈の火床部から煙道部にかけてそれぞれ出土している。44・46は逆位の状態、45は斜位の状態、48は正位の状態です。47・49・50は、竈内から出土した破片が接合している。これらの遺物は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。

第375号竪穴建物跡出土遺物観察表(第117図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考	
44	須恵器	坏	13.4	4.4	7.4	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	竈内	95% PL49 新古産	
45	須恵器	坏	13.5	4.2	8.5	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	竈内	90% PL49 新古産	
46	須恵器	坏	13.3	4.1	8.2	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ	竈内	80% PL49 新古産	
47	須恵器	甕	[209]	4.5	12.1	長石・石英・雲母	黄灰色	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	竈内	50% 新古産	
48	須恵器	甕	[150]	3.8	8.3	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ削り	竈内	50% 新古産	
49	須恵器	鉢	18.9	9.8	[107]	長石・石英・雲母・赤土粒子	にぶい黄褐色	不貞	体部下段ヘラ削り 内面横・斜位のナデ	二次	竈内	80% PL49 新古産
50	土師器	甕	[214]	(7.5)	—	長石・石英・雲母・赤土粒子	橙	普通	体部外面ナデ 内面横位のナデ	竈内	10%	

第376号竪穴建物跡(第118・119図 PL28)

位置 調査区中央部のD 6h5区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第377号竪穴建物跡を掘り込み、第378号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.24m、短軸5.02mの方形で、主軸方向はN-9°-Eである。上部は削平され壁は遺存していない。

床 平坦な貼床で、竈の前部から主柱穴の内側が踏み固められている。貼床は、全体を掘り下げ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第2～5層を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。袖部・煙道部は遺存状態が悪く火床部しか確認できなかった。火床部は楕円形に25cm掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロック・粘土ブロックを含む第1～9層を埋土している。火床面は第1層上面で火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

1 黒褐色 焼土ブロック中量	6 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量
2 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量	7 黒褐色 粘土粒子微量
3 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子少量	8 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量
4 黒褐色 焼土ブロック中量	9 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
5 黒褐色 粘土ブロック少量	

ビット 8か所。P1～P4は深さ42～64cmで主柱穴である。P5は深さ29cmで、南壁寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うビットと考えられる。P6～P8は深さ28～35cmで補助柱穴と思われる。

ビット土層解説(各ビット共通)

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量	6 暗褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 ロームブロック少量	7 黒褐色 ロームブロック微量
3 黒褐色 ロームブロック中量	8 黒褐色 粘土ブロック少量
4 黒褐色 ローム粒子中量	9 黒褐色 ローム粒子微量
5 黒褐色 ロームブロック多量	

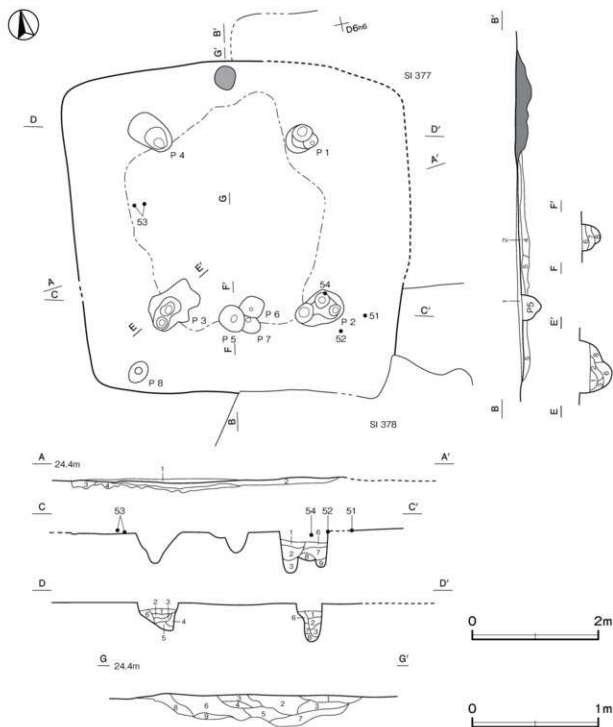
覆土 単一層である。遺存状態が悪く堆積状況は不明である。第2～5層は貼床の構築土である。

土層解説

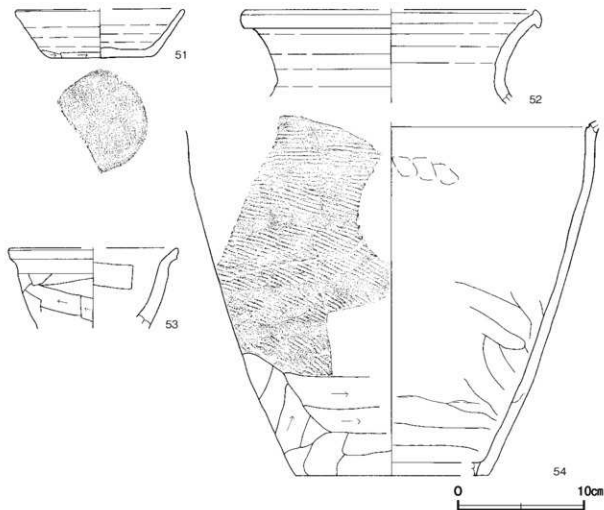
1 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量	ク微量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量	4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック	5 黒褐色 焼土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片 105 点 (坏 7, 小形甕 1, 甕類 97), 須恵器片 74 点 (坏 42, 高台付坏 4, 蓋 4, 高盤 1, 甕類 21, 甗 2) が主に南東部から出土している。51・52・54 は南東コーナー部, 53 は西部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。



第 118 図 第 376 号竪穴建物跡実測図



第119図 第376号堅穴建物跡出土遺物実測図

第376号堅穴建物跡出土遺物観察表 (第119図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
51	須恵器	環	[133]	3.9	7.8	長石・石英・ 炭素	灰黄緑	普通	体部下端手持ちヘラ削り ヘラ削り	底面一方の手持ち	床面	50% 新治産
52	須恵器	羹	[23.1]	(7.5)	-	長石・石英・ 炭素	黄灰	普通	胴部ロケロナデ		床面	10% 新治産
53	土師器	小形甕	[133]	(6.4)	-	長石・ 炭素	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り	内面ヘラナデ	床面	30%
54	須恵器	甕	-	(28.3)	[15.2]	長石・石英・ 炭素	黄灰	普通	体部外面横位の平行削き ナデ 裾部削 輪縁削	下位ヘラ削り 内面	床面	20% 新治産

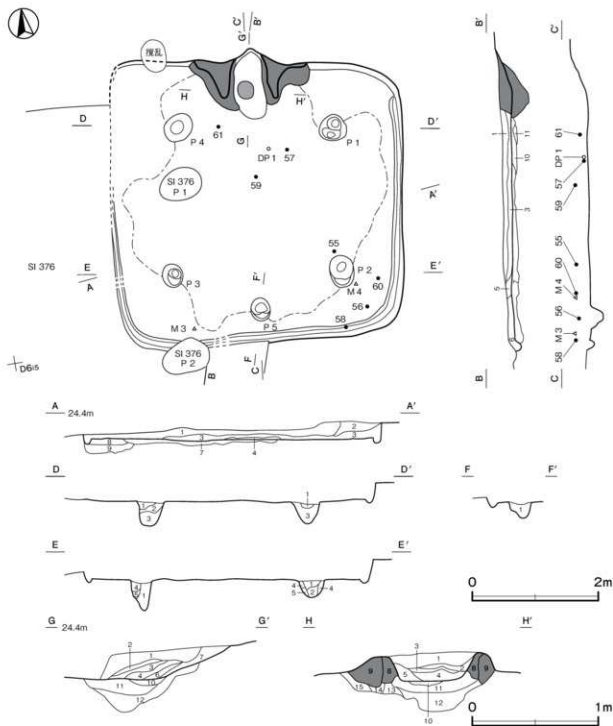
第377号堅穴建物跡 (第120・121図 PL28)

位置 調査区中央部のD 6h6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第376号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.60m、短軸4.38mの隅丸方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁は高さ25~32cmで、ほぼ直立している。

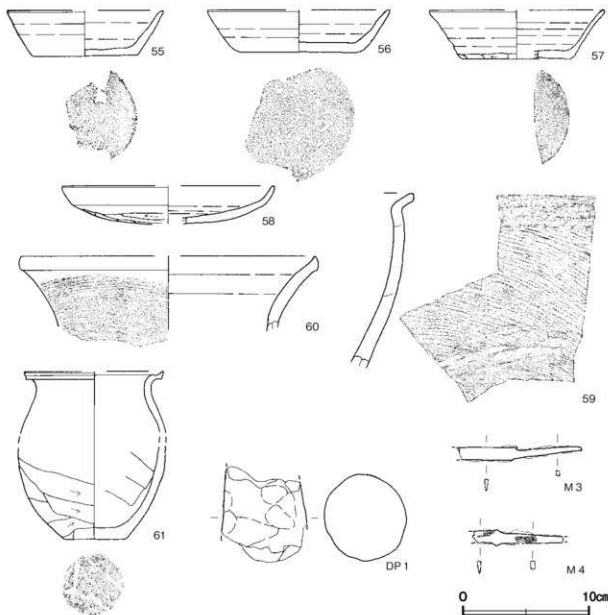
床 平坦な貼床で、竈の前部から内壁にかけて踏み固められている。貼床は、全体を8cmほど掘り下げ、焼



第 120 図 第 377 号竪穴建物跡実測図

土ブロックや粘土ブロックを含む第 7～11 層を埋土して構築されている。壁溝が北壁と西壁の一部を除いて巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 115cm で、燃焼部幅は 50cm である。袖部は第 11～15 層の上に焼土ブロックや粘土粒子を含む第 8・9 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 26cm 掘りくぼめ、焼土ブロックや粘土ブロックを含む第 10～12 層を埋土している。火床面は第 10・11 層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に 28cm 掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。



第121図 第377号竪穴建物跡出土遺物実測図

甕土層解説

- | | |
|------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック多量 | 9 黄褐色 粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 10 黒褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 11 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 12 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 13 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 6 黒褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 14 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 7 黒褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 15 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 8 黒褐色 焼土ブロック多量、粘土粒子中量、炭化粒子微量 | |

ビット 5か所。P1～P4は深さ32～46cmで主柱穴である。P5は深さ22cmで、南壁寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うビットと考えられる。

ビット土層解説（各ビット共通）

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 | 4 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック少量 | 5 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック中量 | |

覆土 6層に分層できる。壁際から流入した堆積状況から自然堆積である。第7～11層は貼床の構築土である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量・焼土ブロック・炭化粒子微量	7	黒褐色	焼土ブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	8	黒褐色	粘土ブロック中量・焼土ブロック微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量・炭化粒子微量	9	黒褐色	粘土ブロック多量
4	黒色	焼土ブロック中量・ロームブロック・炭化粒子少量	10	黒褐色	粘土ブロック中量・焼土ブロック微量
5	黒色	ロームブロック・焼土ブロック少量	11	黒褐色	粘土ブロック多量・焼土ブロック微量
6	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量			

遺物出土状況 土師器片 295点 (環17, 小形甕1, 甕類277), 須恵器片 112点 (環56, 高台付環2, 蓋5, 甕1, 鉢1, 甕類47), 土製品1点(支脚), 金属製品2点(刀子)が東部の上層から竈前方部の下層にかけて出土している。57・DP1は、竈前方部の床面からそれぞれ出土している。55・56・58・60・M4は南東コーナー部, 59は中央部, 61は竈前方部, M3は南壁付近の覆土中層からそれぞれ出土している。ほとんどの遺物は覆土中層から出土していることから埋没時に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。

第377号竪穴建物跡出土遺物観察表(第121図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
55	須恵器	環	[125]	3.7	[82]	長石・石英・赤鉄粉	灰黄	普通	底部一方の手持ちへう割り	覆土中層	40% 新治産
56	須恵器	環	[144]	3.4	[90]	長石・石英・赤鉄粉	にぶい黄橙	普通	底部不定方向の手持ちへう割り	覆土中層	50% 新治産
57	須恵器	環	[138]	2.9	[84]	長石・石英・赤鉄粉	灰	普通	体部下端手持ちへう割り 底部一方の手持ちへう割り	床面	30% 新治産
58	須恵器	甕	[168]	[31]	[120]	長石・石英・赤鉄粉	灰	普通	底部手持ちへう割り	覆土中層	20% 新治産
59	須恵器	鉢	-	13.9	-	長石・石英・赤鉄粉	にぶい黄橙	普通	体部斜位の平行引き 輪積痕 内面へう割	覆土中層	5%
60	須恵器	甕	[233]	[60]	-	長石・石英・赤鉄粉	灰	普通	口径部外面横位の平行引き	覆土中層	5%
61	土師器	小形甕	[110]	[13.4]	4.7	長石・石英・赤鉄粉	赤黒	普通	体部下へう割り 内面ナデ	覆土中層	60%

番号	種別	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP1	支脚	(7.7)	(6.9)	(6.0)	(32.0)	長石・石英	にぶい黄橙	指頭痕 上下欠損	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M3	刀子	(10.0)	1.1	0.3	(10.8)	鉄	刃部先端部欠損 刃部断面三角 基部断面四角形 両開	覆土中層	PL58
M4	刀子	(7.3)	1.0	0.4	(8.8)	鉄	刃部先端部欠損 刃部断面三角 基部断面 断面四角形 両開	覆土中層	

第379号竪穴建物跡(第122・123図 PL29)

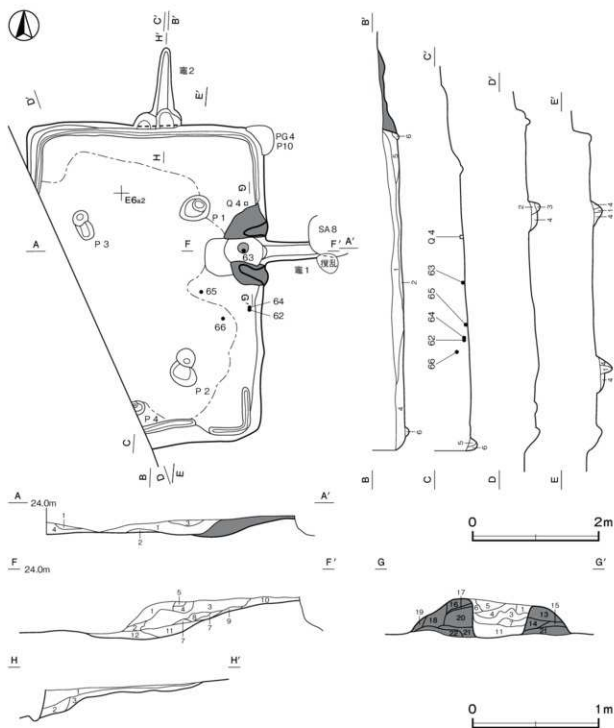
位置 調査区中央部のE6a2区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8号柱穴列, 第4号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 南西コーナー部が調査区域外に延びているが, 長軸5.03m, 短軸3.74mの長方形で, 主軸方向はN-89°-Eである。壁は高さ14~21cmで, ほぼ直立している。

床 平坦な床で, 竈の前方部から南壁にかけて踏み固められている。壁溝が北壁から西壁の半周と南壁の一部に巡っている。

竈 竈1は, 東壁のやや北寄りに付設されている。煙道部を第8号柱穴列に掘り込まれているため, 規模は焚口部から煙道部まで188cmしか確認できなかった。燃焼部幅は33cmである。袖部は地山の上に焼土ブロックや粘土ブロックを含む第13~22層を積み上げて構築されている。火床部は地山を若干掘りくぼめて利用している。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に84cmしか確認できなかったが, 火床面から緩やかに立ち上がっている。



第122図 第379号竈穴建物跡実測図

竈2は北壁の中央部に付設されている。煙道部のみが確認できた。煙道部は壁外に120cm掘り込まれ、緩やかに立ち上がっている。竈2の火床部と北壁際には、壁溝が巡っていることから、竈2から竈1へ作り替えられたものと思われる。

竈1土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック微量 | 8 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |

- 9 黒褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量
 10 黒褐色 焼土ブロック少量
 11 黒褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量
 12 黒褐色 粘土ブロック多量
 13 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量, 炭化粒子微量
 14 黒褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
 15 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量

- 16 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
 17 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック微量
 18 黒褐色 粘土ブロック中量
 19 黒褐色 粘土ブロック多量
 20 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量
 21 黒褐色 粘土ブロック多量
 22 黒褐色 粘土粒子中量

覆2土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量

- 2 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
 3 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化物微量

ピット 4か所。P1～P3は深さ32～46cmで主柱穴である。P4は深さ22cmで、南壁寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量
 2 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量
 3 黒褐色 粘土ブロック少量

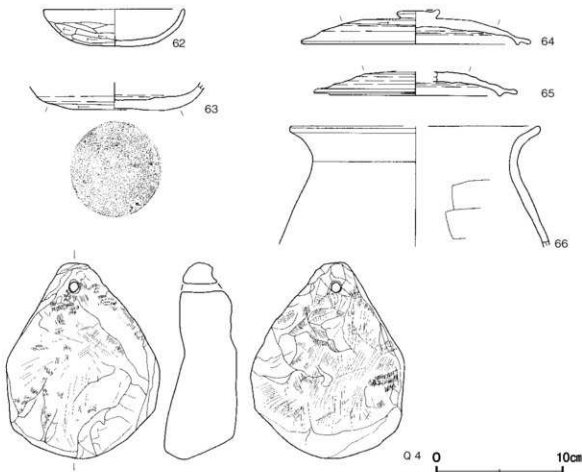
- 4 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量
 5 黒褐色 焼土ブロック少量
 6 黒褐色 粘土ブロック中量

覆土 6層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。第6層は礫溝の覆土である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

- 4 暗褐色 ロームブロック多量
 5 暗褐色 ロームブロック中量
 6 暗褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量



第123図 第379号竪穴建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 234 点 (坏 19, 蓋 2, 甕類 213), 須恵器片 23 点 (坏 6, 高台付坏 3, 蓋 7, 甕類 7), 石器 1 点 (温石) が主に南部の上層から下層にかけて出土している。62・64 は東壁付近, 65 は竈 1 の右袖前方部, Q 4 は竈 1 の左袖部付近の床面からそれぞれ出土している。63 は, 竈 1 の火床面から出土している。66 は, 東壁付近の中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀前葉に比定できる。

第 379 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 123 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
62	土師器	坏	111	3.0	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外面へう閉り 内面横ナデ	床面	70% PL49
63	須恵器	坏	-	(2.2)	7.2	長石・石英・赤褐色	黄褐色	普通	体部下縁回転へう閉り 底部回転へう閉り	火床面	30% 新治産
64	須恵器	蓋	181	2.8	-	長石・石英・赤褐色	ぶいぶい黄褐色	普通	天井部回転へう閉り	床面	80% PL49 新治産
65	須恵器	蓋	[161]	(2.2)	-	長石・石英・赤褐色	灰白	普通	天井部回転へう閉り	床面	20% 新治産
66	土師器	甕	[198]	(9.5)	-	長石・石英・赤褐色	橙	普通	体部外・内面横位のナデ	覆土中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 4	温石	15.5	12.3	5.8	1462.2	蛇紋岩	上・下面研磨面 一方からの穿孔	床面	PL57

第 384 号竪穴建物跡 (第 124 図 PL29)

位置 調査区南部の G 8e2 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 34 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北部は第 34 号溝に掘り込まれ, 南部が調査区域外に延びていることから, 東西軸は 5.21 m で, 南北軸は 2.92 m しか確認できなかったが, 方形又は長方形と推定される。壁は高さ 14 ~ 22cm で外傾している。

床 平坦な貼床で, 全体を 8cm ほど掘り下げ, ロームブロックや焼土ブロックを含む第 7 層を埋土して構築されている。壁溝が東壁と西壁を巡っている。

ピット 3 か所。P 1・P 2 は深さ 50cm・51cm で主柱穴と思われる。P 3 は深さ 19cm で, 性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

1 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	5 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量
3 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子中量

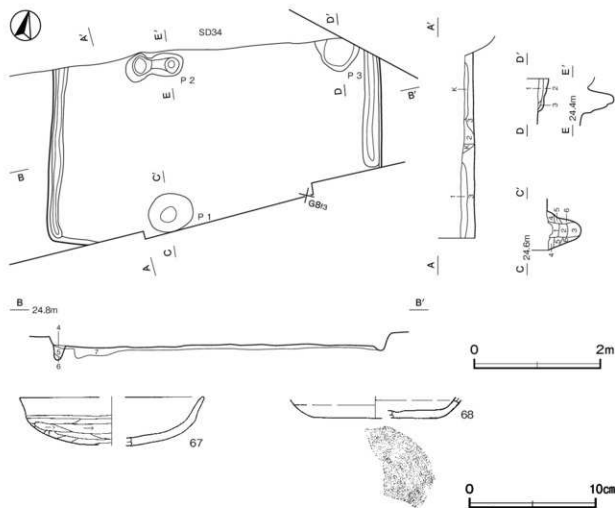
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックを含むことから埋め戻されている。第 7 層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量	5 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	6 暗褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック少量	7 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量
4 黒褐色	ローム粒子少量, 粘土ブロック微量		

遺物出土状況 土師器片 48 点 (坏 7, 蓋 1, 甕類 40), 須恵器片 13 点 (坏 5, 蓋 1, 甕類 7), 瓦 1 点 (平瓦) が主に中央部の上層から下層にかけて出土している。67・68 は, 覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 7 世紀末葉に比定できる。



第124図 第384号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第384号竪穴建物跡出土遺物観察表(第124図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
67	土師器	坏	[146]	(39)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい赤褐色	普通	体部外面へラ削り 内面横ナデ 黒色処理	覆土中	40%
68	須恵器	坏	-	(17)	[96]	長石・石英・ 雲母・赤色粘土	灰黄褐色	普通	底部回転へラ削り	覆土中	10% 表出産

第388号竪穴建物跡(第125・126図 PL29・30)

位置 調査区南部のG7e6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第33号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸351m、短軸320mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁は高さ13~21cmで、外傾している。

床 平坦な貼床で、地山を掘り下げロームブロックや焼土粒子を含む第11層を埋土して構築されている。壁溝が北壁から東壁、南壁側に半周、西壁側に一部巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで92cmで、燃焼部幅は48cmである。袖部は地山の上にロームブロックや焼土ブロック・粘土ブロックを含む第12~15層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に12cm掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第11層を埋土している。火床面は

第11層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ、緩やかに立ち上がっている。

覆土層解説

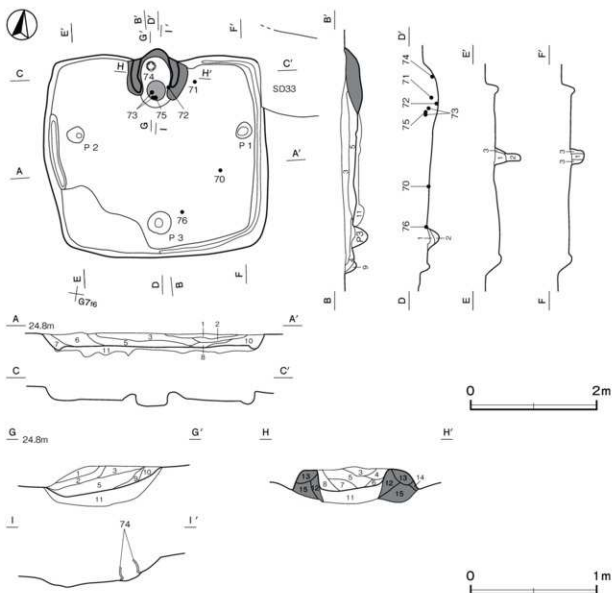
- | | | | |
|---------|--------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 10 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量 | 11 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 12 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子微量 | 13 暗褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 5 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物微量 | 14 褐色 | ロームブロック少量、炭化材微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量 | 15 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 7 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 | | |
| 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | | |
| 9 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | | |

ピット 3か所。P1・P2は深さ22cm・40cmで支柱穴である。P3は深さ19cmで、南壁寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|------------------|------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

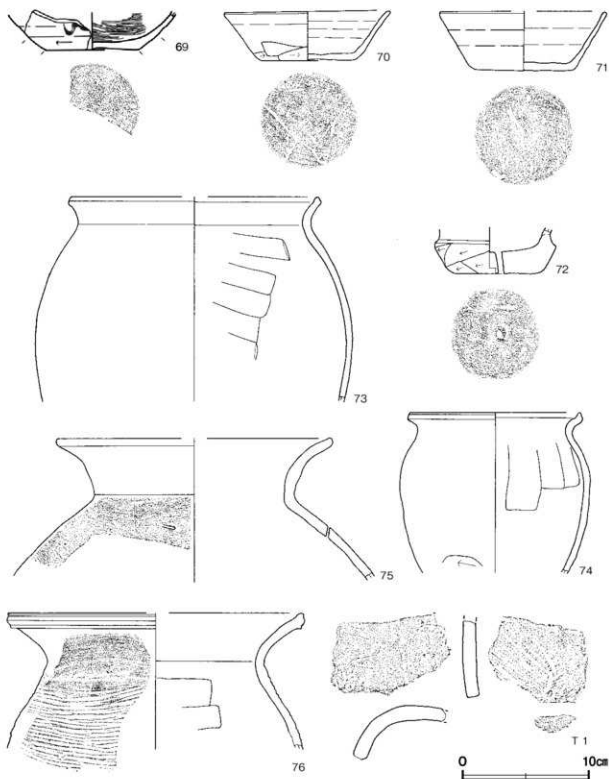
覆土 10層に分類できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。第11層は貼床の構築土である。



第125図 第388号堅穴建物跡実測図

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|------------------------|----|-----|-----------------------|
| 1 | 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量 | 7 | 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 | 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 10 | 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 5 | 黒褐色 | 焼土ブロック微量 | 11 | 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化材少量 | | | |



第 126 図 第 388 号竪穴建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片99点(坏4, 小形甕1, 甕類94), 須恵器片87点(坏51, 高台付坏2, 蓋3, 盤1, 高盤1, 埴鉢1, 甕類28), 瓦5点(丸瓦1, 平瓦4)が主に北部上層から下層にかけて出土している。70は東壁付近, 76は南壁付近, 71は竈右袖部付近の床面からそれぞれ出土している。71は逆位の状態で出土している。72は竈右袖部, 73・75は竈の火床面からそれぞれ出土している。74は竈内から逆位の状態で出土している。71・74は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定できる。

第388号竪穴建物跡出土遺物観察表(第126図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
69	土師器	坏	-	(3.0)	[7.3]	長石・石英・赤母	褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 外面磨き(口) 内面ヘラ削き 黒色炭埋 底部ヘラ削り後ナデ	覆土中	20% PL49
70	須恵器	坏	13.1	4.0	7.4	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り 二次焼成	床面	80% PL49 新古漬
71	須恵器	坏	[13.1]	4.8	8.0	長石・石英・赤母	灰黄褐	普通	体部下端ナデ 底部ヘラ削り板を残す一方の内面ヘラ削り	床面	60% 新古漬
72	須恵器	埴鉢	-	(3.7)	7.1	長石・石英・赤母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り 底部穿孔	竈右袖	30% 新古漬
73	土師器	甕	[19.6]	(16.3)	-	長石・石英・赤母	褐	普通	体部内面ヘラナデ ヘラ当て板	火床面	10%
74	土師器	小形甕	13.5	(12.8)	-	長石・石英・赤母	にぶい橙	普通	体部下位ヘラ削り 内面縦位のナデ	竈内	40%
75	須恵器	甕	[21.7]	(11.3)	-	長石・石英・赤母	灰黄褐	普通	体部外面横位の平行叩き 体部切り込み 内面磨き	火床面	5%
76	須恵器	甕	[23.4]	(10.9)	-	長石・石英・赤母	灰黄褐	普通	口縁部から体部にかけて横位の平行叩き 内面ヘラナデ	床面	5%

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴はか	出土位置	備考
T 1	瓦	丸瓦	(7.3)	4.3	(6.2)	長石・石英	灰	普通	凸面ヘラ削り 凹面希目直	覆土中	PL50

表10 奈良時代竪穴建物跡一覧表

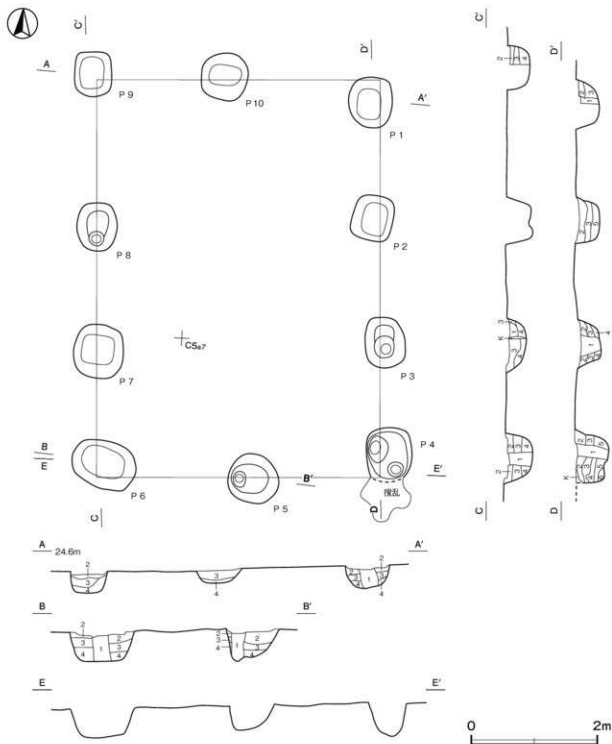
番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	階高	構造	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸(m)	高さ(cm)				柱穴	土間	ピト	竈				
353	F60h	N-0°	方 長方形	2.83 × (2.24)	15 ~ 21	平埋	一部	-	1	北東	-	-	人為	土師器, 須恵器, 土器	8世紀後葉	本跡→SD22
358	E63h	N-12°-E	長方形	4.54 × 4.08	-	平埋	一部	4	-	3	-	-	-	土師器, 須恵器, 金属製品	7世紀末葉	本跡→SD21
361	C5e8	N-3°-E	長方形	4.45 × 3.92	28 ~ 47	平埋	-	4	-	2	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土器	8世紀後葉	SK51・63 → 本跡
362	C5g9	N-13°-E	方 形	6.75 × 6.51	32 ~ 36	平埋	一部	4	1	6	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土器	8世紀中葉	本跡→SH21, SK14・33・54, SD7・28
364	C510	N-3°-W	方 長方形	2.98 × (2.94)	-	平埋	一部	-	-	-	北壁	-	-	土師器, 須恵器	8世紀後葉	
365	C518	N-29°-E	方 形	5.32 × [4.91]	6 ~ 18	平埋	一部	4	-	-	北壁	-	自然	土師器, 須恵器, 金属製品	8世紀後葉	
366	D615	N-7°-E	長方形	5.21 × 4.65	2	平埋	一部	4	1	3	北壁	-	-	土師器, 須恵器	8世紀中葉	
371	E6e7	N-88°-E	長方形	3.73 × 3.42	18 ~ 20	平埋	全部	-	-	2	東壁	-	自然	土師器, 須恵器, 土器	8世紀後葉	
375	E6b2	N-80°-E	長方形	2.96 × (2.94)	20 ~ 24	平埋	全部	-	-	-	東壁	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀後葉	SH130 → 本跡
376	D6b5	N-9°-E	方 形	5.24 × 5.02	-	平埋	-	4	1	3	北壁	-	-	土師器, 須恵器	8世紀後葉	SD77 → 本跡→SH28
377	D6b6	N-7°-E	隅丸方形	4.60 × 4.38	25 ~ 32	平埋	一部	4	1	-	北壁	-	自然	土師器, 須恵器, 土器, 金属製品	8世紀前葉	本跡→SH376
379	E6a2	N-80°-E	長方形	5.03 × 3.74	14 ~ 21	平埋	一部	3	1	-	東壁 北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土器	8世紀前葉	本跡→SA 8, PG 4
384	G8e2	-	方 長方形	5.21 × (2.92)	14 ~ 22	平埋	一部	2	-	1	-	-	人為	土師器, 須恵器, 土器	7世紀末葉	本跡→SD34
388	G7e6	N-10°-W	方 形	3.51 × 3.20	13 ~ 21	平埋	一部	2	1	-	北壁	-	自然	土師器, 須恵器, 瓦	8世紀後葉	本跡→SD33

(2) 掘立柱建物跡

第110号掘立柱建物跡 (第127・128図 PL46)

位置 調査区北部のC 5a7区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-3°-Wの南北棟である。規模は、桁行6.3m、梁行4.5mで、面積は28.35㎡である。柱間寸法は桁行が2.1m(7尺)の等間隔に配置され、北梁行は北妻から2.1m(7尺)、2.4m(8尺)、南梁行が2.4m(8尺)、2.1m(7尺)で柱筋は揃っている。



第127図 第110号掘立柱建物跡実測図

柱穴 10か所。P1～P10の平面形は隅丸長方形又は楕円形で、長径70～104cm、短径58～77cmである。深さは26～54cmで、掘方の断面は逆台形又はU字形である。第1層は柱痕跡、第2～6層は埋土である。

土層解説（各ピット共通）

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量	4 黒褐色 ロームブロック中量
2 黒褐色 ロームブロック少量	5 黒褐色 ローム粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック微量	6 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片11点（甕類）、須恵器片14点（坏5、高台付坏1、蓋2、甕類6）が出土している。77はP3、78はP2の埋土から出土している。その他P1～P4、P6・P7・P9から土師器片、須恵器片が出土しており、いずれも細片である。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第128図 第110号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第110号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第128図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
77	須恵器	坏	[128]	(29)	-	長石・石英・炭粒	灰黄	普通	口コナナゲ	P3埋土	5%
78	須恵器	坏	[126]	(42)	-	長石・石英・炭粒	灰黄緑	普通	体部下コナナゲ	P2埋土	5%

第115A号掘立柱建物跡（第129図 PL46）

位置 調査区中央部のE6j0区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第115B号掘立柱建物、第21号溝に掘り込まれている。

規模と構造 北西側が第21号溝に掘り込まれているが、周辺で確認できた掘立柱建物跡の柱穴の配置から東側桁行4間、南側梁行が2間の側柱建物跡と推定できる。桁行方向がN-4°-Wの南北棟である。確認できた規模は、桁行5.4m、梁行3.6mで、面積は19.44㎡と推定できる。柱間寸法は、東側桁行が北妻から1.5m（5尺）、2.1m（7尺）、0.9m（3尺）、0.9m（3尺）、梁行が1.8m（6尺）で、柱筋は揃っている。P3の底面で、柱のあたりが確認できた。

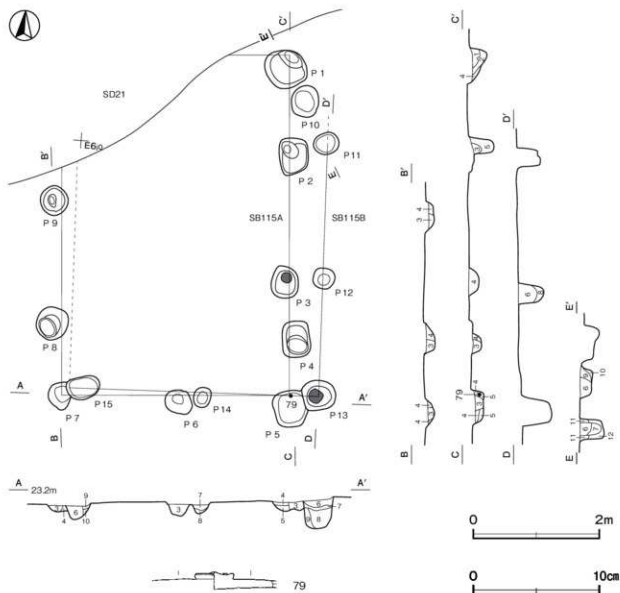
柱穴 10か所。平面形は楕円形又は円形で、長径32～70cm、短径26～59cmである。深さ14～47cmで、掘方の断面はU字形又は逆台形である。第1～3層は柱抜き取り後の覆土、第4・5層は埋土である。またP5はP13、P7はP15に掘り込まれている。P10は補助柱穴である。

土層解説（P1～P9共通）

1 黒褐色 粘土ブロック少量	4 黒褐色 粘土ブロック中量
2 暗褐色 ロームブロック少量	5 黒褐色 粘土ブロック少量
3 黒褐色 ロームブロック少量	

遺物出土状況 土師器片1点（甕類）、須恵器片1点（蓋）がP5・P7から出土している。79はP5の埋土から出土している。

所見 本跡は第115B号掘立柱建物に柱穴を掘り込まれ、桁行方向がほぼ同じであることから、第115B号掘立柱建物へ建て替えられていると考えられる。時期は重複関係や出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第129図 第115A・115B号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第115A号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第129図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
79	灰壺	壺	-	(1.4)	-	灰石・石英・炭素	灰黄緑	普通	天井部回転ヘラ削り	P5埋土	10%新出産

第115B号掘立柱建物跡（第129図 PL46）

位置 調査区中央部のE6j0区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第115A号掘立柱建物跡を掘り込み、第21号溝に掘り込まれている。

規模と構造 北西側が第21号溝に掘り込まれているが、周辺で確認できた掘立柱建物跡の柱穴の配置から東側桁行2間、南側梁行が2間の個柱建物跡と推定できる。桁行方向が $N-2^{\circ}-W$ の南北棟である。確認できた規模は、桁行3.9m、梁行3.9mで、面積は15.21㎡と推定できる。柱間寸法は、東側桁行が北妻から2.1m（7尺）、1.8m（6尺）、南側梁行が西妻から2.1m（7尺）、1.8m（6尺）で、柱筋は揃っている。P13の底面でも、柱のあたりを確認した。

柱穴 5か所。平面形は楕円形又は円形で、長径36～53cm、短径33～53cmである。深さ12～47cmで、掘方の断面はU字形又は逆台形である。第6～8層は柱抜き取り後の覆土、第9～12層は埋土である。

土層解説 (P11～P15共通)

6 黒褐色	ロームブロック少量	10 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック微量
7 にくい褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子微量	11 灰褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
8 黒褐色	ロームブロック微量	12 黒褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック微量
9 暗褐色	粘土ブロック少量		

遺物出土状況 土師器片2点(坏2)、須恵器片3点(坏1、甕類2)がP10・P15から出土している。細片のため図示できない。

所見 第115A号掘立柱建物跡の柱穴を掘り込んでいることや桁行方向がほぼ同じことから建て替えられていると考えられる。時期は、出土土器から判断できないが、重複関係から8世紀前葉と考えられる。

第117号掘立柱建物跡 (第130・131図 PL46)

位置 調査区中央部のE6c6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-9°-Eの南北棟である。規模は、桁行6.9m、梁行4.2mで、面積は28.98㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から21m(7尺)、27m(9尺)、21m(7尺)、梁行が21m(7尺)で、柱筋は揃っている。

柱穴 10か所。平面形は楕円形又は円形で、長径41～51cm、短径32～46cmである。深さ23～60cmで、掘方の断面はU字形である。第3層は柱痕、第1・2・10～12層は柱抜き取り後の覆土、第4～9層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

1 黒褐色	粘土粒子少量	7 黒褐色	粘土ブロック微量
2 黒褐色	粘土粒子中量	8 黒褐色	粘土ブロック中量
3 黒褐色	粘土粒子微量	9 暗褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量
4 黒褐色	ロームブロック中量	10 黒褐色	ロームブロック微量
5 黒褐色	粘土ブロック微量	11 暗褐色	ロームブロック中量
6 黒褐色	粘土ブロック少量	12 暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片4点(坏1、甕類3)、須恵器片6点(蓋1、甕類5)がP5・P7～P10から出土している。80はP10の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器と重複関係から8世紀前葉と考えられる。



第130図 第117号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第117号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第130図)

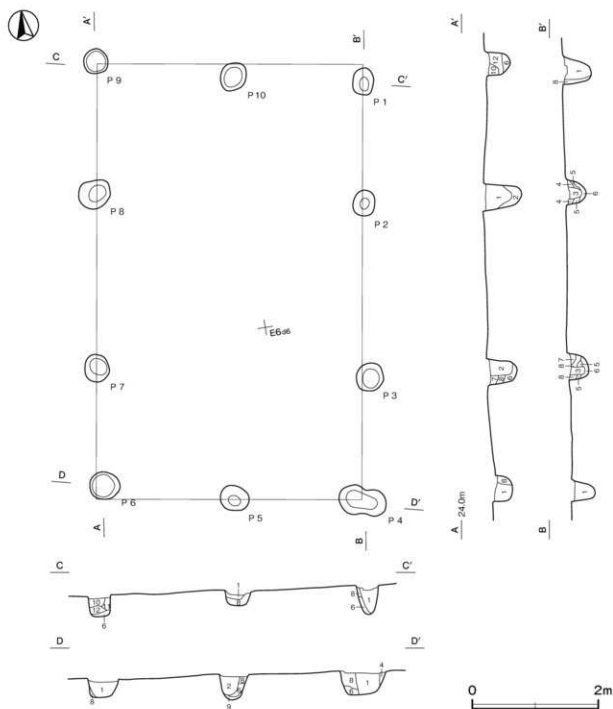
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
80	須恵器	壺	[165]	(1.8)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	天井部回転へう閉り		P10 覆土中	5%

第118号掘立柱建物跡 (第132図 PL46)

位置 調査区中央部のC5e6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第119号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-87°-Wの東西棟である。規模は、桁行5.7m、



第 131 図 第 117 号掘立柱建物跡実測図

梁行 3.3 m で、面積は 18.81 m² である。柱間寸法は北平が西妻から 2.1 m (7 尺)、1.8 m (6 尺)、1.8 m (6 尺)、南平が 1.8 m (6 尺)、2.1 m (7 尺)、1.8 m (6 尺)、西梁行が 1.5 m (5 尺)、1.8 m (6 尺)、東梁行が 1.8 m (6 尺)、1.5 m (5 尺) で柱筋は揃っている。P 1 ~ P 10 の底面で柱のあたりを確認した。

柱穴 10 か所。平面形は隅丸方形又は隅丸長方形で、長径 72 ~ 94 cm、短径 68 ~ 91 cm である。深さ 43 ~ 69 cm で、掘方の断面は逆台形又は U 字形である。第 1 層は柱痕跡、第 2 ~ 9 層は埋土である。

土層解説 (各ビット共通)

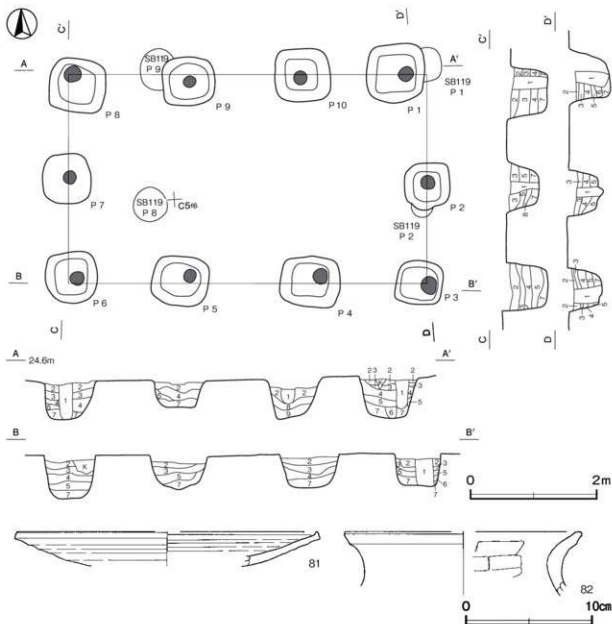
- | | | | |
|-------|-----------|--------|-----------|
| 1 黒色 | ロームブロック微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 麻暗褐色 | ロームブロック少量 |

- 5 黒褐色 ローム粒子少量
6 黒色 ローム粒子微量
7 黒暗褐色 ロームブロック微量

- 8 黒褐色 ロームブロック少量
9 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片 25 点 (甕類), 須恵器片 30 点 (坏5, 蓋3, 高盤1, 甕類21) が P1 ~ P6・P8・P10 から出土している。81 は P6, 82 は P4 の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀後葉と考えられる。



第 132 図 第 118 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 118 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 132 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
81	須恵器	高甕	[239]	(28)	-	長石・石英・雲母	赭灰	普通	口クロナデ		P 6 覆土中	5%
82	土師器	甕	[188]	(3.0)	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	口縁部外面横位のナデ 内面横位のナデ		P 4 覆土中	5%

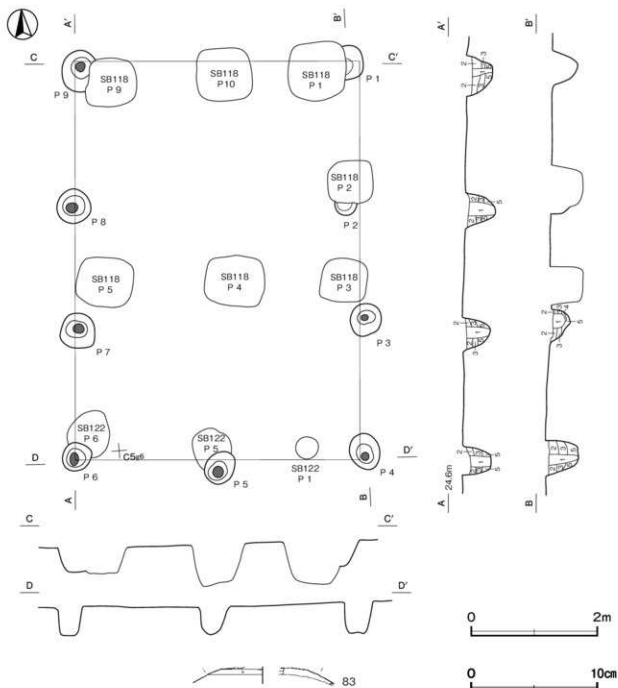
第119号掘立柱建物跡 (第133図 PL46)

位置 調査区中央部のC56区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第122号掘立柱建物跡を掘り込み、第118号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-5°-Eの南北棟である。規模は、桁行6.3m、梁行4.5mで、面積は28.35㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から2.4m(8尺)、1.8m(6尺)、2.1m(9尺)、南梁行が2.4m(10尺)、2.1m(9尺)で柱筋は揃っている。P3~P9の底面で、柱のあたりを確認した。

柱穴 9か所。平面形は楕円形又は円形で、長径35~66cm、短径47~54cmである。深さ32~50cmで、掘方の断面はU字形である。第1層は柱痕跡、第2~5層は埋土である。



第133図 第119号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片9点(甕類), 須恵器片4点(蓋1, 甕類3)がP1・P3~P5から出土している。83は確認面から出土している。

所見 時期は, 出土土器と重複関係から8世紀後葉以前と考えられる。

第119号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第133図)

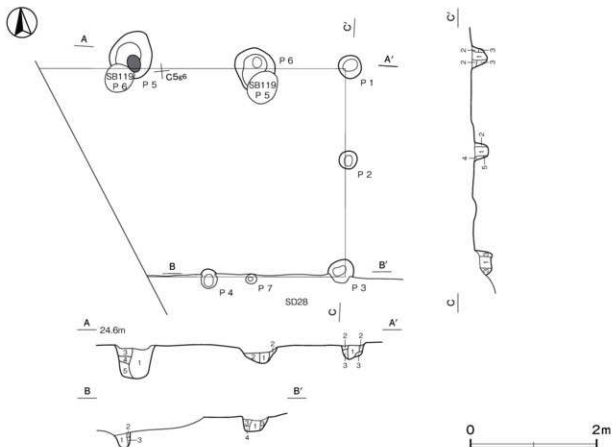
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
83	須恵器	蓋	-	(1.4)	-	粘土・石灰・炭粉・赤色粒子	黄灰	普通	天井部回転へつ削り 内面潤滑	確認面	10% 出土率

第122号掘立柱建物跡(第134図)

位置 調査区北部のC5g6区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第119号掘立柱建物, 第28号溝に掘り込まれている。

規模と構造 南西部が調査区域外に延びていることから, 梁行は3.3mで, 桁行は4.8mしか確認できなかった。側柱建物跡と考えられる。桁行方向はN-86°-Wと推定される。柱間寸法は桁行が東妻から1.5m(5尺), 1.8m(6尺), 東側梁行が1.5m(5尺), 1.8m(6尺)で柱筋は揃っている。P5の底面で, 柱のあたりを確認した。



第134図 第122号掘立柱建物跡実測図

柱穴 7か所。平面形は楕円形又は円形で、長径18～66cm、短径16～58cmである。深さ22～52cmで、掘方の断面はU字形又は逆台形である。第1層は柱痕跡、第2～5層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 灰褐色 ロームブロック少量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量 | |

遺物出土状況 須恵器片5点(坏2, 甕類3)が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器や重複関係から8世紀後葉以前と考えられる。

第124号掘立柱建物跡 (第135図 PL46)

位置 調査区北部のC 5a8区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第125号掘立柱建物に掘り込まれている。

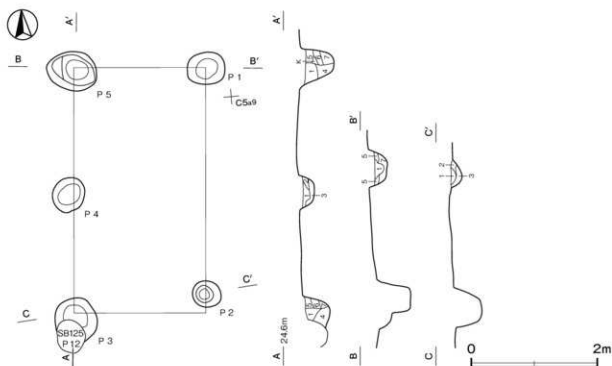
規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-5°-Eの南北棟である。規模は、桁行3.9m、梁行2.1mで、面積は8.19㎡である。柱間寸法は北妻から桁行が2.1m(7尺)、1.8m(6尺)、梁行が2.1m(7尺)で柱筋は揃っている。

柱穴 5か所。平面形は楕円形又は円形で、長径46～83cm、短径42～66cmである。深さ17～55cmで、掘方の断面はU字形である。第1～4層は柱抜き取り後の覆土、第5～7層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量 | 7 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック微量 | |

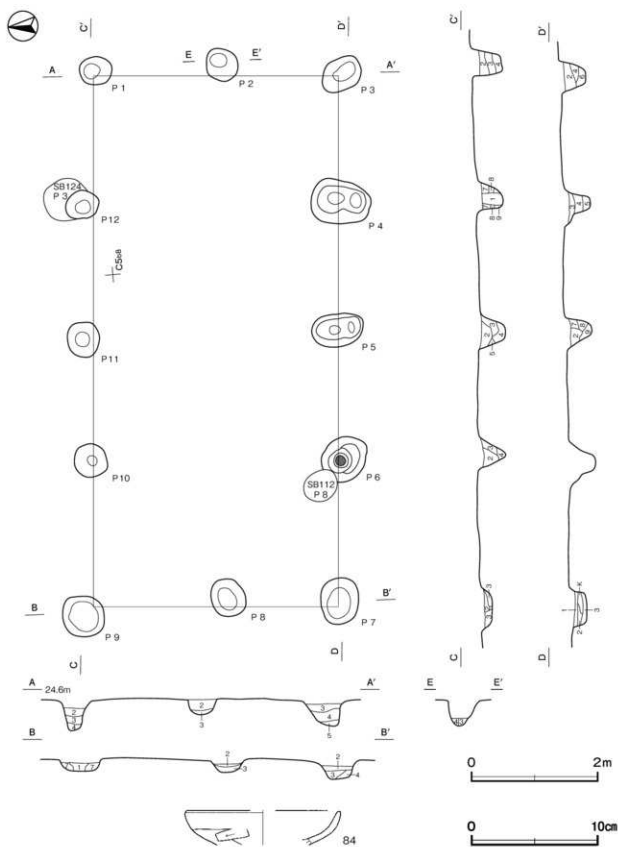
所見 東側に柱穴が延びると考えれば東西棟となる可能性もある。時期は、出土土器はないが第125号掘立柱建物に掘り込まれていることから8世紀前葉以前と考えられる。



第135図 第124号掘立柱建物跡実測図

第 125 号掘立柱建物跡 (第 136 図 PL46)

位置 調査区北部の C 5 b7 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 136 図 第 125 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第124号掘立柱建物跡を掘り込み、第112号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行4間、梁行2間の棚柱建物跡で、桁行方向がN-85°-Wの東西棟である。規模は、桁行8.4m、梁行3.9mで、面積は32.76㎡である。柱間寸法は西妻から桁行が2.4m（8尺）、1.8m（6尺）、2.1m（7尺）、2.1m（7尺）、梁行が2.1m（7尺）、1.8m（6尺）で柱筋は揃っている。P6の底面で、柱のあたりを確認した。

柱穴 12か所。平面形は楕円形又は円形で、長径50～94cm、短径44～68cmである。深さ18～49cmで、掘方の断面はU字形である。第1層が柱痕跡、第2～6層は柱抜き後の覆土、第7～9層は埋土である。

土層解説（各ピット共通）

1 黒色	ロームブロック微量	6 黒褐色	ロームブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック微量	7 暗褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ロームブロック少量	8 灰褐色	ロームブロック少量
4 黒色	ロームブロック微量	9 黒褐色	ロームブロック少量
5 黒色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師器片2点（坏、甕類）、須恵器片1点（甕類）がP1から出土している。84はP1の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器と重複関係から8世紀前葉以降と考えられる。

第125号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第136図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
84	土師器	坏	[122]	[28]	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	体部外面へラ削り	P1覆土中	5%

第130号掘立柱建物跡（第137図）

位置 調査区中央部のE6b2区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第375号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と構造 南西部が調査区域外に延びているため、東平の柱穴3か所、北梁2か所しか確認できなかったが、桁行方向がN-4°-Eの南北棟と推定できる。確認できた規模は、桁行3.6m、梁行1.8mである。柱間寸法は桁行が1.8m（6尺）の等間隔で柱筋が揃っている。梁行が1.8m（6尺）である。

柱穴 4か所。平面形は楕円形又は円形で、長径45～65cm、短径43～55cmである。深さ29～47cmで、掘方の断面はU字形である。第1～3層は柱抜き後の覆土、第4・5層は埋土である。

土層解説（各ピット共通）

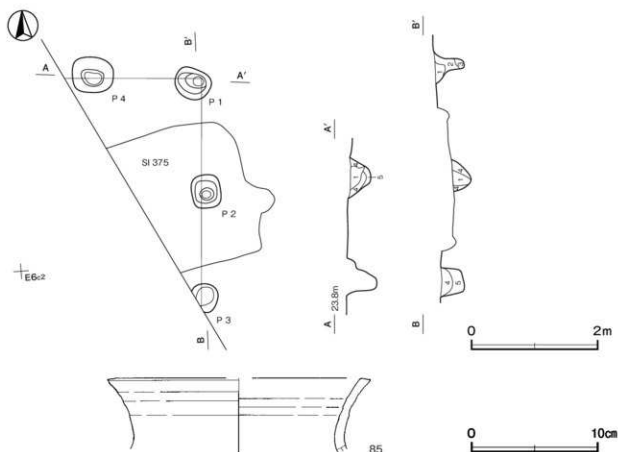
1 黒褐色	焼土ブロック少量	4 黒色	粘土ブロック中量
2 黒褐色	粘土ブロック多量、焼土ブロック微量	5 黒褐色	粘土ブロック少量
3 黒褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック微量		

遺物出土状況 土師器片3点（甕類）、須恵器片5点（甕類）が出土している。85は、P1の覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から8世紀後葉以前に比定できる。

第130号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第137図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
85	須恵器	甕	[196]	[60]	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	ロケロナデ	P1覆土中	5%



第137図 第130号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

表11 奈良時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数		規模	面積 (㎡)	柱間寸法		柱		柱穴	深さ(cm)	主な出土遺物	時期	備考
			形×梁間	桁×梁			間幅(m)	梁間(m)	構造	柱穴数					
110	C5a7	N-3°-W	3×2	6.3×4.5	28.35	2.1	2.1~2.4	欄柱	10	楕円形 溝丸長方形	26~54	土師器、須恵器	8世紀後半		
115 A	E6j0	N-4°-W	4×2	5.4×3.6	19.44	0.9~2.1	1.8	欄柱	10	円形 楕円形	14~47	土師器、須恵器	8世紀前半	本跡→SB115 B、 SD21	
115 B	E6j0	N-2°-W	2×2	3.9×3.9	15.21	1.8~2.1	1.8~2.1	欄柱	5	円形 楕円形	12~47	土師器、須恵器	8世紀前半	SH115 A→本跡 →SD21	
117	E6c6	N-9°-E	3×2	6.9×4.2	28.98	2.1~2.7	2.1	欄柱	10	円形 楕円形	23~60	土師器、須恵器	8世紀前半		
118	C3e6	N-87°-W	3×2	5.7×3.3	18.81	1.8~2.1	1.5~1.8	欄柱	10	溝丸方形 溝丸長方形	43~69	土師器、須恵器	8世紀後半	SB119→本跡	
119	C5f6	N-5°-E	3×2	6.3×4.5	28.35	1.8~2.4	2.1~2.4	欄柱	9	円形 楕円形	32~50	土師器、須恵器	8世紀後半 以降	SB122→本跡 →SH118	
122	C5g6	N-86°-W	-	4.8×3.3	-	1.5~1.8	1.5~1.8	欄柱	7	円形 楕円形	22~52	須恵器	8世紀後半 以降	本跡→SB119、 SD28	
124	C5a8	N-5°-E	2×1	3.9×2.1	8.19	1.8~2.1	2.1	欄柱	5	円形 楕円形	17~55	8世紀前半 以降	本跡→SB125		
125	C5b7	N-85°-W	4×2	8.4×3.9	32.76	1.8~2.4	1.8~2.1	欄柱	12	円形 楕円形	18~49	土師器、須恵器	8世紀前半 以降	SB124→本跡 →SH112	
130	E6i2	N-4°-E	-	3.6×1.8	-	1.8	1.8	-	4	円形 楕円形	29~47	土師器、須恵器	8世紀後半 以降	本跡→SI375	

(3) 大型円形土坑

第1号大型円形土坑 (第138図 PL48)

位置 調査区南部のG7a7区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 2.95 m, 短径 2.66 m の楕円形で、深さ 130cm の掘り鉢状である。底面は径 1.12 m の円形で、中央部に深さ 36cm の掘り込みを有している。長径方向は N-37°-E で、壁は外傾している。

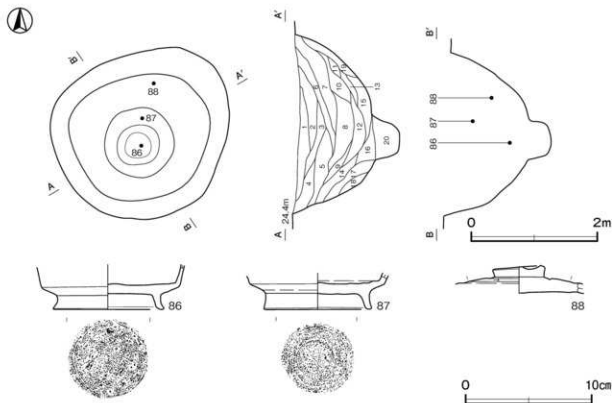
覆土 20層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 11 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック少量 | 12 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、粘土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化材微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化材微量 | 15 暗褐色 | 粘土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 |
| 6 暗褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック微量 | 16 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 17 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・焼土粒子微量 | 18 黒褐色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子少量 |
| 9 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・細礫微量 | 19 暗褐色 | 炭化材・ロームブロック少量、粘土ブロック微量 |
| 10 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子微量 | 20 黒褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片 5 点 (甕類), 須恵器片 13 点 (高台付杯 2, 蓋 4, 高盤 2, 甕類 5) が出土している。86 は覆土下層, 87・88 は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 底面に窪みを持つ掘り鉢状の大型の土坑である。時期は、出土土器から 8 世紀後葉と考えられる。



第 138 図 第 1 号大型円形土坑・出土遺物実測図

第 1 号大型円形土坑出土遺物観察表 (第 138 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
86	須恵器	高台付杯	-	(3.5)	8.7	長石・石英	灰黄褐色	普通	底部回転へう張り	覆土下層	50%
87	須恵器	高台付杯	-	(2.9)	8.4	長石・石英・苦母	灰	普通	底部回転へう張り	覆土中層	80% 粘土質
88	須恵器	蓋	-	(2.2)	-	長石・石英	暗灰黄	普通	天井部回転へう張り	覆土中層	10%

(4) 土坑

第14号土坑 (第139図)

位置 調査区北部のC 5g8区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第362号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.78m、短径0.67mの楕円形で、長径方向はN-14°-Eである。深さは30cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

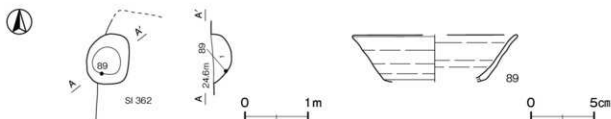
覆土 単一層である。ローム粒子が多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片2点(甕類)、須恵器片1点(坏)が出土している。89は覆土下層から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から8世紀後葉に比定される。



第139図 第14号土坑・出土遺物実測図

第14号土坑出土遺物観察表 (第139図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
89	須恵器	坏	110	137	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	ロケロナダ	覆土下層	29% 新治産

第44号土坑 (第140図 PL48)

位置 調査区中央部のE 6b8区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

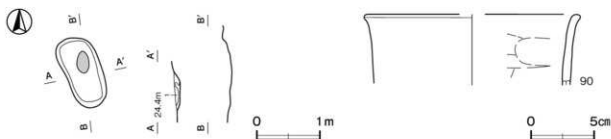
規模と形状 長径1.17m、短径0.58mの楕円形で、長径方向はN-17°-Wである。深さは12cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。焼土ブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 焼土ブロック中量

2 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量



第140図 第44号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片2点(甕類)、須恵器片3点(鉢1、甕類2)が出土している。90は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀代に比定される。

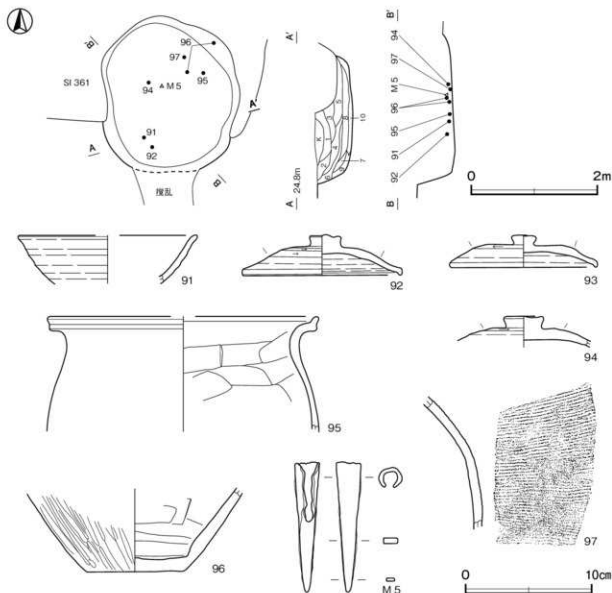
第44号土坑出土遺物観察表(第140図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
90	須恵器	鉢	[16.8]	(5.6)	-	長石質母	灰白	普通	体部内面磨ナデ	覆土中	5%

第51号土坑(第141図)

位置 調査区北部のC568区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第361号堅穴建物に掘り込まれている。



第141図 第51号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長径 2.48 m, 短径 2.02 m の楕円形で、長径方向は N - 2° - W である。深さは 59cm で、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 10 層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	6 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
3 黒色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	8 極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
4 極暗褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子中量、ロームブロック少量	9 黒褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	10 に近い褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片 80 点 (坏 3, 甕類 77), 須恵器片 86 点 (坏 19, 蓋 8, 高盤 2, 甕類 56, 瓶 1), 金属製品 1 点 (石突) が出土している。94・M5 は中央部, 95～97 は北部, 91・92 は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。93 は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から 8 世紀後葉に比定される。

第 51 号土坑出土遺物観察表 (第 141 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
91	須恵器	坏	[140]	[39]	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	ロクロナデ	覆土下層	5%
92	須恵器	蓋	125	3.2	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	90% 新治産
93	須恵器	蓋	114	2.6	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	40% 新治産
94	須恵器	蓋	-	[25]	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	30% 新治産
95	土師器	甕	[213]	(9.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ナデ 内面横位・斜位のナデ	覆土下層	10%
96	土師器	甕	-	(6.6)	[7.4]	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	体部下位ヘラ磨き 内面横位のナデ	覆土下層	5%
97	須恵器	甕	-	(10.4)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面横位の平行磨き	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M5	石突	102	20	1.6	320	鉄	袋部外形内形 先端尖る	覆土下層	PL58

第 63 号土坑 (第 142 図)

位置 調査区北部の C 5 7 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 361 号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 2.55 m, 短軸 2.24 m の隅丸長方形で、長軸方向は N - 10° - E である。深さは 54cm で、底面は平坦である。壁は外傾している。

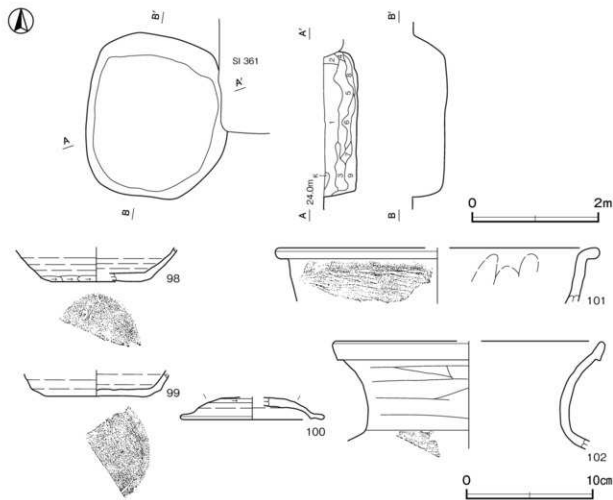
覆土 9 層に分層できる。ロームブロックが含まれ、ブロック状に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック微量
2 灰黄褐色	ローム粒子中量	7 極暗褐色	ローム粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック微量	8 黒色	ローム粒子微量
4 極暗褐色	ローム粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片 47 点 (坏 19, 甕類 28), 須恵器片 75 点 (坏 28, 蓋 6, 鉢 1, 甕類 40) が出土している。98～100・102 は東部, 101 は西部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から 8 世紀前葉に比定される。



第142図 第63号土坑・出土遺物実測図

第63号土坑出土遺物観察表 (第142図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
98	須恵器	坏	-	(27)	(7.2)	長石・石英・ 灰黄緑	普通	普通	体部下端手持ちへう削り 底部不定方向の手持 ちへう削り	覆土中	30% 新治産
99	須恵器	坏	-	(21)	(8.6)	長石・石英・ 灰黄緑	普通	普通	底部不定方向のへう削り	覆土中	10% 新治産
100	須恵器	蓋	[11.2]	(1.8)	-	長石・石英・ 灰黄緑	暗灰黄	普通	天井部割縁へう削り	覆土中	30% 新治産
101	須恵器	鉢	[25.4]	(4.4)	-	長石・石英・ 灰黄緑	黒黒	普通	体部外面横位の平行叩き 内面指研痕	覆土中	5%
102	須恵器	甕	[21.2]	(8.5)	-	長石・石英・ 灰黄緑	普通	普通	頸部外面横位のナデ 体部外面横位の平行叩き 指研痕	覆土中	5%

表12 奈良時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	概 概		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
14	C 5 a8	N - 14' - E	楕円形	0.78 × 0.67	30	皿状	雑砂	人為	土師器, 須恵器	SI 362 → 本跡
44	E 6 b8	N - 17' - W	楕円形	1.17 × 0.58	12	平坦	雑砂	人為	土師器, 須恵器	
51	C 5 f8	N - 2' - W	楕円形	(2.48) × 2.02	59	平坦	外雑	人為	土師器, 須恵器, 金属製品	本跡 → SI 361
63	C 5 f7	N - 10' - E	隅丸長方形	2.55 × 2.24	54	平坦	外雑	人為	土師器, 須恵器	本跡 → SI 361

(5) 柱穴列

第8号柱穴列 (第143図)

位置 調査区中央部のD 6i2～E 6a2区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第379号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 南北方向8.4mの間に並ぶ柱穴5か所を確認した。配列方向はN-1°-Wである。柱間寸法は1.5～3.3m(5～11尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

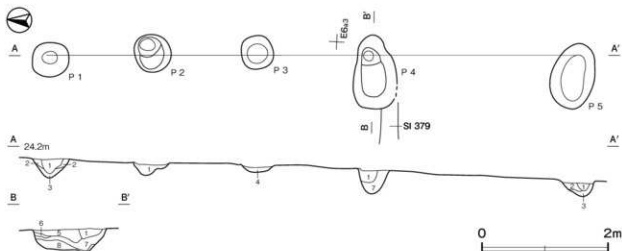
柱穴 5か所。平面形は円形又は楕円形で、長径54～116cm、短径52～69cmである。深さは10～35cmで、断面はU字形である。第1～8層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 6 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 7 黒褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック微量 | 8 黒褐色 粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片10点(甕類)、須恵器片14点(坏2、甕類12)がP1・P2・P4の埋土から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係や出土土器から8世紀前葉以後に比定できる。直線状に延びていることから、堀跡の可能性があるが、何に伴うものか不明である。



第143図 第8号柱穴列実測図

(6) 溝跡

第24号溝跡 (第144図 PL44)

位置 調査区南部のF 6d8～F 7b4区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 東部と西部が調査区域外に延びている。F 6c0区で途切れるが、直線上にあることから同一の溝とした。確認できた総延長は23.06mである。F 6d8区から北東方向(N-75°-E)へ直線状に延びている。上幅0.36～0.50m、下幅0.12～0.20m、深さ28～34cmで、断面は逆台形状である。

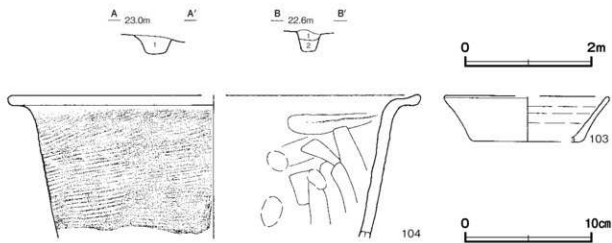
覆土 2層に分層できる。粘土ブロックが含まれているが、自然堆積とみられる。

土層解説

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1 黒褐色 砂粒多量、粘土ブロック微量 | 2 黒褐色 粘土ブロック微量 |
|---------------------|----------------|

遺物出土状況 土師器片 36 点 (坏 3, 甕類 33), 須恵器片 31 点 (坏 10, 蓋 2, 鉢 1, 甕類 18), 瓦 2 点 (丸瓦) が出土している。103・104 は覆土中から出土している。

所見 時期は, 第 25 号溝跡と平行に伸び, 第 4 号井戸との重複関係や出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。



第 144 図 第 24 号溝跡・出土遺物実測図

第 24 号溝跡出土遺物観察表 (第 144 図)

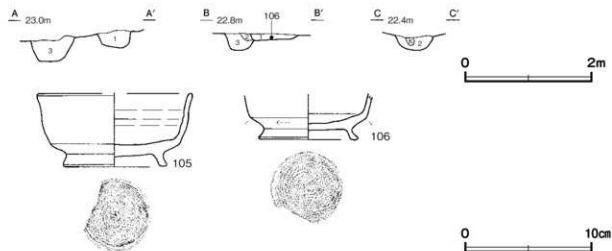
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
103	須恵器	坏	[128]	3.6	[8.4]	長石母・石英・ 鉄石母	こぶい黄褐色	普通	体部外・内面ロケロナデ	覆土中	30% 割合重
104	須恵器	鉢	[32.4]	[11.3]	-	長石母・石英・ 鉄石母	暗灰黄	普通	体部外面溝位の平行叩き 底面, 輪縁直	推 覆土中	5%

第 25A・25B 号溝跡 (第 145 図 PL44)

位置 調査区南部の F 6 e8 ~ F 7 c5 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 21 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東部と西部が調査区域外に延びていることから, 確認できた総延長は 30.72 m である。F 6 e8 区から北東方向 (N - 74° - E) へ直線状に延び東部 F 6 c4 区で分岐するが, 土層断面で南側の溝が第 25A 号溝。



第 145 図 第 25A・25B 号溝跡・出土遺物実測図

北側の溝を第25B号溝とする。第25A号溝が第25B号溝跡を掘り込んでいることを確認できた。上幅0.52～1.20m、下幅0.28～0.44m、深さ10～36cmで、断面はU字状である。

覆土 3層に分層できる。粘土ブロックが含まれているが、自然堆積とみられる。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック微量
2 黒褐色 粘土粒子微量
3 黒褐色 粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片75点(坏5, 蓋1, 甕類69), 須恵器片27点(坏11, 高台付坏2, 蓋3, 甕類11), 瓦2点(平瓦)が出土している。105は東部の第25B号溝の覆土下層, 106は第25A号溝の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から8世紀後葉に比定できる。

第25A・25B号溝跡出土遺物観察表(第145図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
105	須恵器	高台付坏	[120]	5.8	8.0	長石・石英・ 鉄屑	灰	普通	底部十字状高台貼付	覆土下層	30% 新治産
106	須恵器	高台付坏	-	(3.6)	(7.6)	長石・石英・ 鉄屑	焼灰	普通	体部下端回転ヘウ割り 底部回転ヘウ割り	覆土下層	30% 新治産

第28号溝跡(第146図 PL44)

位置 調査区北部のC5g5～C5h8区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第362号竪穴建物跡, 第122号掘立柱建物跡を掘り込み, 第121号掘立柱建物, 第40号土坑, 第17号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外に延びていることから、長さは11.6mしか確認できなかった。C5h8区から南西方向(N-86°-W)へ直線状に延びている。上幅0.56～1.04m、下幅0.08～0.24m、深さ35cmで、断面はU字状である。

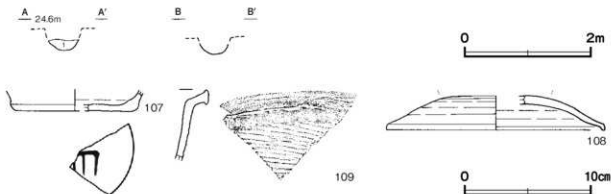
覆土 単一層であるため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片50点(甕類), 須恵器片106点(坏33, 高台付坏4, 蓋6, 鉢1, 甕類62)が出土している。107～109は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第146図 第28号溝跡・出土遺物実測図

第28号溝跡出土遺物観察表(第146図)

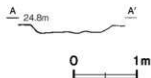
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
107	須恵器	坏	-	(18)	[9.4]	長石・石英・ 珸母	暗灰黄	普通	体部下端平テ 底部不定方向の手持ちヘラ削り 造器[1]	覆土中	10% 新石葉
108	須恵器	蓋	[17.2]	(2.7)	-	長石・石英	灰黄黒	普通	天弁部斜削ヘラ削り 内面自然釉	覆土中	10%
109	須恵器	鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・ 珸母	灰白	普通	体部外面斜位の平行叩き	覆土中	5%

第33号溝跡(第147図)

位置 調査区南部のG7d6～G7d7区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第388号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 掘り込みが浅いことから、長さは、4.57mしか確認できなかった。G7d7区から西方向(N-86°-W)へ直線状に延びていると予想される。上幅1.01～1.28m、下幅0.82～0.97m、深さ11cmで、断面は浅いU字状である。



第147図 第33号溝跡実測図

遺物出土状況 土師器片1点(堯類)、須恵器片3点(坏、コップ形土器、堯類)が覆土中から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係や出土土器から8世紀後葉以降に比定できる。

表13 奈良時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
34	F6e8～F7b4	N-75°-E	直線状	(23.06)	0.36～0.50	0.12～0.20	28～34	連合形	外壁	自然	土師器、須恵器、瓦	本跡→SE4
35A	F6e8～F7c5	N-74°-E	直線状	(30.72)	0.52～1.20	0.28～0.44	10～36	U字状	外壁	自然	土師器、須恵器、瓦	本跡→SD21
35B	C5g5～C5h8	N-86°-W	直線状	(11.6)	0.56～1.04	0.80～0.24	35	U字状	外壁	-	土師器、須恵器	SD32,SD122→本跡 →SD121,SK40,SD17
33	G7d6～G7d7	N-86°-W	直線状	(4.57)	1.01～1.28	0.82～0.97	11	浅い U字状	縦斜	-	土師器、須恵器	SE388→本跡

(7) ビット群

第2号ビット群(第148図)

位置 調査区南部のF7d3～F7E3区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

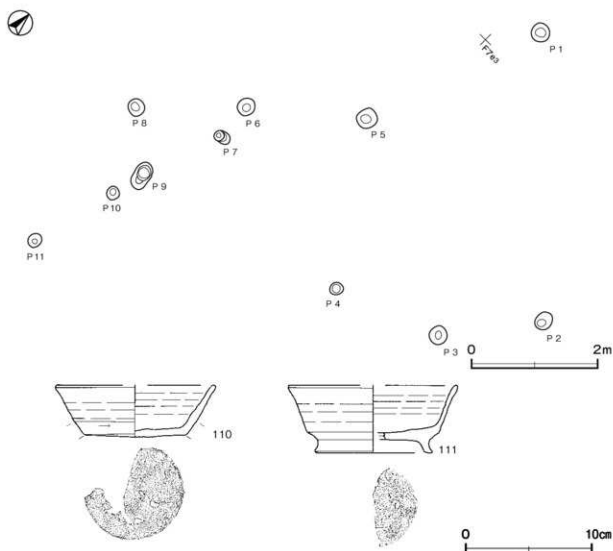
規模と形状 南北8.21m、東西7.21mの範囲に、ビット11か所を確認した。個々の形状、計測値については、一覧表に記載する。

遺物出土状況 土師器片3点(堯類)、須恵器片14点(坏11、高台付坏1、堯類2)が覆土中から出土している。110はP9、111はP8の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。ビットの分布状況から、建物跡は想定できないので、性格は不明である。

第2号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模(cm)			番号	位置	形状	規模(cm)			番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	F7d3	円形	30	31	32	5	F7d3	円形	33	33	25	9	F7f2	楕円形	45	38	30
2	F7e3	楕円形	32	26	21	6	F7e2	楕円形	30	26	24	10	F7f2	円形	22	21	19
3	F7e3	円形	30	29	26	7	F7e2	楕円形	26	20	10	11	F7f2	楕円形	24	20	13
4	F7d3	円形	21	20	32	8	F7f2	円形	29	28	29						



第148図 第2号ピット群・出土遺物実測図

第2号ピット群出土遺物観察表（第148図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
110	甕形器	坏	[12.4]	4.1	[8.2]	長石・石英・ 雲母	細灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部二方向の手持ちヘ ラ削り	P 9 覆土中	50% 表土層
111	甕形器	高台付坏	[13.4]	5.3	[9.1]	長石・石英・ 雲母	灰	普通	底部ナメ後高台貼付	P 8 覆土中	30% 表土層

2 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴建物跡 35 棟、掘立柱建物跡 12 棟、井戸跡 1 基、粘土探掘坑 2 基、土坑 8 基、柱穴列 3 条、溝跡 2 条、ピット群 1 か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 堅穴建物跡

第 278 号堅穴建物跡（第 149 図 PL30）

位置 調査区北部の C 6 区、標高 25 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東側が調査区域外に延びていることから、南北軸は 3.18 m で、東西軸は 2.70 m しか確認できな

かった。長方形又は方形と推定される。主軸方向は不明である。壁は高さ18～25cmで、ほぼ直立している。床平坦で、中央部が踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。確認した部分では壁溝が巡っている。

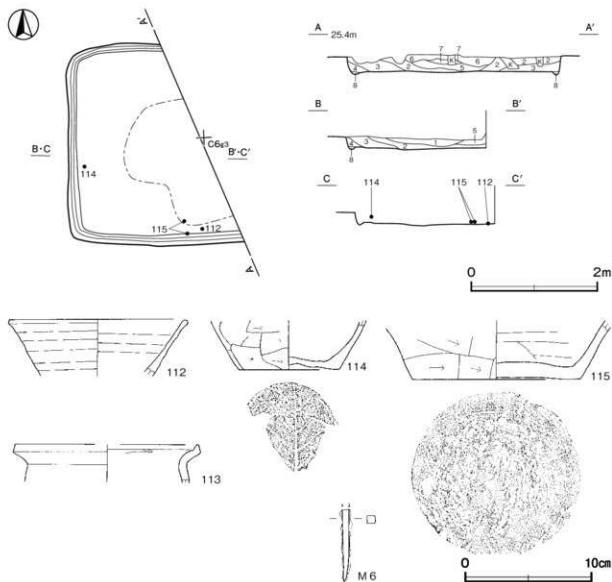
覆土 8層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 炭化粒子少量 | |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 8 灰褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 灰褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子・ | | |

遺物出土状況 土師器片36点(甕類)、須恵器片20点(坏11、高台付坏1、蓋1、甕類7)、金属製品1点(釘)が、主に北側の覆土中から出土している。112・115は南壁付近、114は西壁付近の床面からそれぞれ出土している。113・M6は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第149図 第278号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 278 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 149 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
112	須恵部	坏	140	(4.6)	-	長石・石英・ 炭粉・赤色粒子	黒黒	黒黒	普通 体部ロクナデ	床面	60% 新治産
113	土師部	甕	[144]	(3.0)	-	長石・石英・ 炭粉	明赤黒	普通	口縁部内面へラナデ	覆土中	5%
114	土師部	甕	-	(3.9)	[8.0]	長石・石英・ 炭粉・赤色粒子	明黒	普通	体部外面下位へラナデ 底部本葉裏	床面	5%
115	須恵部	甕	-	(4.7)	133	長石・石英・ 炭粉	黒黒	普通	体部外面下位へラナデ 内面ナデ 底部口縁へ ラナデ	床面	10% 新治産

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 6	釘	(5.8)	0.6	0.6	(9.2)	鉄	頭部欠損 断面四角形	覆土中	PL58

第 339 号竪穴建物跡 (第 150 ~ 152 図 PL30・31)

位置 調査区北部の B 5h9 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 4.12 m、短軸 3.95 m の方で、主軸方向は N-8'-E である。壁は高さ 29 ~ 40 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。壁溝が全周している。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 126 cm で、燃焼部幅は 54 cm である。袖部は地山の上に甕を逆位に据え、粘土ブロックを含む第 11 ~ 13 層を積みあげて構築されている。火床部は楕円形に 14 cm 掘りくぼめ、焼土ブロックを含む第 9・10 層を埋土している。火床面は第 9 層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 68 cm 掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 褐 色	焼土ブロック中量	8 暗 褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2 黄 褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	9 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物多量、ロームブロック微量
3 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量	10 灰 褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量
4 黄 褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック中量	11 暗 褐色	粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 褐 色	焼土ブロック多量、ロームブロック中量	12 明赤褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック微量
6 褐 色	ロームブロック中量、炭化物少量	13 暗 褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック微量
7 暗 褐色	ロームブロック少量		

ビット 5 か所。P 1 は深さ 23 cm で、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うビットと考えられる。P 2 ~ P 5 は、深さ 9 ~ 12 cm で、性格は不明である。

ビット土層解説 (各ビット共通)

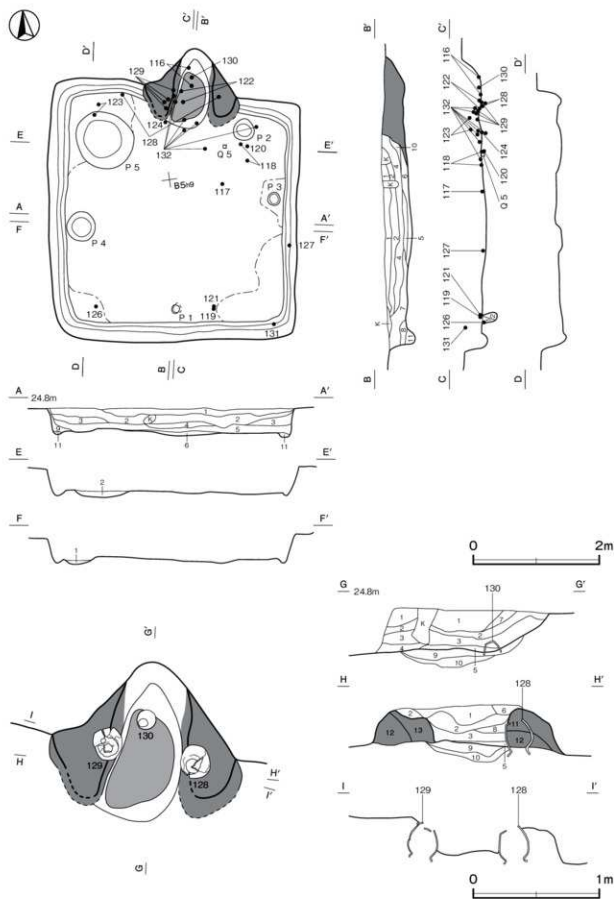
1 灰 褐色	ロームブロック少量	2 暗 褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量
--------	-----------	--------	-----------------

覆土 11 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

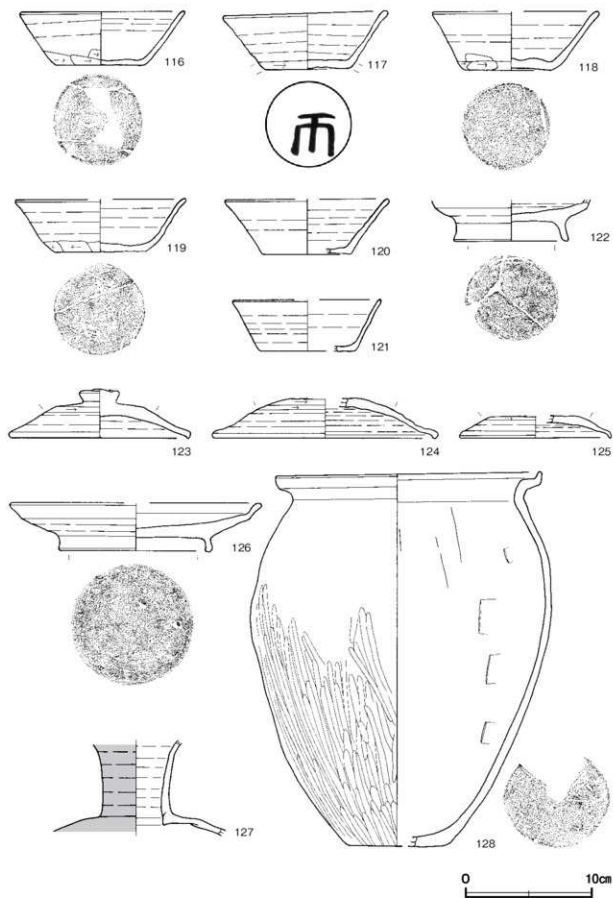
土層解説

1 黒 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	7 黒 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2 暗 褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量	8 極暗褐色	ローム粒子微量
3 黒 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒 褐色	ロームブロック少量
4 灰 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量	10 黒 褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
5 黒 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	11 黒 色	ロームブロック微量
6 黒 褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量		

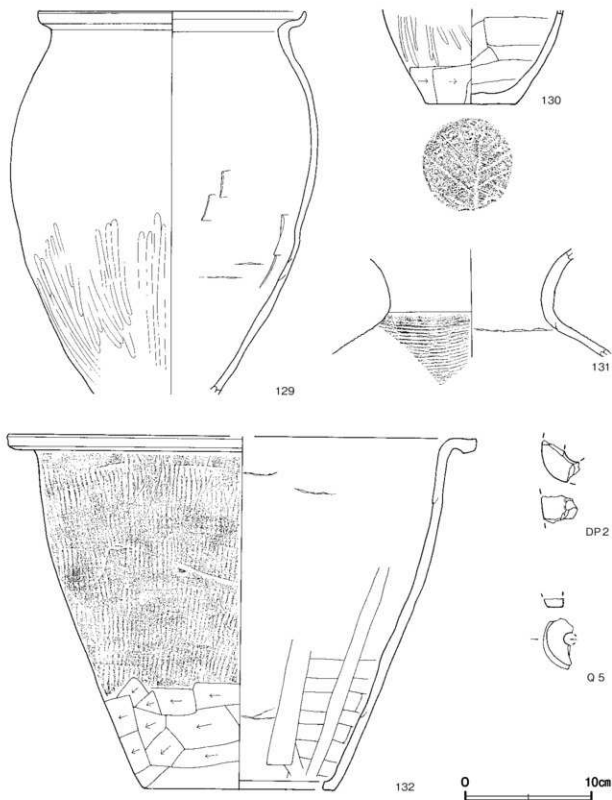
遺物出土状況 土師器片 339 点 (坏 8、甕類 331)、須恵器片 237 点 (坏 114、高台付坏 4、壺 14、盤 2、高盤 2、甕類 99、瓶 2)、灰軸陶器 (長頸瓶 2)、土製品 1 点 (紡錘車)、石器 1 点 (紡錘車) が主に竈周辺の覆土下層から出土している。116 と 122 は、竈の火床面から出土している。128 は右袖部内、129 は左袖部内にそれぞれ補強材として逆位の状態で据えられて出土している。130 は火床面に逆位の状態で据えられ、支脚に転用さ



第 150 图 第 339 号竖穴建物跡実測图



第151圖 第339号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第152図 第339号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

れている。132は左袖部内と竈周辺の床面から出土した破片が接合している。117は中央部、124は左袖前上部、118・120・Q5は北東コーナー部、119・121は南壁付近、126は南西コーナー部、127は東壁付近の床面から

それぞれ出土している。123は北西コーナー部の覆土中層, 131は南東コーナー部の覆土上層から出土している。125は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉に比定できる。

第339号竪穴建物跡出土遺物観察表(第151・152図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
116	須恵器	坏	130	4.4	6.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄緑	普通	底部下縁持ちヘラ割り 底部一方方向の手持ちヘラ割り	火床面	95% PL50 新治産
117	須恵器	坏	128	4.6	6.6	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	体部下縁回転ヘラ割り 底部二方向の手持ちヘラ割り 底部外面磨き「出」	床面	70% PL54 新治産
118	須恵器	坏	[130]	4.7	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	体部下縁持ちヘラ割り 底部回転ヘラ割り裏を残す一方方向の手持ちヘラ割り後ナデ 二次焼成	床面	40% 新治産
119	須恵器	坏	[134]	4.2	7.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	体部下縁持ちヘラ割り 底部不定方向の手持ちヘラ割り	床面	30% 新治産
120	須恵器	坏	[128]	4.4	[7.0]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部一方方向の手持ちヘラ割り	床面	20% 新治産
121	須恵器	坏	[116]	4.1	[7.6]	長石・石英・雲母	黒褐	普通	底部不定方向の手持ちヘラ割り	床面	25% 新治産
122	須恵器	高台付坏	-	3.3	[9.1]	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	底部回転ヘラ割り 二次焼成	火床面	50% 新治産
123	須恵器	蓋	[142]	3.9	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ割り	覆土中層	30%
124	須恵器	蓋	[176]	[3.2]	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	天井部回転ヘラ割り 二次焼成	床面	20% 新治産
125	須恵器	蓋	[120]	(1.7)	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	天井部回転ヘラ割り	覆土中	40% 新治産
126	須恵器	壺	[198]	3.8	12.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	底部回転ヘラ割り 二次焼成	床面	70% 新治産
127	灰釉陶器	長頸瓶	-	(7.5)	-	長石	灰 磁オリーブ	普通	頸部接合三段焼成	床面	30% PL53 新治産
128	土師器	甕	21.0	30.0	8.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下手ヘラ磨き 内面ヘラ当て併底部不定方向のヘラ割り	右袖内	90% PL55
129	土師器	甕	21.2	(30.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下手ヘラ磨き 内面ヘラ当て併 輪轆	左袖内	90% PL55
130	土師器	甕	-	(7.6)	7.2	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き 下位ヘラ割り 内面磨・斜位のナデ 底部木製敷 二次焼成	火床面	30% 支脚乾用
131	須恵器	甕	-	(8.5)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面横位の平行叩き 内面輪轆焼	覆土上層	5%
132	須恵器	瓶	[372]	28.3	[15.1]	長石・石英	灰	普通	体部外面横位の平行叩き 下手ヘラ割り 内面輪轆ナデ後縦位のナデ 輪轆焼	左袖内 床面	30%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 2	紡車	-	(2.1)	-	(12.4)	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	側面ナデ 上・下面欠損	覆土下層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	色調	特徴	出土位置	備考
Q 5	紡車	[45]	(0.7)	[1.0]	(7.9)	粘板岩	黄面研磨	上面欠損	床面	

第340A号竪穴建物跡(第153～157図 PL31・32)

位置 調査区中央部のB 5 9区, 標高24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第340B・340C・341号竪穴建物跡, 第128号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

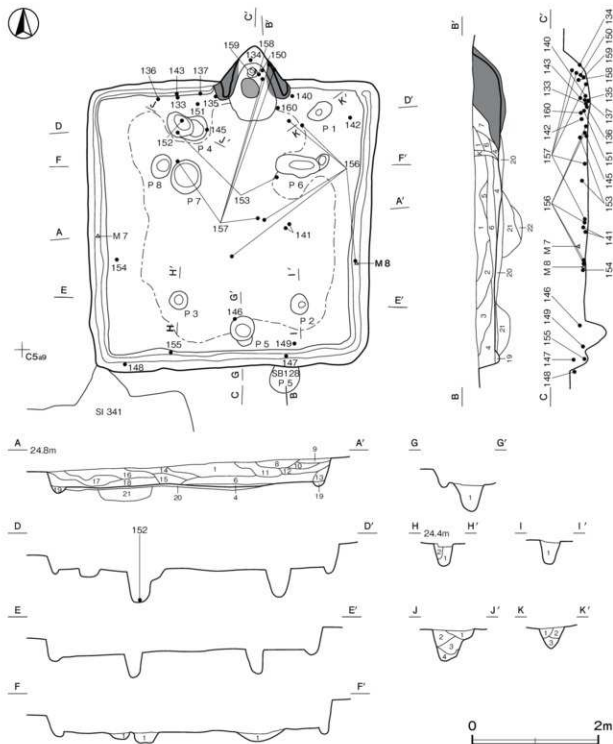
規模と形状 一辺4.58 mほどの方形で, 主軸方向はN-1°-Eである。壁は高さ20～45cmで, 外傾している。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, 8cmほど掘り下げ, ロームブロックを含む第20層を埋土して構築されている。壁溝が北東コーナー部の一部を除いて巡っている。

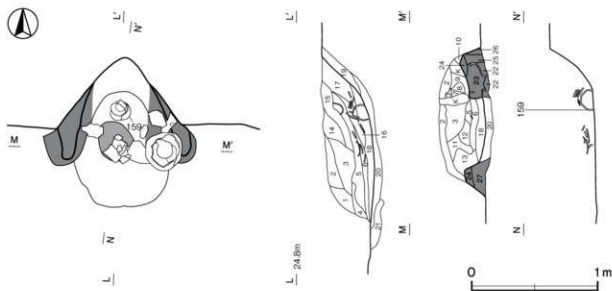
竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで118cmで, 燃焼部幅は51cmである。袖部は地山の上に粘土ブロックや焼土粒子を含む第22～27層を積み上げて構築されている。右袖部は裏を逆位に据え, 補強材に利用している。火床部は楕円形に7cm掘りくぼめ, 焼土ブロックを含む第20・21層を埋土している。火床面は第20層上面で, 火熱を受けて赤変している。支脚は小形甕を逆位に据え, その上に土器片を重ねた上に小形甕を被せ利用している。煙道部は壁外に55cm掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。

遺土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 灰 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 9 暗 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 10 褐色 | 焼土粒子微量 |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック少量 | 11 暗 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 4 黒 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 12 黒 褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量、ロームブロック微量 |
| 5 黒 褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 13 暗 褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 6 黒 褐色 | 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 14 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 7 灰 褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 15 黒 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 8 にぶい褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量 | | |



第153図 第340A号堅穴建物跡実測図(1)



第154図 第340A号竪穴建物跡実測図(2)

- | | | | |
|---------|----------------------------------|---------|--------------------------|
| 16 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子微量 | 22 赤灰色 | 粘土ブロック多量 |
| 17 暗赤灰色 | 焼土ブロック・炭化粒子多量、粘土ブロック中量、ロームブロック微量 | 23 灰褐色 | 粘土ブロック多量、焼土ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 18 極暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子多量 | 24 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、粘土ブロック少量 |
| 19 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物多量、粘土ブロック少量 | 25 灰黄色 | 粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 20 灰褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量 | 26 黄褐色 | 粘土ブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 21 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子中量 | 27 褐色 | 粘土ブロック多量 |

ビット 8か所。P1～P4は深さ32～49cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ42cmで、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うビットと考えられる。P6～P8は深さ10～20cmで、性格は不明である。

ビット土層解説 (各ビット共通)

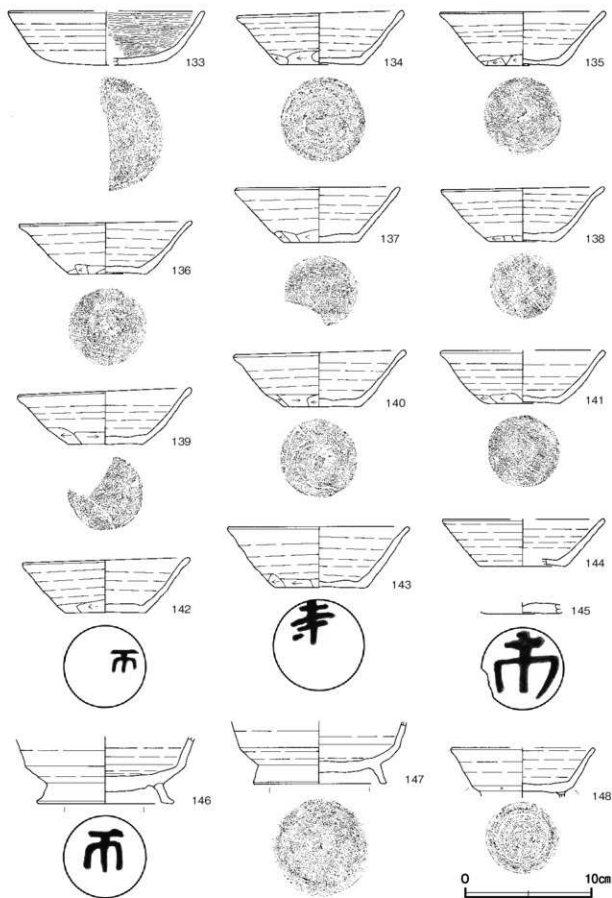
- | | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 灰褐色 | 粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |
| 3 黒褐色 | ロームブロック覆量 | | |

覆土 19層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。第20層は貼床の構築土である。第21・22層は床下土の覆土である。

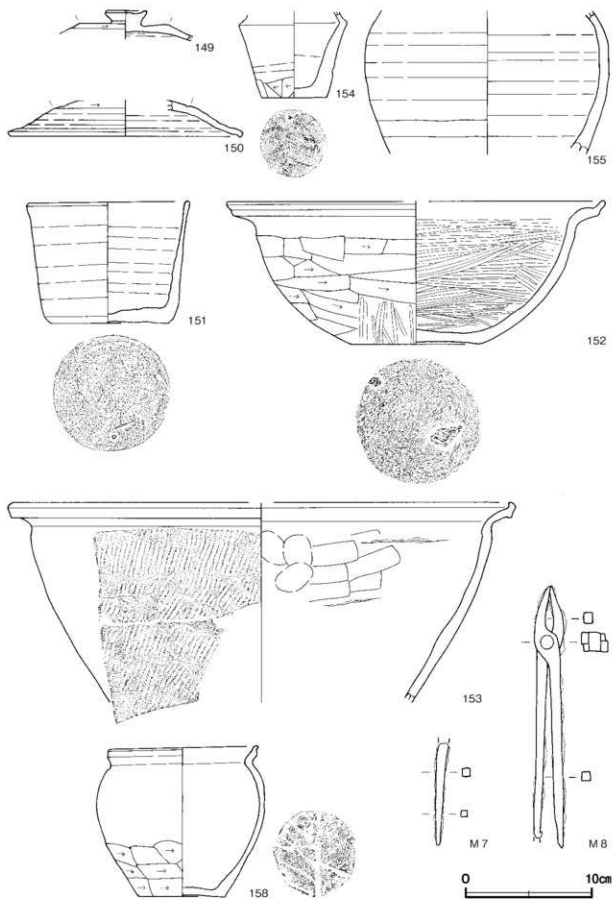
土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------|-----------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 13 暗褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・ローム粒子微量 | 14 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | 焼土ブロック・焼土粒子少量、ロームブロック微量 | 15 極暗褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック少量 | 16 黒褐色 | 焼土ブロック微量 |
| 6 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 17 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 7 黒褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 8 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 19 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 20 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 灰褐色 | 焼土ブロック少量 | 21 におい赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック微量 |
| 11 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 22 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量 |

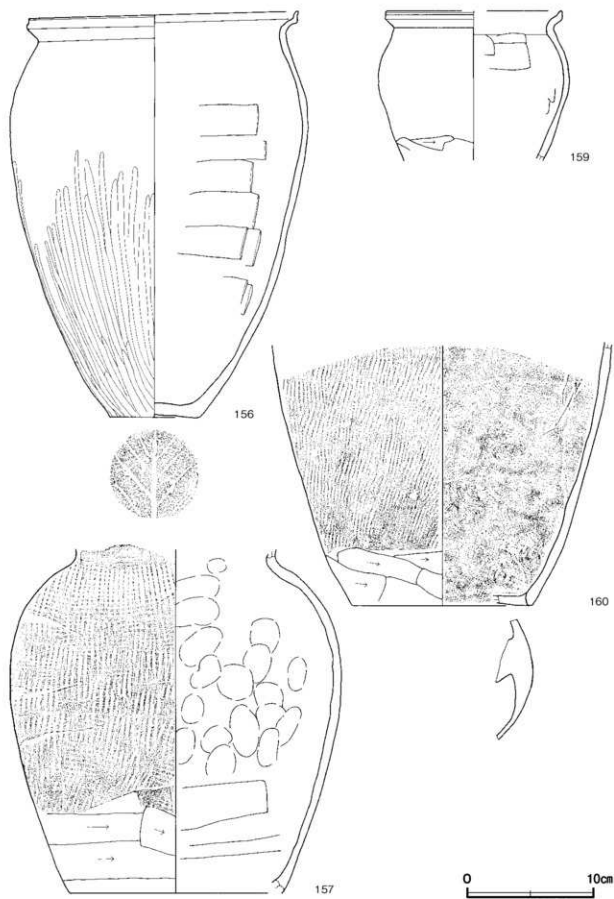
遺物出土状況 土師器片446点(坏26, 高台付坏1, 小形甕2, 甕類417), 須恵器片526点(坏227, 高台付坏17, 蓋40, 盤1, 高盤3, コップ形土器1, 鉢2, 短頸壺1, 長頸瓶1, 甕類225, 甌8), 石器1点(軽石), 金属製品2点(釘, 鉄鉗)が、主に全域の覆土中から出土している。M8は東壁付近, 146・149・155は南壁付近, 154は西壁付近, 141は中央部, 133・135～137・143・145・151は北壁の左袖部付近, 140・156は竈



第 155 图 第 340A 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 156 図 第 340A 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第 157 图 第 340A 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (3)

右袖部付近の床面からそれぞれ出土している。135は斜位、136は逆位の状態でも出土し、133・143は正位の状態でも重なって出土している。152はP4の底面から出土している。134・150・157～159は竈内から出土している。159は支脚に転用している。134は斜位の状態でも出土している。142は北東コーナー部、153は北東部、M7は西壁付近、160は右袖前方部の覆土下層、147は南壁付近、148は南西コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。138・139・144は覆土中からそれぞれ出土している。133・135～137・143・151は左袖部付近に並んだ状態で出土していることから、遺棄された可能性がある。

所見 床下から第340B・340C号竈穴建物跡の竈、柱穴、壁溝が確認されたことから、本跡は第340B号竈穴建物跡を北側に拡張して構築したものと考えられる。時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。

第340A号竈穴建物跡出土遺物観察表(第155～157頁)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
133	土師器	坏	[155]	4.3	[9.1]	長石・石英・赤鉄	にぶい黄褐色	普通	内面へう磨き 黒色処理	床面	40%
134	須恵器	坏	132	4.3	6.6	長石・石英・赤鉄	黄灰	普通	体部下端手持ちへう割り 底部回転へう切り痕を残す方向の手持ちへう割り	竈内	100% PL50 新治産
135	須恵器	坏	130	4.3	6.2	長石・石英・赤鉄	灰黄褐色	普通	体部下端手持ちへう割り 底部一方方向の手持ちへう割り	床面	100% PL50 新治産
136	須恵器	坏	136	4.2	6.1	長石・石英・赤鉄	暗灰黄	普通	体部下端手持ちへう割り 底部回転糸切り痕を残す方向の手持ちへう割り	床面	95% PL50 新治産
137	須恵器	坏	130	4.4	5.9	長石・石英・赤鉄	黒	普通	体部下端手持ちへう割り 底部不定方向のへう割り	床面	90% PL50 新治産
138	須恵器	坏	128	4.4	5.2	長石・石英・赤鉄	暗灰	普通	体部下端手持ちへう割り 底部一方方向の手持ちへう割り	覆土中	80% PL50 竈之内産
139	須恵器	坏	136	4.5	5.9	長石・石英・赤鉄	暗灰	良好	体部下端手持ちへう割り 底部一方方向の手持ちへう割り	覆土中	60% 竈之内産
140	須恵器	坏	134	4.6	6.0	長石・石英・赤鉄	灰	普通	体部下端手持ちへう割り 底部回転へう割り	床面	70% 新治産
141	須恵器	坏	[128]	4.2	5.7	長石・石英・赤鉄	黄灰	普通	体部下端手持ちへう割り 底部一方方向のへう割り	床面	50% 新治産
142	須恵器	坏	132	4.4	6.3	長石・石英・赤鉄	黄灰	普通	体部下端手持ちへう割り 底部外部磨き「市」	覆土下層	70% PL50 新治産
143	須恵器	坏	142	4.9	7.1	長石・石英・赤鉄・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部下端手持ちへう割り 底部へう切り痕を残す方向の手持ちへう割り 磨き「市」	床面	95% PL50 新治産
144	須恵器	坏	[126]	3.8	[6.8]	長石・石英・赤鉄	暗灰	普通	底部不定方向のへう割り	覆土中	20% 新治産
145	須恵器	坏	-	[0.9]	6.1	長石・石英・赤鉄	黄灰	普通	底部一方方向のへう割り 磨き「市」	床面	5% PL56
146	須恵器	高台付坏	-	[5.3]	[10.7]	長石・石英・赤鉄	暗灰	普通	底部回転へう割り 底部外部磨き「市」	床面	50% PL50 新治産
147	須恵器	高台付坏	-	[4.9]	10.3	長石・石英・赤鉄	灰黄	普通	底部回転へう切り痕を残す回転へう割り	覆土上層	40% 新治産
148	須恵器	高台付坏	[112]	[3.9]	-	長石・石英・赤鉄	灰黄褐色	普通	体部下端回転へう割り 底部回転へう切り痕を残す回転へう割り	覆土上層	20% 新治産
149	須恵器	蓋	-	[2.3]	-	長石・石英・赤鉄	にぶい黄褐色	普通	天井部回転へう割り	床面	30% 新治産
150	須恵器	蓋	[184]	[2.8]	-	長石・石英・赤鉄	灰黄褐色	普通	天井部回転へう割り	竈内	20% 新治産 支脚補助
151	須恵器	コップ形土師器	127	9.7	9.4	長石・石英・赤鉄	暗灰黄	普通	底部不定方向のヘラナダ	床面	80% PL53 竈之内産
152	須恵器	鉢	[29.7]	11.4	10.0	長石・石英・赤鉄	にぶい赤褐色	普通	体外部横位のへう割り後へう磨き 内面へう磨き	P4底面	60% 新治産
153	須恵器	鉢	[36.9]	[15.9]	-	長石・石英・赤鉄・赤色粒子	灰黄褐色	普通	体外部縦位の平行押き後、横位の平行押き 輪軸痕	覆土下層	10% 新治産
154	須恵器	短頸瓶	-	[6.9]	5.3	長石・石英・赤鉄	暗灰	良好	体部下段へう割り 底部不定方向のへう割り	床面	70% PL53 竈之内産
155	須恵器	長頸瓶	-	[11.4]	-	長石・石英・赤鉄	灰黄褐色	良好	体外部下半へうナダ 自然軸	床面	10%
156	土師器	薬	21.2	32.4	7.0	長石・石英・赤鉄	にぶい褐色	普通	体外部下半へう磨き 内面横位のヘラナダ 灰化処理着	床面	70% PL54
157	須恵器	薬	-	[27.4]	[16.8]	長石・石英・赤鉄	赤褐色	普通	体外部縦位の平行押き後、横位の平行押き 下半へう割り 内面ヘラナダ 指遺痕	床面	40% 新治産
158	土師器	小形壺	11.7	12.0	6.8	長石・石英・赤鉄	明褐色	普通	体外部下半へう割り 底部木葉痕	竈内	95% PL53
159	土師器	小形壺	[139]	[12.0]	-	長石・石英・赤鉄・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体外部下半へう割り 内面ヘラナダ 二次焼成	竈内	20% 支脚転用
160	須恵器	瓶	-	[21.3]	[14.4]	長石・石英・赤鉄	暗	普通	体外部縦位の平行押き 下半へう割り 内面当て長軸 輪軸痕	覆土下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 7	釘	(8.3)	(1.0)	0.7	(13.6)	鉄	頭部欠損 断面四角形	覆土下層	PL58
M 8	鉄屑	21.0	2.3	1.6	(19.3)	鉄	把手部先端一部欠損 断面四角形	床面	PL58

第340B号竪穴建物跡 (第158図 PL32)

位置 調査区中央部のB59区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第340C・341号竪穴建物跡、第128号掘立柱建物跡を掘り込み、第340A号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.62m、短軸4.22mの方形で、主軸方向はN-1°-Eである。壁は高さ35cmで、外傾している。

床 第340A号竪穴建物の床面と同じ高さである。壁溝が北壁の西寄りで一部確認されていることから、西壁から東壁にかけて第340A号竪穴建物と同じ壁が使用されていたと考えられる。

竈 北壁の西寄りに付設されている。火床部しか確認することができなかった。規模は長径101cm、短径60cmの楕円形で深さ15cmほど掘りくぼめ、粘土ブロックや焼土ブロックを含む第1～3層を埋土している。火床面は確認できなかった。第340C号竪穴建物跡の竈を壊し、その上部に構築している。

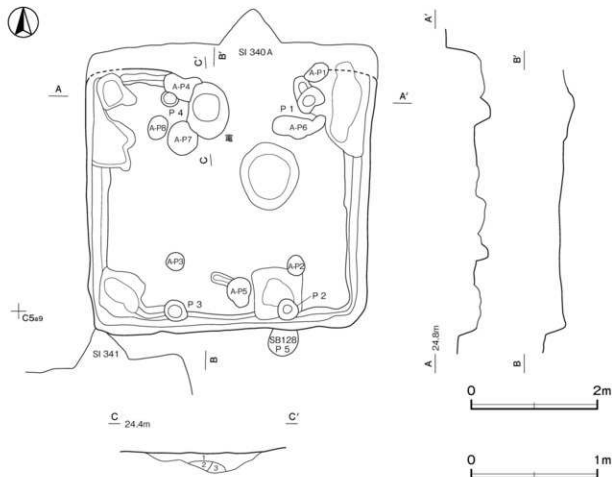
埋土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量、粘土ブロック・ローム粒子少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック | | |

ピット 4か所。P1～P4は深さ18～28cmで、配置から主柱穴である。

覆土 第340A号竪穴建物に掘り込まれているため、覆土は遺存していない。

遺物出土状況 土師器片6点(坏4, 甕類2), 須恵器片3点(坏2, 甕類1)が、主に火床部内から出土している。細片のため図示できない。



第158図 第340B号竪穴建物跡実測図

所見 第340A号竪穴建物の床下から本跡の竈、柱穴、壁溝が確認された。柱穴や壁溝の位置から本跡は第340A号竪穴建物の拡張前と考えられる。時期は建て替えていることから、同時期の9世紀中葉に比定できる。

第340C号竪穴建物跡 (第159図 PL32)

位置 調査区中央部のB59区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第341号竪穴建物跡、第128号掘立柱建物跡を掘り込み、第340A・340B号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.68m、短軸3.52mの方形で、主軸方向はN-1°-Eである。壁は高さ25cmで、外傾している。

床 第340A・340B号竪穴建物の床面と同じ高さである。壁溝が北壁の西寄りと東壁で一部確認されていることから、西壁から南壁にかけて第340A・340B号竪穴建物と同じ壁が使用されていたと考えられる。

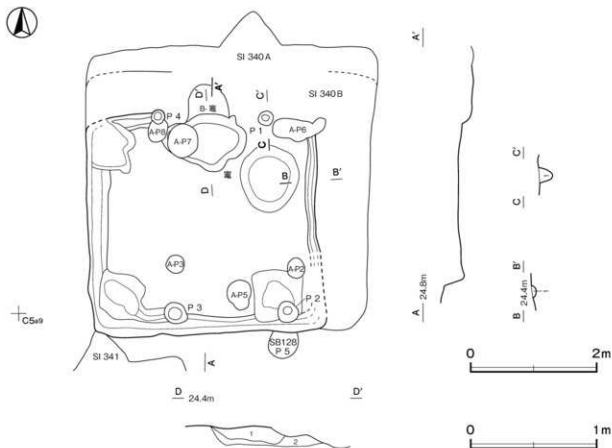
竈 北壁の西寄りに付設されている。第340B号竪穴建物の竈に上部を掘り込まれていることから、火床部の一部しか確認することができなかった。規模は、長径120cm、短径94cmの楕円形で深さ14cmほど掘りくぼめ、粘土ブロックや焼土ブロックを含む第1・2層を埋土している。火床面は確認できなかった。

富士層解説

1 黒褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック少量

2 極暗赤褐色 粘土ブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック少量

ピット 4か所。P1～P4は深さ18～28cmで、配置から主柱穴である。P2・P3は第340B号竪穴建物と同じ柱穴を使用していたと考えられる。



第159図 第340C号竪穴建物跡実測図

ピット土層解説 (P1)

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化物少量、ロームブロック微量

覆土 第340A号竪穴建物に掘り込まれているため、壁溝の覆土しか確認できなかった。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量

所見 第340A号竪穴建物の床下から本跡の竈、柱穴、壁溝が確認されている。主柱穴や壁溝の位置から本跡は第340A・340B号竪穴建物跡の拡張前の竪穴建物跡と考えられる。時期は出土土器がなかったが、340A・340B号竪穴建物に建て替えられていることから、9世紀中葉以前に比定できる。

第341号竪穴建物跡 (第160～162図 PL33)

位置 調査区中央部のC5a9区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第129号掘立柱建物跡を掘り込み、第340A・340B・340C号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 一辺3.25mほどの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁は高さ30～38cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。壁溝が北東コーナー部の一部を除いて巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで110cmで、燃焼部幅は62cmである。袖部は地山の上に粘土ブロックやローム粒子を含む第11～13層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に16cm掘りくぼめ、焼土ブロックや粘土ブロックを含む第14～17層を埋土している。火床面は第15層上面で、赤変していない。支脚は土器片を縦位に立て転用している。煙道部は壁外に58cm掘り込み、火床部からほぼ直立している。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 焼土ブロック・粘土粒子・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 10 黄褐色 粘土粒子少量、焼土粒子少量 |
| 3 橙褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・粘土粒子少量 | 11 黄褐色 粘土粒子多量、ローム粒子中量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 12 黄褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子中量 |
| 5 灰褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子少量 | 13 灰褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子中量 |
| 6 灰褐色 粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 14 褐灰色 焼土ブロック・炭化物多量、粘土ブロック中量 |
| 7 灰黄褐色 粘土粒子少量、ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 15 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 8 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子微量 | 16 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | 17 暗褐色 ローム粒子中量 |

ピット 2か所。P1は深さ15cmで、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P2は深さ17cmで、性格は不明である。

ピット土層解説 (ピット1)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 褐色 ローム粒子多量 | 4 黒褐色 ローム粒子中量 |

覆土 8層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

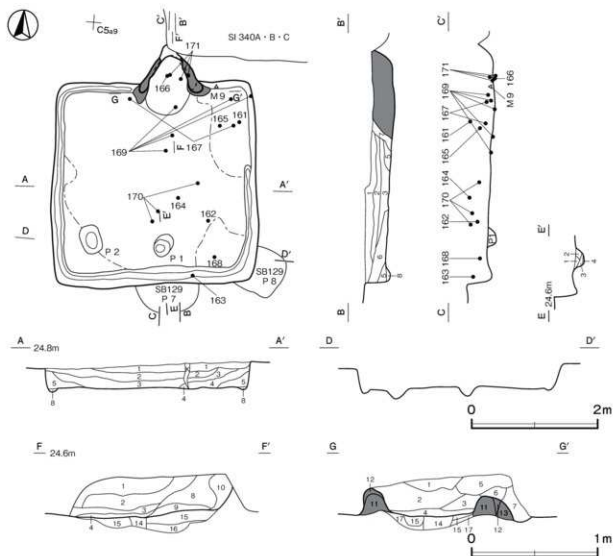
土層解説

- | | |
|-----------------------------|------------------------------------|
| 1 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 7 黒褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | |
| 4 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片236点(坏1、高台付坏1、蓋3、甕類231)、須恵器片200点(坏75、高台付坏5、

蓋 24, 高盤 2, 長頸瓶 1, 甕類 9, 瓶 2), 金属製品 2 点 (釘) が, 主に北東コーナー部付近の下層から出土している。169 は, 竈前方部と北東コーナー部の床面から出土した破片が接合している。M 9 は, 竈右袖の壁際の床面から出土している。166 と 171 は, 竈の火床面に縦位の状態で重なるように出土している。171 は, 火床面と右袖部から出土した破片が接合している。167 は左袖前方部, 168 は南東コーナー部の覆土下層, 161・165 は北東コーナー部, 162・163 は南東コーナー部, 164・170 は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。これらの遺物は, 埋没過程で廃棄された可能性がある。

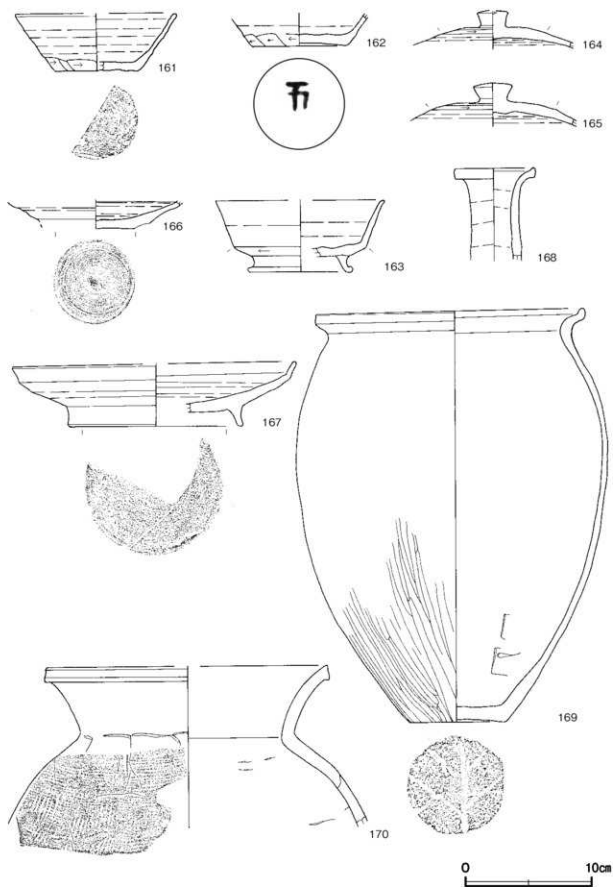
所見 時期は, 出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。



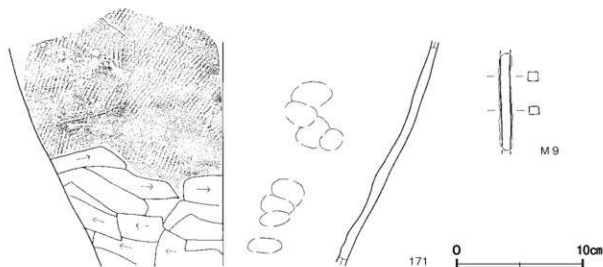
第 160 図 第 341 号竪穴建物跡実測図

第 341 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 161・162 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
161	須恵器	坏	[128]	4.6	6.6	長石・石英・炭灰	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土上層	30%
162	須恵器	坏	-	(2.7)	7.3	長石・石英・炭灰	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り 底部擦磨「有」	覆土上層	30% P1.56 新治窯
163	須恵器	高台付坏	[133]	5.7	[8.1]	長石・石英・炭灰	暗灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土上層	20% 堀之内窯
164	須恵器	蓋	-	(3.1)	-	長石・石英・炭灰	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	20% 新治窯
165	須恵器	蓋	-	(3.5)	-	長石・石英・斜紋物質	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	20% 木暮下窯



第 161 图 第 341 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (1)



第162図 第341号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考		
166	須恵器	壺	-	(2.3)	-	長石・石英・赤鉄	黄褐色	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す回転ヘラ削り	内面	火床面 20% 新治産		
167	須恵器	壺	[224]	5.2	13.7	長石・石英・赤鉄・赤色粒子	黄褐色	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す回転ヘラ削り	覆土下層	50% 新治産		
168	須恵器	水瓶	6.1	(7.3)	-	長石・石英	黄褐色	普通	胴部外・内面自然熱	覆土下層	10% PL53 東海産		
169	土師器	甕	21.2	33.0	7.6	長石・石英・赤鉄・赤色粒子	黄褐色	普通	胴部外面下平ヘラ磨き	内面ヘラ当て痕底部木炭産	床面	70% PL55	
170	須恵器	甕	[222]	(12.9)	-	長石・石英・赤鉄	黄褐色	普通	胴部外面ヘラ当て痕	ヘラナデ	胴部外面縦位の平行叩き	内面輪横痕	10% 新治産
171	須恵器	甕	-	(18.0)	-	長石・石英・赤鉄・赤色粒子	黄褐色	普通	胴部外面縦位の平行叩き	下位ヘラ削り	内面細頸痕	20% 新治産	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M9	針	(7.7)	(0.8)	(0.7)	(22.9)	鉄	両端部欠損 断面四角形	床面	PL58

第342号竪穴建物跡(第163・164図 PL34)

位置 調査区中央部のC5e9区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第129号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.86m、短軸3.68mの方形で、主軸方向はN-2'-Wである。壁は高さ34～50cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。壁溝が北西コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで132cmで、燃焼部幅は60cmである。袖部は地山の上に粘土ブロックを含む第15層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に16cm掘りくぼめ、ロームブロックや炭化粒子を含む第17・18層を埋土している。火床面は第17・18層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ、一部天井部が残る。火床部から外傾している。

遺土層解説

1 暗褐色	焼土粒子微量	6 褐色	焼土粒子中量、粘土ブロック少量
2 暗褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量	7 暗褐色	粘土ブロック・焼土粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子中量、粘土粒子少量	8 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物中量
4 褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	9 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
5 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量	10 褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量

- | | | | |
|----------|------------------------------|----------|--------------------------------|
| 11 褐 色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子微量 | 15 灰 褐色 | 粘土ブロック多量、炭化粒子微量 |
| 12 暗 褐 色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 16 暗 褐 色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 13 灰 褐色 | 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 灰 褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 14 黒 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | 18 褐 色 | 炭化粒子中量、ロームブロック少量 |

ピット P 1 は深さ 15cm で、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

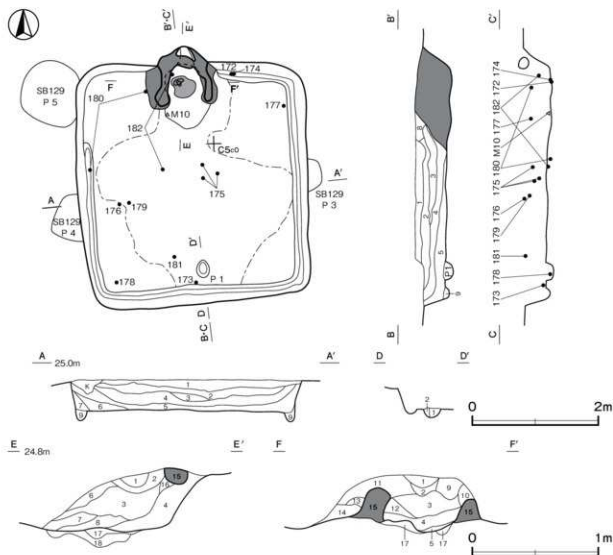
- | | | | |
|--------|-----------|--------|-----------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック少量 | 2 暗 褐色 | ロームブロック中量 |
|--------|-----------|--------|-----------|

覆土 9層に分類できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

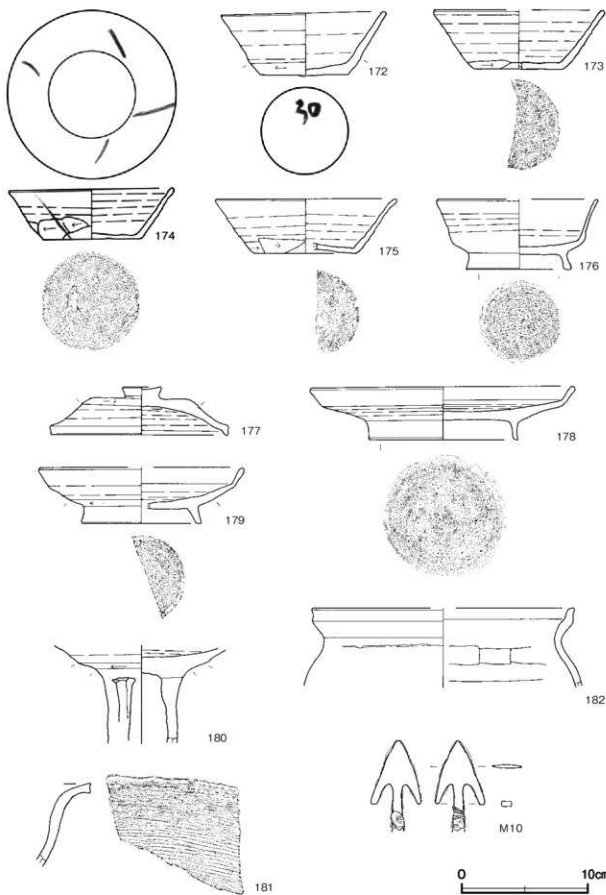
土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|-----------|
| 1 暗 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 5 暗 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 6 暗 褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒 褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック少量 | 7 黒 褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 黒 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 黒 褐色 | ロームブロック微量 |
| | | 9 黒 褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片 315 点 (坏 9, 高台付坏 1, 甕類 305), 須恵器片 335 点 (坏 116, 高台付坏 9, 蓋 30, 盤 5, 高盤 4, 鉢 1, 水瓶 1, 甕類 169), 金属製品 1 点 (鉄) が、主に全域の覆土土層から出土している。172・174 は竈東側の北壁付近, 173 は南壁付近, 178 は南西コーナー部, 180 は西壁付近, 182 は中央部,



第 163 図 第 342 号竈穴建物跡実測図



第164図 第342号竪穴建物出土遺物実測図

M10は左袖前部の床面からそれぞれ出土している。180は西壁付近の床面と左袖部付近の覆土上層の破片が、182は中央部の床面と竈内から出土した破片がそれぞれ接合している。175は中央部、177は北東コーナー部、176・179は西壁付近、181は南壁付近の覆土上層からそれぞれ出土している。これらの遺物は、埋没過程で廃棄された可能性がある。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。

第342号竪穴建物出土遺物観察表（第164図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
172	須恵器	杯	130	5.2	6.9	長石・石英・赤母	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 底部磨削（底）	床面	96% PL51 新古窯
173	須恵器	杯	[133]	4.7	6.8	長石・石英・赤母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方方向の手持ちヘラ削り	床面	33% 新古窯
174	須恵器	杯	130	4.1	7.7	長石・石英・赤母	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り 外・内面に火傷	床面	90% PL51 新古窯
175	須恵器	杯	142	4.4	[80]	長石・石英・赤母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	覆土上層	70% 新古窯
176	須恵器	高台付杯	[122]	5.6	8.3	長石・石英・赤母	にぶい黄	普通	底部回転ヘラ削り	覆土上層	60% 新古窯
177	須恵器	蓋	140	3.8	-	長石・石英・赤母	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	90% PL52 新古窯
178	須恵器	壺	208	4.3	11.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	体部ロクロナゲ 底部回転ヘラ削り	床面	80% PL53 新古窯
179	須恵器	壺	[161]	4.5	[92]	長石・石英・赤母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土上層	40% 新古窯
180	須恵器	高盤	-	(78)	-	長石・石英・赤母	灰	普通	脚部透かし3方所	床面・覆土上層	40% PL53 新古窯
181	須恵器	鉢	-	(66)	-	長石・石英・赤母	黄灰	普通	体部外面横位の平形印し 内面指ナゲ	覆土上層	5%
182	土師器	甕	[207]	(6.4)	-	長石・石英・赤母	赤褐	普通	頸部ナゲ 輪積灰 内面ヘラナゲ	床面・竈内	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M10	鐵	(72)	40	0.4	(142)	鉄	錐状三角錐 縦身断面四角 頭部断面長方形 口巻遺存	床面	PL58

第343A号竪穴建物跡（第165～167図 PL35）

位置 調査区中央部のC5d9区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第343B号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

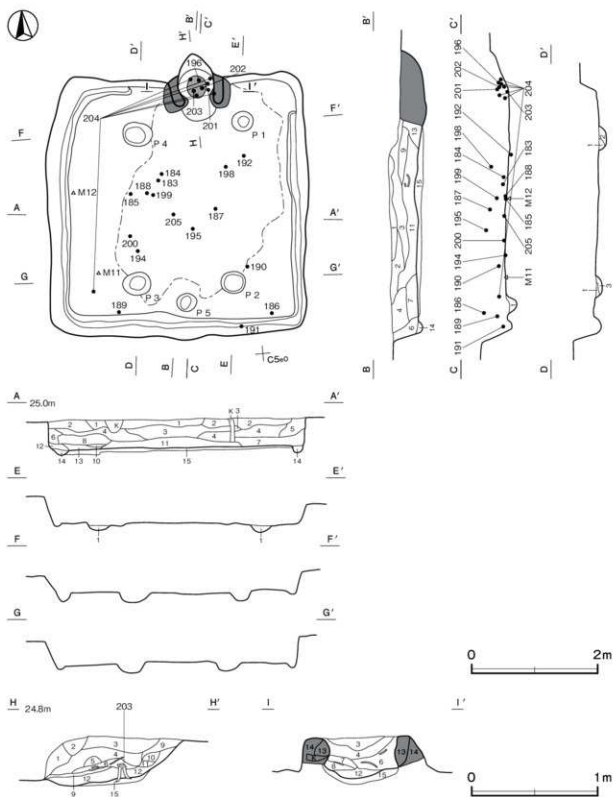
規模と形状 一辺4.15mほどの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁は高さ27～45cmで、外傾している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、全体を11cmほど掘り下げ、焼土ブロックやローム粒子を含む第15層を埋土して構築されている。壁溝が北東コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで116cmで、燃焼部幅は58cmである。袖部は地山の上に粘土ブロックや焼土ブロックを含む第13・14層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に6cm掘りくぼめ、ロームブロックや粘土ブロックを含む第15層を埋土している。火床面は第15層上面で火熱を受けて赤変している。支脚は第15層上面に設置されている。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

覆土層解説

1	暗褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック微量	8	暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	9	暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量
3	灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	10	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
4	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	11	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子多量
5	灰褐色	焼土ブロック中量	12	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
6	暗赤褐色	炭化粒子多量、焼土ブロック中量、ローム粒子微量	13	暗赤褐色	粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
7	灰褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量	14	褐灰色	粘土粒子多量、焼土粒子少量
			15	暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量

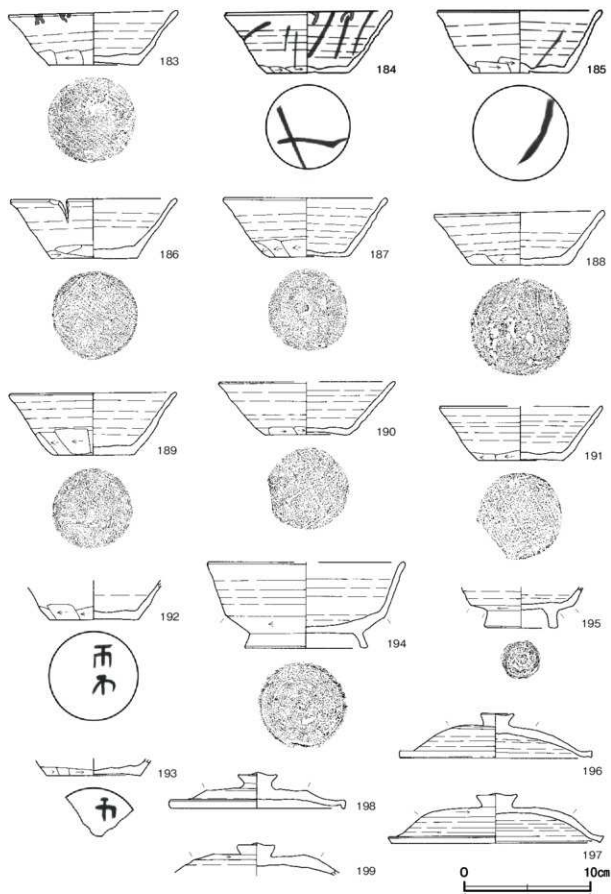


第165図 第343A号竪穴建物跡実測図

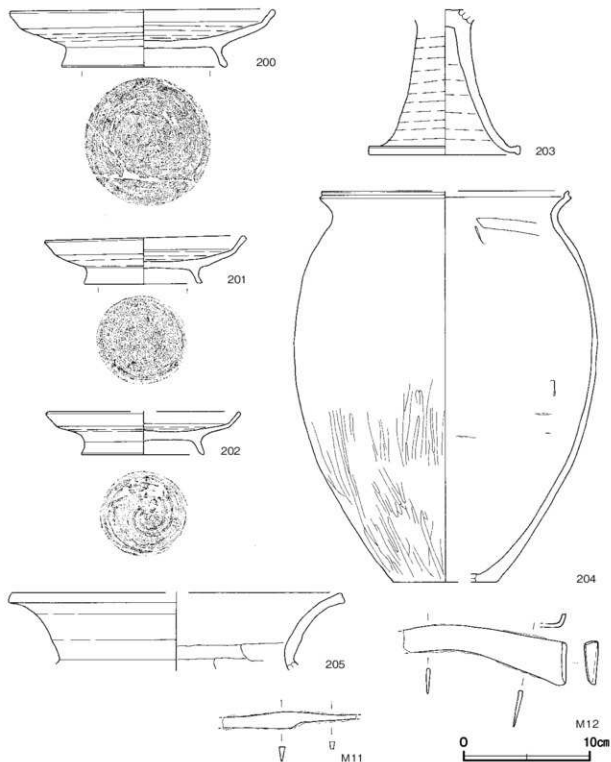
ピット 5か所。P1～P4は深さ13～16cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ16cmで南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | | |



第 166 图 第 343A 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第167図 第343A号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

覆土 14層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されたものと考えられる。第15層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|---------|----------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 5 黒褐色 | 粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子微量 | 6 濃い黄褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | 炭化物少量、焼土粒子微量 |

9	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量	13	灰褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
10	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量	14	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
11	褐色	ロームブロック中量	15	黒褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
12	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量			

遺物出土状況 土師器片 380点（坏8、甕類372）、須恵器片362点（坏145、高台付坏9、蓋26、盤3、高盤7、甕類171、瓶1）、土製品1点（支脚）、金属製品2点（刀子、鎌）が主に全域の覆土上層から下層にかけて出土している。183～185・188・192・194・200・205は中央部、M12は西壁付近、191は南東コーナー部、M11は南西コーナー部の床面からそれぞれ出土している。196・201～204は竈内から出土している。203は火床面に正位の状態、支脚に利用されている。199は中央部、190は南東部、189は南西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。187・195・198は中央部、186は南東コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。193・197は覆土中から出土している。これらの遺物は、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。

第343A号壜穴建物跡出土遺物観察表（第166～167図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
183	須恵器	坏	132	4.3	7.0	長石・石英・赤鉄母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ割り 底部一方の手持ちヘラ割り 油煙付着	床面	100% PL52 新治産
184	須恵器	坏	130	4.9	6.6	長石・石英・赤鉄母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ割り 底部一方の手持ちヘラ割り 油煙付着 内・外面・底部に大塵	床面	89% PL52 新治産
185	須恵器	坏	130	5.0	7.5	長石・石英・赤鉄母	黒褐	普通	体部下端手持ちヘラ割り 底部一方の手持ちヘラ割り 内面・底部外面に大塵	床面	80% PL52 新治産
186	須恵器	坏	130	4.7	6.8	長石・石英・赤鉄母	にぶい黄褐	良好	体部下端手持ちヘラ割り 底部一方の手持ちヘラ割り 口縁部土質状の切り込み	覆土上層	70% PL52 新治産
187	須恵器	坏	129	4.8	6.2	長石・石英・赤鉄母	暗灰	普通	体部下端手持ちヘラ割り 底部不定方向の手持ちヘラ割り	覆土上層	90% PL52 新治産
188	須恵器	坏	134	4.3	7.8	長石・石英・赤鉄母	にぶい黒	普通	体部下端手持ちヘラ割り 底部ヘラ切り痕を残す一方の手持ちヘラ割り	床面	90% PL52 新治産
189	須恵器	坏	132	5.0	6.3	長石・石英・赤鉄母	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ割り 底部不定方向の手持ちヘラ割り	覆土下層	50% 新治産
190	須恵器	坏	[138]	4.2	6.5	長石・石英・赤鉄母	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ割り 底部一方の手持ちヘラ割り	覆土下層	40% 新治産
191	須恵器	坏	[127]	4.3	6.8	長石・石英・赤鉄母	暗灰	普通	体部下端手持ちヘラ割り 底部一方の手持ちヘラ割り	床面	50% 新治産
192	須恵器	坏	-	[32]	7.0	長石・石英・赤鉄母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ割り 底部一方の手持ちヘラ割り 底部外面黒塵「吐出」	床面	50% PL56 新治産
193	須恵器	坏	-	[14]	[7.4]	長石・石英・赤鉄母	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ割り 底部一方の手持ちヘラ割り 底部外面黒塵「吐出」	覆土中	10% 新治産
194	須恵器	高台付坏	[155]	6.8	9.5	長石・石英・赤鉄母	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ割り 底部回転ヘラ割り	床面	60% PL52 新治産
195	須恵器	高台付坏	-	[3.3]	5.6	長石・石英・赤鉄母	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ割り 底部回転ヘラ割り 二次焼成	覆土上層	40% 新治産
196	須恵器	蓋	15.1	3.6	-	長石・石英・赤鉄母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ割り	竈内	70% PL52
197	須恵器	蓋	[166]	3.9	-	長石・石英・赤鉄母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ割り	覆土中	50%
198	須恵器	蓋	[137]	2.9	-	長石・石英・赤鉄母	暗灰黄	普通	天井部回転ヘラ割り	覆土上層	30% 新治産
199	須恵器	蓋	-	[2.6]	-	長石・石英・赤鉄母	暗灰黄	普通	天井部回転ヘラ割り	覆土下層	30% 新治産
200	須恵器	盤	20.7	4.6	12.8	長石・石英・赤鉄母	にぶい黄褐	普通	底部回転ヘラ割り 二次焼成	床面	95% PL53 新治産
201	須恵器	盤	15.8	3.9	9.1	長石・石英・赤鉄母	暗灰黄	良好	底部回転ヘラ割り	竈内	70% PL53
202	須恵器	盤	[152]	3.5	9.6	長石・石英・赤鉄母	にぶい黒	普通	底部回転ヘラ割り 痕を残すナデ	竈内	50% 新治産
203	須恵器	高盤	-	[11.6]	11.8	長石・石英・赤鉄母	暗灰黄	普通	脚部外・内面口ロナデ	火床面	40% 新治産 支脚転用
204	土師器	甕	[195]	31.2	[8.2]	長石・石英・赤鉄母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面下半へラ磨き 内面ヘラナデ ヘラ当	竈内	20%
205	須恵器	甕	[262]	[6.3]	-	長石・石英・赤鉄母	灰	普通	内面ヘラナデ	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M11	刀子	(107)	1.2	0.5	(12.8)	鉄	刃部先端部欠損 基部欠損 刃部断面三角 片開	床面	PL58
M12	鎌	(130)	3.7	0.3	(42.1)	鉄	刃部先端部欠損 刃部断面三角	床面	PL58

第 343B 号堅穴建物跡 (第 168 図 PL35)

位置 調査区中央部の C 5 d9 区、標高 25 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 343A 号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 第 343A 号堅穴建物に掘り込まれていることから東西軸は 2.68 m で、南北軸は 2.10 m しか確認できなかった。方形又は長方形と推定できる。主軸方向は $N-4^{\circ}-E$ である。

床 平坦で、地山をそのまま利用している。壁溝が北壁部、南東コーナー部、南西コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。第 343A 号堅穴建物に掘り込まれていることから掘方しか確認できなかった。掘方は長径 63 cm、短径 56 cm の楕円形で、14 cm 掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロック・粘土ブロックを含む第 1・2 層を埋土している。

竈土層解説

- 1 黒 褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック
2 黒 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量

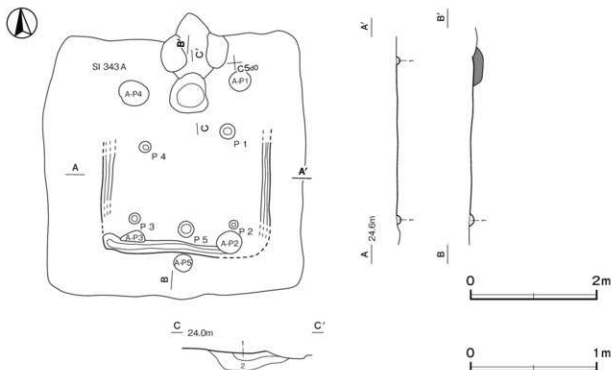
ピット 5 か所。第 343A 号堅穴建物に柱穴の大部分は掘り込まれており、ほぼ底面しか確認できなかった。P 1～P 4 は深さ 4～13 cm で、配置から主柱穴である。P 5 は深さ 9 cm で南壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 第 343A 号堅穴建物に掘り込まれているため壁溝の土層しか確認できなかった。

土層解説

- 1 黒 暗 褐色 焼土粒子少量、炭化物微量

所見 土器は出土していないが、第 343A 号堅穴建物の床下から竈や壁溝が確認されたことや主軸方向が同じことから本跡の四方の壁を拡張して第 343A 号堅穴建物を構築したものと考えられる。時期は、重複関係から 9 世紀前葉に比定できる。



第 168 図 第 343B 号堅穴建物跡実測図

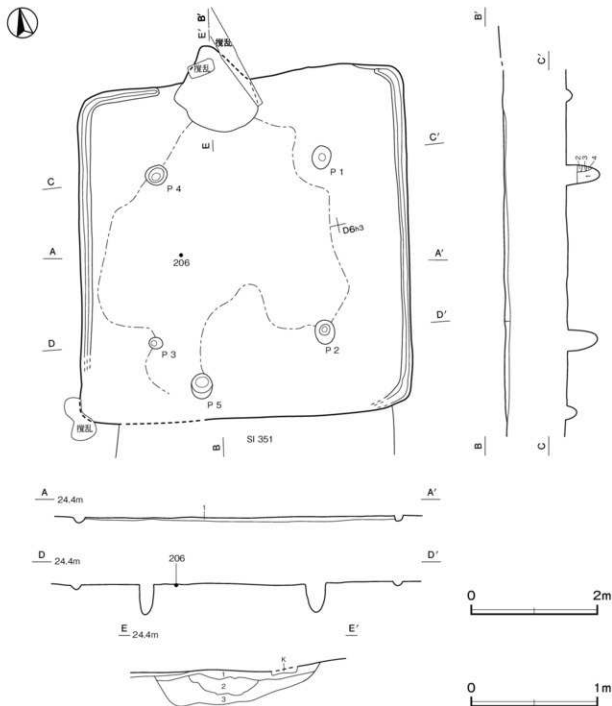
第 350A 号竪穴建物跡 (第 169・170 図 PL36)

位置 調査区中央部の D 6 g2 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 350B・351 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 5.54 m、短軸 5.20 m の方形で、主軸方向は $N - 10^\circ - E$ である。壁の立ち上がりは確認できなかった。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、全体を 4 cm ほど掘り下げ、焼土ブロックや炭化粒子を含む第 1 層を埋土して構築されている。壁溝が北壁の一部と南壁を除いて巡っている。



第 169 図 第 350A 号竪穴建物跡実測図

竈 北壁のやや西寄りに付設されているが、上部が削平されていることから掘方しか確認できなかった。掘方は長軸140cm、短軸126cmほどの不整形で28cm掘りくぼめ、焼土ブロックや粘土粒子を含む第1～3層を埋土している。掘方は壁外に52cm掘り込まれている。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量
2 黒褐色 粘土粒子多量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
3 黒褐色 粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は深さ41～62cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ21cmで、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (P1)

- 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量
2 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量
3 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子微量
4 黒褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック微量

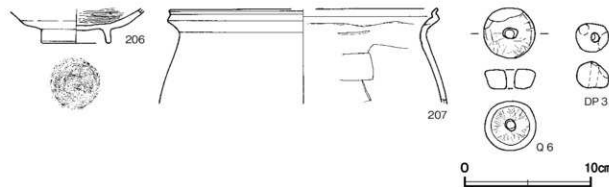
覆土 上面が削平されていることから覆土は確認できなかった。第1層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片330点(坏57、高台付坏5、蓋1、皿1、甕類266)、須恵器片249点(坏64、高台付坏2、蓋5、甕類178)、土製品1点(土玉)、石器1点(紡錘車)が柱穴内と貼床の構築土から出土している。206は中央部、DP3・Q6は南東部の貼床の構築土からそれぞれ出土している。207は竈の掘方から出土している。

所見 第350B号竈穴建物跡の東側を拡張し、主柱穴4か所を掘り直していることや出土土器から、時期は9世紀後葉に比定できる。



第170図 第350A号竈穴建物跡出土遺物実測図

第350A号竈穴建物跡出土遺物観察表(第170図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
206	土師器	高台付坏	-	(27)	5.5	長石・石英・赤色粘土	にぶ・黄褐色	普通	体部内面へラ磨き	黒色処理	貼床構築土 20%
207	土師器	甕	[21.4]	(7.5)	-	長石・石英・赤色粘土	明褐色	普通	口縁部内面輪磨痕	体部内面へラナゲ	掘削方 5%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP3	土玉	2.3	2.6	0.7	10.5	長石・石英・赤色粘土	橙	一方向から穿孔	指頭痕	貼床構築土 PL56

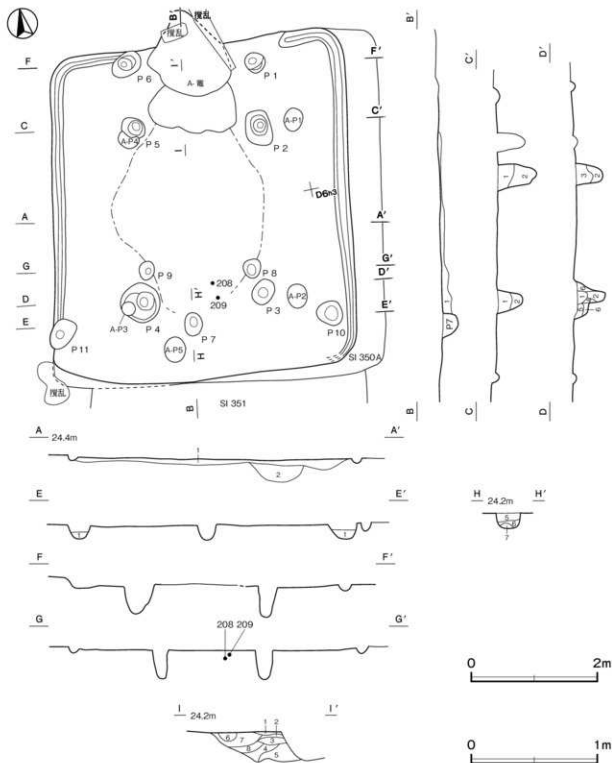
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
Q6	紡錘車	3.9	1.5	0.6	(33.1)	変成泥岩	上・下面研磨後縦割	一方向からの穿孔	上面一部欠損	貼床構築土 PL57

第350B号竪穴建物跡 (第171・172図 PL36)

位置 調査区中央部のD 6g2区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第351号竪穴建物跡を掘り込み、第350A号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.32m、短軸4.80mの長方形で、主軸方向は $N-10^{\circ}-E$ である。壁は高さ8~12cmで、外傾している。



第171図 第350B号竪穴建物跡実測図

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、全体を6cmほど掘り下げ、粘土ブロックや焼土ブロックを含む第1・2層を埋土して構築されている。壁溝が北壁の一部と南西コーナー部から南壁を除いて巡っている。

竈 北壁のやや西寄りに付設されている。第350A号竈穴建物に掘り込まれていることから掘方の一部しか確認できなかった。掘方は南北軸58cm、東西軸132cmの不整形で24cmほど掘りくぼめ、焼土ブロックや粘土ブロックを含む第1～8層を埋土している。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック多量 | 7 黒褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 粘土ブロック多量 | 8 黒褐色 焼土ブロック少量、粘土ブロック微量 |

ピット 11か所。P1～P6は深さ41～62cmで、南北に一直線に配置されていることから主柱穴である。P7は深さ25cmで、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P8～P11は補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 粘土ブロック多量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック微量 | 7 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック多量 | |

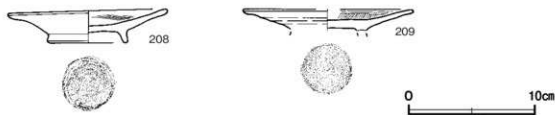
覆土 第350A号竈穴建物の下部から床面が確認された。第1・2層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1 褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 2 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
|-----------------------------|------------------------------|

遺物出土状況 土師器片21点(坏4, 皿2, 甕類15)、須恵器片17点(坏4, 甕類13)が、柱穴内と貼床の構築土から出土している。208・209は南部の貼床の構築土からそれぞれ出土している。

所見 第350A号竈穴建物の拡張前の竈穴建物跡である。時期は、重複関係と出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第172図 第350B号竈穴建物跡出土遺物実測図

第350B号竈穴建物跡出土遺物観察表(第172図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
208	土師器	皿	125	28	6.1	長石・石英・赤褐色・赤色粒子	赤褐色	普通	体部内面ヘラ磨き	貼床構築土	95% PL53
209	土師器	皿	[134]	1.6	-	長石・石英・赤褐色	にぶい黄褐色	普通	体部内面ヘラ磨き 黒色処理 底部斜縁ヘラ切り	貼床構築土	50%

第351号竈穴建物跡(第173～175図 PL36)

位置 調査区中央部のD 6h2区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第350A・350B号竪穴建物、第39・43号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が第350A・350B号竪穴建物に掘り込まれているが、東西軸4.43m、南北軸4.38mの方形である。主軸方向はN-16°-Eである。壁は高さ13～22cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、全体を4cmほど掘り下げ、粘土ブロックを含む第9層を埋土して構築されている。壁溝が北西コーナー部から北壁を除いて巡っている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。第350A・350B号竪穴建物に掘り込まれていることから掘方しか確認できなかった。右袖部は粘土ブロックが一部遺存しており、掘方は長径78cm、短径71cmの楕円形で地山をわずかに掘りくぼめている。

ピット 2か所。P1・P2は深さ20cm・22cmで、中央部の南壁寄りに位置している。性格は不明である。

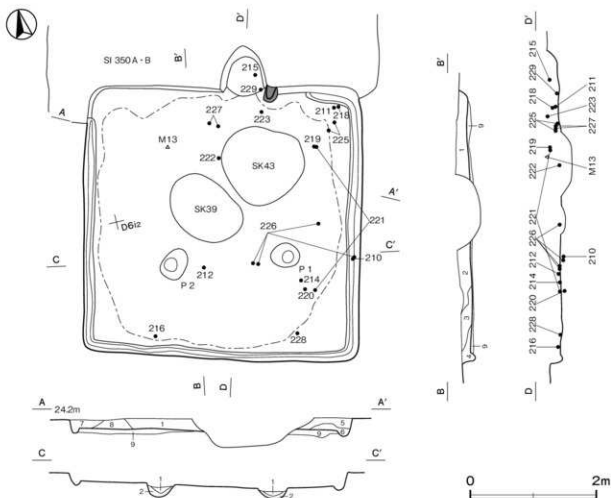
ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック少量 | 2 暗褐色 粘土ブロック中量 |
|----------------|----------------|

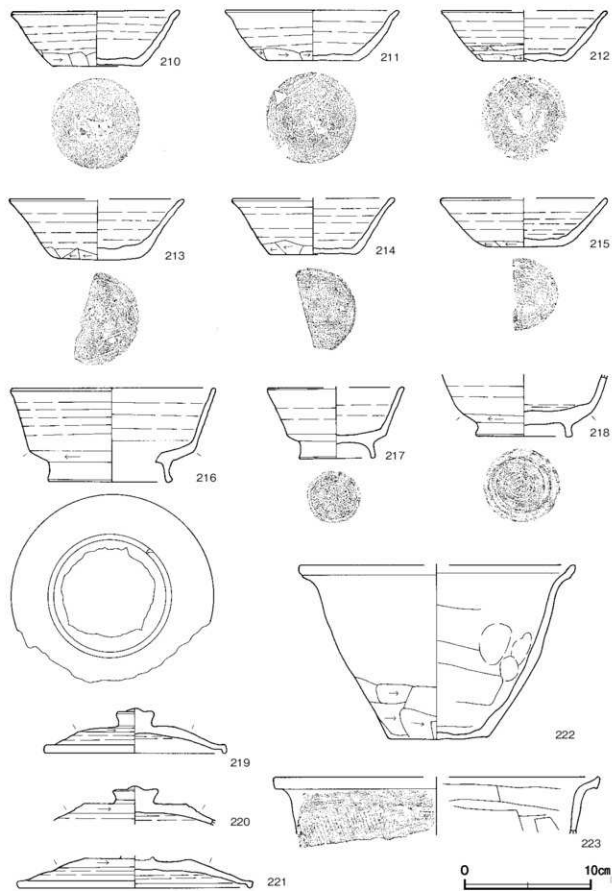
覆土 8層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第9層は貼床の構築土である。

土層解説

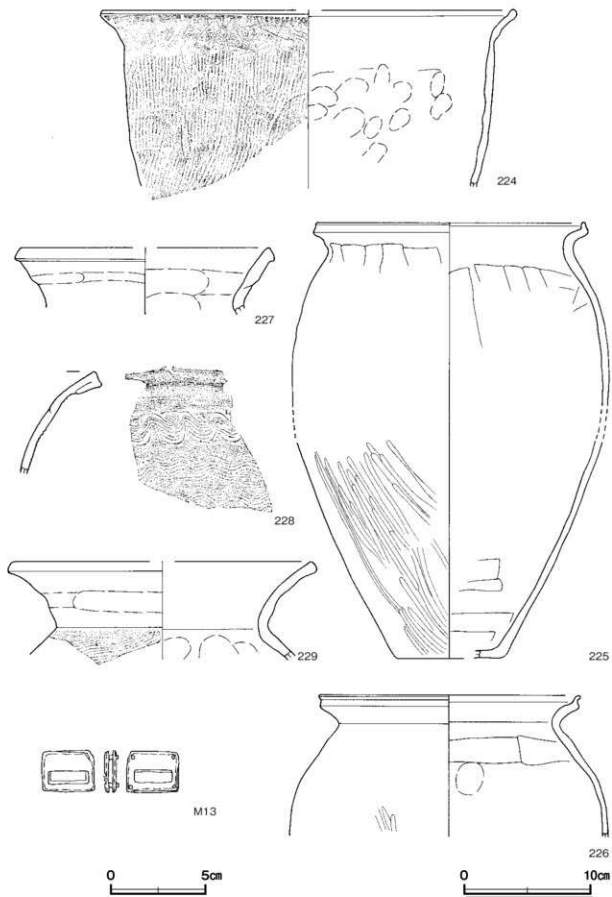
- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 6 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック微量 | 8 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量 | 9 褐色 粘土ブロック多量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | |



第173図 第351号竪穴建物跡実測図



第 174 图 第 351 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (1)



第 175 图 第 351 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)

遺物出土状況 土師器片 294 点 (坏 26, 鉢 1, 甕類 267), 須恵器片 249 点 (坏 92, 高台付坏 5, 蓋 12, 高盤 1, 鉢 2, 甕類 135, 瓶 2), 金属製品 3 点 (釘, 腰帯具, 不明) が, 主に竪前方部と南部の覆土下層から出土している。215・229 は竪内, 222・227 は竪前方部, 211・225 は北東コーナー部, 212 は中央部, 214・220・226・228 は南東部, 216 は南壁付近の床面からそれぞれ出土している。221 は東壁付近の床面と北東部の覆土上層から出土した破片が接合している。210 は東壁溝内から出土している。218 は北東コーナー部の覆土中層から出土している。215 は竪内, 219 は北東部, M13 は北西部, 223 は竪前方部の覆土上層からそれぞれ出土している。213・217・224 は覆土中から出土している。これらの遺物は, 埋没過程で廃棄された可能性がある。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。

第 351 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 174・175 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
210	須恵器	坏	133	4.5	7.0	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す二方向の手持ちヘラ削り	壁溝内	95% PL51 新治産
211	須恵器	坏	135	4.5	7.3	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	床面	70% PL51 新治産
212	須恵器	坏	[131]	4.0	6.7	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り痕を残す二方向の手持ちヘラ削り	床面	60% 新治産
213	須恵器	坏	[138]	4.9	6.7	長石・石英	灰黄褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	覆土中	30% 竪之内産
214	須恵器	坏	[125]	4.4	[6.9]	長石・石英・雲母	褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	床面	40% 新治産
215	須恵器	坏	[132]	3.8	5.6	長石・石英・雲母	褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	竪内	40% 新治産
216	須恵器	高台付坏	160	7.5	9.4	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部外周より高台部を踏す穿孔	床面	70% PL52 新治産
217	須恵器	高台付坏	[107]	5.6	5.7	長石・石英・雲母	褐色	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部外周より高台部を踏す穿孔	覆土中	40% 新治産
218	須恵器	高台付坏	-	(4.9)	7.4	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土中層	50% 新治産
219	須恵器	蓋	[144]	3.5	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	60% 新治産
220	須恵器	蓋	-	(3.1)	-	長石・石英	褐色	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	20%
221	須恵器	蓋	[184]	(2.4)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	天井部回転ヘラ削り 宝珠欠損 二次焼成	床面 覆土上層	60% 新治産
222	土師器	鉢	[216]	13.9	7.9	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	体部下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 指頭痕 底部木芯痕	床面	50%
223	須恵器	鉢	[257]	(4.5)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面ヘラナデ	覆土上層	5%
224	須恵器	鉢	[326]	(14.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面指頭痕 輪轆痕	覆土中	5%
225	土師器	甕	213	[34.7]	[8.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	胴部ヘラナデ 体部外面下手ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	20%
226	土師器	甕	20.8	(11.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外面下手ヘラ磨き 内面ヘラナデ 指頭痕	床面	30%
227	須恵器	甕	[197]	(5.3)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口縁部ヘラナデ 輪轆痕 外・内面指ナデ	床面	5%
228	須恵器	甕	-	(8.1)	-	長石・石英・雲母	褐色	良好	口縁部本體面による波状文を3段施文 内面百文輪轆	床面	5%
229	須恵器	甕	[238]	(7.8)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口縁部外面指ナデ 体部外面斜位の平行叩き 内面指頭痕	竪内	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M13	腰帯具	2.2	2.8	0.7	6.2	銅	湯方 4か所の鋸で裏金を固定	覆土上層	PL58

第 352 号竪穴建物跡 (第 176 図 PL37)

位置 調査区中央部の E 7 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 34 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東側が調査区域外に延びていることから南北軸は 2.18 m で, 東西軸は 3.06 m しか確認できなかった。方形又は長方形と推定できる。南北軸方向は N-0° である。上部が削平されていることから壁は高さ 16cm で, 外傾している。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, 全体を 11cm ほど掘り下げ, 粘土ブロックを含む第 3・4 層を埋土して構築されている。壁溝が南東部を除いて巡っている。

ピット P 1 は深さ 16cm で、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1 黒褐色 粘土ブロック少量

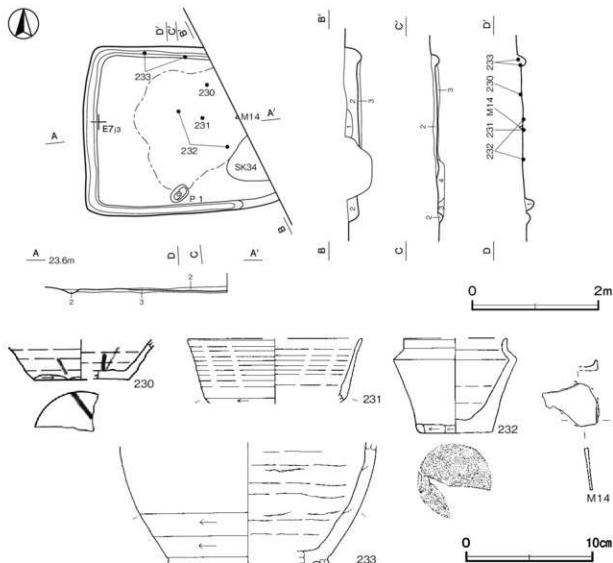
覆土 2層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。第3・4層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 3 黒褐色 粘土ブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量 4 黒褐色 粘土ブロック多量

遺物出土状況 土師器片 8点 (坏3, 甕類5), 須恵器片 25点 (坏7, 高台付坏1, 短頸壺1, 長頸瓶1, 甕類15), 金属製品1点 (鎌) が、主に全域の覆土中から出土している。230・233は北壁付近, 231・232は中央部, M14は東部の床面からそれぞれ出土している。これらの遺物は、埋没過程で廃棄された可能性がある。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第176図 第352号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第352号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第176図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
230	須恵器	坏	—	(32)	[7.6]	長石・石英	褐色	普通	体部下端手持らへラ削り 外・内面火摩	床面	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
Z31	須恵器	高台付杯	[137]	(5.2)	-	長石・石英・ 長石母	黄灰	普通	体部下端回転へう割り		床面	10% 露出
Z32	須恵器	短頸壺	[80]	7.6	5.9	長石・石英	灰	良好	体部下位へう割り 底部不足方向の手持ちへう割り		床面	50% 堀之内壁
Z33	須恵器	長頸瓶	-	(9.7)	-	長石・石英・ 長石母	黄灰	普通	体部下位回転へう割り 内面指ナデ 輪積直		床面	10% 露出

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M14	鎌	(46)	(3.5)	0.3	(24.5)	鉄	刃部欠損 基部断面三角形	床面	

第 354 号竪穴建物跡 (第 177 図)

位置 調査区中央部の E 6j8 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 21 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北側と東側が第 21 号溝に掘り込まれていることから、東西軸は 2.38 m で、南北軸は 1.44 m しか確認できなかった。方形又は長方形と推定できる。出入り口ピットから主軸方向は N-15°-W と推定できる。壁は高さ 10 cm で、外傾している。

床 平坦で、中央部から南壁にかけて踏み固められている。床は、地山をそのまま利用している。壁溝が第 21 号溝に掘り込まれた部分を除いて巡っている。

ピット P 1 は深さ 10 cm で、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1 黒褐色 粘土ブロック少量

2 黒褐色 粘土ブロック多量

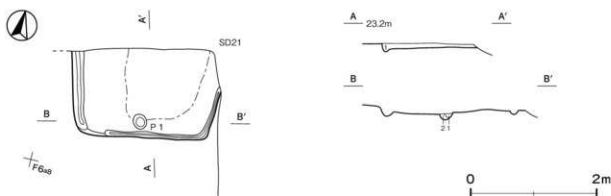
覆土 単一層である。上部が削平されていることから堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片 2 点(亮類)が覆土中から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係や出土土器から 9 世紀代に比定できる。



第 177 図 第 354 号竪穴建物跡実測図

第 355 号竪穴建物跡 (第 178 図 PL37)

位置 調査区中央部の E 6h8 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号粘土採掘坑に掘り込まれている。

規模と形状 上面が削平され、南東部が第1号粘土採掘坑に掘り込まれていることから南北軸は3.25m、東西軸は2.57mしか確認できなかった。隅丸方形又は隅丸長方形と推定できる。主軸方向はN-0°である。

床 削平されていることから確認できなかった。壁溝が北西コーナー部を巡っている。

竈 北壁に付設されている。掘方しか確認できなかった。規模は長軸50cm、短軸42cmの不整楕円形で、深さ8cmである。

竈土層解説

1 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量

ピット 2か所。P1・P2は深さ34cm・38cmで、配置関係から西側の支柱穴である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

1 黒褐色 粘土ブロック多量

3 黒褐色 粘土ブロック微量

2 黒褐色 粘土ブロック中量

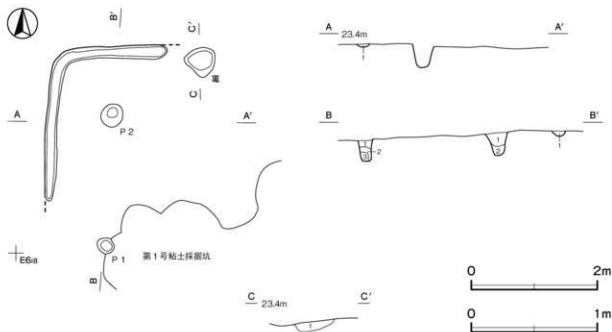
覆土 第1層は壁溝の覆土である。

土層解説

1 黒褐色 粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片5点(坏1、甕類4)、須恵器片6点(蓋1、甕類5)が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉以前に比定できる。



第178図 第355号竪穴建物跡実測図

第356号竪穴建物跡 (第179図 PL37)

位置 調査区中央部のF6a7区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号粘土採掘坑に掘り込まれている。

規模と形状 西側は調査区域外に延び、北側は第1号粘土採掘坑に掘り込まれていることから南北軸は2.75mで、東西軸は2.03mしか確認できなかった。方形又は長方形と推定できる。主軸方向はN-7°-Wと推定

でき、壁は高さ34～37cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。床は、地山をそのまま利用している。壁溝は、東壁から南壁に巡っている。

ピット P1は深さ12cmで、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

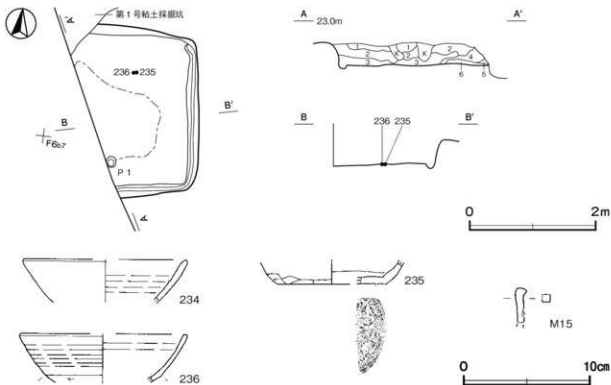
覆土 6層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | 4 黒褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック多量、焼土ブロック少量 | 5 暗褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 6 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片18点（高台付杯1、甕類17）、須恵器片11点（杯5、甕類6）、金属製品1点（釘）が、主に全域の覆土中から出土している。235・236は、北東コーナ部付近の床面からそれぞれ出土している。234・M15は、覆土中からそれぞれ出土している。これらの遺物は、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第179図 第356号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第356号竪穴建物跡出土遺物観察表（第179図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
234	須恵器	杯	[128]	(3.5)	-	長石・石英・雲母	黒	普通	体部外・内面ロクロナデ	覆土中	5%
235	須恵器	杯	-	(2.0)	(8.6)	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘタ張り 内面ロクロナデ 底部ナデ	床面	10%
236	土師器	高台付杯	(130)	(3.8)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面黒色処理	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M15	釘	(28)	0.9	0.6	(3.9)	鉄	下部欠損 断面深角形	覆土中	

第 357 号竪穴建物跡 (第 180・181 図 PL38)

位置 調査区中央部の E 6 c9 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東側が調査区域外に延びていることから南北軸は 292 m で, 東西軸は 2.46 m しか確認できなかった。隅丸方形又は隅丸長方形と推定できる。主軸方向は $N-6^{\circ}-W$ である。壁は高さ 8 ~ 26 cm で, 外傾している。

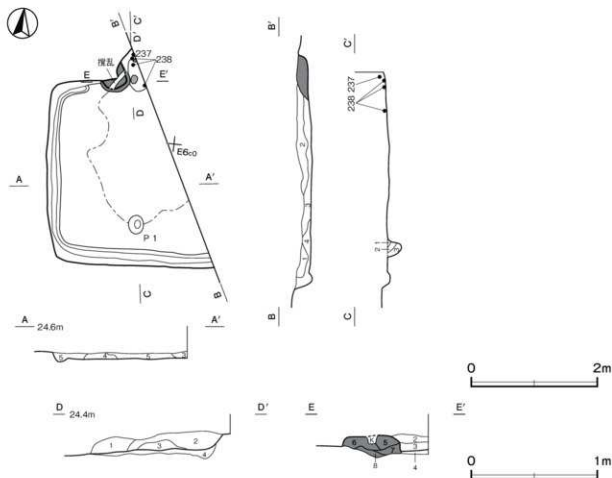
床 平坦で, 竈の前方が踏み固められている。床は, 地山をそのまま利用している。壁溝が北壁から南壁にかけて巡っている。

竈 北壁の西寄りに付設されている。左袖部から煙道部までしか確認できなかった。規模は焚口部から煙道部まで 68 cm, 燃焼部幅は 21 cm しか確認できなかった。左袖部は地山の上に粘土ブロックやロームブロックを含む第 5 ~ 8 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形と推定され, 7 cm ほど掘りくぼめ, 焼土ブロックを含む第 4 層を埋土している。火床面は第 4 層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | 5 暗褐色 粘土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 粘土ブロック微量 | 7 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 4 黒色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 ロームブロック少量 |

ピット P 1 は深さ 22 cm で, 南壁際に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第 180 図 第 357 号竪穴建物跡実測図

ピット土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
2 黒褐色 ロームブロック多量
3 黒褐色 ロームブロック少量

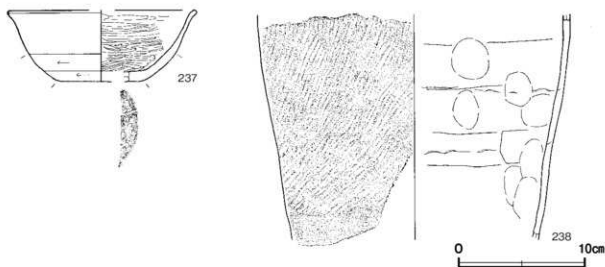
覆土 5層に分層できる。北側から流れ込んだ堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
5 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 18点（坏4、椀1、甕類13）、須恵器片 16点（高台付坏1、鉢1、甕類14）が主に
庭前方部の覆土中から出土している。237・238は、火床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第181図 第357号竪穴建物跡出土遺物実測図

第357号竪穴建物跡出土遺物観察表（第181図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
237	土師器	椀	[150]	5.7	[6.2]	長石・石英・ 赤鉄・赤色粒子	明褐色	普通	体部下端回転へう削り 内面へう磨き	黒色処理	火床面	30%
238	須恵器	鉢	—	(180)	—	長石・石英・ 赤鉄	赤褐色	普通	体部外面斜位の平行切ぎ 磨き	内面へうナデ 指磨	火床面	10% 新石室

第359号竪穴建物跡（第182図）

位置 調査区中央部のE7g2区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北東部が調査区域外に延びていることから、南北軸は252m、東西軸は140mしか確認できなかった。隅丸方形又は隅丸長方形と推定できる。主軸方向は不明である。壁は高さ4～6cmである。

床 平坦で、西壁の北側が踏み固められている。床は、地山をそのまま利用している。壁溝が西壁から南西コーナー部を巡っている。

ピット P1は深さ52cmで、性格は不明である。

ピット土層解説

- 1 褐灰色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
2 にぶい褐色 ローム粒子中量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化
3 暗褐色 ローム粒子多量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量
4 褐色 ローム粒子多量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量

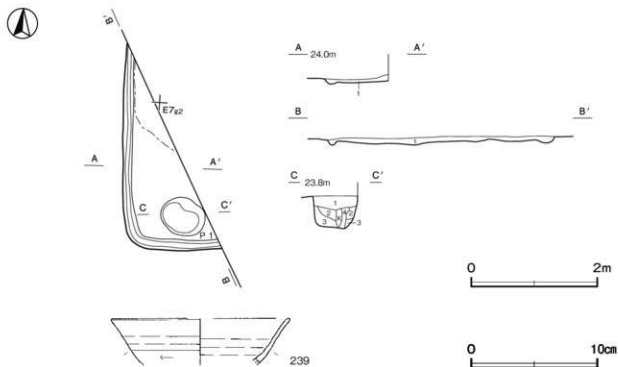
覆土 単一層で薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片7点(甕類)、須恵器片6点(坏4、甕類2)が出土している。239は南部の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第182図 第359号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第359号竪穴建物跡出土遺物観察表(第182図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
239	須恵器	坏	142	37	-	長石・石英・赤鉄	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ロコナデ	覆土中	5%

第360号竪穴建物跡(第183図 PL38)

位置 調査区中央部のE7f1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第42号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸300m、短軸240mの長方形で、主軸方向はN-1°-Eである。壁は、4cmである。上面が削平されていることから東部しか確認できなかった。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、全体を10cmほど掘り下げ、ロームブロックと粘土ブロックを含む第2~6層を埋土して構築されている。竈の前方部に焼土塊が2か所確認されている。

竈 北壁の西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで68cmで、燃焼部幅は56cmである。袖部は地山の上に粘土ブロックを含む第5・6層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に6cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや粘土ブロックを含む第7層を埋土している。火床面は第7層上面で火熱を受けて赤変し

ている。煙道部は壁外に37cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

覆土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------------|---------|--------------------------------------------|
| 1 にぶい褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 灰褐色 | ク・炭化粒子少量
粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 6 にぶい褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロック少量 | 7 にぶい褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 にぶい褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロッ | | |

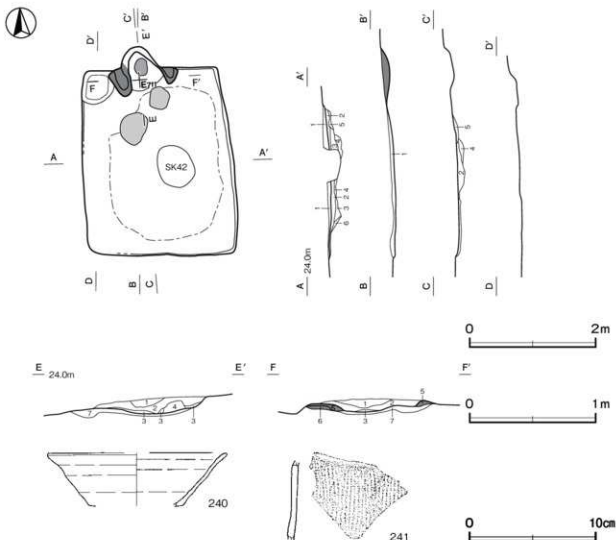
覆土 単一層で薄いため堆積状況は不明である。第2～6層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 5 灰褐色 | 子微量
粘土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロッ | 6 黒褐色 | 子微量
ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 にぶい褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | | |
| 4 灰褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒 | | |

遺物出土状況 土師器片25点(坏1, 甕類24), 須恵器片21点(坏3, 甕類18)が、北東部の覆土中から出土している。240は覆土中, 241は貼床の構築土からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第183図 第360号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第 360 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 183 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
240	灰窓器	坏	[142]	(42)	-	長石・石英・ 長石母	にぶい黄	普通	体外外・内面ロクロナデ	覆土中	10% 新治遺
241	灰窓器	甕	-	(62)	-	長石・石英・ 長石母	黄灰	普通	体外外面縦位の平行引き 内面ヘラナデ 節頭傾	貼床構築土	5%

第 363 号竪穴建物跡 (第 184・185 図)

位置 調査区北部の C 59 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 5 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南側半分が攪乱を受けていることから, 南北軸は 2.28 m, 東西軸は 3.20 m しか確認できなかった。方形又は長方形と推定でき, 主軸方向は N-15°-E である。壁は高さ 11~16 cm で, 外傾している。

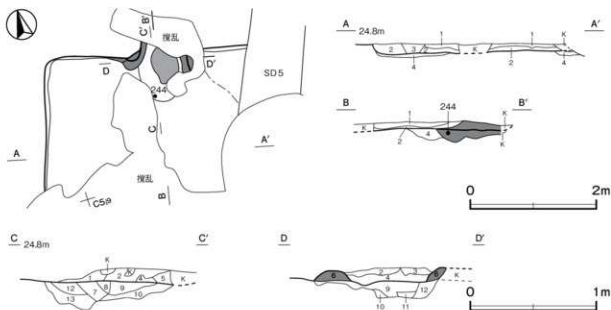
床 平坦な貼床で, 竈の前方が踏み固められている。貼床は, 全体を 12 cm ほど掘り下げ, ロームブロックや焼土ブロックを含む第 4 層を埋土して構築されている。

竈 北壁に付設されている。右袖部から煙道部にかけて攪乱を受けている。規模は焚口部から燃焼部の 65 cm しか確認できなかった。燃焼部幅は 58 cm である。袖部は第 9・12 層の上に粘土ブロックを含む第 6 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 15 cm 掘りくぼめ, 焼土ブロックやロームブロックを含む第 7~13 層を埋土している。火床面は第 7~9 層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は確認できなかった。

覆土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 灰 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 7 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 黒 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐色 | 焼土ブロック中量, 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量 |
| 4 黒 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量, ロームブロック少量 | 10 にぶい赤褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量 | 11 明赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 灰 褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子中量, 焼土ブロック少量 | 12 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・ロームブロック中量 |
| | | 13 暗 褐色 | ローム粒子中量 |

覆土 4層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。第 5 層は貼床の構築土である。



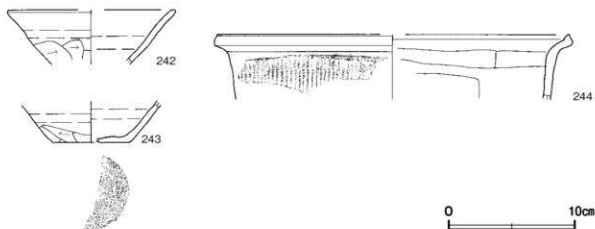
第 184 図 第 363 号竪穴建物跡実測図

土層解説

- 1 黒色 ロームブロック中量
2 にふい・黄褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック少量
4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片 37点 (坏10, 甕類27), 須恵器片 38点 (坏15, 蓋1, 鉢1, 甕類19, 瓶2)が, 主に北東の覆土中から出土している。244は竈掘方, 243は北東部の貼床の構築土からそれぞれ出土している。242は北東部の覆土中から出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第185図 第363号竪穴建物跡出土遺物実測図

第363号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第185図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
242	須恵器	坏	[132]	(4.4)	-	長石・石英・雲母	にふい・黄褐色	普通	体部下端手持ちヘリ張り	覆土中	20% 新治産
243	須恵器	坏	-	(3.3)	[6.1]	長石・石英	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘリ張り 底部一方向のヘリ張り	貼床構築土	20%
244	須恵器	鉢	[279]	(5.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗灰	普通	体部外面部位の平行叩き 内面横ナデ	竈掘方	5%

第367号竪穴建物跡 (第186図)

位置 調査区中央部のE7h1区, 標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第21号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南半分が第21号溝に掘り込まれ, 上面は削平されていることから東西軸は3.00mで, 南北軸は1.45mしか確認できなかった。方形又は長方形と推定できる。主軸方向はN-0°である。壁は確認できなかった。

床 平坦で, 地山をそのまま利用している。

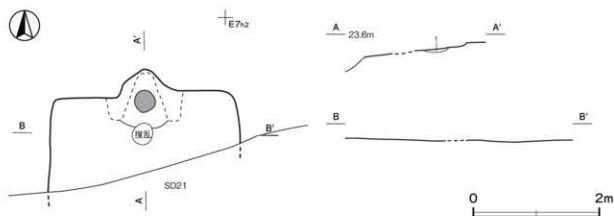
竈 北壁に付設されている。上面は削平されているが, 規模は焚口部から煙道部まで91cmで, 燃焼部幅は66cmである。袖部は粘土の痕跡しか確認できなかった。火床部は円形に7cm掘りくぼめ, 粘土ブロックや焼土粒子を含む第1層を埋土している。火床面は第1層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に42cm掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上っている。

焼土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子多量, 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片2点 (甕類), 須恵器片2点 (坏)が床面から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀代に比定できる。



第 186 図 第 367 号竪穴建物跡実測図

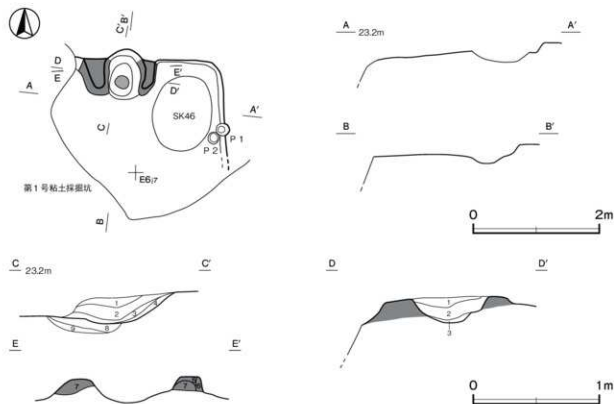
第 368 号竪穴建物跡 (第 187 図)

位置 調査区中央部の E 6 17 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号粘土採掘坑に掘り込まれている。第 46 号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 第 1 号粘土採掘坑に西側から南側にかけて掘り込まれているため、南北軸は 2.74 m、東西軸は 2.50 m しか確認できなかった。方形又は長方形と推定できる。主軸方向は $N-0^\circ$ である。壁は高さ 15 cm で、外傾している。

床 確認できた部分は平坦である。



第 187 図 第 368 号竪穴建物跡実測図

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで82cmで、燃焼部幅は52cmである。袖部は地山の上に粘土ブロックを含む第5～7層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に12cmほど掘りくぼめ、粘土ブロックや焼土ブロックを含む第8・9層を埋土している。火床面は第8層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に16cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	6 灰褐色	粘土ブロック多量
2 にぶい褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量	7 にぶい褐色	粘土ブロック中量
3 灰褐色	粘土ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	8 にぶい褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
4 赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量	9 にぶい褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
5 暗褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量		

ピット 2か所。P1・P2は深さ5cm・7cmで性格は不明である。

遺物出土状況 土師器片15点(甕類)、須恵器片5点(坏4、甕類1)が、床面から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀代に比定できる。

第369号竪穴建物跡(第188～190図 PL38・39)

位置 調査区中央部のE6h7区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号粘土探掘坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.72m、短軸4.68mの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁は高さ12～18cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、竈前方部から南壁にかけて踏み固められている。貼床は、全体を21cmほど掘り下げ、粘土ブロックや焼土ブロックを含む第5～11層を埋土して構築されている。壁溝が、北東コーナー部から南壁中央部にかけて巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで134cmで、燃焼部幅は76cmである。袖部は地山の上に粘土ブロックを含む第7・8層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に16cm掘りくぼめ、粘土ブロックや炭化粒子を含む第9層を埋土している。火床面は第9層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に62cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

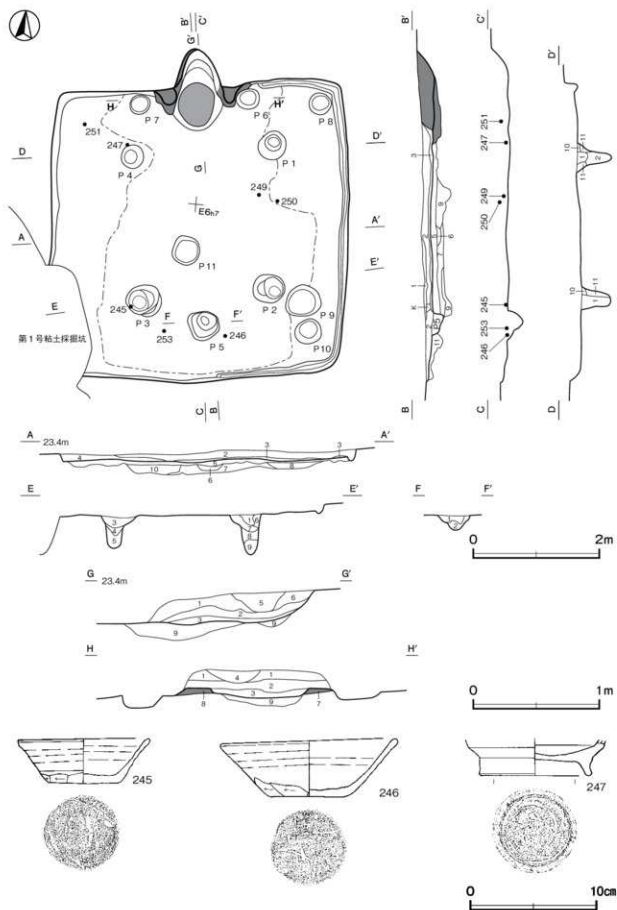
竈土層解説

1 暗褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	5 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック微量
2 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	6 黒褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック微量
3 褐色	ロームブロック・焼土粒子中量、粘土粒子少量	7 暗褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
4 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	8 灰褐色	粘土ブロック多量、炭化粒子微量
		9 黒褐色	粘土ブロック中量、炭化粒子微量

ピット 11か所。P1～P4は深さ48～68cmで主柱穴である。P5は南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は深さ15cm・20cmで補助柱穴である。P8～P11は深さ10～16cmで性格は不明である。

ピット土層解説(各ピット共通)

1 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量	7 黒褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
2 黒褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック微量	8 黒褐色	粘土ブロック多量
3 黒褐色	粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量	9 黒褐色	粘土ブロック少量
4 黒褐色	粘土ブロック中量	10 黒褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック少量
5 黒褐色	粘土ブロック少量	11 黒褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量
6 黒褐色	粘土ブロック中量		



第188图 第369号竖穴建物跡・出土遺物実測図

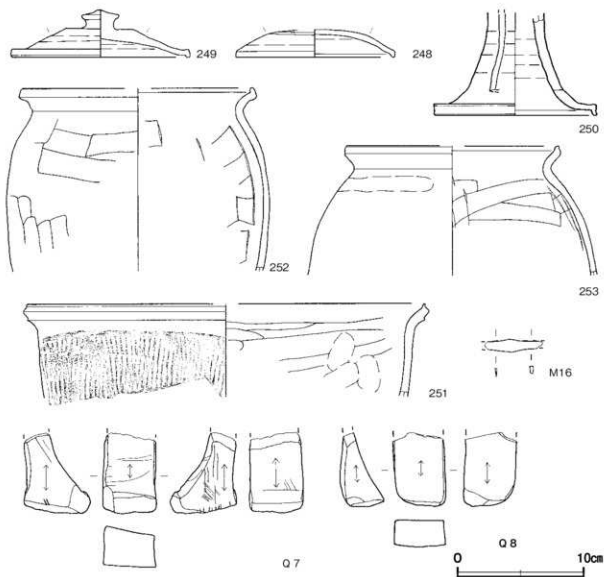
覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。第5～11層は貼床の構築土である。

土層解説

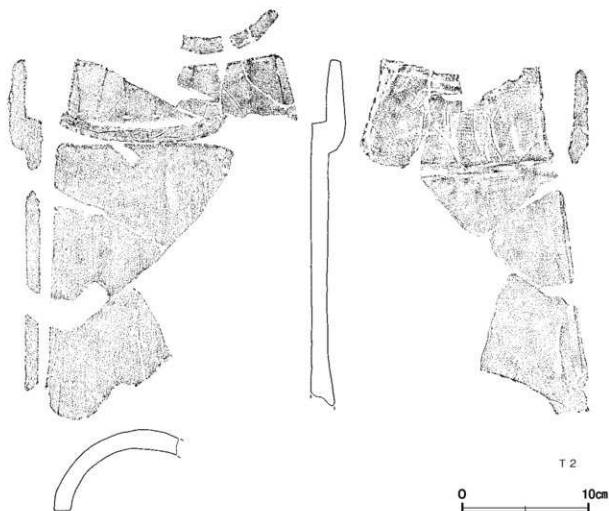
1 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量	6 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	7 黒褐色	粘土ブロック中量
3 褐色	粘土ブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	8 暗褐色	粘土ブロック・粘土ブロック微量
4 灰褐色	粘土ブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	9 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック微量
5 黒褐色	粘土ブロック多量、焼土ブロック少量	10 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量
		11 黒褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片 298点（坏5，蓋1，甕類292），須恵器片 219点（坏63，高台付坏7，蓋15，高盤1，鉢1，甕類120，甗12），石器2点（砥石），金属製品1点（刀子），瓦2点（丸瓦，平瓦）が，主に竈前方部の覆土中から出土している。247は北西部，249は北東部，246・253は南壁付近の床面からそれぞれ出土している。245はP3の上面，252は竈内から出土している。250は北東部，251は北西コーナー部の覆土下層から出土している。248・Q7は，P3内から出土している。Q8・M16・T2は，覆土中から出土している。これらの遺物は，埋没過程で廃棄された可能性がある。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第189図 第369号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第190図 第369号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第369号竪穴建物跡出土遺物観察表(第188~190図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
245	須恵器	坏	104	36	56	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへう割り 底部一方向の手持ちへう割り	P 3上面	80% 新治産
246	須恵器	坏	138	47	60	長石・石英・雲母	黒灰	普通	体部下端手持ちへう割り 底部一方向の手持ちへう割り	床面	85% 新治産
247	須恵器	高台付坏	-	(29)	86	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転へう割り	床面	30% 新治産
248	土師器	蓋	125	(23)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にじい黄褐色	普通	天井部回転へう割り 内面黒色処理	P 3内	50% PL52
249	須恵器	蓋	[139]	3.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	天井部回転へう割り	床面	30% 新治産
250	須恵器	高盤	-	(82)	[127]	長石・石英・雲母	灰	普通	脚部透かし3ヶ所	覆土下層	20% 新治産
251	須恵器	鉢	[316]	(74)	-	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面横ナデ 指環状	覆土下層	5%
252	土師器	甕	[184]	(146)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面横・縦位のナデ 内面横・斜位のナデへう当て痕	甕内	10%
253	土師器	甕	[168]	(103)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面横ナデ 内面横・斜位のナデへう当て痕	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 7	磁石	(64)	4.3	5.4	(159.2)	凝灰岩	紙面4面	P 3内	PL57
Q 8	磁石	(60)	4.2	3.6	(89.1)	凝灰岩	紙面3面	覆土中	PL57

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M16	刀子	(46)	1.0	0.3	(42)	鉄	刃部・基部欠損 刃断面三角形 両側	覆土中	

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴はか	出土位置	備考	
T 2	瓦	丸瓦	(9.9)	6.4	(27.6)	長石・石英・ 炭砂	に灰赤褐色	普通	玉縁式 凸面筒部・玉縁部幅位のへう張り 凹面を目標	Ⅳ	Ⅳ Ⅴ土中	PL59

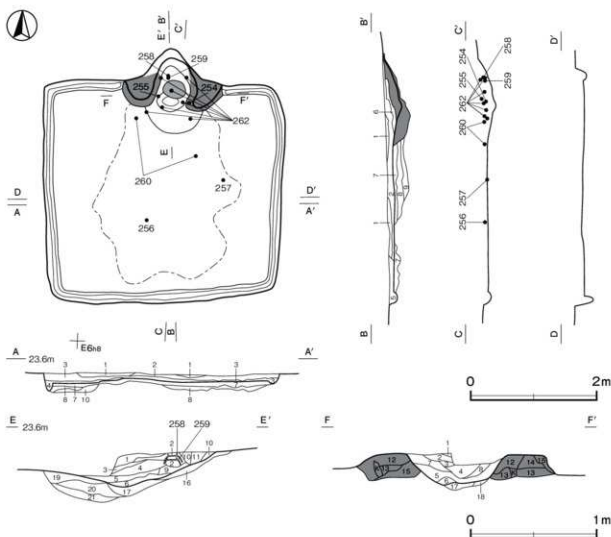
第 370 号堅穴建物跡 (第 191・192 図 PL39)

位置 調査区中央部の E 6 g8 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

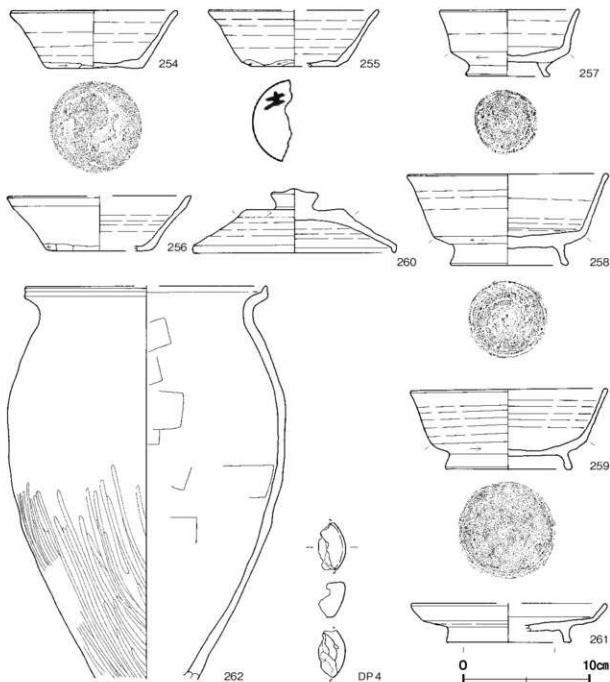
規模と形状 長軸 3.82 m、短軸 3.54 m の方形で、主軸方向は N-3°-W である。壁は高さ 8-12 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、竈前方部から南壁にかけて踏み固められている。貼床は、全体を 23 cm ほど掘り下げ、焼土ブロックや粘土ブロックを含む第 7-10 層を埋土して構築されている。壁溝が全周している。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 135 cm で、燃焼部幅は 54 cm である。袖部は地山の上に粘土ブロック・焼土ブロックやロームブロックを含む第 12-15 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 8 cm 掘りくぼめ、ロームブロックや粘土ブロックを含む第 17-18 層を埋土している。火床面は第 17 層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に 51 cm 掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。



第 191 図 第 370 号堅穴建物跡実測図



第192図 第370号竪穴建物跡出土遺物実測図

甑土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------------|----------|----------------------------------|
| 1 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 灰褐色 | 粘土ブロック多量、焼土ブロック中量、炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐灰色 | 焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい褐色 | 焼土ブロック多量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 4 にぶい褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 12 灰褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 13 にぶい褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 | 14 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 16 灰褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |

- 17 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
 18 にぶい褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック中量、炭化粒子微量
 19 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
 20 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
 21 灰褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第7～10層は貼床の構築茶土である。

土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 3 褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
 4 にぶい褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
 5 にぶい褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
 6 にぶい褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子少量
 7 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
 8 灰褐色 粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
 9 にぶい褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量
 10 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 252点（坏7、甕類245）、須恵器片 102点（坏56、高台付坏6、蓋12、盤2、高盤6、甕類20）、土製品1点（紡錘車）、瓦1点（平瓦）が、全域の覆土中から出土している。260は竈前方部、257は東部、256は中央部の床面からそれぞれ出土している。254・255・258・259・262は竈内から出土している。258・259は逆位の状態で重なって出土している。261・DP4は、覆土中から出土している。これらの遺物は、埋没過程で廃棄された可能性がある。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。

第370号竪穴建物跡出土遺物観察表（第192図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
254	須恵器	坏	132	4.6	7.5	長石・石英・赤母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り後ナゲ 底部ヘラ切り筋を残すナゲ	竈内	80% PL51 新治産
255	須恵器	坏	[134]	4.5	[6.8]	長石・石英・赤母	にぶい黄褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り、筋痕[]	竈内	30% PL56
256	須恵器	坏	[144]	4.4	[8.4]	長石・石英・赤母・赤色粒子	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り後ナゲ 底部ナゲ	床面	30% 新治産
257	須恵器	高台付坏	109	5.3	6.4	長石・石英・赤母	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	床面	90% PL52 新治産
258	須恵器	高台付坏	158	7.3	9.1	長石・石英・赤母	灰黄褐色	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	竈内	80% PL52 新治産
259	須恵器	高台付坏	154	6.5	9.6	長石・石英・赤母	浅黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	竈内	90% PL52 新治産
260	須恵器	蓋	[159]	3.1	-	長石・石英・赤母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	20% 新治産
261	須恵器	盤	[154]	3.1	[9.8]	長石・石英・赤母	灰黄褐色	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中	20% 新治産
262	土師器	甕	[192]	(31.4)	-	長石・石英・赤母	明赤褐色	普通	体部下半ヘラ磨き 内面横・斜位のナゲ	竈内	40%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP4	紡錘車	[57]	2.8	-	(13.6)	長石・赤色粒子	明黄褐色	側面ナゲ 欠損	覆土中	

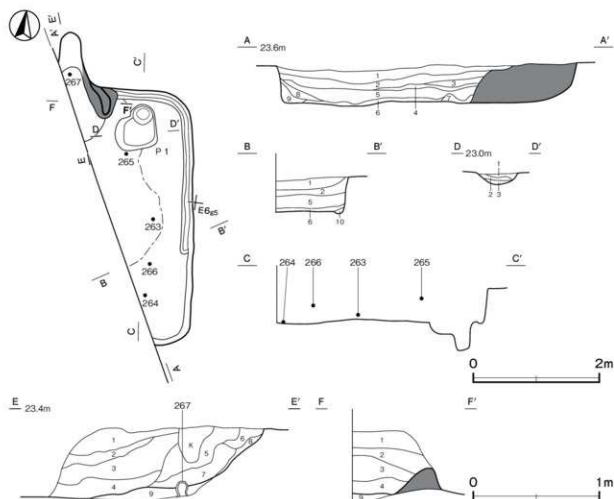
第372号竪穴建物跡（第193・194図 PL40）

位置 調査区中央部のE6区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 西側が調査区域外に延びているため、南北軸は4.02mで、東西軸は1.84mしか確認できなかった。方形又は長方形と推定できる。主軸方向はN-2°-Wである。壁は高さ56～60cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、竈前方部から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が北壁から東壁中央にかけて巡っている。

竈 北壁に付設されている。右袖部から煙道部までしか確認できなかった。規模は焚口部から煙道部まで168



第193図 第372号竪穴建物跡実測図

cm, 燃焼部幅は38cmしか確認できなかった。右袖部は地山の上に粘土ブロックを含む層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形と推定され、10cmほど掘りくぼめ、粘土ブロック・焼土粒子や炭化粒子を含む第9層を埋土している。火床面は第9層上面で、赤変していない。支脚は小形甕を利用している。煙道部は壁外に83cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竪土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量 | 7 黒褐色 | 焼土ブロック中量, 粘土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック・焼土ブロック少量 | 8 黒褐色 | 焼土ブロック少量, 粘土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 | 9 黒色 | 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック微量 | | |

ピット P1は深さ42cmで竪穴の東側に位置していることから、主柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|---------|---------------------------|
| 1 明褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 にぶい褐色 | 焼土ブロック多量, 粘土ブロック中量, 炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック多量, 粘土ブロック・炭化物少量 | | |

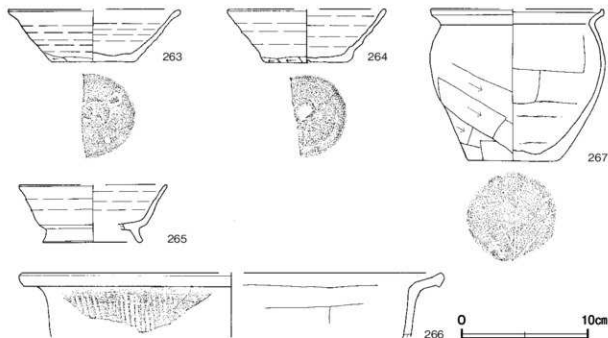
覆土 10層に分層できる。焼土ブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量 | 6 灰褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 雑褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量 |
| 3 にぶい褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 灰褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 にぶい褐色 | 粘土ブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 10 褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 108 点 (坏 3, 小形甕 1, 甕類 104), 須恵器片 284 点 (坏 96, 高台付坏 14, 蓋 16, 高盤 2, 鉢 1, 甕類 152, 甕 3), 瓦 1 点 (平瓦) が, 主に北部の覆土上層から出土している。263 は東壁付近, 264 は南部の床面からそれぞれ出土している。267 は火床面に逆位の状態で掘えられ, 支脚に転用されている。265 は北東コーナー部, 266 は東壁付近の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。



第 194 図 第 372 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 372 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 194 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
263	須恵器	坏	[136]	4.2	6.6	長石・石英・炭素	灰黄緑	普通	体部下端手持ちヘラ削り ナナデ	底面回転ヘラ切を殊	床面	30% 新治産
264	須恵器	坏	[123]	4.3	6.4	長石・石英・炭素	灰黒	普通	体部下端手持ちヘラ削り ナナデ	底面回転ヘラ切後ナナ	床面	30% 新治産
265	須恵器	高台付坏	[116]	4.6	[7.8]	長石・石英・炭素	灰白	普通	体部ロケロナデ	二次焼成	覆土上層	30% 新治産
266	須恵器	鉢	[320]	(5.2)	-	長石・石英・炭素	灰黄	普通	体部外面位の平行叩き	内面位のナデ	覆土上層	5%
267	土師器	小形甕	[137]	12.2	7.0	長石・石英・炭素	濃い赤黒	普通	体部下端ヘラ削り 底部木葉痕	内面横位のナデ 一次焼成	甕内	80% PL53 支脚転用

第 373 号竪穴建物跡 (第 195・196 図 PL40)

位置 調査区中央部の E 6d4 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南西コーナー部が調査区域外に延びているが, 長軸 4.20 m, 短軸 4.10 m の方形で, 主軸方向は N-80°-E である。壁は高さ 34~39 cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, 全体を 16 cm ほど掘り下げ, 焼土ブロックや粘土ブロックを含む第 6~8 層を埋土して構築されている。壁溝が北西コーナー部を除き巡っている。

竈 竈 1 は, 東壁のやや南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 106 cm で, 燃焼部幅は 69 cm である。袖部は地山の上に焼土ブロックや粘土ブロックを含む第 9~11 層を積み上げて構築されている。火床

部は楕円形に12cm掘りくぼめ、焼土ブロックや炭化粒子を含む第13・14層を埋土している。火床面は第13層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に63cm掘り込まれ、竈2の煙道部を短く造り替えている。火床部から外傾している。

竈2は、煙道部のみ遺存している。煙道部は壁外に91cm掘り込まれている。第15層は竈1を構築するために埋め戻した層である。

竈3は北壁に付設されている。焚口部と袖部の一部が壁溝に掘り込まれていることから火床部から煙道部まで136cm、燃焼部幅は53cmしか確認できなかった。袖部は地山の上に粘土ブロックを含む第9層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に6cm掘りくぼめ、焼土ブロックや炭化粒子を含む第10層を埋土している。火床面は第10層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に110cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。第11層は支脚である。壁溝が竈3の火床面を掘り込んでいる。

竈1・2土層解説

1 黒 褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量	8 黒 褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量
2 黒 褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	9 黒 褐色	粘土ブロック多量
3 黒 褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	10 黒 褐色	焼土ブロック多量、粘土ブロック少量
4 黒 褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、粘土ブロック微量	11 黒 褐色	焼土ブロック・粘土ブロック微量
5 黒 褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量、粘土ブロック微量	12 黒 褐色	焼土ブロック多量
6 黒 褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	13 黒 褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量
7 黒 褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック微量	14 黒 褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量
		15 黒 褐色	焼土ブロック少量

竈3土層解説

1 黒 褐色	粘土ブロック・焼土粒子微量	6 黒 褐色	粘土ブロック・焼土ブロック中量
2 黒 褐色	粘土ブロック中量	7 黒 褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量
3 黒 褐色	焼土ブロック・粘土ブロック微量	8 黒 褐色	焼土ブロック少量、粘土ブロック微量
4 黒 褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量	9 黄 褐色	粘土ブロック多量
5 黒 色	焼土ブロック多量、炭化粒子微量	10 黒 褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量
		11 黒 褐色	焼土ブロック中量

ピット 5か所。P1～P4は深さ28～62cmで主柱穴である。P5は、深さ38cmで南壁寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

1 黒 褐色	粘土ブロック少量	5 黒 褐色	粘土粒子中量
2 黒 褐色	粘土ブロック中量	6 黒 褐色	粘土ブロック少量
3 黒 褐色	粘土ブロック少量	7 黒 褐色	粘土ブロック多量
4 暗 褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量		

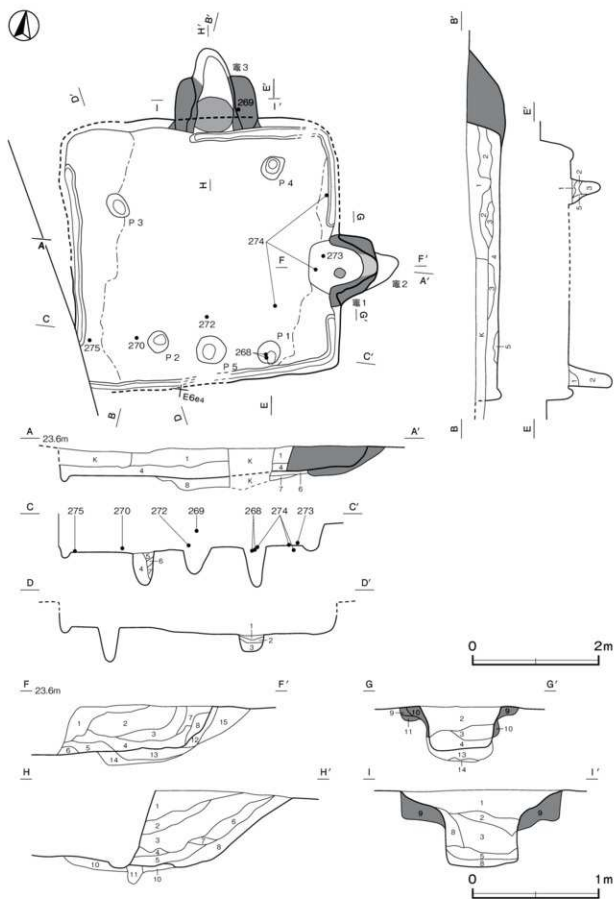
覆土 5層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。第6～8層は貼床の構築土である。

土層解説

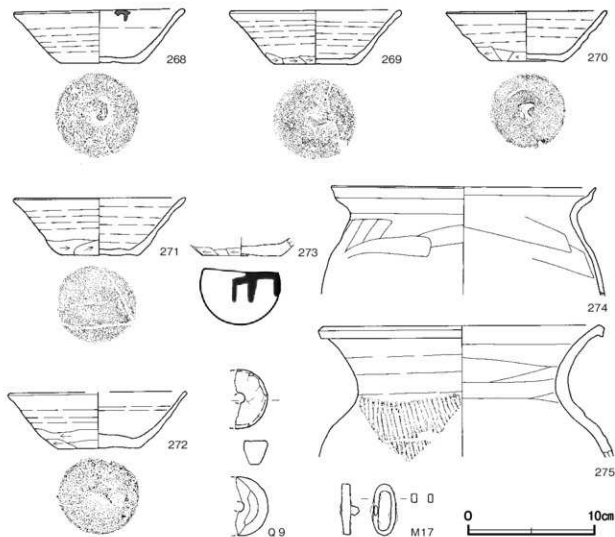
1 黒 褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量	4 黒 褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
2 黒 褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	5 暗 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
3 暗 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	6 黒 褐色	粘土ブロック多量、焼土ブロック微量
		7 暗 褐色	粘土ブロック微量
		8 黒 褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片499点(坏10、高台付坏5、蓋3、甕類481)、須恵器片599点(坏182、高台付坏12、蓋28、高盤3、甕類371、瓶3)、石器1点(紡錘車)、金属製品3点(釘、黄金具、不明)、瓦1点(平瓦)が、全域の覆土上層から下層にかけて出土している。270・275は南西部、274は竈1の前方部の床面からそれぞれ出土している。268はP1の上面、273は竈1内、269・M17は竈3内からそれぞれ出土している。271・Q9は覆土中から出土している。

所見 竈は北壁の竈3、東壁の竈2、竈1の順に造り替えている。時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第 195 図 第 373 号堅穴建物跡実測図



第196図 第373号竪穴建物跡出土遺物実測図

第373号竪穴建物跡出土遺物観察表(第196図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
268	須臾器	坏	13.3	4.3	6.3	長石・石英・ 赤母	灰褐色	普通	体部下端ナデ 底部へら切痕を残すナデ 油練	P1上面	90% 新治産
269	須臾器	坏	13.5	4.3	6.7	長石・石英・ 赤母・赤色粒土	暗灰黄	普通	体部下端手持ちへら削り 底部不定方向の手持ちへら削り	甕3内	80% 新治産
270	須臾器	坏	12.7	4.1	5.9	長石・石英・ 赤母・赤色粒土	灰褐色	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方方向の手持ちへら削り	床面	60% 新治産
271	須臾器	坏	13.5	4.7	6.0	長石・石英・ 赤母	褐色	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方方向の手持ちへら削り及ナデ 二次修整	覆土中	60% 新治産
272	須臾器	坏	[14.0]	4.5	6.4	長石・石英・ 赤母	灰黄褐色	普通	体部下端手持ちへら削り 底部筋彫へら切痕を残すナデ	床面	40% 新治産
273	須臾器	坏	-	(1.5)	6.1	長石・石英・ 赤母・赤色粒土	灰褐色	普通	体部下端手持ちへら削り 底部手持ちへら削り残すナデ 磨き「出」	甕1内	10% 新治産
274	土師器	甕	20.8	(8.6)	-	長石・石英・ 赤母	にぶい橙	普通	体部外面縦・横位のナデ 内面斜位のナデ	床面	20%
275	須臾器	甕	21.9	(10.5)	-	長石・石英・ 赤母	灰黄	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位の平行印き	床面	20% 新治産

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q9	紡錘車	[4.8]	(1.8)	[0.6]	(2.86)	変成岩	上・下面研磨 一方からの穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M17	黄金具	4.0	1.9	0.4	8.8	鉄	環状 中央部に突起 断面四角形	甕3内	PL58

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign CC
	図版作成	Adobe Illustrator CS4
	写真調整	Adobe Photoshop CS4
	Scanning	6×7 film EPSON GT-X980
		図面類 RICOH-imagio MPW4001
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L 太ゴB101Pro
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CCでレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第435集

九重東岡麿寺 金田西遺跡 上巻

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ1

平成31（2019）年 3月15日 印刷

平成31（2019）年 3月18日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 八幡印刷株式会社

〒310-0911 水戸市見和3丁目1528-38

TEL 0120-23-1473

茨城県教育財団文化財調査報告第435集

九重東岡廃寺 金田西遺跡

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXI

下 卷

平成31年 3 月

独立行政法人都市再生機構
首都圏ニュータウン本部
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第435集

ここの え ひがし おか
九重東岡廃寺
こん だ にし
金田西遺跡

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXI

下 卷

平成31年3月

独立行政法人都市再生機構
首都圏ニュータウン本部
公益財団法人茨城県教育財団

目 次

- 下 巻 -

第4章 金田西遺跡

第3節 遺構と遺物

2 平安時代の遺構と遺物

(1) 竪穴建物跡（第374号竪穴建物跡～第392号竪穴建物跡）	225
(2) 掘立柱建物跡	245
(3) 井戸跡	260
(4) 粘土探掘坑	261
(5) 土坑	265
(6) 柱穴列	270
(7) 溝跡	272
(8) ビット群	273

3 江戸時代の遺構と遺物

(1) 土坑	274
(2) 溝跡	275

4 その他の遺構と遺物

(1) 土坑	277
(2) 柱穴列	284
(3) 溝跡	285
(4) ビット群	285
(5) 遺構外出土遺物	286

第5章 まとめ

写真図版 PL 1～PL60

抄録

付図

第 374 号竪穴建物跡 (第 197・198 図 PL41)

位置 調査区中央部の E 6 e6 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 116 号掘立柱建物に掘り込まれている。

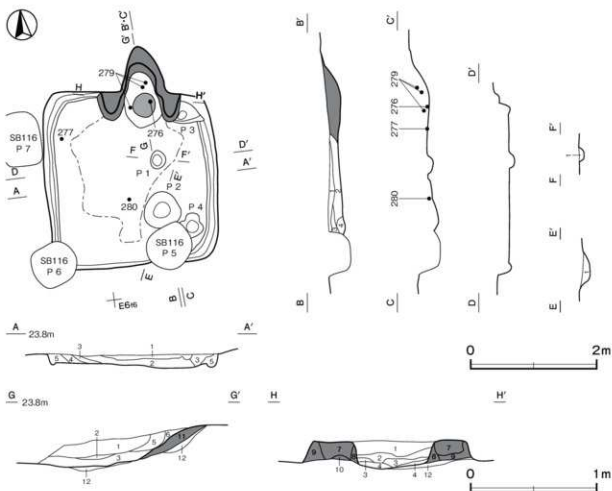
規模と形状 長軸 281 m、短軸 269 m の方形で、主軸方向は N-2°-E である。壁は高さ 15～18 cm で、外傾している。

床 平坦で、竈の前方部から南壁付近にかけて踏み固められている。壁溝は南壁を除いて巡っている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 130 cm で、燃焼部幅は 59 cm である。袖部は地山と第 12 層の上に粘土ブロックや焼土ブロックを含む第 7～10 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 4 cm 掘りくぼめ、粘土ブロックや焼土ブロックを含む第 12 層を埋土している。火床面は第 12 層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 70 cm 掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子少量 | 6 褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 粘土ブロック多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 灰褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 灰褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 10 暗灰褐色 粘土ブロック多量、炭化粒子微量 |
| | 11 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| | 12 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |



第 197 図 第 374 号竪穴建物跡実測図

ピット 4か所。P1～P4は深さ6～14cmで浅く、規則性がない。性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

1 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

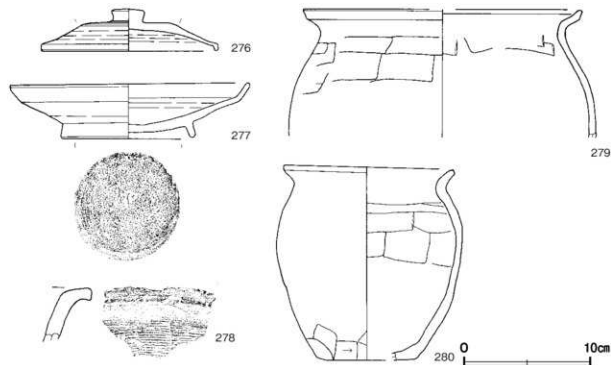
覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子 3 褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
 2 灰褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・炭化 4 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
 粒子微量 5 褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片62点(坏1, 小形甕1, 甕類60), 須恵器片23点(坏9, 高台付坏1, 蓋2, 盤1, 高盤1, 鉢1, 甕類8), 瓦1点(平瓦)が、主に東部の覆土中層から出土している。277は西壁付近の床面, 280は中央部の床面から正位の状態で出土している。276は竈内から正位の状態で出土している。これらの遺物は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第198図 第374号竪穴建物跡出土遺物実測図

第374号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第198図)

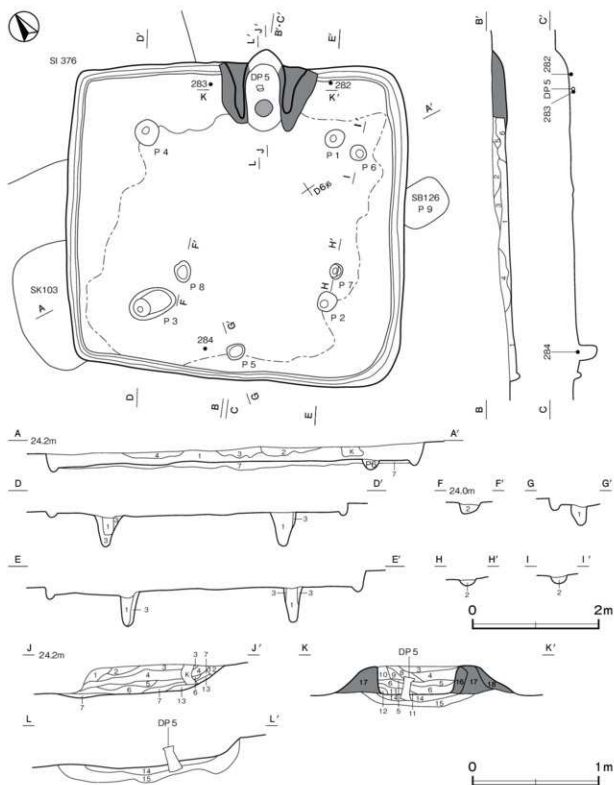
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
276	須恵器	蓋	140	3.4	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	天井部回転ヘラ削り	竈内	90% PL52 新治産
277	須恵器	盤	190	4.5	103	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り	床面	20% 新治産
278	須恵器	鉢	-	(42)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面横位の平行叩き	覆土中	5%
279	土師器	甕	[220]	(102)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面横ナゲ 内面横・斜位のナゲ	竈内	10%
280	土師器	小形甕	13.4	15.6	7.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下位ヘラ削り 内面横位のナゲ	床面	80% PL54

第 378 号 竪穴建物跡 (第 199・200 図 PL41・42)

位置 調査区中央部の D 615 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 376 号 竪穴建物跡、第 126・127 号 掘立柱建物跡、第 90・103 号 土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 5.35 m、短軸 5.08 m の隅丸方形で、主軸方向は N-37°-E である。壁は高さ 2~25 cm で



第 199 図 第 378 号 竪穴建物跡実測図

ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、竈の前方部から南西壁にかけて踏み固められている。貼床は、全体を12cmほど掘り下げ、焼土ブロックと粘土ブロックを含む第7層を埋土して構築されている。壁溝は全周している。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで126cmで、燃焼部幅は56cmである。袖部は地山と第14・15層の上に焼土ブロックや粘土ブロックを含む第16～18層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に13cm掘りくぼめ、焼土ブロックや粘土ブロックを含む第14・15層を埋土している。火床面は第14層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に26cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

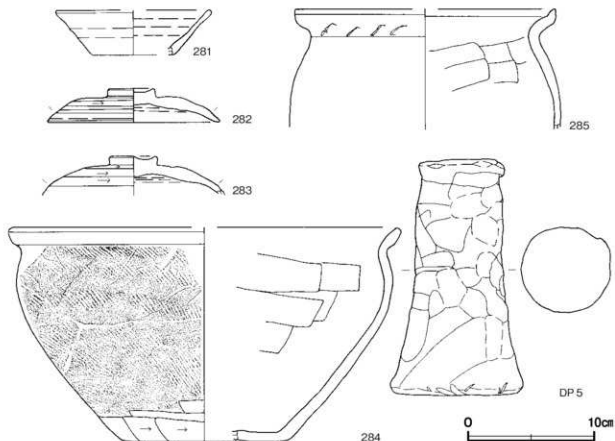
竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒 褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 9 灰 褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 黒 褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土ブロック微量 |
| 3 黒 褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 11 極暗 褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、粘土ブロック微量 |
| 4 黒 褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 12 黒 褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 黒 褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 13 灰 褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 6 黒 褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 14 黒 褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 7 黒 褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量、粘土ブロック微量 | 15 灰 褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 8 黒 褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック中量、炭化粒子微量 | 16 黒 褐色 粘土ブロック・炭化粒子多量 |
| | 17 極暗 褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| | 18 黒 褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |

ピット 8か所。P1～P4は深さ50～55cmで主柱穴である。P5は、深さ28cmで南西壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P8は深さ10～18cmで補助柱穴と思われる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1 黒 褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 3 黒 褐色 粘土ブロック少量 |
| 2 黒 褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 | |



第200図 第378号竈穴建物跡出土遺物実測図

覆土 6層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。第7層は貼床の構築土である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	5	暗褐色	ロームブロック中量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	6	暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	7	黒色	粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
4	暗褐色	ロームブロック多量			

遺物出土状況 土師器片 196点（坏5、甕類190、手捏土器1）、須恵器片 121点（坏23、高台付坏1、蓋7、盤1、高盤1、鉢1、甕類87）、土製品1点（支脚）が、主に東部の覆土上層から下層にかけて出土している。282は竈右袖部付近、283は竈左袖部付近、284は南西壁付近の床面からそれぞれ出土している。DP 5は、竈の火床部に支脚として据えられた状態で出土している。281・285は覆土中からそれぞれ出土している。これらの遺物は、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。

第378号竪穴建物跡出土遺物観察表（第200図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
281	須恵器	坏	[122]	3.6	[6.6]	長石・石英・ 赤鉄・赤色粒子	灰黄	普通	体部下端ナデ 底部へう割り		覆土中	20% 新治産
282	須恵器	蓋	[135]	2.7	-	長石・石英・ 赤鉄・赤色粒子	にぶい黒	普通	天井部回転へう割り		床面	90% 新治産
283	須恵器	蓋	-	(3.1)	-	長石・石英・ 赤鉄・赤色粒子	黄褐	普通	天井部回転へう割り 二次焼成		床面	50% 新治産
284	須恵器	鉢	[306]	17.1	[130]	長石・石英・ 赤鉄・赤色粒子	灰黄	普通	体部外面斜位の平行叩き 下位へう割り 内面 横位のナデ		床面	20% 新治産
285	土師器	鉢	[306]	(9.6)	-	長石・石英・ 赤鉄・赤色粒子	明赤褐	普通	胴部外面へう割で裏 内面横位のナデ		覆土中	10%

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 5	支脚	18.9	10.6	6.1	1481.5	長石・石英・ 赤色粒子	橙	下平へうナデ 節頭直	竈内	PL56

第380号竪穴建物跡（第201・202図 PL42）

位置 調査区中央部のD5g0区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第5号ピット群に掘り込まれている。

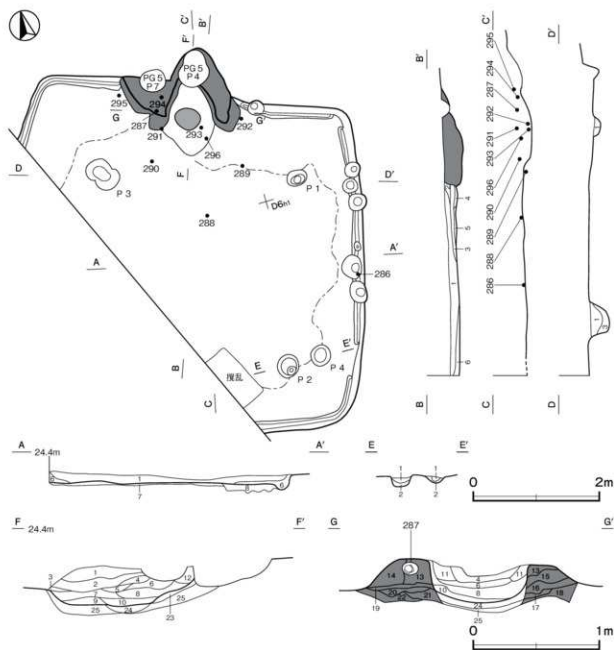
規模と形状 南西部が調査区域外に延びているが、長軸5.34m、短軸5.16mの方形で、主軸方向はN-16°-Eである。壁は高さ10～15cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、竈前方部から中央部にかけて踏み固められている。貼床は、全体を6cmほど掘り下げ、焼土ブロックや粘土ブロックを含む第7・8層を埋して構築されている。確認した部分では壁際は巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで172cmで、燃焼部幅は71cmである。袖部は地山の上に焼土ブロックや粘土ブロックを含む第13～22層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に9cm掘りくぼめ、粘土ブロックや焼土ブロックを含む第24・25層を埋している。火床面は第24・25層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は第5号ピット群に掘り込まれているが壁外に68cmほど掘り込まれているものと推定できる。火床部からの立ち上がりは不明である。

覆土層解説

1	褐灰色	焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化物少量、 ロームブロック微量	5	暗褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子 微量
2	黒褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化物少量	6	褐灰色	焼土ブロック中量、粘土粒子少量
3	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、粘土ブロック微量	7	黒褐色	炭化物中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量
4	明褐灰色	粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	8	にぶい褐色	焼土ブロック多量、粘土ブロック少量



第201図 第380号竪穴建物跡実測図

- | | | | |
|---------|----------------------------|--------|--------------------------|
| 9 灰褐色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 17 黒褐色 | 焼土ブロック中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 10 黒色 | 炭化粒子多量, 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 18 暗褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 11 暗赤褐色 | 炭化粒子少量, 焼土ブロック・粘土粒子微量 | 19 黒色 | 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 12 黒色 | 炭化粒子多量, 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量 | 20 黒褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 13 明黄褐色 | 粘土ブロック多量 | 21 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量 |
| 14 黒褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量 | 22 黒褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量 |
| 15 黒褐色 | 粘土ブロック・焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 | 23 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 16 黒褐色 | 粘土ブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 24 黒褐色 | 焼土ブロック中量, 粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| | | 25 黒褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック微量 |

ピット 11か所。P1～P3は深さ10～30cmで主柱穴である。P4は深さ11cmで、性格は不明である。壁際にある7か所の小ピットは、深さは13～86cmで壁柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| | | 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

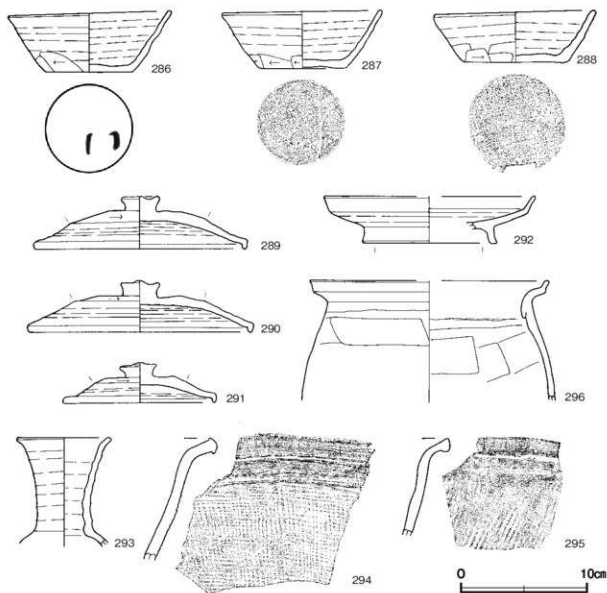
覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。第7・8層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック少量 | 6 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック少量、粘土ブロック微量 | 7 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 |

遺物出土状況 土師器片 403点(坏7, 甕類396), 須恵器片 334点(坏130, 高台付坏14, 蓋36, 盤1, 高盤2, 長頭瓶1, 鉢2, 甕類140, 瓶8)が, 全城の覆土上層から出土している。291・293・296は, 竈内から出土している。287・294は, 左袖部内から出土している。295は左袖部付近, 290は竈前部, 289・292は右袖部付近, 288は中央部の床面, 286は東壁の壁柱穴上面からそれぞれ出土している。これらの遺物は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第202図 第380号竈穴建物跡出土遺物実測図

第 380 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 202 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
286	須恵器	坏	128	4.9	7.0	長石・石英・赤土	黄灰	普通	体部下端手持ちへう割り 底部手持ちへう割り 脚着「山」	礎柱穴上面	100% PL51 新治産
287	須恵器	坏	127	4.6	6.9	長石・石英・赤土	灰黄緑	普通	体部下端手持ちへう割り 底部二方向の手持ちへう割り後ナデ	左室内	96% PL50 新治産
288	須恵器	坏	126	4.2	7.8	長石・石英・赤土	黄緑	普通	体部下端手持ちへう割り 底部二方向の手持ちへう割り	床面	96% PL50 新治産
289	須恵器	蓋	[167]	4.2	-	長石・石英・赤土	灰黄緑	普通	天井部回転へう割り	床面	70% 新治産
290	須恵器	蓋	[176]	4.1	-	長石・石英・赤土	灰黄	普通	天井部回転へう割り	床面	60% 新治産
291	須恵器	蓋	[120]	3.1	-	長石・石英・赤土	灰	普通	天井部回転へう割り	室内	50% 新治産
292	須恵器	盤	[166]	3.7	[106]	長石・石英・赤土	褐灰	普通	底部回転へう割り	床面	20%
293	須恵器	長頸瓶	7.2	(8.7)	-	長石・石英・赤土	橙	普通	頸部ロクロナデ	室内	10%
294	須恵器	鉢	-	(9.7)	-	長石・石英・赤土	褐灰	普通	体部外面横位の平行叩き後 縦位の平行叩き	左室内	5%
295	須恵器	鉢	-	(7.7)	-	長石・石英・赤土	灰黄緑	普通	体部外面斜位の平行叩き	床面	5%
296	土師器	甕	[188]	(9.6)	-	長石・石英・赤土	明赤褐	普通	体部外面横ナデ 内面横・斜位のナデ	輪機痕 室内	20%

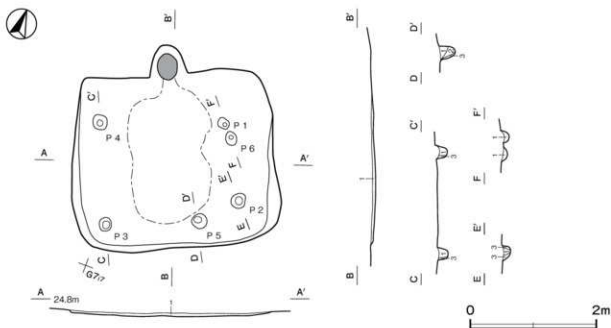
第 383 号竪穴建物跡 (第 203 図 PL42)

位置 調査区南部の G 7h7 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.31 m, 短軸 2.80 m の方で、主軸方向は N-22°-W である。上部は削平されているが、壁は高さ 4 cm ほど遺存している。

床 平坦で、竈前方から中央部にかけて踏み固められている。

竈 北壁に付設されている。上部が削平されていることから規模は焚口部から煙道部まで 54 cm で、燃焼部幅 56 cm しか確認できなかった。火床部はわずかに掘りくぼめ、地山をそのまま利用している。火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁内に 50 cm ほど掘り込まれているものと推定できる。火床部からの立ち上がりは不明である。



第 203 図 第 383 号竪穴建物跡実測図

ピット 6か所。P1～P4は深さ13～21cmで主柱穴である。P5は深さ27cmで南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ11cmで補助柱穴である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|-----------|------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 3 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

覆土 単一層である。上部が削平されていることから堆積状況は不明である。

土層解説

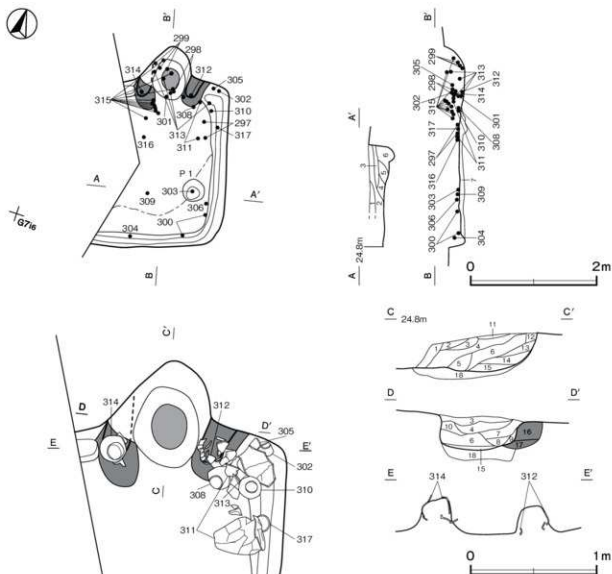
- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 須恵器片1点(坏)が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から9世紀代に比定できる。

第385号堅穴建物跡 (第204～208図 PL43)

位置 調査区南部のG7h6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。



第204図 第385号堅穴建物跡実測図

規模と形状 西側が調査区域外に延びているため、南北軸は2.67mで、東西軸は1.86mしか確認できなかった。隅丸方形又は隅丸長方形と推定できる。主軸方向はN-S・Wである。壁は高さ21～30cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、竈前方部から中央部にかけて踏み固められている。貼床は、全体を8cmほど掘り下げ、ローム粒子や炭化粒子を含む第7層を埋土して構築されている。確認した東側では壁溝が巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで84cmで、燃焼部幅は54cmである。袖部は地山の上に甕を逆位に据え、ロームブロックや粘土ブロックを含む第16・17層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に9cm掘りくぼめ、焼土ブロックやローム粒子を含む第18層を埋土している。火床面は第18層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に48cmほど掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

1 灰黄褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
2 褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量	11 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
4 暗褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量	13 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
5 暗褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量	14 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
6 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、粘土粒子少量	15 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	16 黒褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・粘土ブロック少量
8 黒褐色	焼土粒子中量、粘土粒子少量	17 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
9 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量	18 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

ピット P1は深さ27cmで、東壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。第7層は貼床の構築土である。

土層解説

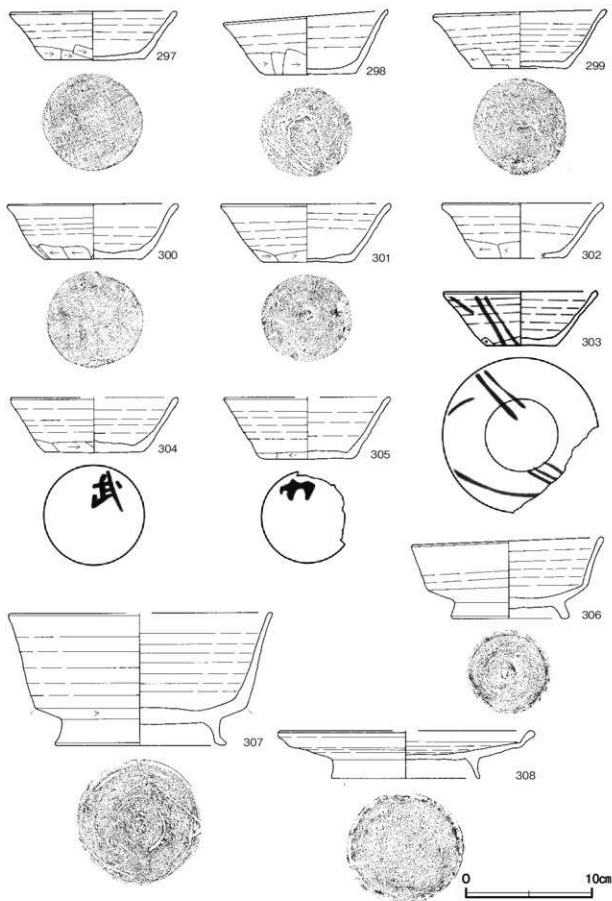
1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片171点(坏2, 小形甕1, 甕類167, 瓶1), 須恵器片59点(坏32, 高台付坏2, 蓋3, 甕2, 短頸壺1, 甕類19), 石器3点(砥石), 瓦2点(平瓦)が、主に竈内と竈前方部の覆土中から出土している。300・303・306・309は南東コーナー部、308・310は北東コーナー部、297・311・317は東壁付近、316は中央部の床面からそれぞれ出土している。308は斜位、297・317は正位、310は逆位の状態でそれぞれ出土している。298・299・301・313は竈内から出土している。312は右袖部、314は左袖部の補強材として逆位の状態で出土している。302・305は北東コーナー部、304は南壁付近、315は竈前の覆土下層からそれぞれ出土している。これらの遺物は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

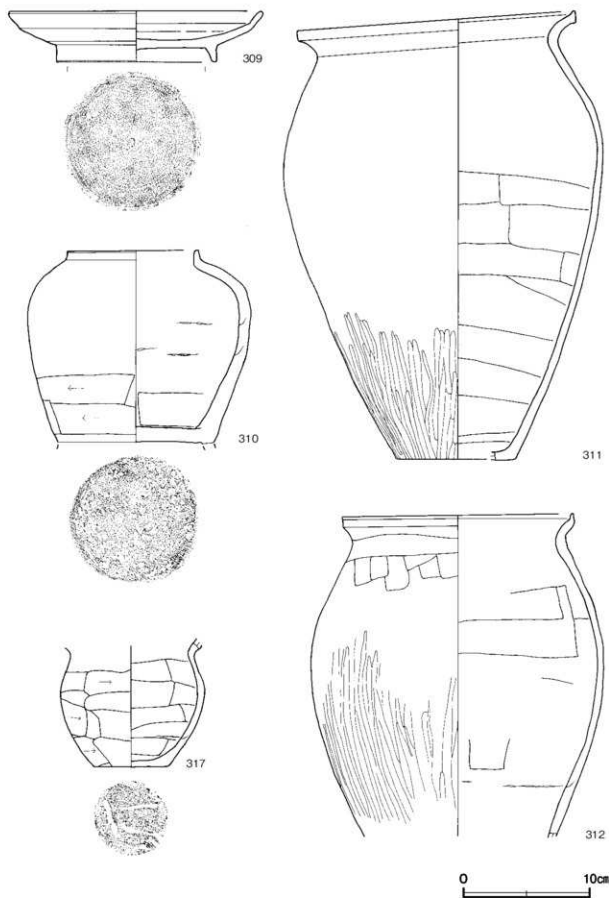
所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。

第385号竈穴建物跡出土遺物観察表(第205～208図)

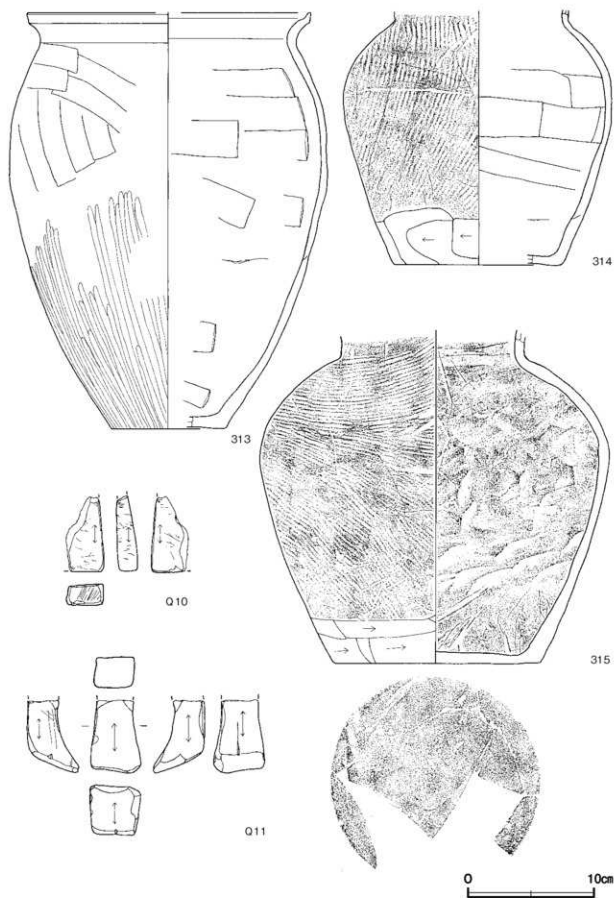
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
297	須恵器	坏	130	3.9	7.9	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへう割り 底部一方方向の手持ちへう割り	床面	95% PL50 新治産
298	須恵器	坏	129	5.1	7.3	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちへう割り 底部不定方向の手持ちへう割り	竈内	95% PL50 新治産
299	須恵器	坏	135	4.7	7.4	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへう割り 底部へう割り後ナデ	竈内	95% PL50 新治産
300	須恵器	坏	132	4.5	7.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへう割り 底部不定方向の手持ちへう割り	床面	90% PL50 新治産
301	須恵器	坏	132	4.7	7.0	長石・石英・雲母	黒黒	普通	体部下端手持ちへう割り 底部鉋削へう切り後ナデ	竈内	70% PL50 新治産
302	須恵器	坏	126	4.4	[7.0]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへう割り 底部一方方向の手持ちへう割り	覆土下層	80% PL50 新治産
303	須恵器	坏	120	4.3	5.6	長石・石英・雲母	灰灰	普通	体部下端手持ちへう割り後ナデ 底部へう割り後ナデ 表面火變	床面	90% PL50 新治産
304	須恵器	坏	[130]	4.4	7.8	長石・石英・雲母	黄褐	普通	体部下端手持ちへう割り 底部不定方向の手持ちへう割り 底部外面黒変(表)	覆土下層	60% PL50 新治産



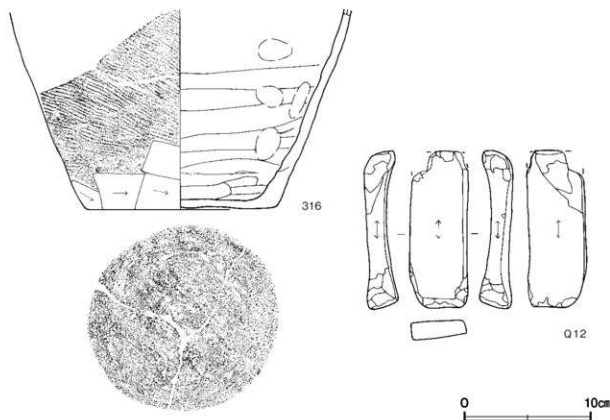
第 205 図 第 385 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 206 图 第 385 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (2)



第207図 第385号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)



第208図 第385号竪穴建物跡出土遺物実測図(4)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
305	須恵器	坏	[132]	4.9	7.1	長石・石英・赤母	純	普通	体部下端持ちへら削り後ナデ 底部不定方向の持ちちへら削り 底部外面無書	覆土下層	50% PL51 新治産
306	須恵器	高台付坏	15.0	6.5	9.0	長石・石英・斜状赤母	灰黄褐色	普通	体部ロクロナデ 底部回転へら切り裏を残す	床面	90% PL52 本堂下層
307	須恵器	高台付坏	[206]	10.6	13.3	長石・石英・赤母	灰黄	普通	体部下端回転へら削り 底部回転へら削り	覆土中	60% 新治産
308	須恵器	盤	[198]	3.8	11.6	長石・石英・赤母	灰黄	普通	体部ロクロナデ 底部回転へら削り	床面	50% 新治産
309	須恵器	盤	19.9	4.1	12.7	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	内面凹状のナデ 底部回転へら削り 二次焼成	床面	70% PL53 新治産
310	須恵器	短頸壺	10.1	(15.5)	-	長石・石英・赤母	にぶい黄褐色	不良	体部下位へら削り 内面横ナデ 輪積痕 底部ナデ	床面	96% PL53 新治産
311	土師器	甕	22.0	35.8	9.3	灰石・石英・赤母	にぶい橙	普通	体部下平へら磨き 内面横位のナデ	床面	96% PL55
312	土師器	甕	18.2	(25.8)	-	長石・石英・赤母	にぶい橙	普通	頸部外面横位のナデ後 樽位のナデ 下平へら磨き 内面横位のナデ 輪積痕	右袖内	20% PL54
313	土師器	甕	[224]	33.2	[9.1]	長石・石英・赤母	にぶい黄褐色	普通	体部外面横位のナデ 下平へら磨き 内面横位のナデ 輪積痕 底部本堂痕	竈内	40%
314	須恵器	甕	-	(20.3)	[13.2]	長石・石英・赤母	灰黄	普通	体部外面横位の平行印 下位へら削り 内面樽位のナデ 輪積痕	左袖内	70% PL54 新治産
315	須恵器	甕	-	(26.6)	16.5	長石・石英・赤母	黄灰	普通	体部外面横位の平行印 下位へら削り 内面樽位のナデ 輪積痕 底部ナデ	覆土下層	70% PL54 新治産
316	須恵器	甕	-	(16.0)	15.3	長石・石英・赤母・赤色粒子	灰黄	普通	体部外面斜位の平行印 下位へら削り 内面樽位のナデ 輪積痕 底部ナデ	床面	40% 新治産
317	土師器	小形甕	-	(10.2)	5.8	長石・石英・赤母	黒褐	普通	体部外面へら削り 内面横位のナデ 輪積痕 底部本堂痕 外面樽位直	床面	90% PL53

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 10	砥石	(6.3)	(3.0)	1.7	(37.3)	凝灰岩	縦面3面	覆土中	
Q 11	砥石	(5.9)	4.1	4.1	(91.3)	凝灰岩	縦面5面	覆土中	
Q 12	砥石	12.6	4.7	2.6	(162.3)	凝灰岩	縦面4面	覆土中	PL57

第386号竪穴建物跡(第209・210図 PL43)

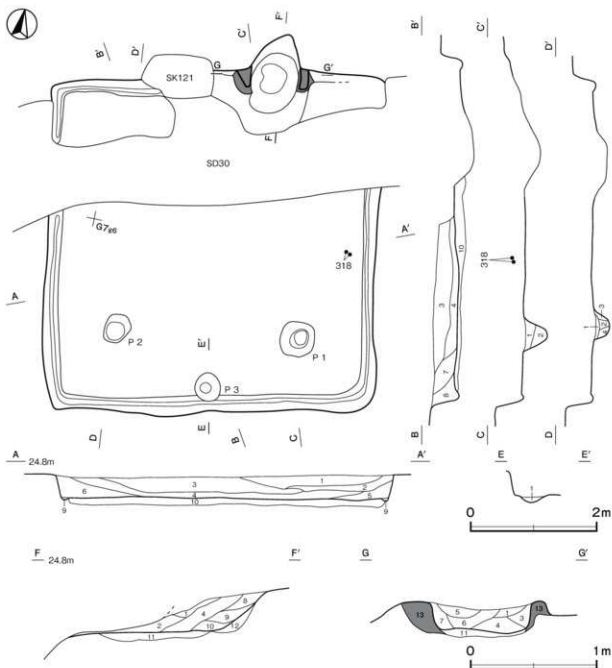
位置 調査区南部のG76区。標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第121号土坑、第30号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.37m、短軸5.22mの方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁は高さ34～36cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、全体を14cmほど掘り下げ、ローム粒子や炭化粒子を含む第10層を埋土して構築されている。確認した部分では壁溝は巡っている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで124cmで、燃烧部幅は72cmである。袖部は地山の上にローム粒子や粘土粒子を含む第13層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に9cm掘りくぼめ、ローム粒子や焼土ブロックを含む第11層を埋土している。火床面は第11層上面で、赤変していない。煙道部は壁外に58cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。



第209図 第386号竪穴建物跡実測図

覆土層解説

- | | | |
|-------|-------------------------|---------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | ク・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量 | 8 暗赤褐色 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 9 暗褐色 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 10 黒褐色 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック微量 | 11 暗褐色 |
| 6 暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 12 暗褐色 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土ブロック | 13 黒褐色 |

ピット 3か所。P1・P2は深さ36cm・26cmで支柱穴である。P3は深さ12cmで南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|------------------|------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

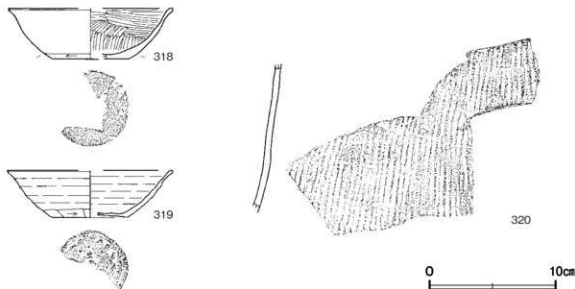
覆土 9層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。第10層は貼土の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 炭化材少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化材少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック微量 | 9 暗褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片93点(坏14, 甕類79), 須恵器片26点(坏19, 高台付坏1, 蓋4, 高坏1, 鉢1)が、主に南東部の覆土中から出土している。319・320は竈内から出土している。318は、東壁付近の覆土下層から出土している。これらの遺物は埋没過程で廃棄された可能性がある。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第210図 第386号竪穴建物跡出土遺物実測図

第386号竪穴建物跡出土遺物観察表(第210図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
318	土師器	坏	[129]	41	60	長石・石英・赤漆母	にじい肌	普通	体部下端回転ヘラ削り 底面回転ヘラ削り	内面ヘラ磨き 黒色焼	覆土下層	40%
319	須恵器	坏	[129]	38	58	長石・石英	灰黄肌	普通	体部下端手持ちヘラ削り	底部回転ヘラ切り	竈内	30% 新治産
320	須恵器	鉢	-	(118)	-	長石・石英・赤漆母	灰黄肌	普通	体部外面部位の平行叩き	内面横位のナデ	竈内	5%

第390号竪穴建物跡(第211図)

位置 調査区南部のG7c6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 中央部に2か所の攪乱があり床面、東壁と西壁が一部攪乱を受けているが、長軸252m、短軸243mの方形で、主軸方向はN-11°-Wである。壁は高さ10~13cmで、外傾している。

床 平坦な貼床で、全体を6cmほど掘り下げ、ロームブロックや炭化粒子を含む第5層を埋土して構築されている。壁溝を南壁の西側のみで確認した。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで62cmで、燃焼部幅は62cmである。袖部は地山の上に焼土ブロックや粘土粒子を含む第7層を積み上げて構築されている。火床部は円形に6cmほど掘りくぼめ、焼土ブロックやローム粒子を含む第8・9層を埋土している。火床面は第8・9層上面で、赤変していない。煙道部は壁外に16cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 7 褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | | |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | | |

ピット P1は深さ16cmで南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 2 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
|-------|-----------|------|------------------|

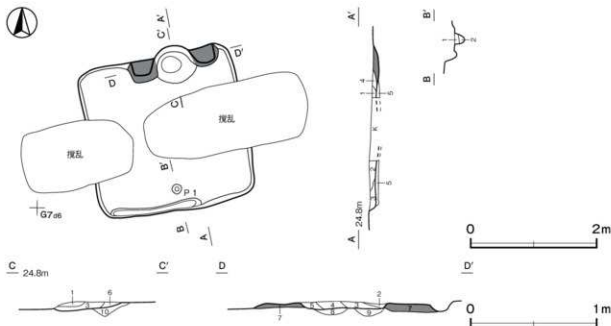
覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。第5層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 須恵器片1点(坏)が覆土中から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から9世紀代に比定できる。



第211図 第390号竪穴建物跡実測図

第391号竪穴建物跡 (第212・213図 PL44)

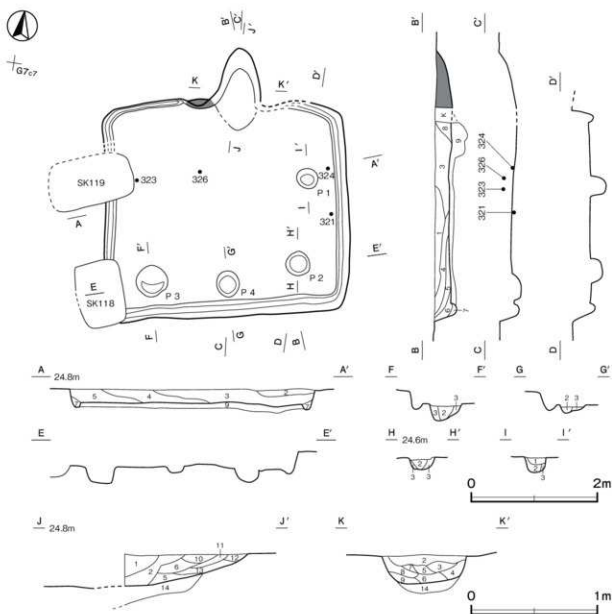
位置 調査区南部のG7c7区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第118・119号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.88m、短軸3.48mの長方形で、主軸方向はN-9°-Wである。壁は高さ22~28cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、全体を11cmほど掘り下げ、ロームブロックや粘土ブロックを含む第9層を埋土して構築されている。壁溝が全周している。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで130cmで、燃焼幅は62cmである。袖部は攪乱を受けていることから左袖の一部しか確認できなかった。火床部は楕円形に17cm掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第14層を埋土している。火床面は第14層上面で、赤変していない。煙道部は壁外に83cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。



第212図 第391号竪穴建物跡実測図

覆土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|---------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化材微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 12 暗褐色 | 焼土ブロック少量、粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 6 暗赤色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 14 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | | |
| 8 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | | |

ピット 4か所。P1～P3は深さ19～28cmで主柱穴である。P4は深さ13cmで南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説(各ピット共通)

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | | |

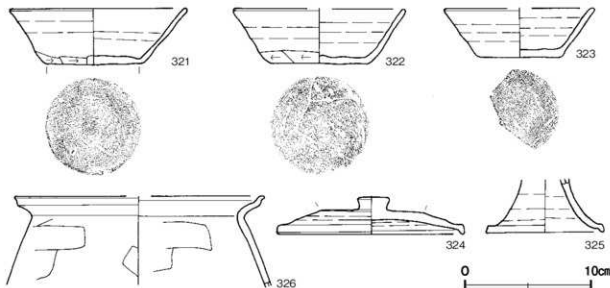
覆土 8層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。第9層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片68点(坏3, 甕類65), 須恵器片48点(坏28, 高台付坏3, 蓋6, 高盤1, 甕類10)が、主に北東部の覆土中から出土している。321・324は、東壁付近の床面から出土している。325は竈内から出土している。323は西部、326は中央部の覆土下層から出土している。322は覆土中から出土している。これらの遺物は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第213図 第391号竈穴建物跡出土遺物実測図

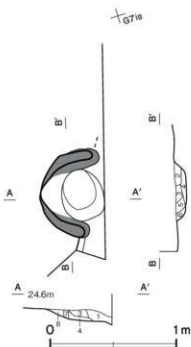
第391号竈穴建物跡出土遺物観察表(第213図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
321	須恵器	坏	139	4.6	7.7	長石・石英・赤緑	靑灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り	床面	70% PL51 新出産
322	須恵器	坏	[184]	4.4	7.7	長石・石英・赤緑	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	覆土中	50% 新出産
323	須恵器	坏	[116]	4.0	[64]	長石・石英・赤緑	にぶい黄	普通	体部ロクロナテ 底部一方の手持ちヘラ削り	覆土下層	20% 新出産
324	須恵器	蓋	147	3.0	-	長石・石英・赤緑	灰黄褐	良好	天井部回転ヘラ削り	床面	90% PL52 新出産

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
325	須恵器	高甕	-	(4.3)	92	長石・石英・赤褐色母	黄灰	普通	脚部ロクロナテ	畿内	20% 新出遺
326	土師器	甕	[196]	(7.1)	-	長石・石英・赤褐色母・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外・内面横位のナデ	覆土下層	5%

第392号竪穴建物跡 (第214図)

位置 調査区南部のG77区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。



第214図 第392号竪穴建物跡実測図

規模と形状 東側が調査区域外に延びていることから、竈しか確認できなかった。規模と形状は不明である。

竈 西壁に付設されていると推定できる。規模は焚口部から煙道部まで50cmで、燃焼部幅は42cmである。火床部は楕円形にわずかに掘りくぼめ、地山をそのまま利用している。火床面は赤変していない。煙道部は壁内に33cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

甎土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、粘土ブロック微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗赤色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
- 6 暗褐色 粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 7 褐灰色 粘土ブロック中量
- 8 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量

所見 出土土器がないため時期判断が困難である。

表14 平安時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形状	規模 長軸×短軸(m)	壁高 (cm)	床面 形状	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考		
							柱穴	赤土	ピット	砂・土						
278	C6f2	-	方形 長方形	3.18×(2.70)	18~25	平坦	全周	-	-	-	-	人為	土師器、須恵器、 金属製品	9世紀中葉		
309	B5b9	N-8°-E	方形	4.12×3.95	29~40	平坦	全周	-	1	4	北壁	-	人為	土師器、須恵器、 石器、金属製品	9世紀中葉	
340 A	B5j9	N-1°-E	方形	4.58	20~45	平坦	11/12 全周	4	1	3	北壁	-	自然	土師器、須恵器、 石器、金属製品	9世紀中葉	SD300b、300c、 341、SD128→本跡
340 B	B5j9	N-1°-E	方形	4.62×4.22	35	平坦	11/12 全周	4	-	-	北壁	-	土師器	須恵器	9世紀中葉	SD300c、301、SD128→ 本跡→SD300
340 C	B5j9	N-1°-E	方形	3.68×3.52	25	平坦	一部	4	-	-	北壁	-	-	-	9世紀中葉 以前	SD41、SD128→本跡 →SD40A、340B
341	C5a9	N-5°-E	方形	3.25	30~38	平坦	11/12 全周	-	1	1	北壁	-	自然	土師器、須恵器、 金属製品	9世紀中葉	SD129→本跡 →SD30A、300B、340C
342	C5e9	N-2°-E	方形	3.86×3.68	34~50	平坦	11/12 全周	-	1	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器、 金属製品	9世紀中葉	SD129→本跡
343 A	C5a9	N-4°-E	方形	4.15	27~45	平坦	11/12 全周	4	1	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器、 土製品、金属製品	9世紀中葉	SD343B→本跡
343 B	C5a9	N-4°-E	方形 長方形	2.68×(2.10)	-	平坦	一部	4	1	-	北壁	-	-	-	9世紀中葉	本跡→SD343A
350 A	D6g2	N-10°-E	方形	5.54×5.20	-	平坦	一部	4	1	-	北壁	-	土師器、須恵器、 土製品、石器	9世紀後葉	SD350b、351→本跡 →SD350A	
350 B	D6g2	N-10°-E	長方形	5.32×4.80	8~12	平坦	一部	6	1	4	北壁	-	-	-	9世紀後葉	SD351→本跡 →SD350A
351	D6h2	N-16°-E	方形	4.43×(4.38)	13~22	平坦	11/12 全周	-	-	2	北壁	-	人為	土師器、須恵器、 金属製品	9世紀中葉	本跡→SD350A、 350B、SK39、43
352	E7j3	N-0°	方形 長方形	3.06×2.18	16	平坦	一部	-	1	-	-	-	自然	土師器、須恵器、 金属製品	9世紀中葉	本跡→SD324
354	E6j8	N-15°-W	方形 長方形	2.28×(1.44)	10	平坦	一部	-	1	-	-	-	土師器	-	9世紀代	本跡→SD321

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸(m)	壁高 (cm)	床面	構造	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考	
								柱	土	口	ト					伊
355	E 6h8	N-0°	隅丸方形 土器土	(3.25)×(2.57)	-	-	一部	2	-	-	北壁	-	-	土師器、須恵器	9世紀前半 上層	本跡→第1号粘土 探掘坑
356	F 6a7	N-7°-W	方 形	2.75×(2.03)	34-37	平坦	一部	-	1	-	-	-	人為	土師器、須恵器、 金属製品	9世紀前半	本跡→第1号粘土 探掘坑
357	E 6e9	N-6°-W	隅丸方形 土器土	2.92×(2.86)	8-26	平坦	一部	-	1	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器	9世紀中葉	
359	E 7j2	-	隅丸方形 土器土	(2.52)×(1.40)	4-6	平坦	一部	-	1	-	-	-	-	土師器、須恵器	9世紀中葉	
360	E 7f1	N-1°-W	長方形	3.00×2.40	4	平坦	-	-	-	-	北壁	-	-	土師器、須恵器	9世紀中葉	本跡→SK42
363	C 5i9	N-15°-E	方 形	(3.20)×(2.28)	11-16	平坦	-	-	-	-	北壁	-	-	土師器、須恵器	9世紀中葉	本跡→SD 5
367	E 7h1	N-0°	方 形	3.00×(1.45)	-	平坦	-	-	-	-	北壁	-	-	土師器、須恵器	9世紀代	本跡→SD 21
368	E 6i7	N-0°	方 形	(2.74)×(2.30)	15	平坦	-	-	-	2	北壁	-	-	土師器、須恵器、 石器、金属製品、瓦	9世紀代	本跡→第1号粘土 探掘坑
369	E 6h7	N-5°-W	方 形	4.72×4.68	12-18	平坦	一部	4	1	6	北壁	-	自然	土師器、須恵器、 石器、金属製品、瓦	9世紀中葉	本跡→第1号粘土 探掘坑
370	E 6h8	N-3°-W	方 形	3.82×3.54	8-12	平坦	全局	-	-	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器、 土器土	9世紀前半	
372	E 6f4	N-2°-W	方 形	4.02×(1.84)	56-60	平坦	一部	1	-	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器	9世紀中葉	
373	E 6e4	N-8°-W	方 形	4.20×4.10	34-39	平坦	ほぼ 全局	4	1	-	東側 北壁	-	人為	土師器、須恵器、 石器、金属製品、瓦	9世紀中葉	
374	E 664	N-2°-E	方 形	2.81×2.69	15-18	平坦	ほぼ 全局	-	-	4	北壁	-	自然	土師器、須恵器、 瓦	9世紀中葉	本跡→SB116
378	D 6i5	N-37°-E	隅丸方形	5.35×5.08	2-25	平坦	全局	4	1	3	北東壁	-	人為	土師器、須恵器、 土器土	9世紀前半	S376、S3126、127、 SK30、103→本跡
380	D 5g0	N-16°-E	方 形	5.34×5.16	10-15	平坦	一部	3	-	8	北壁	-	自然	土師器、須恵器	9世紀前半	本跡→PG 5
383	G 7b7	N-22°-W	方 形	3.31×2.80	4	平坦	-	4	1	1	北壁	-	-	須恵器	9世紀代	
385	G 7f6	N-8°-W	隅丸方形 土器土	2.67×(1.86)	21-30	平坦	一部	-	1	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器、 石器、瓦	9世紀前半	
386	G 7f6	N-8°-W	方 形	5.37×5.22	34-36	平坦	ほぼ 全局	2	1	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器	9世紀中葉	本跡→SK121、SD30
390	G 7e6	N-11°-W	方 形	2.52×2.43	10-13	平坦	一部	-	1	-	北壁	-	自然	須恵器	9世紀代	
391	G 7e7	N-9°-W	長方形	3.88×3.48	22-28	平坦	ほぼ 全局	3	1	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器	9世紀前半	本跡→SK118-119
392	G 7f7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	西壁	-	-	-	-	-

(2) 掘立柱建物跡

第111号掘立柱建物跡 (第215図 PL46)

位置 調査区北部のB5f7区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向がN-3°-Eの南北棟である。規模は、桁行4.8m、梁行3.6mで、面積は17.28㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から1.5m(5尺)、1.5m(5尺)、1.8m(6尺)、梁行が1.8m(6尺)で、柱筋は揃っている。

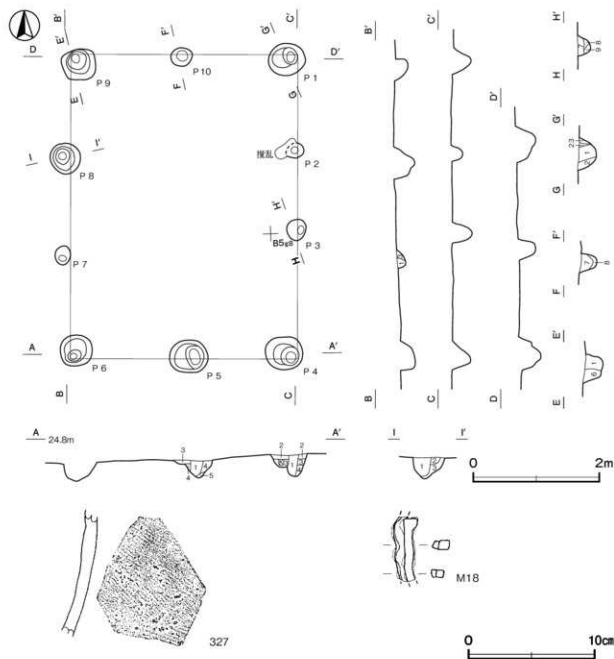
柱穴 10か所。平面形は円形又は楕円形で、長径30～60cm、短径24～52cmである。深さ13～36cmで、掘方の断面はU字形である。第1層は柱痕跡、第2～9層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 9 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片1点(蓋)、須恵器片3点(杯2、甕1)、金属製品1点(釘)が、埋土から出土している。327はP1、M18はP3の埋土から出土している。

所見 時期は、出土土器や重積関係から9世紀前半と考えられる。



第 215 図 第 111 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 111 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 215 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
327	須恵器	葉	-	(9.4)	-	長石・石英・ 霞母	にふい黄褐色	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面横位のナデ	P 1 埋土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M18	釘	(5.0) (5.2)	1.2 (0.7)	0.7 0.6	(27.3)	鉄	2本付着 先端部欠損 断面四角形 先端・腰部欠損 断面四角形	P 3 埋土	PL58

第 112 号掘立柱建物跡 (第 216・217 図 PL47)

位置 調査区北部の C 5 b7 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 125 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の掘柱建物跡で、桁行方向がN-6°-Eの南北棟である。規模は、桁行5.1m、梁行3.0mで、面積は15.3㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から1.8m（6尺）、1.5m（5尺）、1.8m（6尺）、梁行が1.5m（5尺）で、柱筋は揃っている。P1～P3、P6、P7、P9、P10の底面で、柱のあたりを確認した。

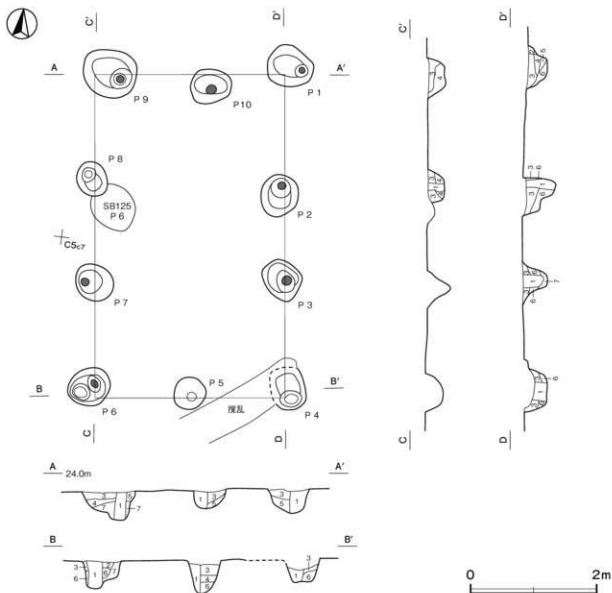
柱穴 10か所。平面形は楕円形又は不整楕円形で、長径51～90cm、短径51～75cmである。深さ37～54cmで、掘方の断面は逆台形又はU字形である。第1層は柱痕跡、第2～7層は埋土である。

土層解説（各ピット共通）

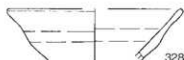
- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒色 ローム粒子少量 | 5 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片5点（甕類）、須恵器片10点（坏3、蓋2、甕類5）が出土している。328はP6の埋土から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から9世紀中葉に比定できる。



第216図 第112号掘立柱建物跡実測図



第217図 第112号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第112号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第217図)

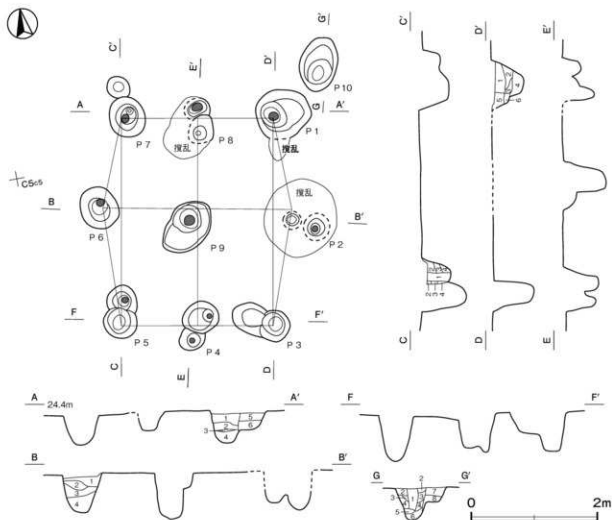
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
328	須臾器	杯	[13.7]	(4.2)	-	長石・石英・霞石	黄灰	普通	ロケロナデ	P 6埋土	20% 新出葉

第113号掘立柱建物跡(第218図 PL47)

位置 調査区北部のC 5c5区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の総柱建物跡で、桁行方向がN-11°-Eの南北棟である。規模は、桁行3.3m、梁行2.4mで、面積は7.92㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から1.5m(5尺)、1.8m(6尺)、梁行が1.2m(4尺)で、柱筋は揃っていない。P1・P2・P4~P9の底面で、柱のあたりを確認した。

柱穴 10か所。平面形は円形又は楕円形で、長径30~96cm、短径28~80cmである。深さ28~74cmで、掘



第218図 第113号掘立柱建物跡実測図

方の断面はU字形である。P1～P5、P7・P8は重複関係がみられることから柱の建て替えが考えられる。P10は性格不明である。P1は6層に分層でき、第1～4層が柱抜き後の覆土、第5・6層が埋土である。P5は4層に分層でき、第1層が柱痕跡、第2～4層が埋土である。P6は4層に分層でき、第1～4層が柱抜き後の覆土である。

土層解説 (P1・P6)

1 黒褐色	ローム粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ローム粒子少量	5 暗褐色	ローム粒子少量
3 黒暗褐色	ロームブロック微量	6 暗褐色	ロームブロック少量

土層解説 (P5・P10)

1 黒色	ローム粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子多量
2 黒褐色	ロームブロック少量	6 黒褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ロームブロック中量	7 暗褐色	ローム粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック少量	8 ぶい褐色	ローム粒子多量

遺物出土状況 須恵器片8点(坏1, 甕類7)が、P4とP5から出土している。細片のため図示できない。
所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。

第114A号掘立柱建物跡(第219図 PL47)

位置 調査区中央部のF7a3区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第114B号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向がN-85°-Eの東西棟である。規模は、桁行5.1m、梁行3.6mで、面積は1836m²である。柱間寸法は北側桁行が西妻から1.8m(6尺)、1.5m(5尺)、1.8m(6尺)、梁行が1.8m(6尺)で、柱筋は揃っている。P9・P10の底面で、柱のあたりを確認した。

柱穴 10か所。平面形は長方形で、長軸60～105cm、短軸50～76cmである。深さ12～50cmで、掘方の断面は逆台形である。P1～P3・P8は第114B号掘立柱建物跡の柱穴と重複している。第1層は柱痕跡、第2～7層は埋土である。

土層解説(各ピット共通)

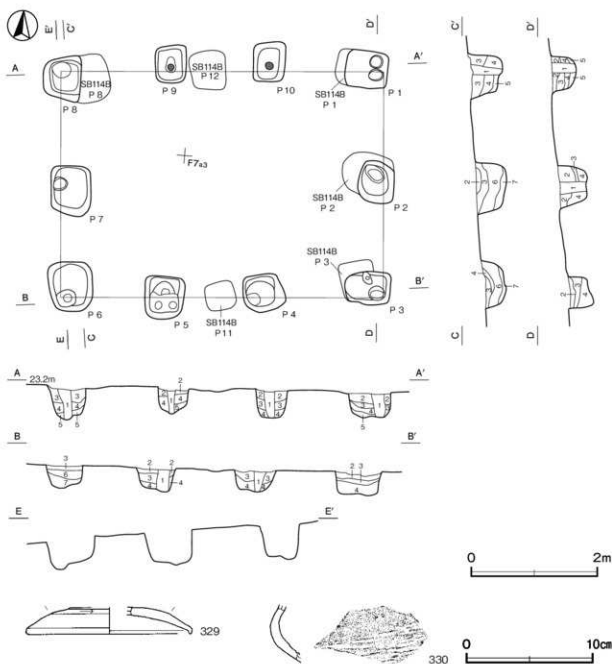
1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	5 黒褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
2 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量	6 黒褐色	粘土ブロック多量、焼土ブロック微量
3 黒褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック微量	7 黒褐色	粘土ブロック中量
4 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック微量		

遺物出土状況 土師器片31点(坏2, 甕類29)、須恵器片14点(坏6, 蓋1, 甕類7)が出土している。329はP9、330はP4の埋土から出土している。

所見 柱穴の重複から第114B号掘立柱建物跡を東と西側に拡張して建替えが行われたと考えられる。時期は、出土土器や重複関係から9世紀前葉に比定できる。

第114A号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第219図)

番号	種別	形種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
329	須恵器	甕	[131]	(22)	-	長石・石英・赤鉄	灰黄褐	普通	天井部回転へう削り	P9埋土	30% 露出窯
330	須恵器	甕	-	(39)	-	長石・石英・赤鉄	ぶい黄褐	普通	体部外面横位の平行叩き 内面横ナテ	P4埋土	5%



第 219 図 第 114A 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 114B 号掘立柱建物跡 (第 220 図 PL47)

位置 調査区中央部の F 7 a3 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 114A 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行 2 間、梁行 2 間の側柱建物跡で、桁行方向が N - 85° - E の東西棟である。規模は、桁行 4.2 m、梁行 3.6 m で、面積は 15.12 m² である。柱間寸法は桁行が 2.1 m (7 尺)、梁行が 1.8 m (6 尺) で、柱筋は揃っている。

柱穴 8 か所。平面形は方形又は長方形で、長軸 48 ~ 80 cm、短軸 45 ~ 76 cm である。深さ 12 ~ 50 cm で、掘方の断面は逆台形である。第 1 ~ 4 層は柱抜取り後の覆土、第 5・6 層は埋土である。P 1 ~ P 3・P 8 は第

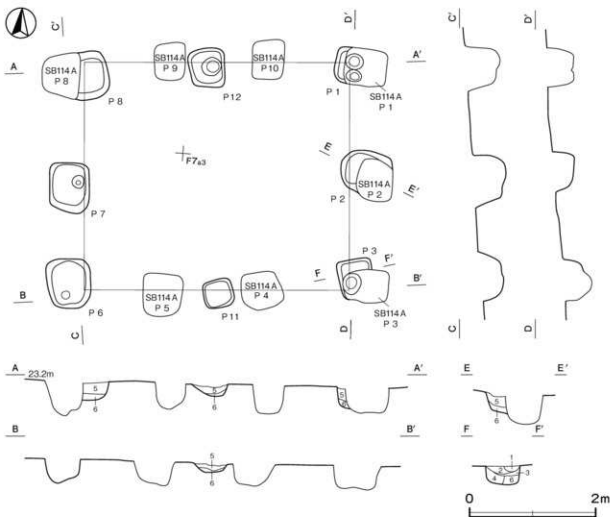
114A号掘立柱建物の柱穴と重複している。P6・P7は重複が確認されなかったことから、第114A号掘立柱建物と共有したと考えられる。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック多量 | 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック微量 | 6 黒褐色 粘土ブロック・焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片7点(甕類), 須恵器片4点(坏)が出土している。細片のため図示できない。

所見 柱穴の有り方から第114A号掘立柱建物の建替え前の建物であると考えられる。時期は, 出土土器や重複関係から9世紀前葉に比定できる。



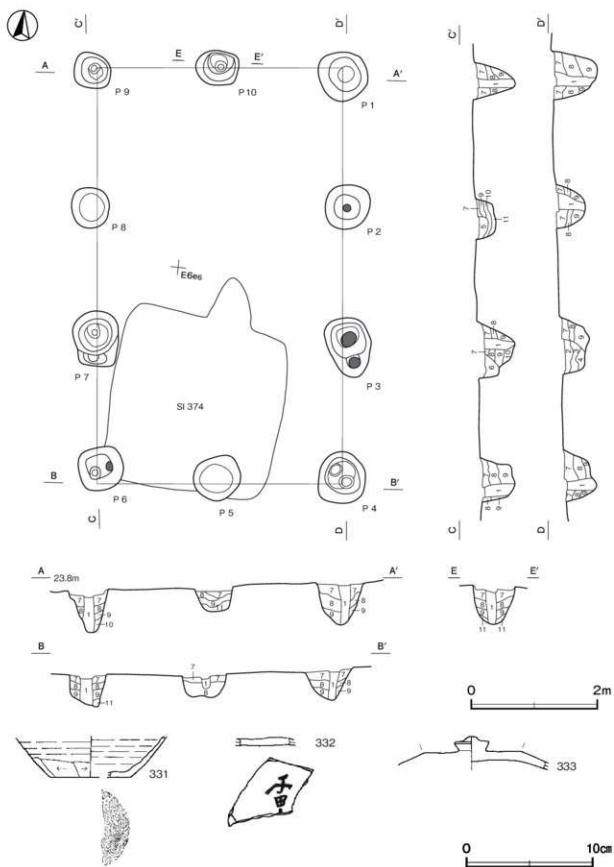
第220図 第114B号掘立柱建物跡実測図

第116号掘立柱建物跡 (第221図 PL47)

位置 調査区中央部のE6e6区, 標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第374号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱建物跡で, 桁行方向がN-6°-Wの南北棟である。規模は, 桁行6.6m, 梁行3.9mで, 面積は25.74㎡である。柱間寸法は, 桁行が北妻から2.1m(7尺), 2.1m(7尺), 2.4m(8



第 221 图 第 116 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

尺、梁行が北妻から1.8m(6尺)、21m(7尺)で、柱筋は揃っている。P2・P3・P6の底面で、柱のあたりを確認した。

柱穴 10か所。平面形は円形又は楕円形で、長さ64～84cm、短径55～76cmである。深さ32～71cmで、掘方の断面は逆台形又はU字形である。第1層は柱痕跡、第2～6層は柱抜き取り後の覆土、第7～11層は埋土である。また、P3・P7は平面形状から建て替えられた可能性がある。

土層解説 (各ピット共通)

1 黒褐色 粘土ブロック微量	7 黒褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック微量
2 黒褐色 粘土粒子微量	8 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量
3 黒褐色 粘土ブロック少量	9 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
4 黒褐色 粘土ブロック中量	10 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子微量
5 黒褐色 粘土ブロック少量	11 暗褐色 粘土ブロック微量
6 暗褐色 粘土ブロック微量	

遺物出土状況 土師器片49点(甕類)、須恵器片51点(坏14、蓋3、甕類34)が出土している。331はP3、332はP6、333はP8の埋土から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第116号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第221図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
331	須恵器	坏	-	(3.3)	(6.4)	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下縁手持ちへう張り 底部一方向の手持ちへう張り	P3埋土	20% 新治産
332	須恵器	坏	-	(0.7)	-	長石・石英・雲母	靑灰	普通	底面一方向の手持ちへう張り 底部外面磨き	P6埋土	5% PL56
333	須恵器	蓋	-	(2.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	丸弁部回転へう張り	P8埋土	20% 新治産

第120号掘立柱建物跡(第222図 PL47)

位置 調査区北部のC5e4区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

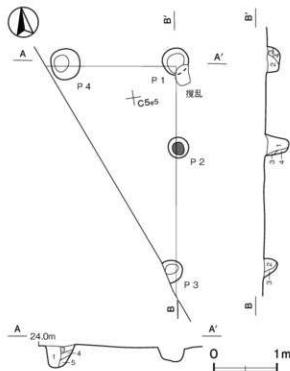
規模と構造 南西部が調査区域外に延びていることから、桁行3.3m、梁行1.8mしか確認できなかった。柱間寸法は桁行が東妻側から1.2m(4尺)、21m(7尺)、北側梁行が1.8m(6尺)で柱筋は揃っている。P2の底面で柱のあたりを確認した。

柱穴 4か所。平面形は円形で、径32～48cmである。深さ21～38cmで、掘方の断面はU字形である。第1層は柱痕跡、第2層は柱抜き取り後の覆土、第3～5層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

1 黒褐色 ロームブロック微量
2 黒暗褐色 ローム粒子少量
3 黒褐色 ローム粒子少量
4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
5 褐色 ローム粒子中量

所見 出土土器がないため時期判断は困難であるが、9世紀代と考えられる。



第222図 第120号掘立柱建物跡実測図

第121号掘立柱建物跡（第223図）

位置 調査区中央部のC5g7区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第362号竪穴建物跡、第28号溝跡を掘り込んでいる。第40・53号土坑、第17号溝跡との新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-3°-Eの南北棟である。規模は、桁行4.5m、梁行4.8mで、面積は21.60㎡である。柱間寸法は北妻から桁行が2.1m（7尺）、2.4m（8尺）、梁行が4.8m（16尺）で柱筋は揃っている。

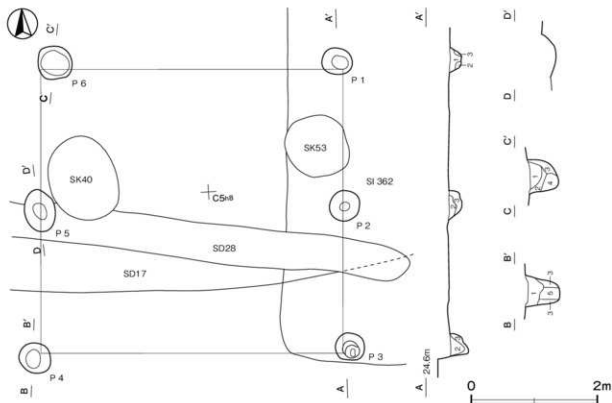
柱穴 6か所。平面形は楕円形又は円形で、長径44～60cm、短径42～55cmである。深さ18～52cmで、掘方の断面はU字形である。第1層は柱抜き後の覆土、第2～4層は埋土、第5層は柱痕跡である。

土層解説（各ビット共通）

- | | |
|--------------------------|---------------|
| 1 黒色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 2 紫褐色 ロームブロック少量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 | |

遺物出土状況 土師器片2点（坏・甕類）、須恵器片2点（坏）がP2・P3の埋土から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係と出土土器から9世紀代に比定できる。



第223図 第121号掘立柱建物跡実測図

第126号掘立柱建物跡（第224・225図 PL47）

位置 調査区中央部のE6a6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第127号掘立柱建物跡を掘り込み、第378号竪穴建物に掘り込まれている。

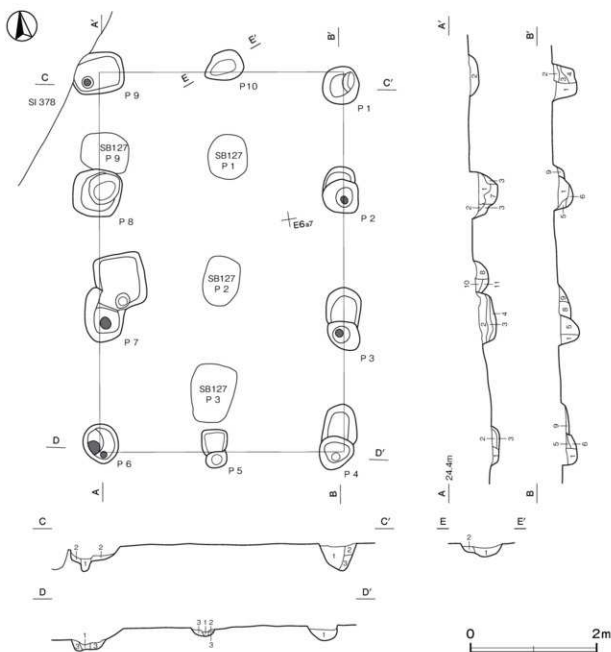
規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-9°-Eの南北棟である。規模は、桁行6.0m、

梁行 3.9 m で、面積は 23.40 m² である。柱間寸法は北妻から桁行が 1.8 m (6 尺)、2.1 m (7 尺)、2.1 m (7 尺)、梁行が 2.1 m (7 尺)、1.8 m (6 尺) で柱筋は揃っている。P 2・P 3・P 6・P 7・P 9 の底面で柱のあたりを確認した。

柱穴 10 か所。平面形は円形又は楕円形で、長径 34 ~ 86 cm、短径 26 ~ 75 cm である。深さ 13 ~ 44 cm で、掘方の断面は U 字形である。第 1・7・8 層は柱抜き取り後の覆土、第 2 ~ 5・9 ~ 11 層は埋土である。また P 6 では柱のあたりが 2 か所あり、P 2 ~ P 5・P 7 は、平面形状や堆積状況から建て替えられた可能性がある。

土層解説 (各ピット共通)

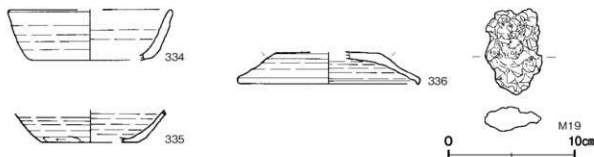
- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 7 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 | 8 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 9 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 10 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 5 黒褐色 粘土ブロック中量 | 11 黒褐色 粘土ブロック多量 |
| 6 黒褐色 粘土ブロック少量 | |



第 224 図 第 126 号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 58 点 (杯 1, 甕類 57), 須恵器片 61 点 (杯 8, 蓋 5, 甕類 47, 瓶 1), 金属製品 1 点 (鉄滓) が P 1 ~ P10 から出土している。334 は P 7, 335 は P 8, 336 は P10 の埋土からそれぞれ出土している。M19 は P 3 の覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器と重複関係から 9 世紀前葉と考えられる。



第 225 図 第 126 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 126 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 225 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
334	須恵器	杯	[130]	4.1	[100]	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	ロクロナデ	P 7 埋土	10% 新古層
335	須恵器	杯	-	(26)	(76)	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ割り 底部一方向の手持ち 穴穿割り	P 8 埋土	10% 新古層
336	須恵器	蓋	[142]	(26)	-	長石・石英・雲母	黒黒	普通	天井部回転ヘラ割り	P 10 埋土	10% 新古層

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M19	鉄滓	6.8	4.4	1.9	16.1	鉄	表面錆化 着磁性あり	P 3 覆土中	

第 127 号掘立柱建物跡 (第 226 図 PL47)

位置 調査区中央部の E 6 a6 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 378 号堅穴建物, 第 126 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 北西部が第 378 号堅穴建物に掘り込まれているが, 桁行 3 間, 梁行 2 間の側柱建物跡と推定できる。桁行方向が N - 14° - E の南北棟である。規模は, 桁行 5.7 m, 梁行 3.9 m で, 面積は 22.23 m² である。柱間寸法は東側桁行が東妻側から 1.8 m (6 尺), 1.8 m (6 尺), 2.1 m (7 尺), 南側梁行が東妻側から 1.8 m (6 尺), 2.1 m (7 尺) で柱筋は揃っている。P 1 ~ P 3 ・ P 5 ・ P 7 の底面で柱のあたりを確認した。

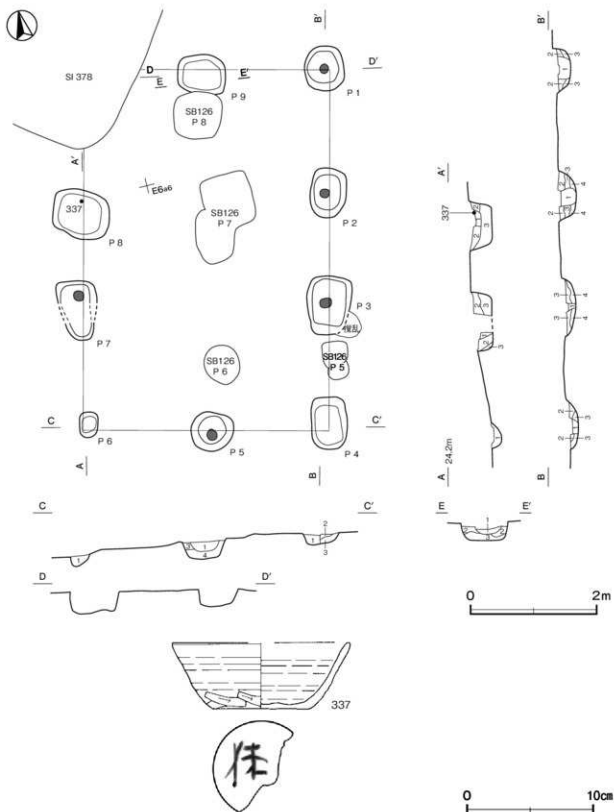
柱穴 9 か所。平面形は楕円形又は円形で, 長径 41 ~ 96 cm, 短径 29 ~ 76 cm である。深さ 22 ~ 44 cm で, 掘方の断面は逆台形である。第 1 層は柱痕跡, 第 2 ~ 4 層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 2 黒褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量
- 4 黒褐色 粘土ブロック多量

遺物出土状況 土師器片 34 点 (甕類), 須恵器片 18 点 (杯 13, 高台付杯 1, 蓋 2, 甕類 2), 金属製品 1 点 (不明) が出土している。337 は P 8 の埋土から出土している。

所見 時期は, 出土土器と重複関係から 9 世紀前葉と考えられる。



第226図 第127号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第127号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第226図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
337	須臾器	杯	[140]	5.3	7.6	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	手法の特徴ほか 体部下端手持ちヘラ張り 底部一方の手持ちヘラ張り 接合□	P 8 裡土	30% PL56

第128号掘立柱建物跡 (第227図 PL47)

位置 調査区中央部のC5a0区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第340A・340B・340C号竪穴建物に掘り込まれている。第129号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

規模と構造 北東部が調査区域外に延びていることから、梁行は4.8mで、桁行は5.4mしか確認できなかった。桁行方向はN-83°-Wの東西棟である。柱間寸法は、桁行が2.1m(7尺)、梁行が2.4m(8尺)で柱筋は揃っている。

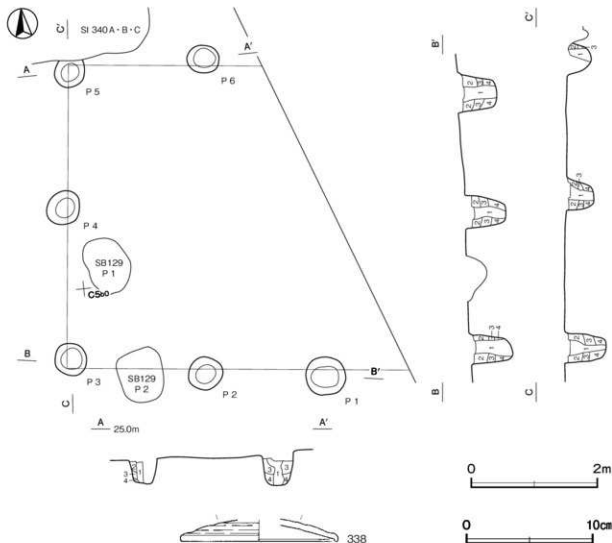
柱穴 6か所。平面形は円形又は楕円形で、長径51~63cm、短径44~58cmである。深さ40~65cmで、掘方の断面はU字形又は逆台形である。第1層は柱痕跡、第2~4層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 須恵器片1点(蓋)がP3の埋土から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から9世紀中葉以前に比定できる。



第227図 第128号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第128号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第227図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
338	須恵器	壺	[124]	(1.7)	-	長石・石英	灰	普通	大井部副軀へテ削り	P.3埋土	5%

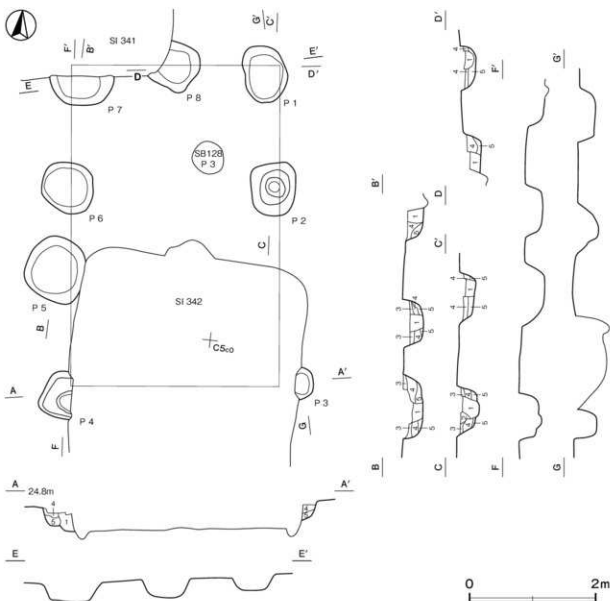
第129号掘立柱建物跡(第228・229図 PL47)

位置 調査区北部のC 5 b9区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第341・342号竪穴建物に掘り込まれている。第128号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の竪柱建物跡で、桁行方向がN-6°-Wの南北棟である。規模は、桁行5.1m、梁行3.3mで、面積は16.83㎡である。柱間寸法は北妻から桁行が1.8m(6尺)、1.5m(5尺)、1.8m(6尺)、梁行が1.8m(6尺)、1.5m(5尺)で柱筋は揃っている。

柱穴 8か所。平面形は楕円形又は円形で、長径74~100cm、短径69~97cmである。深さ28~36cmで、掘



第228図 第129号掘立柱建物跡実測図

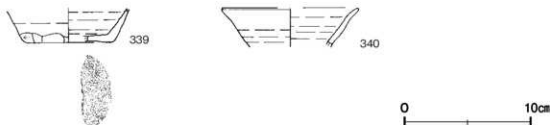
方の断面はU字形又は逆台形である。第1層は柱痕跡、第2～5層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片1点(坏)、須恵器片15点(坏6、高台付坏1、蓋1、甕類7)が出土している。339はP8、340はP5の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第229図 第129号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第129号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第229図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
339	須恵器	坏	-	(27)	[69]	長石・石英・片岩質	灰褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り	P.8覆土中	2% 新出遺
340	須恵器	坏	[108]	(31)	-	長石・石英・片岩質	褐色	普通	ロクロナデ	P.5覆土中	5%

表15 平安時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数	規模 桁×梁(m)	面積 (㎡)	柱間(m)		柱穴		柱穴形状	深さ(cm)	主な出土遺物	時期	備考
						枘間	梁間	平面形	深さ					
111	B547	N-3°-E	3×2	4.8×3.6	17.28	1.5-1.8	1.8	欄柱	10	円形・楕円形	13-36	土師器、須恵器、金属製品	9世紀前葉	
112	C567	N-6°-E	3×2	5.1×3.0	15.3	1.5-1.8	1.5	欄柱	10	楕円・5割削り	37-54	土師器、須恵器	9世紀前葉	SB125→本跡
113	C6c5	N-11°-E	2×2	3.3×2.4	7.92	1.5-1.8	1.2	総柱	10	円形・楕円形	28-74	須恵器	9世紀代	
114A	F7a3	N-85°-E	3×2	5.1×3.6	18.36	1.5-1.8	1.8	欄柱	10	長方形	12-50	土師器、須恵器	9世紀前葉	SB114B→本跡
114B	F7a3	N-85°-E	2×2	4.2×3.6	15.12	2.1	1.8	欄柱	8	方形・長方形	12-50	土師器、須恵器	9世紀前葉	本跡→SB114A
116	E6e6	N-6°-W	3×2	6.6×3.9	25.74	2.1-2.4	1.8-2.1	欄柱	10	円形・楕円形	32-71	土師器、須恵器	9世紀前葉	SL374→本跡
120	C5e4	-	-	3.3×1.8	-	1.2-2.1	1.8	-	4	円形	21-38	-	9世紀代	
121	C5g7	N-3°-E	2×1	4.5×4.8	21.60	2.1-2.4	4.8	欄柱	6	円形・楕円形	18-52	土師器、須恵器	9世紀代	SL382、SO28→本跡
126	E6a6	N-9°-E	3×2	6.0×3.9	23.4	1.8-2.1	1.8-2.1	欄柱	10	円形・楕円形	13-44	土師器、須恵器、金属製品	9世紀前葉	SB127→本跡→SL328
127	E6a6	N-14°-E	3×2	5.7×3.9	22.23	1.8-2.1	1.8-2.1	欄柱	9	円形・楕円形	22-44	土師器、須恵器、金属製品	9世紀前葉	本跡→SL378、SB126
128	C5a0	N-83°-W	-	5.4×4.8	-	2.1	2.4	-	6	円形・楕円形	40-65	須恵器	9世紀前葉 新出	本跡→SL363A-36D-36C
129	C5b9	N-6°-W	3×2	5.1×3.3	16.83	1.5-1.8	1.5-1.8	欄柱	8	円形・楕円形	28-36	土師器、須恵器	9世紀前葉	本跡→SL341、342

(3) 井戸跡

第4号井戸跡(第230図 PL48)

位置 調査区中央部のF7b2区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第24号溝跡を掘り込んでいます。

規模と形状 径1.46mほどの円形である。形状は円筒状である。確認面から55cmほど掘り下げた時点で、崩

落のおそれがあることから、下部の調査を断念した。

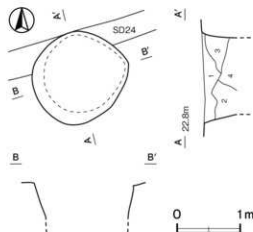
覆土 4層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | |
|---|-----|-----------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 | 黒褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 | 黒褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片6点(甕類), 須恵器片9点(坏3, 高台付坏2, 甕類4)が, 覆土中から出土している。これらの遺物は, 埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。細片のため図示できない。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀代と考えられる。



第230図 第4号井戸跡実測図

(4) 粘土採掘坑

第1号粘土採掘坑 (第231・232図 PL48)

位置 調査区中央部のE 6h6区, 標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第355・356・368・369号竪穴建物跡を掘り込み, 第21号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北西部が調査区域外に延びているため, 南北15.2m, 東西13.6mしか確認できなかった。平面形は不定形で, 南北方向は $N-5^{\circ}-W$, 東西方向は $N-53^{\circ}-E$ である。底面はローム層下の黄褐色粘土層を楕円形に連続して掘り込んでいる。深さは34~74cmで, 底面は凹凸がある。壁は外傾している。

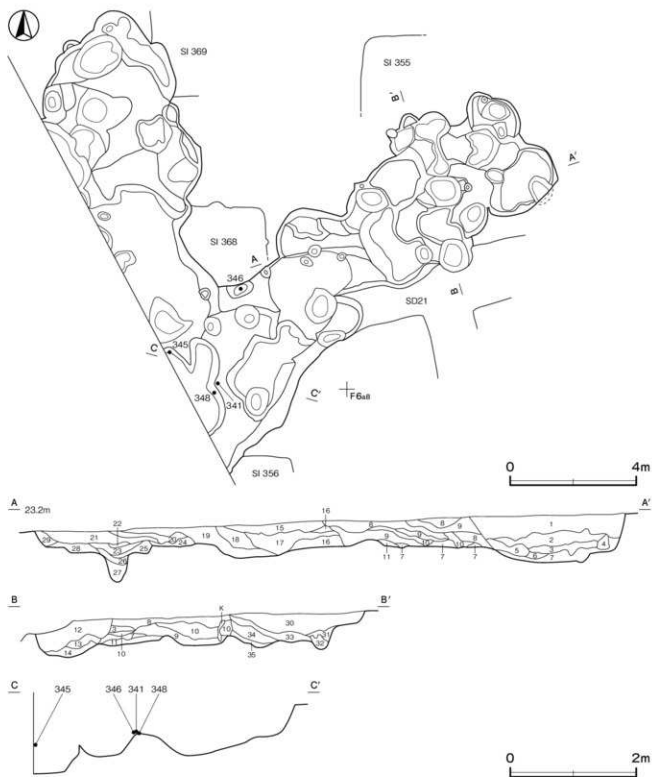
覆土 35層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|----|-----|---------------------|----|------|---------------------|
| 1 | 黒褐色 | 粘土ブロック微量 | 19 | 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子多量 | 20 | 暗褐色 | 粘土ブロック多量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック多量 | 21 | 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 | 黒褐色 | ロームブロック多量, 粘土ブロック中量 | 22 | 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子微量 | 23 | 黒褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 | 黒褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 | 24 | 暗褐色 | 粘土ブロック中量 |
| 7 | 黒褐色 | 粘土ブロック多量, ロームブロック中量 | 25 | 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 8 | 黒褐色 | ロームブロック多量, 粘土ブロック少量 | 26 | 黒褐色 | 粘土ブロック中量 |
| 9 | 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 27 | 黒褐色 | ロームブロック多量 |
| 10 | 黒褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 | 28 | 明黄褐色 | 粘土ブロック多量 |
| 11 | 暗褐色 | 粘土ブロック少量 | 29 | 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 12 | 黒褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 | 30 | 暗褐色 | 粘土ブロック多量 |
| 13 | 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 31 | 黒褐色 | 粘土ブロック中量 |
| 14 | 暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土粒子少量 | 32 | 暗褐色 | 粘土粒子多量 |
| 15 | 黒褐色 | 焼土ブロック微量 | 33 | 黒褐色 | 粘土ブロック少量 |
| 16 | 暗褐色 | ロームブロック多量 | 34 | 黒褐色 | 粘土ブロック多量 |
| 17 | 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 35 | 暗褐色 | 粘土ブロック少量 |
| 18 | 黒褐色 | 粘土ブロック中量 | | | |

遺物出土状況 土師器片129点(坏35, 皿4, 鉢1, 甕類89), 須恵器片161点(坏21, 高台付坏11, 蓋7, 長頸瓶1, 甕類120, 瓶1), 瓦2点(丸瓦, 平瓦)のほか, 陶器片2点(碗), 磁器片2点(碗)が, 主に北側の覆土中から出土している。344は北側の覆土下層, 341・345・346・348は南側の覆土中層からそれぞれ出土している。342・343・347・349・T3は覆土中から出土している。

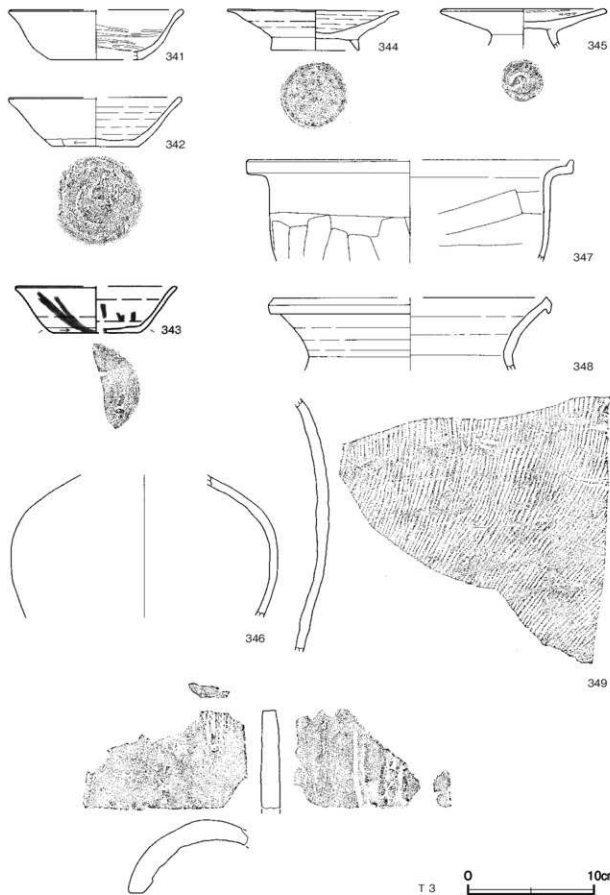
所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀後葉に比定される。



第 231 図 第 1 号粘土探掘坑実測図

第 1 号粘土探掘坑出土遺物観察表 (第 232 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
341	土師器	杯	[13.8]	4.0	[7.2]	長石・石英・ 雲母	にぶい黒	普通	体部内面へラ磨き 黒色処理	覆土中層	20%
342	須恵器	杯	13.6	3.9	6.8	長石・石英・ 雲母	明褐色	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部回転へラ切換ナデ	覆土中	50% 粘土層
343	須恵器	杯	[12.6]	3.7	[6.8]	長石・石英	灰	普通	体部下端回転へラ削り 底部回転へラ削り 体部外・内面火磨	覆土中	3% 粘土層



第 232 図 第 1 号粘土採掘坑出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
344	土師器	皿	134	32	[69]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 二次焼成	覆土下層	80%
345	土師器	皿	130	(33)	-	長石・石英・ 雲母	明褐色	普通	内面へう磨き 黒色地埋 内面器面荒れ	覆土中層	70%
346	須恵器	長頸瓶	-	(114)	-	長石・石英	暗赤褐色	良好	ロクロナデ 体部自然釉	覆土中層	10%
347	土師器	鉢	[257]	(82)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外面縦位のナデ 内面横位のナデ	覆土中	10%
348	須恵器	甕	[217]	(58)	-	長石・石英	灰	普通	口縁部外・内面ナデ	覆土中層	5%
349	須恵器	甕	-	(202)	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	体部外面斜位の平行叩き 輪積痕 内面横位のナデ	覆土中	5%

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T.3	瓦	丸瓦	(96)	58	(79)	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	凸面縄目さ 凹面糸目痕	覆土中	PL59

第2号粘土探掘坑 (第233・234図 PL48)

位置 調査区南部のF7g4区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第96号土坑を掘り込んでいる。

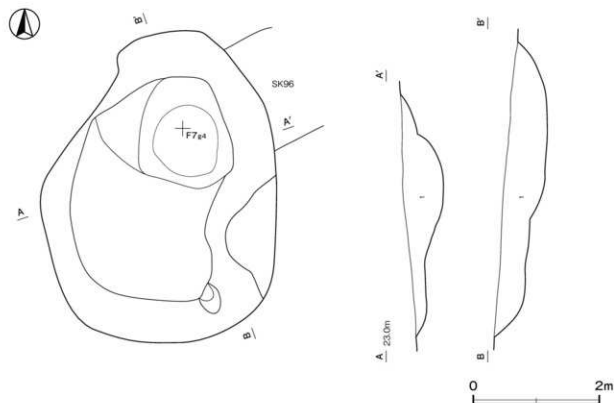
規模と形状 長径4.95m、短径3.74mの不整楕円形で、長径方向はN-0°である。底面は皿状で、深さは65cmである。底面北側には、径1.7mで深さ31cmほどの掘り込みがあり、ローム層下の黄褐色粘土層を掘り込んでいる。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 ロームブロックを含む単一層であることから一度に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

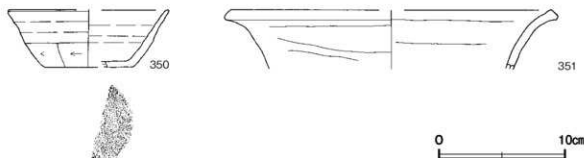
1 黒褐色 ロームブロック中層

遺物出土状況 土師器片43点(坏7、甕類36)、須恵器片55点(坏13、高台付坏1、甕類41)が、主に北側の覆土中から出土している。350・351は覆土中から出土している。



第233図 第2号粘土探掘坑実測図

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀前葉に比定される。



第234図 第2号粘土採掘坑出土遺物実測図

第2号粘土採掘坑出土遺物観察表(第234図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
350	須恵器	坏	[127]	4.6	[7.0]	長石・石英・長石雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	覆土中	20% 新山産
351	須恵器	壺	[25.6]	(4.7)	-	長石・石英・長石雲母	にんい黄褐	普通	口縁部外・内面ナデ	覆土中	5%

表16 平安時代粘土採掘坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	E 6 h 6	N - 5° - W N - 55° - E	不定形	15.2 × 13.6	74	外傾	凹凸	人為	土師器、須恵器、陶器、磁器	SK35・36・368・369→本跡→SK32
2	F 7 g 4	N - 0°	不整形四角	4.95 × 3.74	65	縦斜	皿状	人為	土師器、須恵器	SK36→本跡

(5) 土坑

第34号土坑(第235図)

位置 調査区中央部のE 7 j 3区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

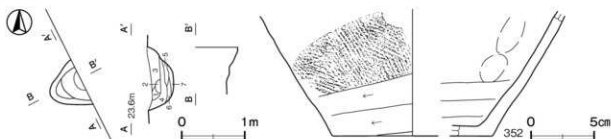
重複関係 第352号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東側が調査区域外に延びていることから長径は0.53mで、短径は0.78mしか確認できなかった。平面形は楕円形と推定でき、長径方向はN - 63° - Eである。深さは55cmで、底面は皿状である。壁は外傾している。

覆土 7層に分層できる。焼土ブロックや粘土ブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック多量 | 6 黒褐色 焼土ブロック多量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子多量 | 7 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック中量 | |



第235図 第34号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片3点(坏2, 甕類1), 須恵器片6点(鉢1, 甕類5)が出土している。352は覆土中から出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀前葉以後に比定される。

第34号土坑出土遺物観察表(第235図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
352	須恵器	鉢	-	(99)	(126)	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部外面同位の平行叩き 下位へラ削り 内面 縁部のナブ 北面傾	覆土中	5% 新治葉

第37号土坑(第236図)

位置 調査区中央部のF6a9区, 標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.38m, 短径0.29mの楕円形で, 長径方向はN-87°-Eである。深さは34cmで, 底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

覆土 単一層のため堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片3点(甕類), 須恵器片4点(坏1, 蓋1, 甕類2)が出土している。353は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉に比定される。



第236図 第37号土坑・出土遺物実測図

第37号土坑出土遺物観察表(第236図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
353	須恵器	坏	-	(16)	5.5	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部二方向の手持ち へラ削り	覆土中	10% 新治葉

第39号土坑(第237図 PL48)

位置 調査区中央部のD6i2区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第351号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.23m, 短径0.90mの楕円形で, 長径方向はN-35°-Wである。深さは38cmで, 底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

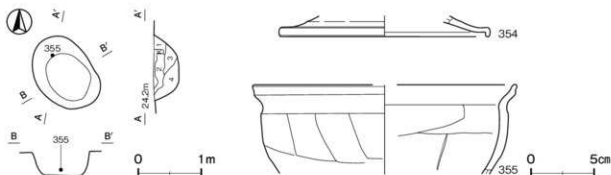
2 黒褐色 ロームブロック多量

3 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量

4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片1点(鉢), 須恵器片1点(蓋)が出土している。355は北西付近の覆土下層, 354は覆土中から出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀前葉以後に比定される。



第237図 第39号土坑・出土遺物実測図

第39号土坑出土遺物観察表(第237図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
354	須恵器	蓋	[16.4]	(1.6)	-	長石・石英・ 長石質母	灰黄褐	普通	ロクロナデ	覆土中	5%
355	土師器	鉢	[20.7]	(7.1)	-	長石・石英・ 灰母	明褐色	普通	体部外面縦位のナデ 内面横位のナデ	覆土下層	10%

第43号土坑(第238図)

位置 調査区中央部のD6h2区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第351号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.30mほどの円形である。深さは45cmで, 底面は平坦である。壁は外傾している。

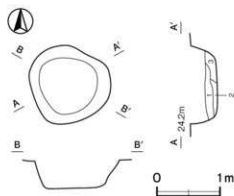
覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含んでいるが, 東側から流れ込んだ状況から自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片5点(甕類), 須恵器片5点(甕類)が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀前葉以前に比定される。



第238図 第43号土坑実測図

第46号土坑(第239図)

位置 調査区中央部のE6i7区, 標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第368号堅穴建物跡と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 長径1.19m, 短径0.94mの楕円形で, 長径方向はN-2°-Eである。深さは16cmで, 底面は

平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

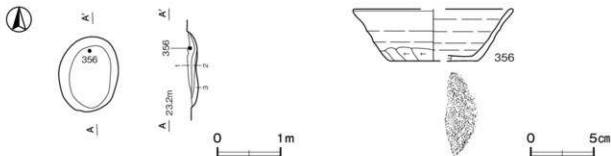
覆土 3層に分層できる。ローム粒子や粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐灰色 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
 2 褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化
 3 に近い褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 須恵器片2点(坏、蓋)が出土している。356は北部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定される。



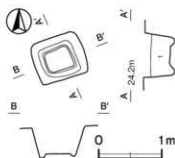
第239図 第46号土坑・出土遺物実測図

第46号土坑出土遺物観察表(第239図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
356	須恵器	坏	[126]	41	[69]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端平持ちヘラ作り 底部不定方向の手持ちヘラ作り	覆土上層	20% 新出

第59号土坑(第240図)

位置 調査区中央部のD6hl区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。



第240図 第59号土坑実測図

規模と形状 長軸0.82m、短軸0.68mの長方形で、長軸方向はN-69°-Eである。深さは42cmで、底面は平坦である。壁溝状のくぼみが全周している。壁はほぼ直立している。

覆土 単一層のため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片1点(坏)、須恵器片1点(炭類)が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から9世紀代に比定される。

第96号土坑(第241図)

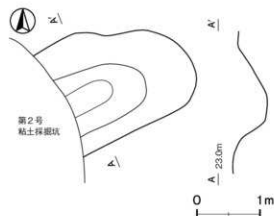
位置 調査区南部のF7f4区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号粘土探掘坑に掘り込まれている。

規模と形状 第2号粘土採掘坑に掘り込まれているため、長径は2.06mで、短径は1.80mしか確認できなかった。確認できた範囲から楕円形と推定でき、長径方向はN-63°-Eである。深さ48cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

遺物出土状況 土師器片2点(甕類), 須恵器片12点(坏1, 高台付坏1, 甕類10)が覆土中から出土している。細片のため図示できない。

所見 第2号粘土採掘坑完掘後に確認された。時期は、重複関係や出土土器から9世紀中葉以前に比定できる。



第241図 第96号土坑実測図

第121号土坑 (第242図)

位置 調査区南部のG76区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第386号竪穴建物跡を掘り込み, 第30号溝に掘り込まれている。

規模と形状 第30号溝に南側が掘り込まれているため、長径は1.16mで、短径は0.70mしか確認できなかった。平面形は長方形で、長径方向はN-81°-Eである。深さは37cmで、底面は皿状である。壁は直立している。

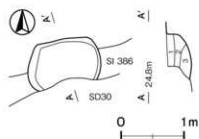
覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片2点(甕類), 須恵器片2点(坏, 甕類)が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀中葉以降に比定される。



第242図 第121号土坑実測図

表17 平安時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
34	E 7 j3	N-63°-E	[楕円形]	(0.53) × (0.78)	55	皿状	外傾	人為	土師器, 須恵器	SI 352 → 本跡
37	F 6 a9	N-87°-E	楕円形	0.38 × 0.29	34	平坦	ほぼ直立	-	土師器, 須恵器	
39	D 6 i2	N-35°-W	楕円形	1.23 × 0.90	38	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	SI 351 → 本跡
43	D 6 h2	-	円形	1.30 × 1.24	45	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	SI 351 → 本跡
46	E 6 i7	N-2°-E	楕円形	1.19 × 0.94	16	平坦	緩斜	人為	須恵器	
59	D 6 h1	N-69°-E	長方形	0.82 × 0.68	42	平坦	ほぼ直立	-	土師器, 須恵器	
96	F 7 f4	N-63°-E	[楕円形]	(2.06) × 1.80	48	平坦	緩斜	-	土師器, 須恵器	本跡→第2号粘土採掘坑
121	G 7 6	N-81°-E	[長方形]	1.16 × (0.70)	37	皿状	直立	自然	土師器, 須恵器	SI 386 → 本跡 → SD30

(6) 柱穴列

第3号柱穴列 (第243図)

位置 調査区中央部のF 6b0～F 7a4区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 東西方向15.6mの間に並ぶ柱穴11か所を確認した。配列方向はN-71°-Eである。柱間寸法は0.6～2.7m(2～9尺)と不揃いである。

柱穴 11か所。平面形は楕円形又は円形で、長径19～38cm、短径17～27cmである。深さは7～22cmで、断面はU字形である。第1・2層は埋土である。

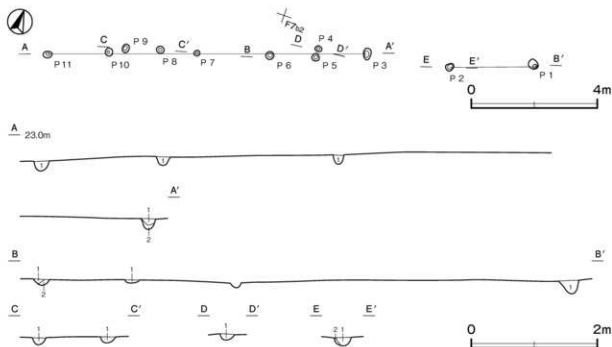
土層解説 (各ピット共通)

1 黒色 粘土ブロック微量

2 黒色 粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片1点(甕類)、須恵器片2点(環)が、P1・P2・P11の埋土から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から9世紀代に比定できる。第24号溝に沿って直線状に延びていることから、横列跡と考えられる。



第243図 第3号柱穴列実測図

第6号柱穴列 (第244図)

位置 調査区中央部のD 5f0区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 南北方向7.2mの間に並ぶ柱穴5か所を確認した。配列方向はN-27°-Wである。柱間寸法は1.5～2.1m(5～7尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

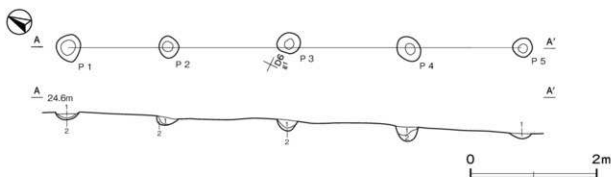
柱穴 5か所。平面形は楕円形又は円形で、長径30～44cm、短径29～38cmである。深さは7～23cmで、断面はU字形である。第1・2層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物微量

2 褐色 ローム粒子中量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器片6点(坏2, 甕類4)が, P1・P3の埋土から出土している。細片のため図示できない。
所見 時期は, 出土土器から9世紀代に比定できる。直線状に延びていることから, 堀跡の可能性はあるが, 何に伴うものか不明である。



第244図 第6号柱穴列実測図

第7号柱穴列 (第245図)

位置 調査区中央部のD6il区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 南北方向30mの間に並ぶ柱穴3か所を確認した。配列方向はN-3°-Eである。柱間寸法は15m(5尺)で, 柱筋ははは揃っている。

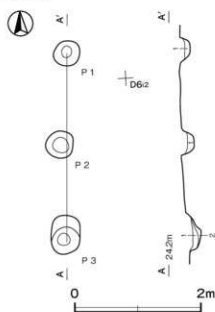
柱穴 3か所。平面形は円形又は楕円形で, 長径45~62cm, 短径40~47cmである。深さは18~23cmで, 断面はU字形又は逆台形である。第1・2層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- 1 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片5点(甕類), 須恵器片1点(甕類)が, P1・P3の埋土から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は, 出土土器から9世紀代に比定できる。直線状に延びていることから, 堀跡の可能性はあるが, 何に伴うものか不明である。



第245図 第7号柱穴列実測図

表18 平安時代柱穴列一覧表

番号	位置	主軸方向	長さ(m)	柱間(m)	柱穴			主な出土遺物	備考		
					柱穴数	平面形	長径(cm)			短径(cm)	深さ(cm)
3	F7a4 ~F6b3	N-71°-E	156	0.6-2.7	11	円形 楕円形	19-38	17-27	7-22	土師器, 須恵器	
6	D519	N-27°-W	72	1.5-2.1	5	円形 楕円形	30-44	29-38	7-23	土師器	
7	D611	N-3°-E	30	1.5	3	円形 楕円形	45-62	40-47	18-23	土師器, 須恵器	

(7) 溝跡

第5号溝跡 (第246図 PL45)

調査年度 調査区域外の北東部の大部分は平成12年度に調査し、当財団調査報告『第209集』において報告している。

位置 調査区北部のC 6d2～D 5b8区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第17号溝に掘り込まれ、第363号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 D 5b8区から北東方向(N-24°-E)に直線状に延び、平成12年度調査のC区第5号溝につながる。南西部は平成12年度調査の九重東岡庵寺で確認した溝につながるものと考えられる。今回確認できた長さは32.32mで、上幅0.80～1.43m、下幅0.15～0.58m、深さ19～55cmである。断面形はU字状である。

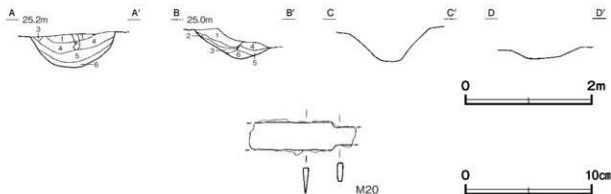
覆土 6層に分層できる。ロームブロックやローム粒子が含まれているが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 4 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 ローム粒子少量 | 6 濃い黄褐色 ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片73点(坏4, 甕類69), 須恵器片141点(坏29, 高台付坏1, 蓋4, 甕類103, 瓶4), 金属製品1点(刀子)が出土している。M20は中央部付近の覆土中から出土している。

所見 時期は、第17号溝、第363号竪穴建物跡との重複関係や出土土器から9世紀後葉以前に比定できる。



第246図 第5号溝跡・出土遺物実測図

第5号溝跡出土遺物観察表 (第246図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M20	刀子	(8.5)	2.3	0.4	(28.5)	鉄	刃部先端部欠損 刃部断面三角形 基部断面四角形 両側	覆土中	PL58

第17号溝跡 (第247図)

位置 調査区北部のC 5h7～C 6h3区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第362号竪穴建物跡、第5・28号溝跡を掘り込んでいる。第121号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 C 5h7区から東方向(N-90°-E)へ直線状に東側調査区域外まで延びているため、長さは

25.5 mしか確認できなかった。上幅 1.32～2.50 m、下幅 0.08～0.40 m、深さ 22～32 cmである。断面形は浅いU字状である。

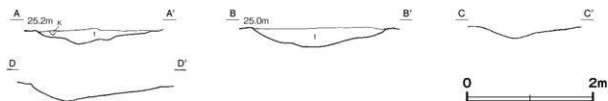
覆土 単一層であるため、堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 24 点(甕類)、須恵器片 36 点(坏4、高台付坏1、長頸瓶1、甕類 30)が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、第5・28号溝跡、第362号竪穴建物跡との重複関係や出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第 247 図 第 17 号溝跡実測図

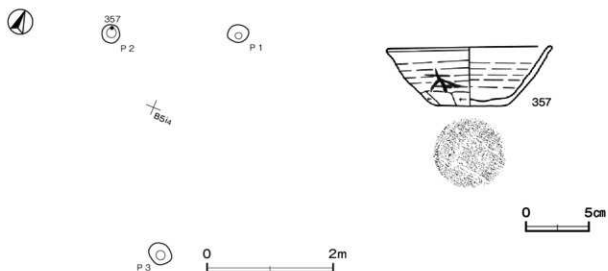
表 19 平安時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規 模			断面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長さ(m)	上幅 (m)	下幅 (m)					
5	C6d2～D5d8	N-24°-E	直線状	(32.32)	0.80-1.43	0.15-0.58	19-55	U字状	磁葺	自然	土師器、須恵器、金属製品 SD63→本跡→SD17
17	C5b7～C6b3	N-90°-E	直線状	(25.5)	1.32-2.50	0.08-0.40	22-32	浅いU字状	磁葺	-	土師器、須恵器 SD362, SD6-28→本跡

(8) ビット群

第 1 号ビット群 (第 248 図)

位置 調査区北部の B5h3～B5i4区、標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。



第 248 図 第 1 号ビット群・出土遺物実測図

規模と形状 南北4.00 m、東西2.18 mの範囲に、ピット3か所を確認した。個々の形状、計測値については、一覧表に記載する。

遺物出土状況 須恵器片1点(坏)が出土している。357はP2の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。ピットの分布状況から建物跡は想定できないので、性格は不明である。

第1号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	B5h4	楕円形	35	28	45
2	B5h3	円形	30	29	30
3	B5h4	楕円形	38	32	40

第1号ピット群出土遺物観察表(第248図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
357	須恵器	坏	130	4.8	5.8	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下層手持ちへう割り へう割り 体部外周裏書「本」	P2 覆土下層	90% 円山 新出窯

3 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、土坑1基、溝跡4条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 土坑

第28号土坑(第249図 PL48)

位置 調査区北部のB5e7区、標高24 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.19 m、短軸0.82 mの隅丸長方形で、長軸方向はN-84°-Eである。深さは22cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

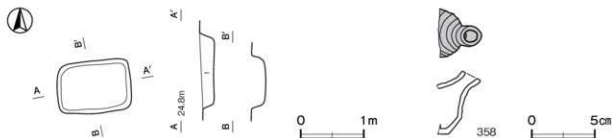
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中葉

遺物出土状況 陶器片3点(碗。2、急須1)のほか、土師器片2点(甕類)、須恵器片3点(甕類)が出土している。358は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から江戸時代に比定できる。性格は不明である。



第249図 第28号土坑・出土遺物実測図

第28号土坑出土遺物観察表(第249図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	軸差	産地	出土位置	備考
358	陶器	急須	-	(50)	-	長石・石英にふいかけ粉	ロクロナデ	灰輪	瀬戸内産系	覆土中	5%

(2) 溝跡

第21号溝跡 (第250図 PL45)

位置 調査区中央部のD6h7～F7g1区、標高22～24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第354・358・367号竪穴建物跡、第115A・115B号掘立柱建物跡、第1号粘土採掘坑、第25号溝跡を掘り込んでいる。第22号溝跡とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 西側の調査区域外のE6j6区から東方向(N-69°-E)へ直線状に東側の調査区域外まで延びているため、長さは26.32mしか確認できなかった。中央部付近で2方向に分岐している。E6i0区で北方向(N-20°-W)へ直線状に長さ45.70m延び、E6j8区で南方向(N-161°-E)へ直線状に29.72m延びている。上幅0.68～2.46m、下幅0.16～0.82m、深さ17～42cmである。断面形は浅いU字状である。

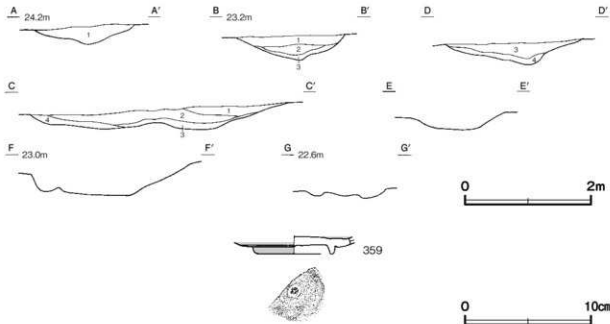
覆土 4層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれているが、レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 3 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量 | 4 黒褐色 粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 陶器片11点(碗6, 皿2, 花瓶1, 摺鉢2), 磁器片14点(碗11, 蕎麦猪口2, 急須1)のほか、土師器片116点(坏7, 甕類109), 須恵器片191点(坏18, 高台付坏4, 蓋4, 甕類165), 瓦12点(軒平瓦1, 平瓦11)が覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から江戸時代以前に比定できる。性格は不明である。



第250図 第21号溝跡・出土遺物実測図

第21号溝跡出土遺物観察表 (第250図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	粘束	産地	出土位置	備考
359	陶器	皿	-	(1.4)	6.0	長石 灰オリーブ	外・内面つけ掛け	灰軸	瀬戸系遺系	覆土中	30%

第22号溝跡 (第251図)

位置 調査区南部のF 6b7～F 6b9区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第353号竪穴建物跡を掘り込んでいる。第21号溝跡との新旧関係は不明である。

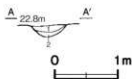
規模と形状 西側が調査区域外のF 6b7区から東方向(N-86°-E)へ直線状に第21号溝跡まで延びていることから、長さは6.92mしか確認できなかった。上幅0.25～1.02m、下幅0.11～0.31m、深さ20cmである。断面形は浅いU字状である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれているが、レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック少量



第251図 第22号溝跡実測図

遺物出土状況 陶器片1点(碗)のほか、土師器片23点(甕類)、須恵器片17点(坏1、高台付坏1、甕類15)、瓦1点(平瓦)が覆土中から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係や出土土器から江戸時代以前に比定できる。性格は不明である。

第29号溝跡 (第252図)

位置 調査区中央部のD 6d6～D 6e2区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 D 6e2区から東方向(N-70°-E)へ直線状に調査区域外に延びていることから、長さは13.64mしか確認できなかった。上幅0.92～1.40m、下幅0.40～0.68m、深さ23～30cmである。断面形は浅いU字状である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

3 黒褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック多量

4 黒褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 陶器片3点(碗)、土師質土器片1点(鍋₉)のほか、須恵器片29点(坏3、高台付坏1、甕類25)、瓦9点(平瓦)が覆土中から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係や出土土器から江戸時代以前に比定できる。性格は不明である。



第252図 第29号溝跡実測図

第30号溝跡 (第253図 PL45)

位置 調査区南部のG 7g5～G 8e1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第386号竪穴建物跡、第121号土坑を掘り込んでいる。第34号溝跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 G 8e1区から西方向(N-105°-W)へ直線状に調査区域外に延びていることから、長さは

23.48 mしか確認できなかった。上幅 1.42 ~ 2.20 m, 下幅 0.18 ~ 0.80 m, 深さ 39 ~ 63 cmである。断面形は浅いU字状である。

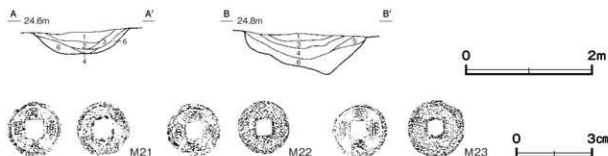
覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化材・焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化物微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 金属製品3点(銭貨)が覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から江戸時代に比定できる。性格は不明である。



第253図 第30号溝跡・出土遺物実測図

第30号溝跡出土遺物観察表(第253図)

番号	種別	銭名	径	孔径	重量	材質	初周年	特徴	出土位置	備考
M21	銭貨	寛永通宝	2.20	0.7	1.73	銅	1668	新寛永 背無し	覆土中	PL.58
M22	銭貨	寛永通宝	2.14	0.6	2.07	銅	1668	新寛永 背無し	覆土中	PL.58
M23	銭貨	寛永通宝	2.31	0.65	1.16	銅	1668	新寛永 背無し	覆土中	PL.58

表20 江戸時代溝跡一覧表

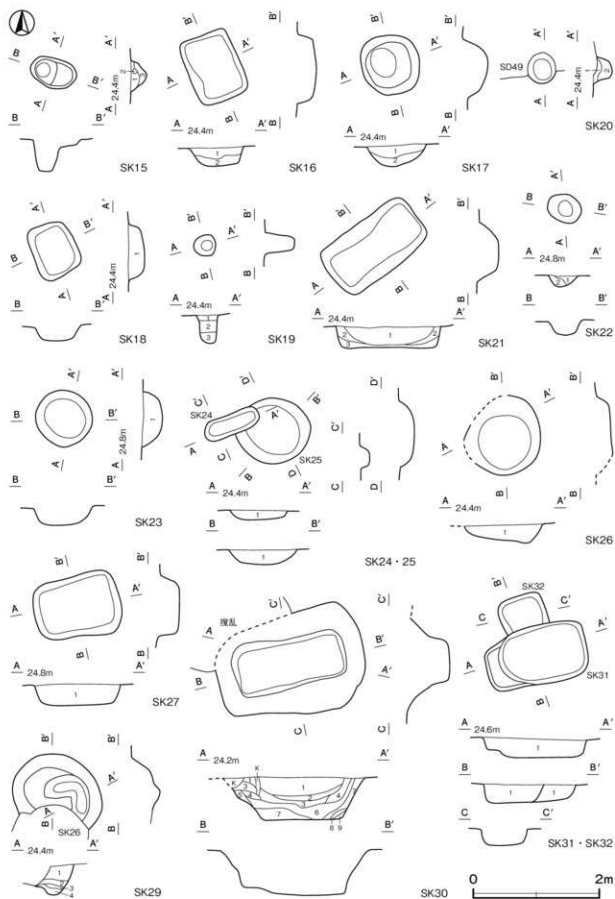
番号	位置	方向	平面形	規模			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)						深さ(cm)
21	D6h7-F 7g1	N-69°-E N-20°-W N-16°-E	十字状	(26.32) (45.70) (29.72)	0.68-2.46	0.16-0.82	17-42	浅いU字状	織葎	自然	陶器, 磁器, 土師器, 須恵器, 瓦	SK34 (SK307, SK113A, 115B, 第1号粘土器部坑, SK55A・55B) →本跡
22	F 6b7-F 619	N-86°-E	直線状	(6.92)	0.25-1.02	0.11-0.31	20	浅いU字状	織葎	自然	陶器, 土師器, 須恵器, 瓦	SK353 →本跡
29	D 6ab-D 6c2	N-70°-E	直線状	(13.64)	0.92-1.40	0.40-0.68	23-30	浅いU字状	織葎	人為	陶器, 土師質土器, 須恵器, 瓦	
30	G 7a5-G 8e1	N-105°-W	直線状	(23.48)	1.42-2.20	0.18-0.80	29-63	浅いU字状	織葎	自然	金属製品	SK36, SK121 →本跡

4 その他の遺構と遺物

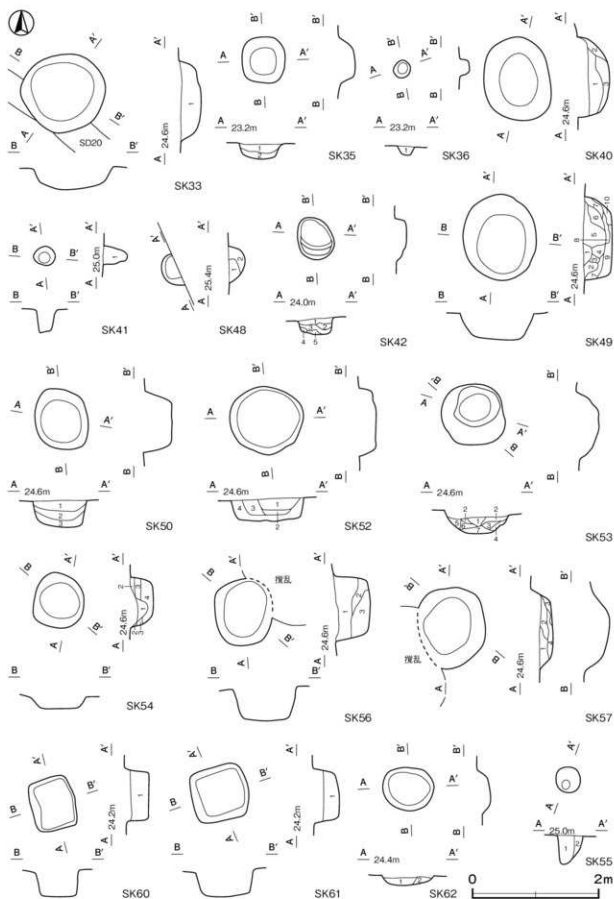
今回の調査で時期が明らかでない土坑63基, 柱穴列1条, 溝跡5条, ビット群2か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 土坑

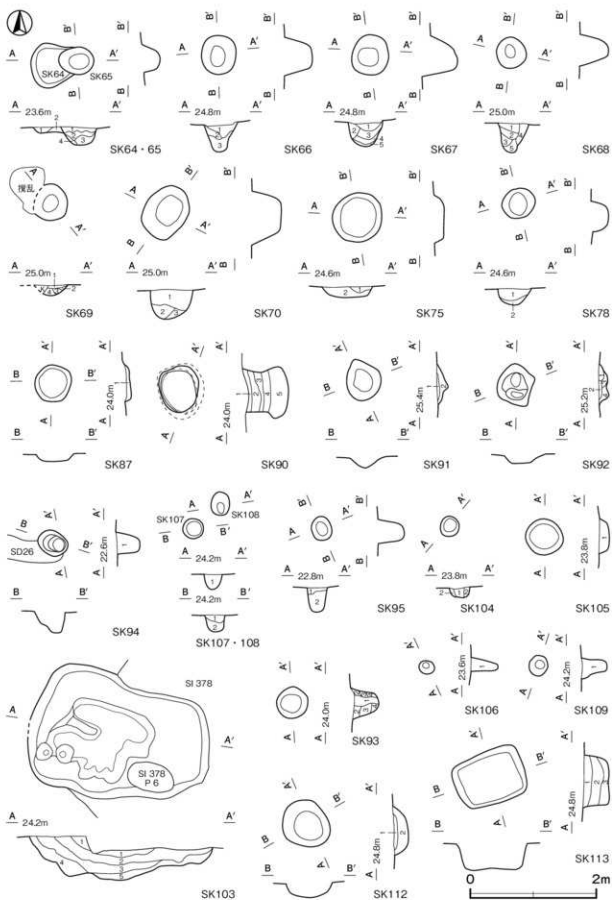
時期や性格が明確でない土坑に関して、規模・形状等を実測図(第254~257図)と土層解説及び一覧表で掲載する。



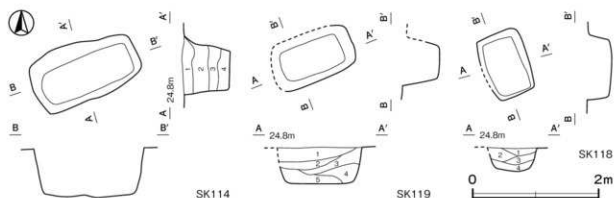
第 254 図 その他の土坑実測図 (1)



第 255 図 その他の土坑実測図 (2)



第 256 図 その他の土坑実測図 (3)



第257図 その他の土坑実測図(4)

第15号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

第16号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第17号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

第18号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第19号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 灰褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 灰褐色 粘土ブロック、炭化粒子少量

第20号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒色 ロームブロック微量

第21号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第22号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第23号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第24号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量

第25号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第26号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量

第27号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第29号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック多量

第30号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ロームブロック多量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量
- 7 黒褐色 ロームブロック多量
- 8 黒褐色 ロームブロック微量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量

第31号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量

第32号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第33号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第35号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、焼土ブロック少量
- 2 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量

第36号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量

第40号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

第41号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子微量

第42号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック少量
- 3 黒褐色 焼土ブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量

第48号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第49号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 5 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量
- 8 黒褐色 ロームブロック少量
- 9 灰褐色 ローム粒子中量
- 10 にぶい褐色 ロームブロック多量

第50号土坑土層解説

- 1 褐灰色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第52号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第53号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 にぶい黄褐色 ローム粒子微量

第54号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 極暗褐色 ロームブロック中量

第55号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化物微量

第56号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第57号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 灰褐色 ロームブロック中量

第60号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量

第61号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量

第62号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第64号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量

第65号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量
- 4 黒褐色 粘土ブロック多量

第66号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量

第67号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量

第68号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量
- 4 にぶい褐色 ローム粒子多量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量

第69号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第70号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

第75号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第78号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第87号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第90号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック少量、粘土ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 粘土ブロック少量
- 4 黒褐色 粘土ブロック少量
- 5 黒褐色 粘土粒子少量

第91号土坑土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック微量

第92号土坑土層解説

- 1 灰赤褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化物少量
- 2 暗赤褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量
- 3 極暗赤褐色 焼土粒子中量
- 4 褐色 炭化物多量、焼土ブロック中量、粘土ブロック微量

第93号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量

第94号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック多量

第95号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量
- 2 黒褐色 粘土ブロック少量

第103号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量
- 2 暗褐色 粘土ブロック中量
- 3 黒褐色 粘土ブロック多量
- 4 暗褐色 粘土ブロック多量
- 5 黒褐色 粘土ブロック少量

第104号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量

第105号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第106号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量

第107号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量

第108号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

第109号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量、ローム粒子少量

第112号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第113号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量

第114号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 炭化材・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第118号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量

第119号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

表21 その他の土坑跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
15	A 5e4	N-70°-W	楕円形	0.74 × 0.47	54	平坦	直立・緩斜	自然	須恵器	
16	A 5d3	N-22°-W	長方形	1.10 × 0.84	30	平坦	ほぼ直立	自然	土師器	
17	A 5i4	-	円形	0.96 × 0.91	36	皿状	緩斜	自然	土師器	
18	A 5d3	N-20°-W	長方形	0.86 × 0.68	24	平坦	ほぼ直立	自然		
19	A 5b4	-	円形	0.35 × 0.35	47	皿状	直立	自然		
20	A 5e4	N-6°-E	楕円形	(0.50) × (0.44)	30	皿状	外傾	自然		
21	B 5b4	N-54°-E	長方形	1.66 × 0.92	32	平坦	外傾	自然		
22	C 5c9	N-63°-W	楕円形	0.55 × 0.45	21	皿状	緩斜	自然	土師器	
23	B 5e6	-	円形	0.90 × 0.85	32	平坦	緩斜	自然	須恵器	
24	B 5d2	N-67°-E	楕丸長方形	0.90 × 0.32	15	平坦	外傾	自然		SK 25 → 本跡
25	B 5d2	N-7°-W	楕円形	1.20 × 1.03	23	平坦	外傾	自然		本跡→SK 24
26	B 5d3	N-23°-E	楕円形	1.26 × 1.15	28	平坦	外傾	自然	縄文土器、土師器、須恵器、陶器	本跡→SK 29
27	B 5e8	N-77°-E	長方形	1.38 × 1.02	32	平坦	外傾	自然	須恵器	
29	B 5d3	N-60°-W	[楕円形]	1.46 × (0.76)	44	平坦	凹凸	外傾	自然	SK 26 → 本跡
30	B 4c0	N-75°-E	楕丸長方形	2.36 × 1.65	70	平坦	外傾	自然		
31	B 5e6	N-75°-E	長方形	1.64 × 0.95	31	平坦	外傾	自然	土師器、土師質土器	SK 32 → 本跡
32	B 5e6	N-71°-E	長方形	0.75 × 0.54	28	平坦	外傾	自然		本跡→SK 31
33	B 5e5	-	方形	1.34 × 1.23	34	皿状	外傾	自然	土師器、須恵器	SD 20 → 本跡
35	F 6a0	-	円形	0.74 × 0.68	24	平坦	ほぼ直立	自然	土師器、須恵器	
36	F 6a9	N-71°-E	楕円形	0.28 × 0.25	16	平坦	外傾	自然		
40	C 5g7	N-11°-W	楕円形	1.04 × 0.33	51	平坦	外傾	自然	土師器、須恵器	SD 28 → 本跡
41	C 6e1	N-86°-W	[楕円形]	0.34 × 0.30	38	平坦	外傾	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
42	E 7 f1	N-18'-W	楕円形	0.70×0.54	25	平坦	直立	自然	土師器、須恵器	SI 300→本跡
48	C 6 f2	N-24'-W	[楕円形]	0.53×(0.26)	27	風状	縦斜	自然		
49	C 5 f7	N-5'-W	楕円形	1.36×1.16	42	平坦	外傾	人為	土師器、須恵器、陶器	
50	C 5 f8	N-28'-W	楕円形	0.84×0.04	44	平坦	外傾	人為	土師器、須恵器、陶器	
52	C 5 e7	-	円形	1.16×1.08	26	平坦	外傾	人為	土師器、須恵器、陶器	
53	C 5 g8	-	円形	1.10×1.05	50	平坦	外傾	人為	土師器、須恵器	SI 302→本跡
54	C 5 h8	-	円形	1.35×1.24	55	平坦	外傾	人為	須恵器	SI 302→本跡
55	C 6 f1	-	円形	0.41×0.40	45	風状	外傾	人為	須恵器	
56	C 5 g7	N-3'-E	楕円形	1.06×0.90	56	平坦	ほぼ直立	自然		
57	C 5 g8	N-5'-E	[楕円形]	1.29×[1.03]	29	平坦	縦斜	自然		
60	D 6 i1	N-17'-W	長方形	0.84×0.70	40	平坦	直立	自然	土師器	
61	D 6 i1	N-77'-E	方形	0.92×0.86	42	平坦	外傾	自然	土師器、須恵器、陶器、磁器	
62	D 6 g1	N-88'-W	楕円形	0.80×0.68	18	平坦	外傾	自然	土師器、須恵器	
64	E 6 h0	N-81'-E	[楕円形]	0.71×(0.66)	8	平坦	外傾	自然		本跡→SK65
65	E 7 h1	N-78'-W	楕円形	0.55×0.44	28	平坦	外傾	自然		SK64→本跡
66	C 5 e0	N-3'-E	楕円形	0.62×0.56	44	平坦	ほぼ直立	自然		
67	C 6 d1	N-10'-E	楕円形	0.64×0.57	52	風状	外傾	自然		
68	C 6 e1	-	円形	0.48×0.46	46	風状	ほぼ直立	自然		
69	C 5 f0	N-10'-E	[楕円形]	0.58×[0.52]	15	風状	縦斜	自然	土師器、須恵器	
70	C 5 e0	N-37'-E	楕円形	0.86×0.68	46	平坦	外傾	自然	土師器	
75	D 6 a6	-	円形	0.82×0.77	17	平坦	外傾	自然	土師器、須恵器	
78	D 6 g6	N-70'-E	楕円形	0.54×0.48	26	風状	外傾	自然	土師器、須恵器	
87	E 6 a3	-	円形	0.59×0.56	10	平坦	外傾	自然		
90	D 6 i5	-	円形	0.70×0.64	75	風状	内傾	自然		本跡→SI 378
91	D 6 a4	N-24'-W	楕円形	0.66×0.55	17	風状	縦斜	自然		
92	C 6 j2	N-14'-W	不定形	0.70×0.60	15	平坦	縦斜	自然		
93	C 5 j7	-	円形	0.51×0.50	44	風状	直立	自然		
94	F 6 e8	N-79'-E	楕円形	0.48×0.37	36	平坦	ほぼ直立	自然		
95	F 6 b7	N-73'-W	楕円形	0.37×0.32	40	風状	ほぼ直立	自然		
103	D 6 i4	N-77'-E	不整形円形	2.89×1.96	70	風状	外傾	自然		本跡→SI 378
104	E 6 a6	-	円形	0.32×0.30	16	平坦	外傾	自然	須恵器	
105	E 6 a5	-	円形	0.60×0.55	15	平坦	外傾	自然	須恵器	
106	E 6 a5	N-73'-W	楕円形	0.26×0.22	42	風状	直立	自然		
107	D 6 i1	-	円形	0.32×0.32	26	風状	直立	自然		
108	D 6 i1	N-1'-W	楕円形	0.36×0.29	23	風状	外傾	自然	須恵器	
109	D 6 i1	N-17'-E	楕円形	0.32×0.29	40	風状	ほぼ直立	自然		
112	G 7 g6	N-31'-W	楕円形	0.81×0.71	23	平坦	外傾	自然		
113	G 7 d5	N-69'-E	長方形	1.12×0.84	41	平坦	ほぼ直立	自然	土師器、須恵器、陶器	
114	G 7 e5	N-66'-E	長方形	1.75×0.95	75	平坦	ほぼ直立	自然	土師器、須恵器、金属製品	
118	G 7 e7	N-19'-W	長方形	1.04×0.76	38	平坦	ほぼ直立	人為		SI 301→本跡
119	G 7 e7	N-71'-E	[長方形]	[1.35×0.80]	58	平坦	ほぼ直立	人為		SI 301→本跡

(2) 柱穴列

第9号柱穴列 (第258図)

位置 調査区北部のC 5 e0区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

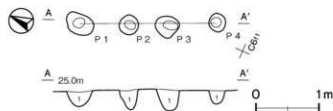
規模と構造 南北方向26mの間に並ぶ柱穴4か所を確認した。配列方向はN-25°-Wである。柱間寸法は0.6～0.9m(2～3尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 4か所。平面形は楕円形又は円形で、長径29～50cm、短径27～35cmである。深さは21～32cmで、断面はU字状である。

土層解説 (各ピット共通)

1 黒褐色 ロームブロック少量

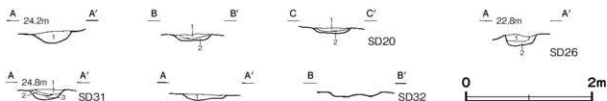
所見 時期は、出土土器がないことから不明である。直線状に延びていて柱間も短いことから、塀跡の可能性があるが、何に伴うものか不明である。



第258図 第9号柱穴列実測図

(3) 溝跡

時期や性格が明確でない溝に関して、実測図(第259図・付図)、土層解説及び一覧表で掲載する。



第259図 その他の溝跡実測図

第20号溝跡土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量
2 黒褐色 ローム粒子微量

第26号溝跡土層解説

1 黒褐色 粘土ブロック少量
2 黒色 粘土ブロック微量

第31号溝跡土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ローム粒子少量
3 暗褐色 ロームブロック少量

第32号溝跡土層解説

1 黒褐色 ローム粒子中量

表22 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
20	B 4b7～B 5e5	N-71°-W	直線状	(30.12)	0.25～0.76	0.13～0.49	10～19	浅いU字状	縦斜	自然	土師器、須恵器、陶器、金属製品	本跡→SK33
26	F 6c8	N-82°-W	直線状	(1.32)	0.28～0.48	0.12～0.24	20	U字状	縦斜	自然		
31	G 7e5～G 7f5	N-25°-W	直線状	(2.77)	0.49～0.56	0.30～0.37	16	浅いU字状	外傾	自然		
32	G 7d4～G 7d8	N-88°-W	直線状	(18.41)	0.73～1.28	0.41～0.90	10	浅いU字状	縦斜	自然	土師器、須恵器、瓦	
34	G 8e1～G 8e2	N-75°-E	直線状	(5.56)	1.64～1.92	0.16～0.44	-	-	-	-		SE84→本跡

(4) ピット群

第3号ピット群 (付図 PL48)

位置 調査区中央部のD 6 g3～D 6 i3区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南北 9.40 m, 東西 6.60 m の範囲に、ピット 16 か所を確認した。個々の形状、計測値については、一覧表に記載する。

所見 時期は、出土土器がなかったことから、不明である。ピットの分布状況から、建物跡は想定できないので、性格は不明である。

第3号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長さ	幅	深さ				長さ	幅	深さ				長さ	幅	深さ
1	D 6g3	円形	30	29	18	7	D 6f4	円形	58	54	20	12	D 6i3	方形	47	43	12
2	D 6g3	円形	30	28	15	8	D 6i3	円形	31	29	16	13	D 6i3	楕円形	50	44	31
3	D 6h3	楕円形	27	20	14	9	D 6h3	円形	50	49	15	14	D 6i3	円形	30	28	35
4	D 6h4	楕円形	61	48	31	10	D 6h3	楕円形	39	25	13	15	D 6i3	楕円形	35	26	44
5	D 6h4	楕円形	42	36	29	11	D 6i3	楕円形	30	24	20	16	D 6i3	円形	36	25	22
6	D 6i4	円形	33	33	25												

第4号ピット群 (付図)

位置 調査区中央部の D 6j2 ~ D 6j2 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 379 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南北 4.70 m, 東西 3.00 m の範囲に、ピット 10 か所を確認した。個々の形状、計測値については、一覧表に記載する。

所見 時期は、出土土器がなかったことから、不明である。ピットの分布状況から、建物跡は想定できないので、性格は不明である。

第4号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長さ	幅	深さ				長さ	幅	深さ				長さ	幅	深さ
1	D 6j2	円形	42	41	26	5	D 6j2	楕円形	60	50	30	9	D 6j2	楕円形	38	34	21
2	D 6j2	円形	26	26	19	6	D 6j2	楕円形	51	45	14	10	D 6j2	円形	51	22	13
3	D 6j2	楕円形	48	40	43	7	D 6j2	楕円形	49	40	32						
4	D 6j2	楕円形	58	46	25	8	D 6j2	円形	71	68	18						

第5号ピット群 (付図)

位置 調査区中央部の D 5f0 ~ D 5g0 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 380 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南北 4.10 m, 東西 3.00 m の範囲に、ピット 7 か所を確認した。個々の形状、計測値については、一覧表に記載する。

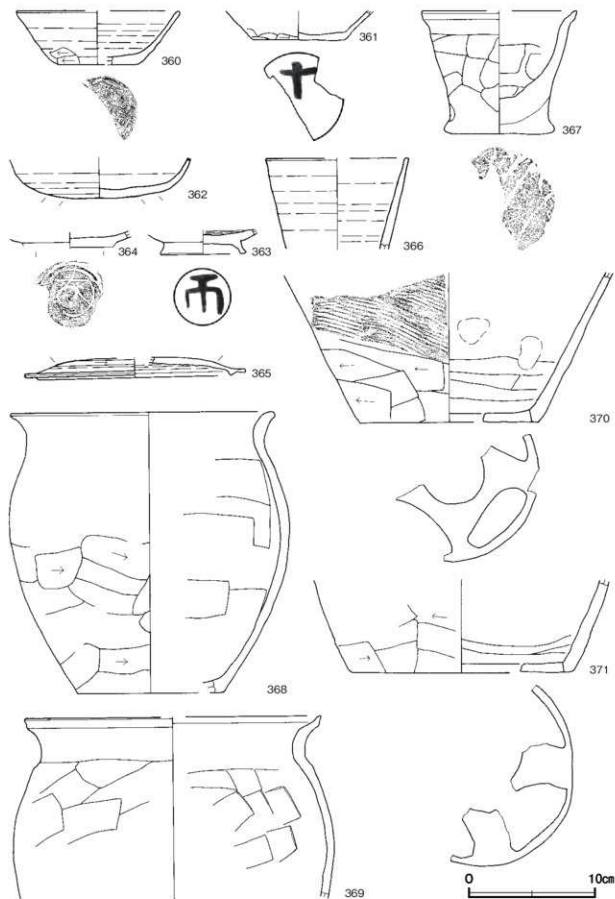
所見 時期は、出土土器がなかったことから、不明である。ピットの分布状況から、建物跡は想定できないので、性格は不明である。

第5号ピット群ピット計測表

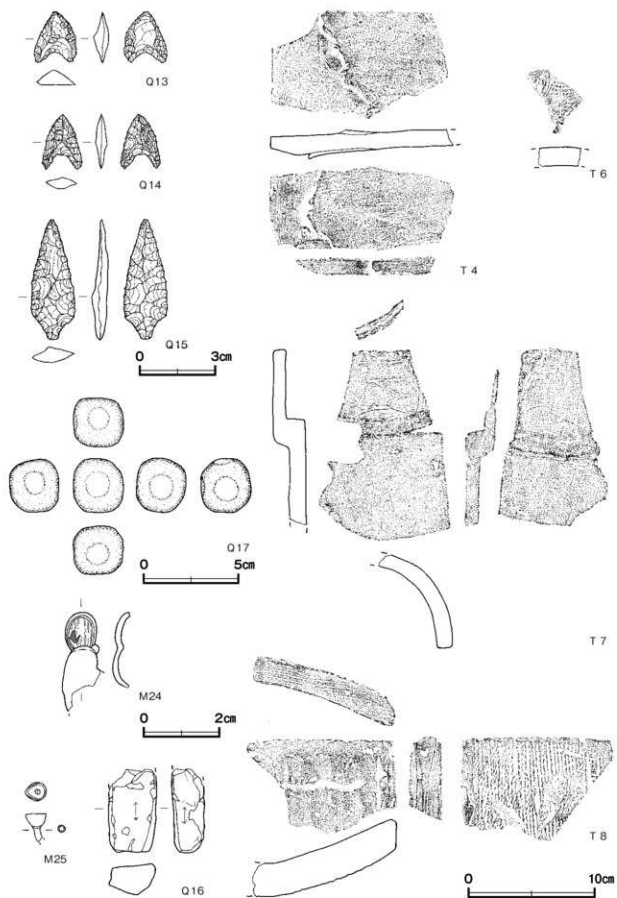
番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長さ	幅	深さ
1	D 5f0	円形	38	32	28
2	D 5f0	楕円形	25	18	-
3	D 5f0	円形	35	24	10
4	D 5g0	楕円形	59	48	14
5	D 5g0	楕円形	39	34	7
6	D 5g0	楕円形	48	39	5
7	D 5g0	楕円形	42	35	19

(5) 遺構外出土遺物

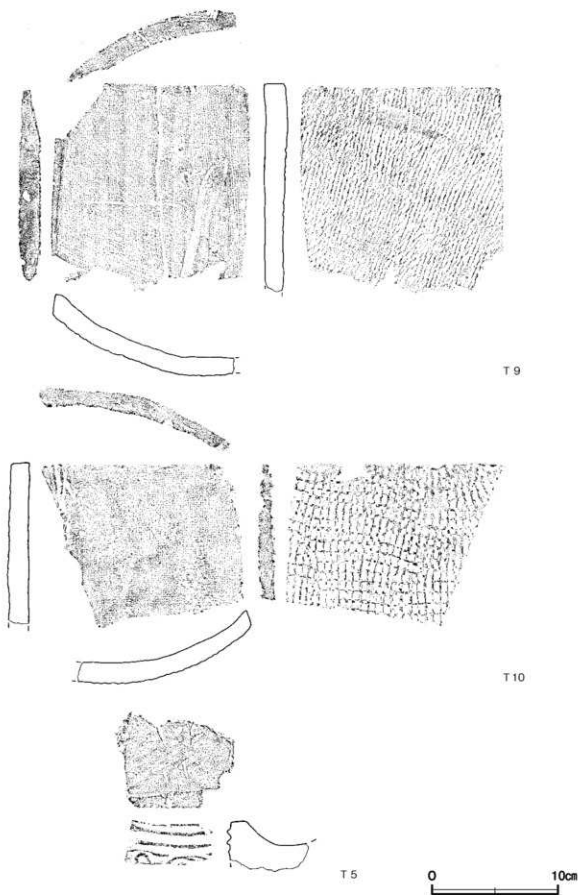
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図 (第 260 ~ 262 図) と観察表で掲載する。



第260図 遺構外出土遺物実測図(1)



第 261 図 遺構外出土遺物実測図 (2)



第 262 図 遺構外出土遺物実測図 (3)

遺構外出土遺物観察表 (第 260 ~ 262 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
360	須恵器	杯	[128]	4.3	[6.2]	長石・石英・赤母	灰黄緑	普通	体部下端手持ちへり開り 底部二方向の手持ちへり開り	表土	30% 新治産
361	須恵器	杯	-	(2.3)	7.2	長石・石英・赤母	灰黄緑	普通	体部下端手持ちへり開り 底部不定方向の手持ちへり開り 墨書「土」	表土	20% 新治産 PL56
362	須恵器	杯	-	(3.3)	-	長石・石英・赤母・赤色粒子	黄緑	普通	体部下端回転へり開り 底部一方向の手持ちへり開り	SK21	30% 新治産
363	土師器	高台付杯	-	(2.0)	6.7	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい青	普通	体部内面へり開き 黒色処理 底部墨書「市」	調査区中央部 表土	20% 新治産
364	須恵器	高台付杯	-	(1.3)	-	長石・石英・赤母	灰	普通	底部回転へり開り 底部外面刷書「大」	調査区北部 表土	10% PL56 新治産
365	須恵器	蓋	[17.7]	(1.6)	-	長石・石英・赤母	灰黄緑	普通	天井部回転へり開り	PG 5	20% 新治産
366	須恵器	コップ類 土師	[11.2]	(7.3)	-	長石・石英・赤母	暗灰黄	普通	体部外・内面ロクロナデ	SK21	20% 新治産
367	土師器	四耳	[12.0]	9.8	[8.8]	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい青	普通	体部横・斜位のナデ 内面横位のナデ	表土	50% 新治産
368	土師器	甕	20.7	21.4	[11.5]	長石・石英・赤母	灰黒	普通	体部外面下平へり開り 内面横・斜位のナデ	表土	20% 新治産
369	土師器	甕	[23.4]	(14.5)	-	長石・石英・赤母・赤色粒子	橙	普通	体部外面斜位のナデ 内面横位のナデ	表土	20% 新治産
370	須恵器	瓶	-	11.9	[14.2]	長石・石英・赤母	灰	普通	体部外面斜位の平行開き 下位へり開り 内面横位のナデ 指跡風 5孔式	表土	30% 新治産
371	須恵器	瓶	-	(7.4)	[17.5]	長石・石英・赤母	暗灰	普通	体部下位へり開り 内面横位のナデ 5孔式	表土	10% 新治産

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 13	鏡	2.0	1.7	0.6	1.28	黒曜石	両面調整 周辺から細かい連続調整 凹基	SK47	PL57
Q 14	鏡	2.2	1.6	0.5	1.01	黒曜	両面調整 周辺から細かい連続調整 凹基	表土	PL57
Q 15	有蓋丸蓋器	4.8	1.7	0.6	3.95	チャート	両面調整 周辺から細かい連続調整 凸基	SK61	PL57
Q 16	磁石 (6.6)	3.8	2.5	(85.5)		凝灰岩	研面 2面	表土	
Q 17	不明	2.9	2.6	2.6	27.9	凝灰岩	6面の角部研磨調整により丸み	調査区南部 表土	PL57

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M24	小仏像	(2.6)	(1.1)	(0.5)	(2.47)	銅	表面・下部欠如 裏面頭部に金粉付着	北部表土	PL58
M25	燈管	(2.2)	(1.6)	0.1	(2.23)	銅	受け部 管部欠損 管部径 0.5cm	表土	

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T 4	瓦	軒丸瓦	(8.4)	(2.4)	(14.6)	長石・石英・赤母	暗灰	普通	丸瓦部凸面横位の削り 凹面布目横線装粘土貼付	表土	PL59
T 5	瓦	軒平瓦	(9.0)	(4.1)	(7.2)	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	瓦当部一部欠損 凸面欠損 均整磨草文 凹面布目横	SK21	PL60
T 6	瓦	丸瓦	(4.7)	-	(6.0)	長石・石英・赤母	灰黄	普通	凸面刷書「星」	表土	PL59
T 7	瓦	丸瓦	(5.6)	(7.6)	(14.0)	長石・石英・赤母・赤色粒子	明緑	普通	玉線式 凸面玉線部横位の削り 凹面布目横	表土	PL59
T 8	瓦	平瓦	(11.5)	5.7	(8.4)	長石・石英・赤母・赤色粒子	灰	普通	凸面刷印き 凹面布目横 横背痕	10トレンチ 表土	PL60
T 9	瓦	平瓦	(14.5)	6.3	(16.6)	長石・石英・赤母・赤色粒子	黒黒	普通	凸面刷印き 凹面布目横 横背痕 糸切り痕	表土	PL60
T 10	瓦	平瓦	(13.8)	5.7	(13.0)	長石・石英・赤母	にぶい黄緑	普通	凸面削りき 凹面布目横	10トレンチ 表土	PL60

第5章 ま と め

1 はじめに

九重東岡庵寺及び金田西遺跡は、つくば市の北東部、花室川左岸の標高約24mの台地上に立地している。

九重東岡庵寺は、1984年桜村史編纂事業の一環として筑波大学によって調査され、基壇建物跡、瓦溜め土坑の一部などが検出されている¹⁾。その後、平成12年度に当財団が確認調査を行い、基壇建物跡、堂宇跡を確認し、郡寺跡の可能性が高まった²⁾。平成13年度は主要伽藍と寺域溝の確認調査を行ったが、主要伽藍となりうる建物跡は確認できなかった。

金田西遺跡については平成12・13年度に確認調査を行い、区画溝とその内部に掘立柱建物跡や礎石建物で構成される倉庫群を検出し、正倉域が明確になった³⁾。

今回の調査は九重東岡庵寺が基壇建物跡の北側の集落跡、金田西遺跡については平成13・14年度の確認調査で検出した館跡推定地・居宅跡推定地の西側にあたる集落跡を調査した。

以下、平成12・13年度の九重東岡庵寺、金田西遺跡で確認調査した遺構の時期と分布、遺構配置や出土遺物から集落の性格について述べることにする。また九重東岡庵寺については、平成12・13年度の確認調査での成果と課題¹⁾について今回の調査結果をもとに述べる。

2 建物群の変遷について(表23 第263・264図)

時期区分は、同文化財調査報告書第209集掲載のⅠ期～Ⅶ期に準じて⁴⁾、各時期の特徴について述べる。また、遺構の位置関係については、九重東岡庵寺、金田西遺跡の調査区を基準に方向を示した。

第Ⅰ期(九重東岡庵寺と本格的な河内郡衙関連施設が展開される前段階)

平成12年度確認調査では、館跡推定地と居宅跡推定地から当該時期の堅穴建物跡31棟が確認されている⁵⁾。

九重東岡庵寺では、堅穴建物跡1棟、金田西遺跡では堅穴建物跡2棟が該当する。九重東岡庵寺は主軸方向がN-34°-Eの第61号堅穴建物跡の1棟である。遺物はコップ形土器、仏教関連遺物として須恵器の仏鉢と瓦片が出土している。金田西遺跡の堅穴建物跡は、中央部に主軸方向がほぼ北方向に振れる第358号堅穴建物跡と南部に第384号堅穴建物跡がある。両遺跡とも集落は散在しているが、館跡推定地と居宅跡推定地の集落を含めると小規模ながら河内郡衙の前進集落と推定される。また、九重東岡庵寺の堅穴建物跡から仏鉢と瓦が出土していることから、河内郡衙の設立以前に寺院関係施設が存在していたと考えられる。

第Ⅱ期(九重東岡庵寺・郡衙の成立期)

本期は、平成12年度の調査で九重東岡庵寺の指定地から基壇1基と第4・5号掘立柱建物跡が確認され、また金田西遺跡の指定地では、郡庁跡は4面庇の第26・27号掘立柱建物跡、館跡は前半期に2面庇の第71号掘立柱建物跡を中心に配し、西側に1面庇の第72号掘立柱建物跡と第70号掘立柱建物跡、東側に1面庇の第75号掘立柱建物跡、北側には第258号堅穴建物跡の大型建物を口の字状に配置されている。後半期には東側へ館跡が移り、1面庇の第53号掘立柱建物跡と2面庇の第54号掘立柱建物跡を北側の中心に配し、西側に第73・95号掘立柱建物跡を逆L字状に配置されている。居宅跡は第86・90号掘立柱建物跡が並んで配置されている。九重東岡庵寺の基壇建物跡や郡庁、館、居宅等の郡衙関連施設が成立される時期である。

このように郡衙関連施設が成立する時期に、九重東岡庵寺では、堅穴建物跡・掘立柱建物跡は確認されていない。金田西遺跡では、調査区中央部に堅穴建物跡2棟、掘立柱建物跡3棟、北部には掘立柱建物跡2

棟が該当する。中央部の群は、主軸方向がN-7°・89°-Eの第377・379号竪穴建物跡と桁行方向がN-2°~4°-Wの第115A・115B号掘立柱建物跡とN-9°-Eの第117号掘立柱建物跡で構成されている。中央部の群はほぼ均等な間隔で配置されている。北部の群は桁行方向がN-5°-Eの第124号掘立柱建物跡とN-85°-Wの第125号掘立柱建物跡の2棟で構成されている。北部の群は南北棟の第124号掘立柱建物跡と東西棟の第125号掘立柱建物跡の2棟が直交するが、隣接していることから同時の存続ではない。遺物は、第379号竪穴建物跡から蛇紋岩製の温石が出土している。温石は薬石として効能があり、九重東岡庵寺と関連した仏教的色彩がある遺物と考えられる。この時期の集落は郡衙関連施設が成立する時期で、金田西遺跡の北部の掘立柱建物跡は単独で存在することは考えられず、東に隣接する館跡の一部と考えられる。

全体的に郡衙成立期には、調査区内に温石やコップ形土器などから郡衙関連施設と関連する小規模な集落が存在していたと推測される。

表23 九重東岡庵寺・金田西遺跡時期区分と遺構の変遷

時期	推定河内郡衙変遷	九重東岡庵寺		金田西遺跡	
I期 前進集落	竪穴のみ	N-34°-E	SI 61	N-15°	SI 358-384
	前進集落				
II期 8C 前業	郡庁 b期 SB 4・5・26-27			N-7°-E	SI 377
	館 a期 SB 49・50・70~72・75			N-89°-E	SI 379 (北蔵→東蔵作り替え)
	b期 SB 44・51・53・54・57・73・95				
	居宅 a期 SB 86・90				
III期 8C 中業	郡寺 基壇1 (SBI)・SB 4・5			N-5°~9°-E	SB 117・124
				N-2°~85°-W	SB 115A・115B・125
	郡庁 a期 SB 1・SB 43	N-5°-E	SI 65	N-7°-E	SI 366
	館 a期 SB 13・16・31・48・74・79			N-13°-E	SI 362
IV期 8C 後業	b期 SB 12				
	居宅 b期 SB 46・85・87・107				
	正倉 SB 1・2・3 (金田西坪B遺跡)				
	郡庁 a期 SB 21	N-18°~32°-E	SI 59・63・64・74・77・79・80	N-0°~88°-E	SI 353・361・365・371・375・376
V期 9C 前業	館 a期 SB 8・11・33・34			N-3°~10°-W	SI 364・388
	b期基壇1・SB 7・9・10・15				
	c期 SB 14	N-17°~34°-E	SB 17・21・23	N-5°-E	SB 119
	居宅 b期 SB 45・52・83・92・98・105・108・109	N-70°~76°-W	SB 18・20・25・27	N-3°~87°-W	SB 110・118・122・130
VI期 9C 中業	正倉 礎石1~7 (金田西坪B遺跡)				
	館 a期 SB 64・81・82・94	N-18°~24°-E	SI 66・67・70	N-2°~37°-E	SI 339・341・342・343A・343B・351・352・370・374・378・380
	居宅 a期 SB 68・69・96・100・106			N-8°~9°-W	SI 385・391
				N-9°~85°-E	SB 114A・114B・126・127
VII期 9C 後業		N-17°~22°-E	SB 28・29・30・31	N-3°~6°-W	SB 111・116・129
	居宅 b期 SB 99・103	N-14°~42°-E	SI 58・62・68・71・72・73・75・78	N-1°~15°-E	SI 278・340A・340B・340C・363
				N-1°~80°-W	SI 359・360・369・372・373・386
				N-6°-E	SB 112
VIII期 9C 後業	衰退→集落化	N-13°~33°-E	SI 60・69・81・82・83	N-83°-W	SB 128
				N-10°-E	SI 350A・350B
				N-0°~7°-W	SI 355・356・357
		N-14°~21°-E	SB 19・26		

第Ⅲ期(郡寺・郡衙の展開期Ⅰ)

本期は、指定地の郡庁跡は南北棟の第1号掘立柱建物跡が並び、館跡は前半に東に移り、第13号掘立柱建物跡を中心に、西側に2面庇の第12号掘立柱建物跡、南側に2面庇の第16号掘立柱建物跡をその北側に第97号堅穴建物跡、居宅跡は第85・87号掘立柱建物跡が南北に並び、東側に離れて第46・107号掘立柱建物跡の総柱建物跡が配置されている。また、金田西坪B遺跡では正倉城が確認されている。郡衙関連施設は機能が整い、充実する展開期を迎える。

本期に、九重東岡廃寺では堅穴建物跡が1棟、金田西遺跡では堅穴建物跡2棟が該当する。九重東岡廃寺では南部に主軸方向が $N-5^{\circ}-E$ の第65号堅穴建物跡1棟で、一辺が4.5mと中規模である。遺物は仏教関連遺物として瓦片が出土している。金田西遺跡では北部に堅穴建物跡1棟、中央部に堅穴建物跡1棟である。北部には主軸方向が $N-7^{\circ}\sim 13^{\circ}-E$ の第362号堅穴建物跡と、中央部にはほぼ同じ主軸の第366号堅穴建物跡があるが、2棟とも位置的にあまり離れていないので同一群と考えられる。第362号堅穴建物跡は一辺が6.75mあり、当遺跡の奈良時代の堅穴建物跡では大型である。遺物として高盤が出土している。掘立柱建物跡は該当するものがない。

郡衙関連施設が充実する展開期に、両遺跡とも調査区内には建物跡が少なく、集落はⅡ期よりも小規模な集落になる。

第Ⅳ期(郡寺・郡衙の展開期Ⅱ)

本期は、指定地の郡庁跡が第21号堅穴建物跡1棟、館跡が前半期に東側の第8号掘立柱建物跡、西側の第10号掘立柱建物跡、北側の第11号掘立柱建物跡、その東側に第33・34号の総柱建物跡が並び、後半期に第7・9・15号掘立柱建物跡が逆L字状に並び、その西側に第1号基壇跡が配置されている。居宅跡は、西側に第83・92号掘立柱建物跡、東側に第45・108・109号掘立柱建物跡が一直線に並び、郡衙施設が充実する時期である。

このような郡衙の展開期に、九重東岡廃寺では堅穴建物跡7棟、掘立柱建物跡7棟、金田西遺跡は堅穴建物跡8棟、掘立柱建物跡5棟が該当する。九重東岡廃寺は西部に主軸方向が $N-18^{\circ}\sim 32^{\circ}-E$ の第74・79号堅穴建物跡、南北棟の第23号掘立柱建物跡、第1号井戸跡、その北部にはほぼ同じ方向の第59・63・64号堅穴建物跡3棟と同じ桁行方向を持つ南北棟の第17・21号掘立柱建物跡、桁行方向が $N-70^{\circ}\sim 76^{\circ}-W$ の東西棟である第18・20号掘立柱建物跡はL字状に配置される群で構成されている。基壇の西側に $N-24^{\circ}-E$ の第77号堅穴建物跡が離れて存在するが、基壇周辺の群とした。また、北東部は主軸方向が $N-26^{\circ}-W$ の第80号堅穴建物跡と桁行方向が $N-70^{\circ}-W$ の東西棟である第25・27号掘立柱建物跡で構成されている。遺物は仏教関連遺物として瓦片が第59・77号堅穴建物跡から出土している。また、転用瓦が第64・74号堅穴建物跡から出土している。金田西遺跡では調査区北部に堅穴建物跡3棟、掘立柱建物跡4棟、中央部に堅穴建物跡が4棟、南部に堅穴建物跡1棟が該当する。北部の群は主軸方向が $N-3^{\circ}\sim 20^{\circ}-E$ の第361・364・365号堅穴建物跡、ほぼ同じ桁行方向を持つ南北棟の第110・119号掘立柱建物跡と $N-86^{\circ}\sim 87^{\circ}-W$ の東西棟の第118・122号掘立柱建物跡で構成されている。第118・119号掘立柱建物跡は重複しており時期差がある。遺物は第365号堅穴建物跡から双耳瓶の破片が出土している。中央部の群では主軸方向が $N-0^{\circ}\sim 88^{\circ}-E$ の第353・371・375・376号堅穴建物跡と第130号掘立柱建物跡で構成されている。第376号堅穴建物跡は一辺が5.24mで中型の建物である。遺物は、瓦片が第353・361・371・388号堅穴建物跡から出土している。東に隣接する居宅跡の一部に含まれる建物と考えられる。南部の群は主軸方向が $N-10^{\circ}-W$ の第388号堅穴建物跡が単独である。この時期になるとⅠ期からⅢ期まで少なかった堅穴建物跡と掘立柱建物跡が

増え始める。九重東岡庵寺の群はL字状の掘立柱建物跡が配置されたり、金田西遺跡の北部群では掘立柱建物跡などから郡衙を維持する人々の建物群が増え始める。

第V期(郡寺・郡衙の衰退期I)

郡衙関連施設は、居宅跡の第68・69・96・100・106号掘立柱建物跡しか見られなくなる。Ⅲ・Ⅳ期の展開期に比べて建物が少なく、衰退期と考えられる時期である。

このような衰退期Iの前半には、九重東岡庵寺の堅穴建物跡3棟、掘立柱建物跡4棟、金田西遺跡が堅穴建物跡13棟、掘立柱建物跡7棟が該当する。

九重東岡庵寺の西部の群は、主軸方向がN-18°-24°-Eの第66・67・70号堅穴建物跡で構成され、同じ間隔で配されている。北部は桁行方向がN-17°-22°-Eの第28-31号掘立柱建物跡で構成されている。第28・29号掘立柱建物跡、第30・31号掘立柱建物跡は、同じ桁行方向で重複していることから建て替えがあったと推測される。また、第31号掘立柱建物跡は総柱建物跡であることから倉庫と考えられる。この掘立柱建物群の位置は、第Ⅳ期から掘立柱建物群が集中する場所でもある。遺物は仏教関連遺物として瓦片が第66号堅穴建物跡、短頸壺が第67号堅穴建物跡から出土している。金田西遺跡の北部の群は、主軸方向がN-2°-8°-Eの第339・341-343A・343B号堅穴建物跡と、桁行方向がN-3°・6°-Wの南北棟の第111・129号掘立柱建物跡で構成されている。中央部の群は、主軸方向がN-0°-37°-Eの第351・352・370・374・378・380号堅穴建物跡、桁行方向がN-9°-85°-Eの東西棟第114A・114B号掘立柱建物跡、南北棟の第126・127号掘立柱建物跡、桁行方向がN-6°-Wの南北棟の第116号掘立柱建物跡が該当する。第352号堅穴建物跡は短頸壺が出土している。南部の群は、主軸方向がN-8°・9°-Wの第385・391号堅穴建物跡が該当する。遺物は、第339・341・343A・380号堅穴建物跡から明天文字を使用した「市」と書かれた墨書土器が共に出土している。その他、「弘」「武」の墨書土器、また筑投産の灰陶陶器、高盤、短頸壺なども出土している。瓦は3棟の堅穴建物跡から出土しており、郡寺や郡衙関連施設に関わる遺物が出土している。

衰退期Iの後半には、九重東岡庵寺は堅穴建物跡8棟、金田西遺跡は堅穴建物跡11棟が該当する。九重東岡庵寺の北西部は、主軸方向がN-15°-42°-Eの第62・68・75号堅穴建物跡と西部にはほぼ同じ方向の第71-73・78号堅穴建物跡で構成されている。大型の第75号堅穴建物跡を中心に小型の建物群が周辺に散在する。北部にN-25°-Eの第58号堅穴建物跡が単独で1棟存在する。この時期の掘立柱建物跡は確認できなかった。遺物は、仏教関連遺物として瓦片が第58・62・71・73・75・78号堅穴建物跡から出土している。瓦片の出土から郡寺の衰退時期と推定される。金田西遺跡は北部の群が堅穴建物跡5棟と掘立柱建物跡2棟、中央部の群は堅穴建物跡5棟、南部の群は堅穴建物跡1棟が該当する。北部の群は主軸方向がN-1°-15°-Eの第278・340A・340B・340C・363号堅穴建物跡と同じ桁行方向の南北棟の第112号掘立柱建物跡と桁行方向がN-83°-Wの東西棟の第128号掘立柱建物跡で構成されている。遺物は第340A号堅穴建物跡から「寺」「市」の墨書土器が出土しており、郡寺に関わる建物と推測される。中央部の群は、主軸方向がN-1°-80°-Wの第359・360・369・372・373号堅穴建物跡で構成されている。遺物は高盤、短頸壺などの遺物が伴う堅穴建物跡が多くみられる。南部の群は、主軸方向がN-8°-Wの第386号堅穴建物跡1棟のみである。金田西遺跡の北部・中央部の群ともに出土遺物や配置から北部の建物群は東側に隣接する館跡、中央部の群は居宅跡に関連する集落と思われる。この時期に九重東岡庵寺・金田西遺跡の堅穴建物跡や掘立柱建物跡が最も増加し、集落は第Ⅳ期よりも大きくなり、郡衙に関連する施設⁷¹であったり、維持する人々の居住地であったりすると推測される。

第VI期(郡寺・郡衙衰退期II)

本期は、郡庁、館、居宅の建物が見られなくなり、衰退期となる。

このように郡衙関連施設の衰退時期に、九重東岡廃寺の堅穴建物跡5棟、掘立柱建物跡2棟、金田西遺跡は堅穴建物跡5棟が該当する。

九重東岡廃寺の北西部群は、主軸方向がN-32°-33°-Eの第60・69号堅穴建物跡、桁行方向がN-14°-Eの南北棟の第19号掘立柱建物跡で構成される。北部群は、主軸方向がN-13°-26°-Eの第81-83号堅穴建物跡、桁行方向がN-21°-Eの東西棟の第26号掘立柱建物跡が1棟で構成されている。第26号掘立柱建物跡は、第IV期からの掘立柱建物跡群の流れを継続している。遺物は、仏教関連遺物として瓦片が第82号堅穴建物跡から出土している。金田西遺跡は中央部の群が主軸方向がN-10°-Eの第350A・350B号堅穴建物跡、N-0°-7°-Wの第355-357号堅穴建物跡で構成されている。この中央部に隣接する居館跡には堅穴建物跡が6棟あり、これらの建物と群をなすものと思われる。第V期に増大した集落が、第VI期は小規模となり、それ以降の時期は、平成12・13年度の金田西遺跡の確認調査で2棟のみが確認された⁸⁾。本期で郡衙関連施設に関わる集落は、終焉を迎えていくものと考えられる。

3 平成12・13年度の九重東岡廃寺の課題と検討内容

平成13年度の「九重東岡廃寺確認調査報告書1」で遺物から3つの課題を上げている⁹⁾。

(1) 課題

- ① 基壇建物跡の版築土には瓦が混じっていることから、これより古い瓦葺き建物が存在したことが明らかである。
- ② 瓦溜め土坑から出土する平瓦はほとんどが桶巻造りであるのに対し、第4号掘立柱建物跡のⅢ期の柱抜き取りの底から出土する平瓦はすべて一枚造りであることから、一枚造りの瓦を使用していた建物の存在が考えられる。
- ③ 9世紀後葉の堅穴建物跡の窠材には平瓦が使用されていることから、このころには当寺院が衰退していたと思われる。

(2) 上記の課題を踏まえての検討内容

- ① 検出された遺構の時期別分布状況
- ② 北側と西側の寺域溝の有無
- ③ 平瓦の一枚造りの有無
- ④ 堅穴建物跡から出土する瓦による九重東岡廃寺の衰退期の検証
- ⑤ 基壇建物跡よりも古い瓦葺き建物の存在の有無

(3) 九重東岡廃寺については、平成13年度の課題を踏まえて検討してみた。

- ① 遺構の時期別分布状況については表23と挿図263・264を参照
- ② 北側と西側の寺域の区画溝は見つからなかったが、前回の調査で確認した第4号溝が、西に延び第21号溝と繋がることを確認した。出土遺物や重複関係から9世紀後葉で時期的に衰退期に当たることから、寺域溝としてはとらえられない。また西側には、寺域溝と考えられる溝は確認できなかった。
- ③ 今回出土した瓦は、一枚造りの瓦でなく、すべて桶巻造りの平瓦であることから九重東岡廃寺の成立以前の建物跡の存在がうかがえる。
- ④ 堅穴建物跡からの瓦の出土は、I・Ⅲ期の各1棟、Ⅳに2棟、Ⅴ期の1棟、Ⅵ期の6棟、Ⅶ期の1棟である。

瓦は、竈の構築材として再利用されているものもあり、Ⅵ期の竪穴建物跡からの出土が多かった。このことから、Ⅰ期以前に瓦葺きの建物が存在したことがうかがえる。また、Ⅵ期の竪穴建物跡からの出土が多くなりⅦ期の竪穴建物跡からは少ないことから、寺の衰退期は9世紀中葉から後葉と考えられる。寺域の西側と北側の集落は、Ⅳ期に竪穴建物跡、掘立柱建物跡が造られ、Ⅶ期(9世紀中葉)に最盛期を迎えたと思われる。

- ⑤ 今回の調査区で基壇建物跡よりも古い瓦葺き建物は検出できなかった。

4 おわりに

九重東岡庵寺・金田西遺跡の移行の時期と分布、遺構配置や出土遺物をもとに集落の変遷や郡衙関連施設との関係を見てきた。今回、九重東岡庵寺と金田西遺跡の遺構の分布から集落の性格について述べる。

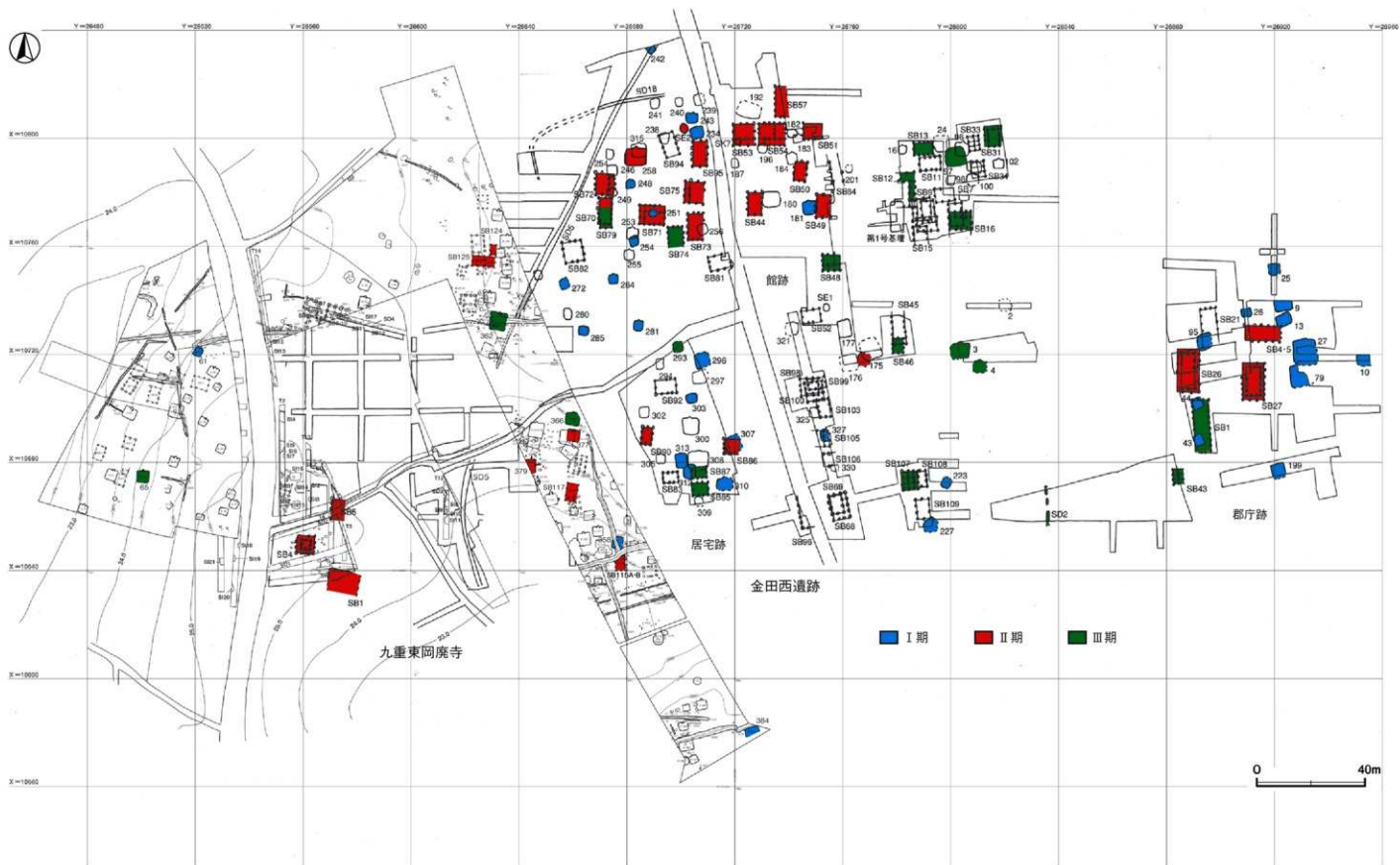
第Ⅳ期の九重東岡庵寺の第17・18・28号掘立柱建物跡はL字状に配置されていることや、第Ⅳ・Ⅴ期の北部の第28～31号掘立柱建物跡に総柱建物跡もあることから、郡衙関連施設が行政的に機能する建物であった集落と推測できる。金田西遺跡においても、北部集落は館跡が、中央部集落は居宅跡が東側に隣接していることや、遺物等も黒書土器・コップ形土器・這方等が出土していることから、郡衙関連施設と関わりがある集落と推測できる。

九重東岡庵寺・金田西遺跡の建物については、Ⅰ期(成立期)からⅢ期(展開期Ⅰ)にかけては少ない。Ⅳ期(展開期Ⅱ)の両遺跡では竪穴建物跡が15棟、掘立柱建物跡が11棟、Ⅴ期(衰退期Ⅰ)には竪穴建物跡28棟、掘立柱建物跡22棟となり、竪穴建物跡や掘立柱建物跡が増え始める。郡衙関連施設の成立から展開期の竪穴建物跡や掘立柱建物跡は、官衙機能を分散した建物であるとも考えられる。このような遺構配置や遺物により郡衙関連施設について推移を考えると、第Ⅳ～Ⅴ期にかけての竪穴建物跡や掘立柱建物跡が増加し、第Ⅵ期には郡衙関連施設が存在しないことから、郡衙関連施設の機能の終焉を推測できるものと思われる。

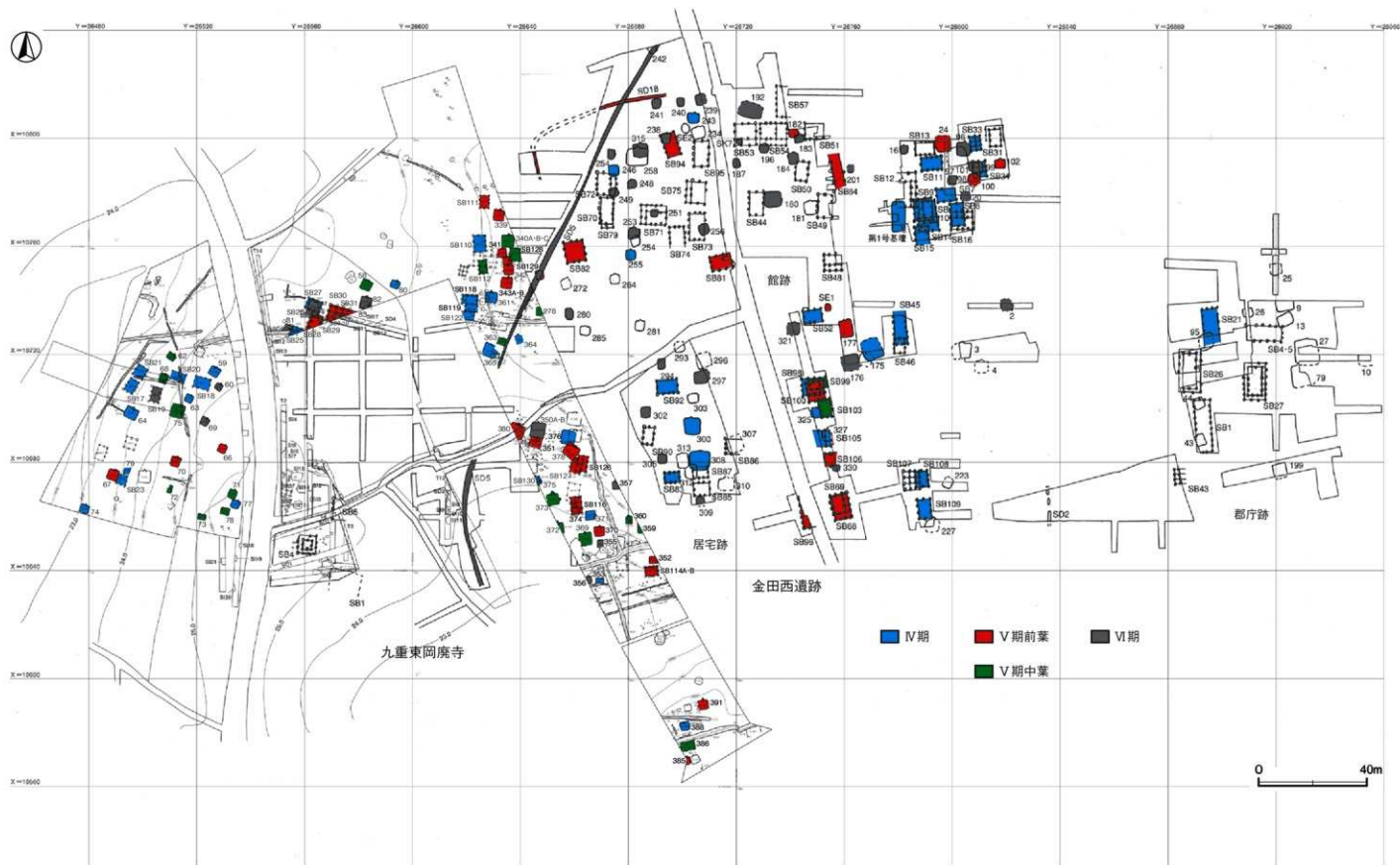
今後、河内郡衙の全体像を確定していくには、官衙成立の前身集落と考える東岡中原遺跡¹⁰や正倉院の礎石建物跡・掘立柱建物跡・区画溝が確認された金田西坪B遺跡¹¹、金田西遺跡の北端部で出土した「厨」の黒書土器¹²など周辺遺跡と関連付けて考えていく必要がある。

註

- 1) 九重庵寺遺跡調査団『東岡遺跡-九重庵寺跡調査報告-』桜村教育委員会 1984年3月
- 2) 白田正子『九重東岡庵寺確認調査報告書1』茨城県教育財団 2001年3月
- 3) 白田正子『金田西遺跡 金田西坪B遺跡 九重東岡庵寺 中根・金田台特定土地地区内整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ』茨城県教育財団文化財調査報告第209集 2003年3月
- 4) 前掲註 3)
- 5) 前掲註 3)
- 6) 前掲註 1)
- 7) 佐藤 信『古代の地方官衙と社会』日本史リフレット8 山川出版社 2017年2月 1版5刷
- 8) 前掲註 3)
- 9) 前掲註 2)
- 10) 茨城県考古学シンポジウム実行委員会『古代地方官衙周辺における集落の様相-常陸河内郡を中心として-』茨城県考古学協会 2005年2月
- 11) 前掲註 3)
- 12) 茨城県教育財団『埋蔵文化財 年報(平成28年度)-埋蔵文化財 40周年記念号- 2017年8月



第263図 九重東岡麩寺・全田西遺跡遺構変遷図(1)



第264図 九重東岡廃寺・金田西遺跡遺構変遷図(2)

写 真 图 版

九 重 東 岡 麿 寺
金 田 西 遺 跡

PL1



調査区遠景（東方向から）



調査区全景（鉛直から）

PL2



調査区西部全景（鉛直から）



調査区東部全景（鉛直から）

第59号竪穴建物跡



第61号竪穴建物跡
遺物出土状況



第63号竪穴建物跡



PL4



第64号竖穴建物跡
竈袖遺物出土状況



第64号竖穴建物跡



第65号竖穴建物跡

第80号豎穴建物跡
竈遺物出土状況



第80号豎穴建物跡



第58号豎穴建物跡
遺物出土状況



PL6



第58号竖穴建物跡
竈遺物出土状況



第58号竖穴建物跡



第62号竖穴建物跡

第66号竪穴建物跡



第67号竪穴建物跡
竈掘方遺物出土状況



第67号竪穴建物跡





第69号竖穴建物跡



第70号竖穴建物跡
竈遺物出土状況



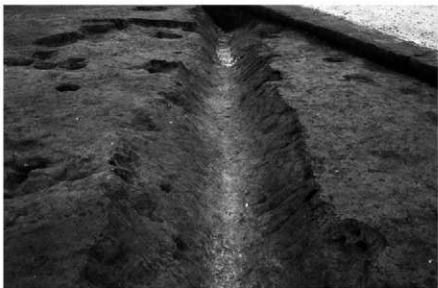
第73号竖穴建物跡
竈遺物出土状況



第73号豎穴建物跡



第82号豎穴建物跡
遺物出土状況



第 4 号 溝 跡



第17号掘立柱建物跡掘方



第18号掘立柱建物跡掘方



第20号掘立柱建物跡掘方



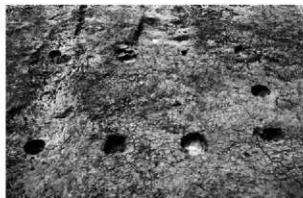
第21号掘立柱建物跡掘方



第22号掘立柱建物跡掘方



第23号掘立柱建物跡掘方



第24号掘立柱建物跡掘方



第25号掘立柱建物跡掘方



第19号掘立柱建物跡掘方



第26号掘立柱建物跡ピット9土層断面



第26～29号掘立柱建物跡掘方



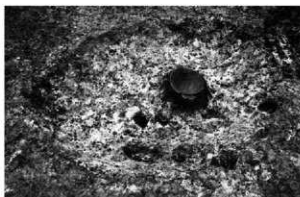
第28・29号掘立柱建物跡掘方



第1号井戸跡遺物出土状況



第1号井戸跡



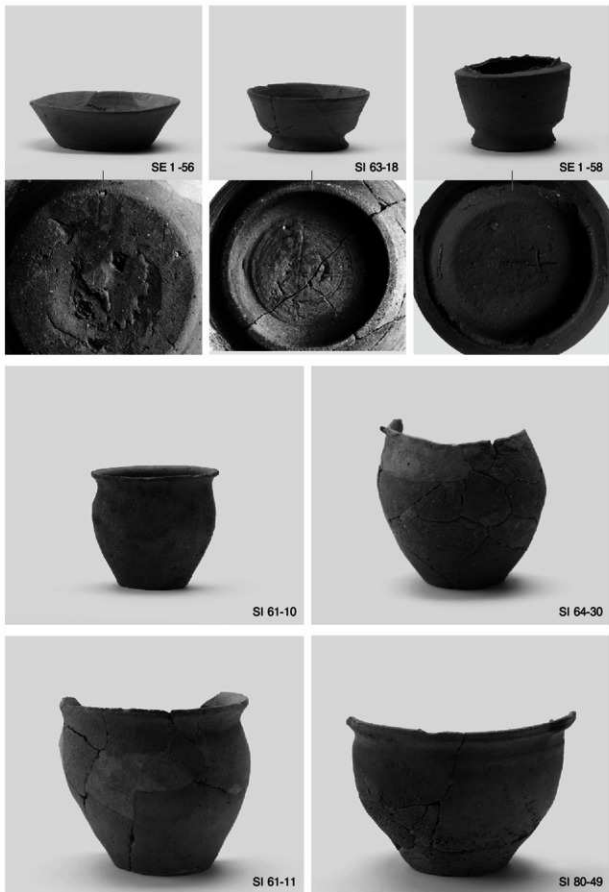
第5号土坑遺物出土状況



第18号土坑



PL13



第61・63・64・80号竖穴建物跡，第1号井戸跡出土土器



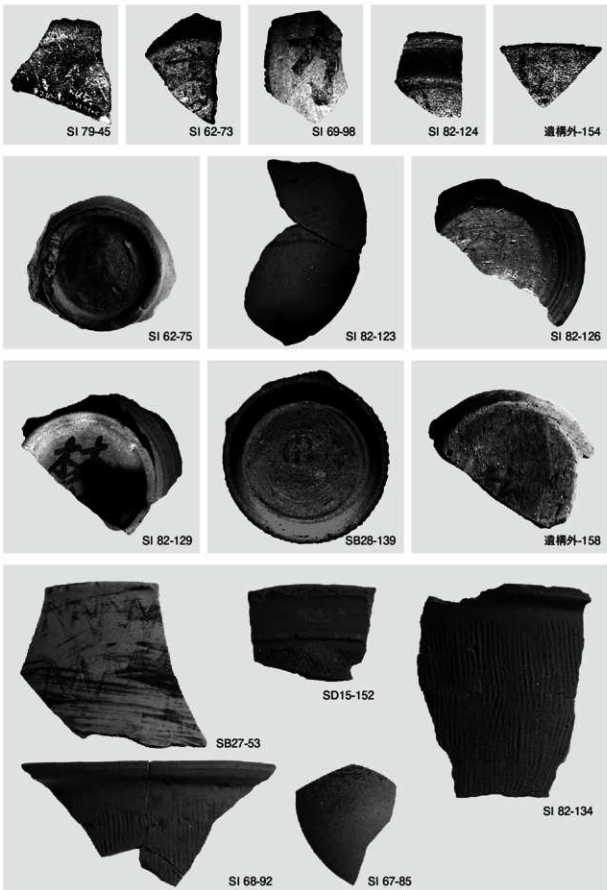
第61・64号竖穴建物跡出土土器



第58・60・66・67・69・70・71・78・81・82号竪穴建物跡，第21号溝跡，遺構外出土土器



第58・62・67・70・73・82号竖穴建物跡出土土器



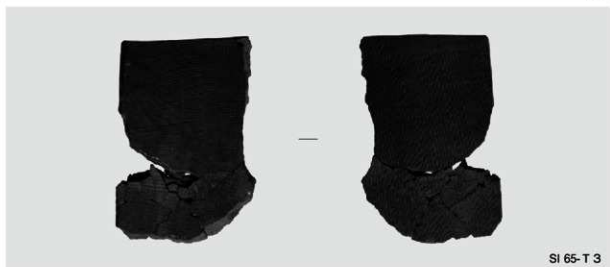
第62・67・68・69・79・82号竪穴建物跡，第27・28号掘立柱建物跡，第15号溝跡，遺構外出土土器

PL18

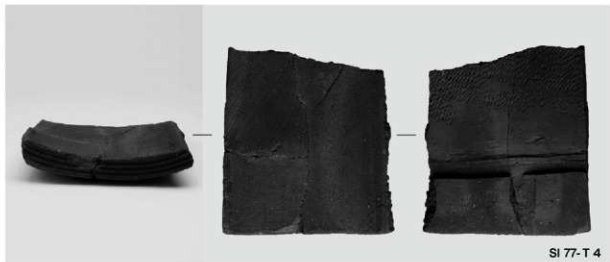


第58・61・62・65・82号竪穴建物跡，遺構外出土土製品，石器，金屬製品，瓦

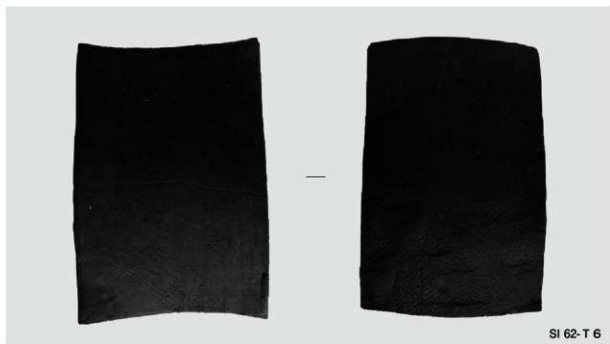
PL19



SI 65-T 3

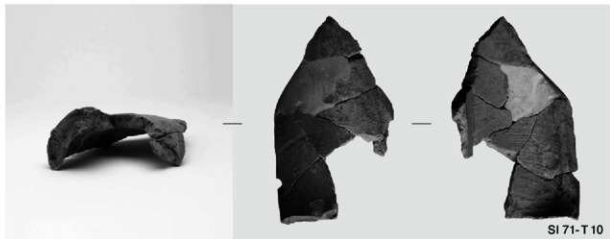


SI 77-T 4



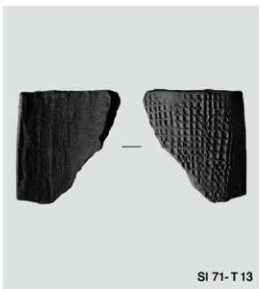
SI 62-T 6

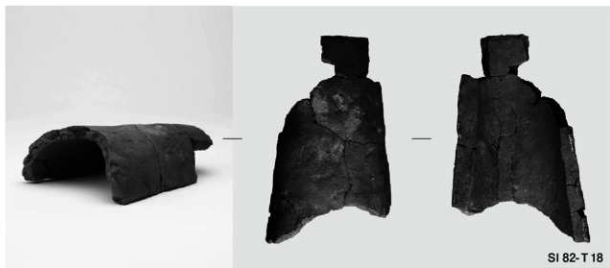
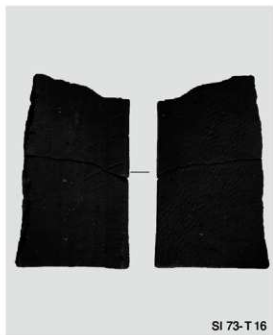
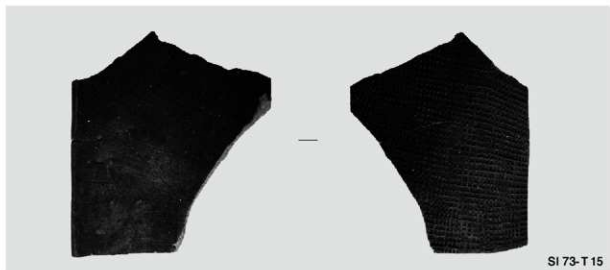
PL20



第62·66·71号竖穴建物跡出土瓦

PL21







調査区全景（北部）



調査区全景（中央部）

PL24



第353号竖穴建物跡



第358号竖穴建物跡
掘 方



第361号竖穴建物跡
遺物出土状況

PL25



第361号竪穴建物跡



第362号竪穴建物跡
掘方



第365号竪穴建物跡

PL26



第366号竖穴建物跡



第366号竖穴建物跡
掘 方



第371号竖穴建物跡
竈遺物出土状況

PL27



第371号竪穴建物跡



第375号竪穴建物跡
竈遺物出土状況 1



第375号竪穴建物跡
竈遺物出土状況 2

PL28



第375号竖穴建物跡



第376号竖穴建物跡



第377号竖穴建物跡

PL29



第379号竖穴建物跡



第384号竖穴建物跡



第388号竖穴建物跡
竈遺物出土状況



第388号竖穴建物跡



第278号竖穴建物跡
遺物出土状況



第339号竖穴建物跡
遺物出土状況

PL31



第339号竖穴建物跡
竈掘方遺物出土状況



第339号竖穴建物跡



第340号竖穴建物跡
遺物出土状況



第340A号竖穴建物跡
竈遺物出土状況 1



第340A号竖穴建物跡
竈遺物出土状況 2



第340A・340B・340C号
竖穴建物跡



第341号竖穴建物跡
遺物出土状況 1



第341号竖穴建物跡
遺物出土状況 2



第341号竖穴建物跡
竈遺物出土状況



第342号竖穴建物跡
遺物出土状況



第342号竖穴建物跡
竈遺物出土状況



第342号竖穴建物跡

第343A号竪穴建物跡
竈遺物出土状況



第 343A・343B 号
竪穴建物跡



第 343A・343B 号
竪穴建物跡掘方





第 350A・350B 号
竖穴建物跡



第351号竖穴建物跡
遺物出土状況



第351号竖穴建物跡

PL37



第352号竖穴建物跡



第355号竖穴建物跡



第356号竖穴建物跡
遺物出土状況



第357号竖穴建物跡



第360号竖穴建物跡
第42号土坑



第369号竖穴建物跡
遺物出土状況



第369号竪穴建物跡



第370号竪穴建物跡
竈遺物出土状況



第370号竪穴建物跡

PL40



第372号竖穴建物跡
遺物出土状況



第373号竖穴建物跡



第373号竖穴建物跡
掘方

PL41

第374号竪穴建物跡
竈遺物出土状況



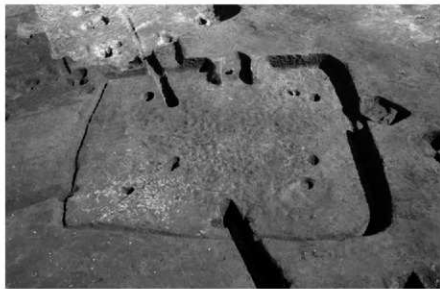
第374号竪穴建物跡



第378号竪穴建物跡
竈遺物出土状況



PL42



第378号竖穴建物跡



第380号竖穴建物跡



第383号竖穴建物跡

第385号竪穴建物跡
遺物出土状況 1



第385号竪穴建物跡
遺物出土状況 2



第386号竪穴建物跡



PL44



第391号竖穴建物跡



第24・25A・25B号
溝 跡



第 28 号 溝 跡

PL45

第 5 号 溝 跡



第 21 号 溝 跡



第 30 号 溝 跡





第110号掘立柱建物跡掘方



第115A・115B号掘立柱建物跡掘方



第117号掘立柱建物跡掘方



第118号掘立柱建物跡掘方



第119号掘立柱建物跡掘方



第124号掘立柱建物跡掘方



第125号掘立柱建物跡掘方



第111号掘立柱建物跡掘方



第112号掘立柱建物跡掘方



第113号掘立柱建物跡掘方



第114A・114B号掘立柱建物跡掘方



第116号掘立柱建物跡



第120号掘立柱建物跡掘方



第126・127号掘立柱建物跡



第128号掘立柱建物跡掘方



第129号掘立柱建物跡掘方



第4号井戸跡



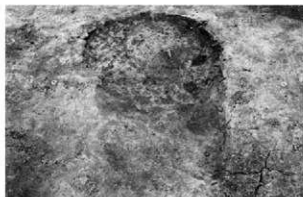
第1号粘土採掘坑



第2号粘土採掘坑



第1号大型円形土坑



第44号土坑



第39号土坑遺物出土状況



第28号土坑



第3号ビット群



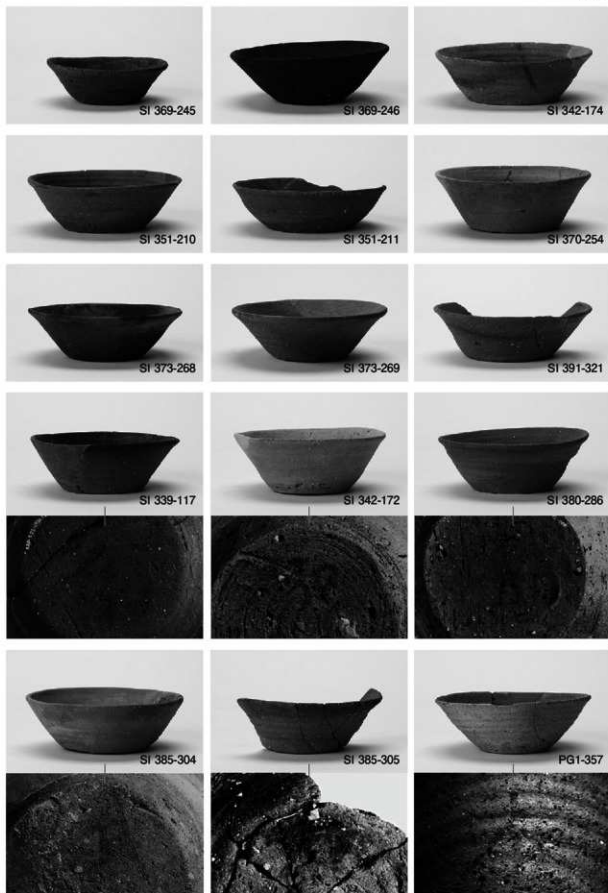
第353・358・361・362・371・375・379・388号竖穴建物跡，第51号土坑出土土器

PL50



第339・340A・380・385号竪穴建物跡出土土器

PL51



第342・351・369・370・373・380・385・391号竪穴建物跡，第1号ピット群出土土器



第342・343A・351・369・370・374・378・385・391号竪穴建物跡出土土器



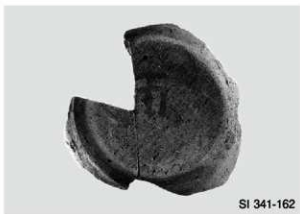
第339・340A・341・342・343A・350B・372・385号竪穴建物跡出土土器



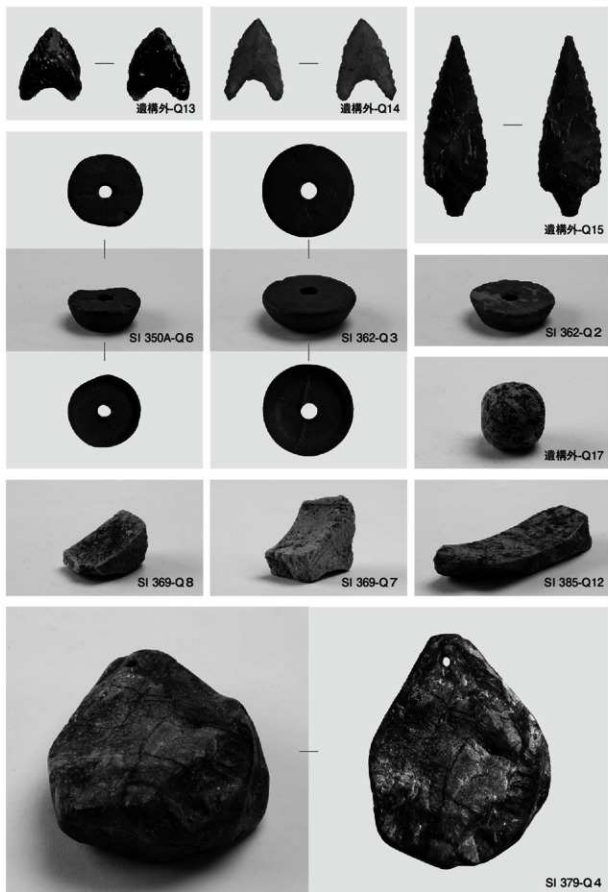
第340A・374・385号竖穴建物跡出土土器

PL55

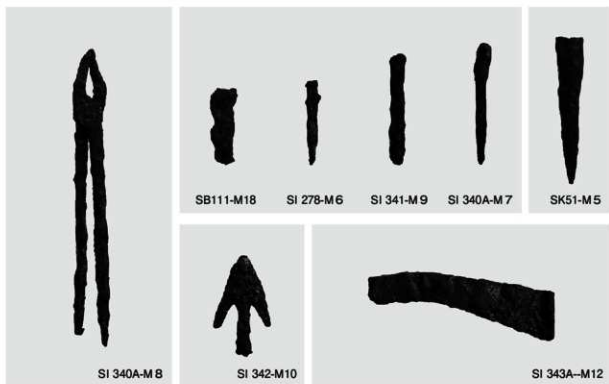
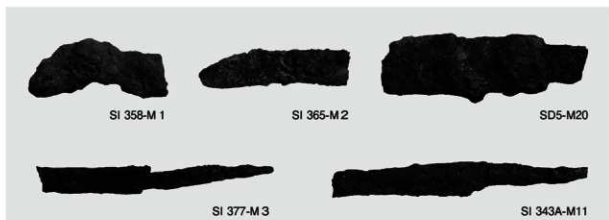




PL57



第350A・362・369・379・385号竪穴建物跡，遺構外出土石器

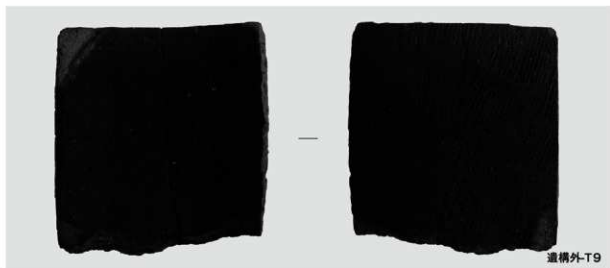


第278・340A・341・342・343A・351・358・365・373・377号竖穴建物跡，第111号掘立柱建物跡，
第51号土坑，第5・30号溝跡，遺構外出土金属製品



第369・388号豎穴建物跡，第1号粘土探掘坑，遺構外出土瓦

PL60



遺構外出土瓦

抄 録

ふりがな	このえひがしおかはいじ こんだにしいせき							
書名	九重東岡庵寺 金田西遺跡							
副書名	中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅢⅠ							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第435集							
著者名	荒井保雄							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2019(平成31)年3月18日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
九重東岡庵寺	茨城県つくば市東岡字海道端252-1番地ほか	08220 - 121	36度 09分 13秒	140度 12分 57秒	24 ~ 25 m	20150401 ~ 20150831	8,856 m ²	中根・金田台特定土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
金田西遺跡	茨城県つくば市金田字西原1891番地ほか	08220 - 522	36度 10分 29秒	140度 14分 06秒	24 ~ 25 m	20151101 ~ 20160331 20160801 ~ 20170831	6,211 m ² 1,469 m ²	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
九重東岡庵寺	集落跡	奈良	竪穴建物跡	9棟	土師器(坏・甕・小形甕)・須恵器(坏・高台付坏・蓋・コップ形土器・皿・盤・高盤・仏鉢・短頸壺・長頸瓶・甕・甌)・灰釉陶器(長頸瓶)・土製品(支脚・転用硯)・瓦(軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・隅切瓦)・金属製品(刀子・鎌)			
			掘立柱建物跡	9棟				
	井戸跡	1基						
	平安	平安	竪穴建物跡	17棟	土師器(坏・甕・小形甕)・須恵器(坏・高台付坏・蓋・コップ形土器・皿・盤・高盤・短頸壺・長頸瓶・甕・甌)・土製品(紡錘車)・石器(砥石)・金属製品(刀子・鎌)・瓦(軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦)			
掘立柱建物跡			6棟					
	土坑	土坑	土坑	5基				
			溝跡	6条				
	その他	時期不明	土坑	13基	土師器(坏・甕)・須恵器(坏・甕)・瓦(平瓦)・金属製品(釘)			
			溝跡	8条				
			柱穴列	1条				

所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
金田西遺跡	集落跡	奈 良	竪穴建物跡 14棟 掘立柱建物跡 10棟 大型円形土坑 1基 土 坑 4基 柱穴列 1条 溝 跡 4条 ビット群 1か所	土師器 (坏・甕・小形甕)、 須恵器 (坏・高台付坏・蓋・盤・ 高盤・双耳甕・短頸壺・長 頸瓶・甕・甌)、土製品 (支脚)、 石器 (砥石・温石)、金属製 品 (刀子)、瓦 (丸瓦)	
		平 安	竪穴建物跡 35棟 掘立柱建物跡 12棟 井戸跡 1基 粘土採掘坑 2基 土 坑 8基 柱穴列 3条 溝 跡 2条 ビット群 1か所	土師器 (坏・甕・小形甕)、 須恵器 (坏・高台付坏・蓋・ コップ形土器・盤・高盤・短 頸壺・長頸瓶・甕・甌)、灰 釉陶器 (長頸瓶)、土製品 (土 玉・支脚・紡錘車)、金属製 品 (刀子・鎌・釘・巡方)	
		江 戸	土 坑 1基 溝 跡 4条	陶器 (碗・皿・播鉢・花瓶・ 急須)、磁器 (碗・蕎麦猪口)、 土師質土器 (鍋)、金属製品 (煙管)、銭貨	
		その他	時期不明	土 坑 63基 柱穴列 1条 溝 跡 5条 ビット群 3か所	土師器 (坏・高台付坏)、 須恵器 (坏・高台付坏・甕・甕・ 甌)、石器 (有基尖頭器・鎌・ 砥石)、金属製品 (小仏像)、 瓦 (軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・ 平瓦)
要 約	<p>九重東岡庭寺は、常陸国河内郡衙に付属する寺院跡として国の史跡に指定された遺跡である。調査区は平成12年度に調査された基壇跡の西側と北側にあたり、竪穴建物跡や掘立柱建物跡群が確認された。遺物は、竪穴建物跡から仏鉢、竈袖部の袖強材に再利用された瓦が出土している。寺院跡に隣接した集落の様相を反映する遺跡である。</p> <p>金田西遺跡は、常陸国河内郡衙として国の史跡に指定された遺跡である。遺物は、竪穴建物跡から寺院跡に関わる軒平瓦・丸瓦や、「寺」の文字が書かれた墨書土器、蛇紋岩製の「温石」、銅製品の「巡方」、須恵器のコップ形土器等が出土している。竪穴建物や掘立柱建物で構成される建物群は、郡衙や郡寺の機能を担った人々が生活した集落と考えられる。</p>				

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign CC
	図版作成	Adobe Illustrator CS4
	写真調整	Adobe Photoshop CS4
	Scanning	6×7 film EPSON GT-X980
		図面類 RICOH-imagio MPW4001
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L 太ゴB101Pro
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CCでレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第435集

九重東岡麿寺 金田西遺跡 下巻

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ1

平成31（2019）年 3月15日 印刷

平成31（2019）年 3月18日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 八幡印刷株式会社

〒310-0911 水戸市見和3丁目1528-38

TEL 0120-23-1473



付図 九重東岡廃寺・金田西遺跡遺構全体図 (茨城県教育財団文化財調査報告第435集)